未来通信創造カンパニー
interCOM®

LAPLINK 13

リファレンス ガイド

わからないことがあったら

その1 はじめにこのマニュアルを見てみましょう

その2 次にヘルプを使ってみましょう

その3 Web サイトからサポートページを見てみましょう

http://www.intercom.co.jp/support/laplink13/

その4 それでも解決できなかったら、こちらまで

サポートは、「商品ユーザー登録」をされたお客様だけがご利用いただけるサービスです。なお、ユーザーサポートで収集した個人情報は、ユーザーサポート以外の目的では使用いたしません。

【無償ユーザーサポート】

1 つのシリアル番号につき 2 件（2 インシデント）まで、無償でサポートを行います。回数を超えた場合は、別途有償ユーザーサポートの契約をする必要があります。
お問い合わせをいただく場合は、商品の **シリアル番号** をお知らせください。
なお、インストールまたは不具合による障害に関しては、インシデントを消費しません。

〒 110-8654　東京都台東区台東 1-3-5 反町ビル
株式会社インターコム（LAPLINK 13 サポート担当）宛
TEL : 03-6316-2767
URL : http://www.intercom.co.jp/support/laplink13/contact.html

※ 土曜、日曜、祝日、年末年始、および弊社の休業日はお休みとなります。
※ 受付時間は 9:00 ～ 12:00、13:00 ～ 17:00

【追加ライセンス購入、バージョンアップなどに関するお問い合わせ】

株式会社インターコム営業部　TEL : 03-3839-6307
URL : http://www.intercom.co.jp/laplink/contact.html

次の場合は、お問い合わせいただいた内容について回答できませんので、あらかじめご了承ください。

- 体験版をご利用のお客様
- シリアル番号が確認できない場合
- 動作保証している環境以外でご使用の場合
- ルーターに関する設定（ルーターメーカーにお問い合わせください）
- 日本国外でご使用の場合

【有償ユーザーサポート】

「無償ユーザーサポート」終了後は、別途サポート契約にて「有償ユーザーサポート」をご利用いただけます。

http://www.intercom.co.jp/support/service/

【保守サポートサービス】

別途契約にて、1 年間のサポートをご利用いただける「保守サポートサービス」をご用意しております。

http://www.intercom.co.jp/support/laplink13/service/

すでに LAPLINK シリーズをお持ちのお客様へ

LAPLINK 13 をインストールするパソコンに、すでに LAPLINK GOLD 11 以前のバージョンの LAPLINK がインストールされている場合、必ず前のバージョンの LAPLINK をアンインストールしてから、LAPLINK 13 をインストールしてください。LAPLINK 12 がインストールされている場合は、アップグレード インストールを行うことができます。

◆ このマニュアルの表記について

■ このマニュアルでの操作は、Windows 7 上での操作を元に、記載されています。
■ このマニュアルでの操作は、マウスの使用を前提としています。
■ このマニュアルの内容は、予告なく変更される場合があります。あらかじめご了承ください。

このマニュアルでは、製品名を次のように表記しています。

表 記	製 品 名
Windows Server 2008 R2	Microsoft® Windows Server® 2008 R2 Standard（SP1）
	Microsoft® Windows Server® 2008 R2 Enterprise（SP1）
Windows 7	Microsoft® Windows® 7 Ultimate（64bit/32bit,SP1）
	Microsoft® Windows® 7 Enterprise（64bit/32bit,SP1）
	Microsoft® Windows® 7 Professional（64bit/32bit,SP1）
	Microsoft® Windows® 7 Home Premium（64bit/32bit,SP1）
Windows Server 2008	Microsoft® Windows Server® 2008 Standard（64bit/32bit,SP2）
	Microsoft® Windows Server® 2008 Enterprise（64bit/32bit,SP2）
Windows Server 2003 R2	Microsoft® Windows Server® 2003 R2, Standard Edition（SP2）
	Microsoft® Windows Server® 2003 R2, Standard x64 Edition（SP2）
	Microsoft® Windows Server® 2003 R2, Enterprise Edition（SP2）
	Microsoft® Windows Server® 2003 R2, Enterprise x64 Edition（SP2）
Windows Server 2003	Microsoft® Windows Server® 2003, Standard Edition（SP2）
	Microsoft® Windows Server® 2003, Standard x64 Edition（SP2）
	Microsoft® Windows Server® 2003, Enterprise Edition（SP2）
	Microsoft® Windows Server® 2003, Enterprise x64 Edition（SP2）
Windows XP	Microsoft® Windows® XP Professional（SP3）
	Microsoft® Windows® XP Home Edition（SP3）

※上記の Windows Server 2008 R2、Windows 7、Windows Server 2008、Windows Server 2003 R2、Windows Server 2003 および Windows XP を総称して、Windows と表記することがあります。

interCOM は、（株）インターコムの登録商標です。
Microsoft、Windows、および Windows Server は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
Intel および Pentium は、アメリカ合衆国および他の国におけるインテルコーポレーションおよび子会社の登録商標です。
Adobe は、Adobe Systems Incorporated（アドビ システムズ社）の登録商標です。
その他、このマニュアルに記載されている各製品の名称は、各メーカーの（登録）商標です。
このマニュアルでは、™ および ® マークを割愛しています。

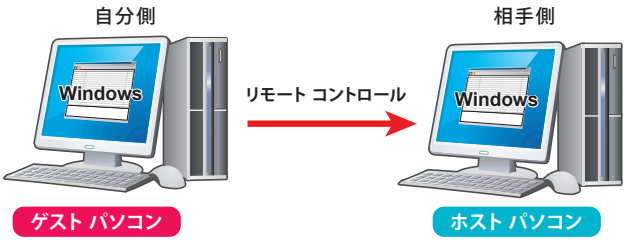
【ご注意】

（1） このマニュアルおよびプログラムの内容の一部または全部を弊社に無断で複写することは、プログラムのバックアップの場合を除き、法律で禁止されています。
（2） このマニュアルおよびプログラムの内容は、商品の技術的改良により、予告無しに変更されることがあります。
（3） このマニュアルおよびプログラムの内容は、万全を期して作成いたしましたが、おわかりになりにくい点、誤っている点などがございましたら、ご連絡くださいますようお願いいたします。
（4） このプログラムのご使用にあたり発生した結果につきましては、（3）項にかかわらず、責任を負いかねます。
（5） この商品（ハードウェア、ソフトウェアおよび関連文書）は、外国為替および外国貿易法により規制されている戦略物資等輸出規制品に該当する可能性があります。この商品を日本国外に持ち出す場合には、あらかじめご確認くださいますようお願いいたします。

Copyright © 2011 by Intercom, Inc. All rights reserved.

はじめに

LAPLINK 13 をお買上げいただきまして、誠にありがとうございます。
LAPLINK 13 は、離れた場所のパソコンを、インターネットやネットワークを経由してリモート コントロールすることができるアプリケーションです。
リモート コントロールとは、自分のパソコンに、操作したい相手のパソコンの画面をリアルタイムに表示し、自分のパソコンから遠隔操作でコントロールする機能をいいます。



【ゲスト パソコンとは】

接続を開始し、リモート コントロールするパソコン（自分側）です。
「LAPLINK 13 ゲスト」のプログラムをインストールする必要があります。

【ホスト パソコンとは】

接続を受け、リモート コントロールされるパソコン（相手側）です。
「LAPLINK 13 ホスト」のプログラムをインストールする必要があります。

◆ LAPLINK 13 でできること

■ リモートコントロール

ゲスト パソコンから、ホスト パソコンを遠隔操作することができます。ホスト パソコンに現在表示されている内容が、ゲスト パソコンの［リモート コントロール］ウィンドウ内に表示され、操作することができます。

■ ホスト操作の禁止

リモート コントロール中、ゲスト パソコンからの操作と、ホスト パソコンでの操作の衝突を防ぐため、ホスト パソコンのマウス操作とキーボード操作を一時的に禁止することができます。

■ デスクトップ ペン、レーザーポインター

リモート コントロール中、ホスト パソコンの画面上に、ホワイト ボードのようにペンで書きこんだり、レーザーポインターで指示したりすることができます。

■ ホスト パソコンの再起動、再接続

ホスト パソコンを遠隔で再起動させ、再起動後に自動で LAPLINK を起動して、再接続することができます。

■ ホスト パソコンでのセキュリティ設定

ホスト パソコンで、ログイン名とパスワードを登録することで、接続させる相手を限定することができます。また、利用できる機能を限定したり、起動できるプログラムやアクセスできるフォルダーを限定したりすることもできます。

■ テキスト チャット

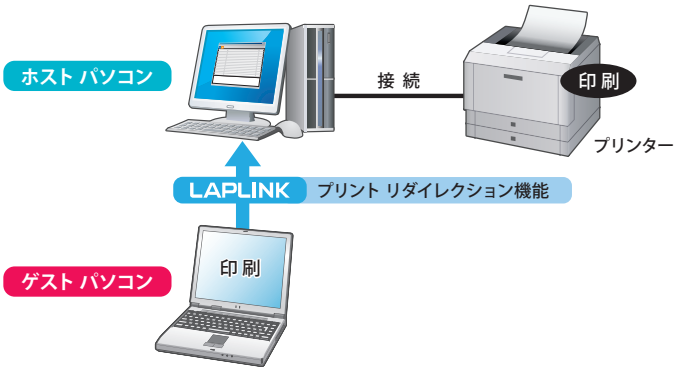
接続している相手と、文字で会話することができます。同じウィンドウがホスト パソコン、ゲスト パソコン両方に表示され、リモート コントロールしながらでもチャットすることができます。

■ファイル転送

ツリー形式のファイル転送ウィンドウをゲスト パソコンに表示し、ホスト パソコンとファイルのやりとりをすることができます。

■プリント リダイレクション

ゲスト パソコンにあるファイルを、ホスト パソコンに接続されているプリンターで印刷することができます。



また、ホスト パソコンにあるファイルをゲスト パソコンに接続されているプリンターで印刷することもできます。

■通信データの暗号化

ゲスト パソコンとホスト パソコンでやり取りした通信情報を、すべて暗号化することができます。暗号化することで、通信内容が第三者に漏れることがなくなります。

■通信ログの記録

接続や切断をした日時の一覧や、ファイル転送した成功、失敗のファイル数、リモート コントロールで起動したアプリケーション（ホスト パソコンのみ）などを、テキスト ファイルに保存して、記録することができます。

■リモート コントロールの録画機能

ゲスト パソコンがホスト パソコンをリモート コントロールしている状況を、動画データとしてファイルに保存することができます。
リモート コントロールでどのような操作を行ったのか、録画した動画データを再生して確認することができます。

動作環境

<table>
<tr><td>Windows</td><td colspan="2">・Windows Server 2008 R2 Standard（SP1）
・Windows Server 2008 R2 Enterprise（SP1）
・Windows 7 Ultimate（64bit/32bit,SP1）
・Windows 7 Enterprise（64bit/32bit,SP1）
・Windows 7 Professional（64bit/32bit,SP1）
・Windows 7 Home Premium（64bit/32bit,SP1）
・Windows Server 2008 Standard（64bit/32bit,SP2）
・Windows Server 2008 Enterprise（64bit/32bit,SP2）
・Windows Server 2003 R2, Standard Edition（SP2）
・Windows Server 2003 R2, Standard x64 Edition（SP2）
・Windows Server 2003 R2, Enterprise Edition（SP2）
・Windows Server 2003 R2, Enterprise x64 Edition（SP2）
・Windows Server 2003, Standard Edition（SP2）
・Windows Server 2003, Standard x64 Edition（SP2）
・Windows Server 2003, Enterprise Edition（SP2）
・Windows Server 2003, Enterprise x64 Edition（SP2）
・Windows XP Professional（SP3）
・Windows XP Home Edition（SP3）
※ 上記各 Windows の日本語版に対応します。
※ 64 ビット版の Windows Server 2008 R2/Windows 7/Windows Server 2008/Windows Server 2003 R2/Windows Server 2003 は、WOW64 にて動作します。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">コンピューター本体</td><td>・Windows Server 2008 R2
・Windows 7
・Windows Server 2008</td><td>Pentium 4 2.0GHz 相当以上を推奨</td></tr>
<tr><td>・Windows Server 2003 R2
・Windows Server 2003
・ Windows XP</td><td>Pentium 4 1.3GHz 相当以上を推奨</td></tr>
<tr><td rowspan="3">メモリ</td><td>・Windows Server 2008 R2
・Windows Server 2008</td><td>2GB 以上を推奨</td></tr>
<tr><td>・Windows 7</td><td>1GB 以上を推奨</td></tr>
<tr><td>・Windows Server 2003 R2
・Windows Server 2003
・Windows XP</td><td>512MB 以上を推奨</td></tr>
<tr><td>ハードディスク</td><td colspan="2">90MB 以上の空き容量</td></tr>
<tr><td>接続形態</td><td colspan="2">・インターネット接続（光ファイバー、ADSL、CATV など）
・ネットワーク接続（LAN、WAN）
・モデム、ターミナルアダプター（TA）接続</td></tr>
</table>

ネットワーク プロトコル	TCP/IP、IPX ※ IPX での通信は、Windows Server 2003 R2（32bit）、Windows Server 2003（32bit）、Windows XP のみ対応しています。 ※ IPv6 での接続は、Windows Server 2008 R2、Windows 7、Windows Server 2008 でのネットワーク（LAN）接続に対応しています。また、ゲストとホスト両方とも IPv6 で接続できる環境である必要があります。
モデム	使用している Windows に対応している非同期全二重モデムを使用してください。 ※ モデムの相性により正常に通信できない場合がありますので、双方共に同一メーカー同一機種での通信を推奨します。 ※ 最新情報は、弊社インターコムの Web サイト「http://www.intercom.co.jp/support/laplink/」で確認できます。
ターミナル アダプター（TA）	使用している Windows に対応している非同期モードで動作するターミナル アダプターを使用してください（B チャンネル回線交換）。 ※ 最新情報は、弊社インターコムの Web サイト「http://www.intercom.co.jp/support/laplink/」で確認できます。
プリンター	使用している Windows に対応しているプリンターを使用してください。 ※ 独自のスプール プログラムを使用するものや、使用するポートを確認する一部のプリンターには対応しておりません。
ディスプレイ ドライバー	使用している Windows に対応しているディスプレイ ドライバーを使用してください。
制限事項	【LAPLINK の制限】 ・DirectDraw を使用した動画などを表示するアプリケーション（WinDVD など）を、リモート コントロールすることはできません。 ・LAPLINK 起動中は、スリープ機能は利用できません。 ・同じシリアル番号の LAPLINK 同士での通信はできません。 【Windows Server 2008 R2、Windows 7、Windows Server 2008 に関する制限】 ・リモート コントロール中の「ユーザーアカウント制御（UAC）」の設定変更には、対応していません。 ・Windows Aero のリモート コントロールはできません。 ［リモート コントロール オプション］の［パフォーマンス］タブにある画面データ取得オプションで［キャプチャ方式］が選択されていなければ、リモート コントロール時に自動で「Windows ベーシック」に切り替わります。 ・「LAPLINK 13 ホスト」のプログラムを Windows のスタート アップに登録すると、LAPLINK が正常に起動できない場合があります。 Windows 起動時に LAPLINK ホストを起動したい場合は、［プログラム オプション］の［拡張］タブにある［Windows のログオンを行う前に LAPLINK を起動する］にチェックして使用してください。 【他バージョンとの接続や共存】 ・他の LAPLINK シリーズとの接続は、LAPLINK 12 のみ可能です。それ以外の LAPLINK シリーズとは接続できません。 ・他の LAPLINK シリーズとの共存は、LAPLINK ヘルプデスクのみ可能です。それ以外の LAPLINK シリーズとは共存できません。

目 次

◆わからないことがあったら
◆すでに LAPLINK シリーズをお持ちのお客様へ
◆マニュアルの表記について
◆はじめに
◆動作環境

第 1 章　インストールと起動

1　インストールをする前に 1-1
2　LAPLINK のインストール 1-2
3　LAPLINK の起動と終了 1-11
　3.1　起動 1-11
　3.2　終了 1-14

第 2 章　他のパソコンと接続する

1　インターネット接続 2-1
　1.1　環境の確認 2-1
　　1.1.1　自動ポートフォワーディングを設定する 2-3
　　1.1.2　手動でポートフォワーディングを設定する 2-6
　1.2　インターネット接続名を登録して接続を待機する 2-8
　1.3　インターネットで接続する 2-10
2　ネットワーク（LAN）接続 2-12
　2.1　環境の確認 2-12
　2.2　ネットワーク（LAN）接続を待機する 2-14
　2.3　ネットワーク（LAN）で接続する 2-16
　2.4　グローバル IP アドレスを使用できない環境からの接続 2-18
3　モデム接続 2-21
　3.1　環境の確認 2-21
　3.2　モデム接続を待機する 2-23
　3.3　モデムで接続する 2-25
　3.4　コールバック（かけ直し）をする 2-26

4 使用するポートを変更する 2-27
4.1 ゲスト パソコンでのポート変更 2-27
4.2 ホスト パソコンでのポート変更 2-29
5 最近接続した相手に接続する 2-30
6 ショートカットから接続する 2-31
7 LAPLINK 起動時に接続を開始する 2-32
8 接続を終了する 2-33
8.1 ゲスト パソコンから切断する 2-33
8.2 ホスト パソコンから切断する 2-34
8.3 LAPLINK を終了して切断する 2-35
8.4 自動で切断する 2-36

第 3 章　リモート コントロールする

1 はじめる前に 3-1
2 ホスト パソコンをリモート コントロールする 3-2
3 画面の表示形式を変更する 3-4
3.1 ディスプレイ全体を使って表示する 3-4
3.2 ウィンドウに収まるように表示する 3-5
3.3 リモート画面を自動スクロールする 3-5
4 ホスト パソコンの操作を禁止する 3-6
5 画面を撮影する 3-7
5.1 表示している画面を撮影する 3-7
5.2 撮影した画像を見る 3-8
6 デスクトップ ペンで書き込む 3-9
7 レーザーポインターで指示する 3-10
8 ホスト パソコンのマウスカーソルを表示する 3-11
9 操作を録画する 3-12
9.1 録画の設定をする 3-13
9.2 録画データを再生する 3-14
10 ホスト パソコンの環境を確認する 3-16
10.1 システム情報を保存する 3-16
10.2 デバイス情報とプロセス情報を表示する 3-17
11 [Ctrl] + [Alt] + [Delete] キーを送信する 3-18

12 クリップボードを共有する 3-19
13 ホスト パソコンの再起動と再接続 3-20
13.1 通常の再起動と再接続 3-20
13.2 セーフモードでの再起動と再接続 3-22
14 ログオフとユーザー切り替え 3-23
14.1 ホスト パソコンのログオフ 3-23
14.2 ホスト パソコンのユーザー切り替え 3-23

第 4 章　ホスト パソコンのセキュリティ設定

1 特定の相手からの接続のみ許可する 4-1
2 使用できる機能を限定する 4-4
3 アクセスできるフォルダーやドライブを限定する 4-6
4 特定のアプリケーションの起動を禁止する 4-8
5 ローカル セキュリティ 4-12

第 5 章　テキスト チャット機能

1 テキスト チャットを開始する 5-1
2 チャットの内容を保存する 5-3

第 6 章　ファイル転送機能

1 ファイル転送の画面を開く 6-1
2 ファイルをコピーする 6-3
3 コピーの設定を変更する 6-6
3.1 コピー直前に確認する 6-7
3.2 日付の新しいファイルのみコピー 6-9
3.3 同じ名前のファイルだけをコピー 6-10
3.4 同じ名前で日付の新しいファイルをコピー 6-11
4 ファイルの削除と設定 6-12
4.1 ファイルを削除する 6-12
4.2 削除直前の確認ダイアログ 6-13

5 ファイル転送ウィンドウの表示を変更する 6-14
5.1 表示 6-14
5.2 並び替え 6-15
5.3 隠しファイルとシステム ファイル 6-15

第 7 章 プリント リダイレクション機能

1 プリント リダイレクションについて 7-1
1.1 ゲスト パソコンのデータをホスト パソコンのプリンターに出力 7-1
1.2 ホスト パソコンのデータをゲスト パソコンのプリンターに出力 7-2
2 LAPLINK 用のプリンター ドライバーを登録する 7-3
2.1 LAPLINK から登録する 7-4
2.2 コントロール パネルから登録する 7-8
3 プリント リダイレクション機能の開始と終了 7-12
3.1 プリント リダイレクションを開始する 7-12
3.2 プリント リダイレクションを終了する 7-13
4 ホスト パソコンのプリンターに印刷する 7-14
4.1 ホスト パソコンの「通常使うプリンター」に印刷する 7-14
4.2 ホスト パソコンのプリンターを指定して印刷する 7-16
5 ゲスト パソコンのプリンターに印刷する 7-19
5.1 ゲスト パソコンの「通常使うプリンター」に印刷する 7-19
5.2 ゲスト パソコンのプリンターを指定して印刷する 7-21
6 印刷できないときは 7-24

第 8 章 その他の機能

1 ゲスト パソコンのセキュリティ設定 8-1
1.1 情報の暗号化 8-1
1.2 ローカル セキュリティ 8-2
2 通信ログを記録する 8-3

第 9 章　ゲストのメニュー コマンド

1　ファイル メニュー 9-1
1.1　コピー 9-1
1.2　切り取り 9-1
1.3　貼り付け 9-1
1.3.1　コピー中のダイアログ 9-2
1.3.2　コピー終了のダイアログ 9-3
1.3.3　貼り付け直前の確認ダイアログ 9-5
1.3.4　OS ファイルの保護 9-6
1.4　削除 9-7
1.5　名前の変更 9-8
1.6　すべて選択 9-8
1.7　個別選択 9-8
1.8　選択解除 9-9
1.9　選択サイズ 9-9
1.10　フォルダーの作成 9-10
1.11　終了 9-10
2　編集メニュー 9-11
2.1　クリップボードの共有 9-11
2.2　元に戻す 9-11
2.3　切り取り 9-11
2.4　コピー 9-12
2.5　貼り付け 9-12
2.6　すべて選択 9-12
2.7　チャット内容の保存 9-12
3　接続メニュー 9-13
3.1　インターネット接続 9-13
3.2　ネットワーク（LAN）接続 9-15
3.3　モデム接続 9-17
3.4　切断 9-19
3.5　モデムの初期化 9-20
3.6　接続の保存 9-21
3.7　再接続 9-22
3.8　最近行った接続 9-22
4　セッション メニュー 9-23
4.1　ホスト操作の禁止 9-23

4.2 レーザーポインターの開始/終了 9-23
4.2.1 レーザーポインターのショートカット メニュー 9-23
4.3 デスクトップ ペンの開始/終了 9-24
4.3.1 デスクトップ ペンのショートカット メニュー 9-24
4.4 システム情報の取得 9-24
4.5 デバイス情報の表示 9-25
4.5.1 デバイス マネージャー 9-25
4.6 プロセス情報の表示 9-26
4.7 画面ショット 9-27
4.8 画面ショットを表示 9-28
4.9 [Ctrl + Alt + Delete] キーを実行 9-29
4.10 ホスト マウスの表示 9-29
4.11 再起動後に再接続 9-29
4.12 セーフ モードで再接続 9-29
5 表示メニュー 9-30
5.1 全画面表示 9-30
5.1.1 全画面表示中のショートカット メニュー 9-31
5.2 ウィンドウ サイズで表示 9-32
5.3 自動スクロール 9-32
5.4 大きいアイコン 9-32
5.5 小さいアイコン 9-32
5.6 一覧 9-33
5.7 詳細 9-33
5.8 アイコンの整列 9-33
5.9 隠し/システム ファイルを表示 9-33
6 オプション メニュー 9-34
6.1 リモート コントロール オプション 9-34
6.1.1 [全般] タブ 9-35
6.1.2 [パフォーマンス] タブ 9-37
6.2 ファイル転送オプション 9-40
6.2.1 [コピー/切り取り] タブ 9-41
6.2.2 [削除] タブ 9-42
6.2.3 [ファイル/フォルダー] タブ 9-43
6.2.4 [パフォーマンス] タブ 9-44
6.2.5 [表示] タブ 9-45
6.3 プリント リダイレクション オプション 9-46
6.4 接続オプション 9-47
6.4.1 [スタートアップ] タブ 9-47
6.4.2 [切断] タブ 9-48
6.4.3 [利用する機能] タブ 9-49

6.5 プログラム オプション 9-50
6.6 セキュリティの設定 9-51
6.6.1 ［暗号化］タブ 9-51
6.6.2 ［ローカル セキュリティ］タブ 9-52
6.7 パソコン名の設定 9-53
6.8 ポートの設定 9-54
6.8.1 TCP/IP ポートの設定 9-55
6.8.2 IPX ポートの設定 9-56
6.8.3 Windows モデムの設定 9-56
6.9 通信ログの設定と表示 9-58
6.10 アドレス帳 9-60
6.10.1 アドレス帳への登録 9-62
6.10.2 登録内容の編集 9-65
6.10.3 登録内容のコピー 9-66
6.10.4 登録内容の削除 9-68
6.10.5 ユーザーの検索 9-68
6.10.6 アドレス帳のショートカット メニュー 9-70
6.11 接続バー 9-73
6.12 ステータス ライン 9-75
7 ウィンドウ メニュー 9-76
7.1 ローカル ファイル転送を開く 9-76
7.2 リモート コントロールを開く 9-76
7.3 ファイル転送を開く 9-76
7.4 テキスト チャットを開く 9-76
7.5 プリント リダイレクションを開く 9-77
7.6 重ねて表示 9-77
7.7 横に並べて表示 9-77
7.8 縦に並べて表示 9-77
7.9 ウィンドウ アイコンの整列 9-78
7.10 最新の情報に更新 9-78
7.11 すべてのウィンドウを閉じる 9-78
7.12 ウィンドウ リスト 9-78
8 ヘルプ メニュー 9-79
8.1 ヘルプ 9-79
8.2 インターネット診断 9-79
8.3 オンライン サポート 9-80
8.4 バージョン情報 9-80

第 10 章　ホストのメニュー コマンド

1　ファイル メニュー 10-1
1.1　終了 10-1
2　編集メニュー 10-2
2.1　元に戻す 10-2
2.2　切り取り 10-2
2.3　コピー 10-2
2.4　貼り付け 10-2
2.5　すべて選択 10-3
2.6　チャット内容の保存 10-3
3　接続メニュー 10-4
3.1　接続待ち 10-4
3.2　切断 10-7
3.3　モデムの初期化 10-8
4　オプション メニュー 10-9
4.1　プリント リダイレクション オプション 10-9
4.2　接続オプション 10-10
4.2.1　［警告音］タブ 10-11
4.2.2　［許可する機能］タブ 10-11
4.3　プログラム オプション 10-12
4.3.1　［全般］タブ 10-12
4.3.2　［拡張］タブ 10-13
4.4　セキュリティの設定 10-14
4.4.1　［全般］タブ 10-15
4.4.2　［ローカル セキュリティ］タブ 10-17
4.4.3　プログラム セキュリティ 10-18
4.4.4　フォルダー セキュリティ 10-22
4.5　ログイン リスト 10-23
4.5.1　ログイン リストへの登録 10-24
4.5.2　登録内容の編集 10-27
4.5.3　登録内容のコピー 10-28
4.5.4　登録内容の削除 10-29
4.5.5　ユーザーの検索 10-30
4.5.6　ログイン リストのショートカット メニュー 10-31
4.6　パソコン名の設定 10-32
4.7　通信ログの設定と表示 10-33

4.8 接続バー 10-35
4.9 ステータス ライン 10-35
5 ウィンドウ メニュー 10-36
5.1 テキスト チャットを開く 10-36
6 ヘルプ メニュー 10-37
6.1 ヘルプ 10-37
6.2 インターネット診断 10-37
6.3 オンライン サポート 10-38
6.4 バージョン情報 10-38

第 11 章 アンインストール

1 LAPLINK のアンインストール 11-1

第 1 章

インストールと起動

1 インストールをする前に
2 LAPLINK のインストール
3 LAPLINK の起動と終了

1 インストールをする前に

LAPLINK のインストールを行う前に、以下のことを確認してください。

- 管理者権限（Administrator）でログオンしてください。
- LAPLINK で通信するためには、接続を開始する側に「ゲスト」、接続される側に「ホスト」の LAPLINK をインストールする必要があります。
- 同じシリアル番号の LAPLINK 同士での通信はできません。通信を行うには、台数分のライセンスが必要となります。
- LAPLINK GOLD 11 以前のバージョンの LAPLINK がすでにインストールされている場合、必ず前のバージョンの LAPLINK をアンインストールしておいてください。
- マウス、キーボードは、接続しておいてください。
- ウイルス対策ソフトなどのセキュリティ ソフトがインストールされている環境で LAPLINK をインストールすると、エラーで中断する場合があるため、セキュリティ ソフトを無効にしておいてください。

2 LAPLINK のインストール

ゲスト
ホスト

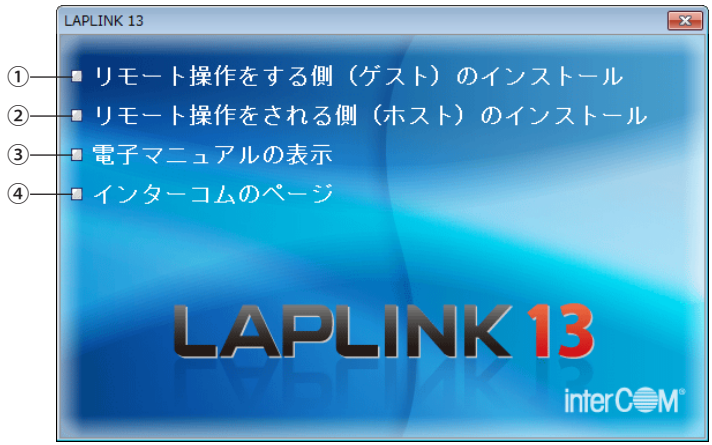
セットアップ ウィザードに従い、LAPLINK をインストールします。
以下の説明では、ハードディスクが C ドライブに割り当てられていることを前提としています。異なる割り当ての場合は、それに応じたドライブ番号に読み替えてください。

操作

1 Windows を起動し、管理者権限のあるアカウントでログオンします。

2 パソコンの CD-ROM ドライブに、LAPLINK の CD-ROM を差し込みます。

3 オート スタートの機能により、次の画面が表示されます。



①リモート操作をする側（ゲスト）のインストール
LAPLINK 13 ゲストをインストールします。

②リモート操作をされる側（ホスト）のインストール
LAPLINK 13 ホストをインストールします。

③電子マニュアルの表示
LAPLINK の電子マニュアル（PDF）を表示します。
Adobe Reader がインストールされている必要があります。

④インターコムのホームページ
弊社インターコムのホームページを、ブラウザー上に表示します。

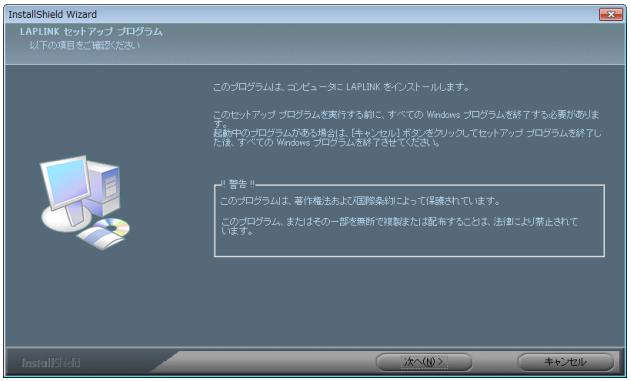
Memo

「リモート操作をする側（ゲスト）のインストール」と「リモート操作をされる側（ホスト）のインストール」を共通で説明していますが、異なる部分は分けて説明しています。

⚠ 注 意

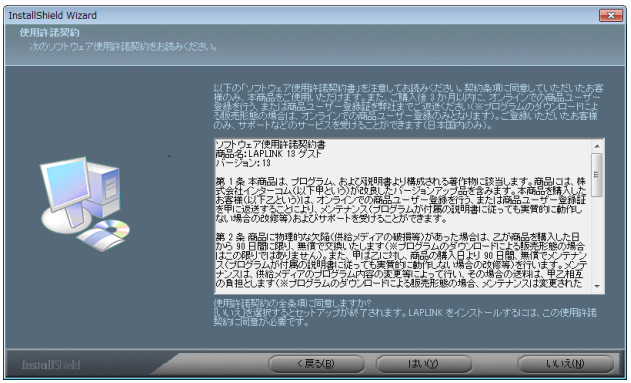
パソコンの環境によっては、CD-ROM を差し込んでも、画面が表示されない（オート スタート機能が作動しない）場合があります。その場合は、CD-ROM に格納されている welcome.exe を起動してください。

4 ［リモート操作をする側（ゲスト）のインストール］または［リモート操作をされる側（ホスト）のインストール］をクリックすると、［LAPLINK セットアップ プログラム］が表示されます。



［次へ］ボタンをクリックします。

5 ［使用許諾契約］が表示されます。

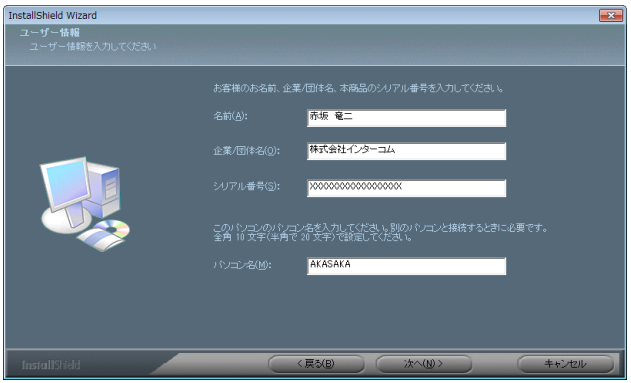


ソフトウェア使用許諾契約書を読み、同意する場合は［はい］ボタンを、同意できない場合は［いいえ］ボタンをクリックします。
同意できない場合は、LAPLINK を使用することはできません。

Memo

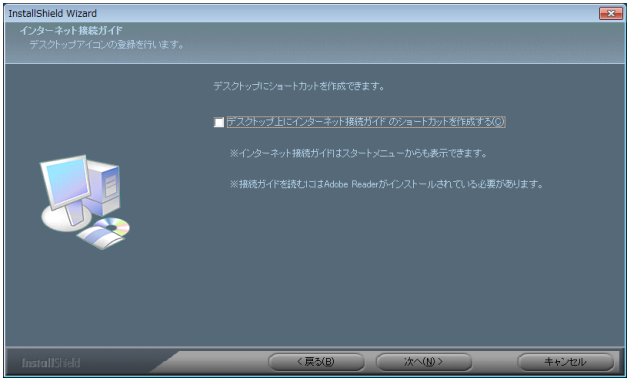
LAPLINK 12 がインストールされている環境の場合は、［LAPLINK セットアップ プログラム］の画面の前に、アップグレード インストールを確認するダイアログが表示されます。

6 ［ユーザー情報］が表示されます。



名前、企業（団体名）、シリアル番号、パソコン名を入力し、［次へ］ボタンをクリックします。
シリアル番号は、ユーザーズ ガイドの表紙、または裏表紙に記載されています。ライセンスパック（10 ライセンス以上）を購入された場合は、商品に同梱されているシールでシリアル番号を確認してください。
パソコン名には、LAPLINK をインストールした他のパソコンとは違う名前を指定します。

7 ［インターネット接続ガイド］が表示されます。

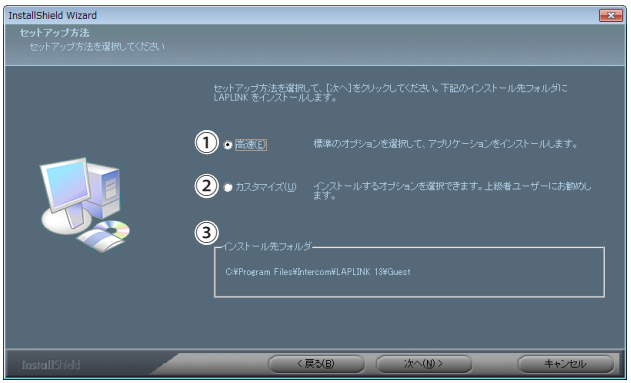


［デスクトップ上にインターネット接続ガイドのショートカットを作成する］にチェックすると、Windows のデスクトップ上にインターネット接続ガイド（PDF）へのショートカットを作成します。
［次へ］ボタンをクリックします。

Memo

［名前］は半角 60 文字（全角 30 文字）、［企業/団体名］は半角 60 文字（全角 30 文字）、［パソコン名］は半角 20 文字（全角 10 文字）以内で入力してください。

8 ［セットアップ方法］が表示されます。



①高速

特に設定を変更せずにインストールを行います。通常はこちらを選択します。

→ ゲスト、ホストともに「操作.12」の説明へ

②カスタマイズ

インストールの設定を変更する場合はこちらを選択します。

→ ゲストのインストールは「操作.9」の説明へ
→ ホストのインストールは「操作.10」の説明へ

③インストール先フォルダー

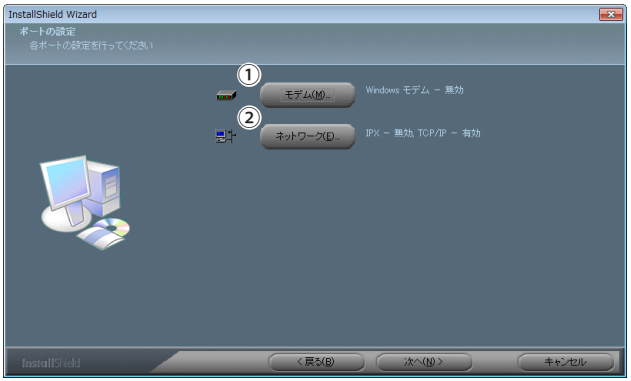
LAPLINK がインストールされるフォルダー名です。変更する場合は［フォルダーの変更］ボタンをクリックすると、任意のフォルダーを指定することができます。

［次へ］ボタンをクリックします。

⚠ 注 意

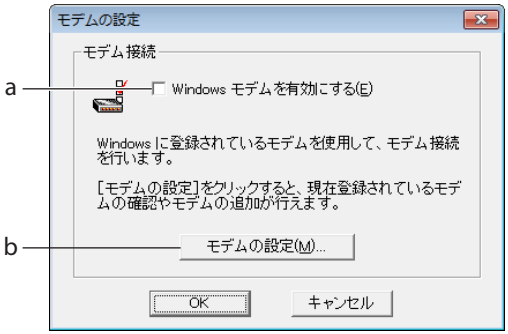
「フォルダーの変更」ボタンは Windows Server 2003 R2/Windows Server 2003/ Windows XP の場合のみ表示されます。その他の Windows ではフォルダーの変更はできません。

9 ［ポートの設定］が表示されます。この画面は、ゲストのインストール時のみ表示されます。



①［モデム］ボタン

［モデムの設定］ダイアログが表示されます。



a. **Windows モデムを有効にする**

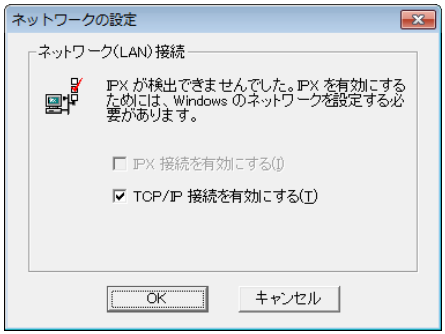
チェックすると、Windows にインストールされているモデムを使用します。

b. **［モデムの設定］ボタン**

［電話とモデム］ダイアログが表示され、Windows にインストールされているモデムの確認と追加が行えます。［電話とモデム］ダイアログについては、Windows のオンライン ヘルプを参照してください。

② [ネットワーク] ボタン

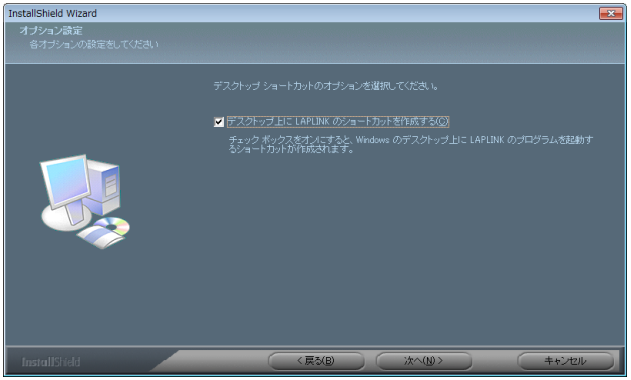
[ネットワークの設定] ダイアログが表示されます。



ネットワーク接続（TCP/IP、IPX）を行う場合は、チェック ボックスにチェックします。

各項目を設定したらダイアログを閉じ、[次へ] ボタンをクリックします。

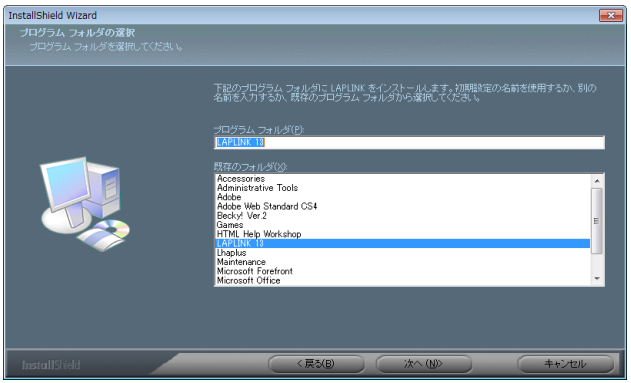
10 [オプション設定] が表示されます。



[デスクトップ上に LAPLINK のショートカットを作成する] をチェックすると、Windows のデスクトップ上に LAPLINK のショートカットを表示します。デスクトップにショートカットを作成すると、そのアイコンをダブルクリックするだけで LAPLINK を起動することができます。

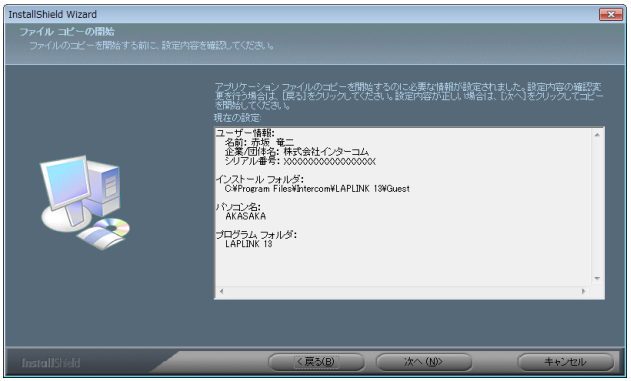
[次へ] ボタンをクリックします。

11 ［プログラム フォルダーの選択］が表示されます。



Windows のスタートメニュー内［すべてのプログラム］に表示される、LAPLINK のグループ名を指定します。変更する場合は入力し直します。
［次へ］ボタンをクリックします。

12 ［ファイル コピーの開始］が表示されます。

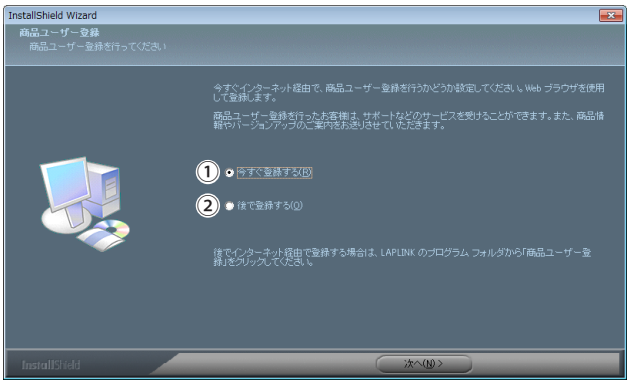


インストール内容を確認します。
確認したら、［次へ］ボタンをクリックします。

13 ファイルのコピーが開始します。

インジケーターが 100% になると、コピーが終了です。途中で［キャンセル］ボタンをクリックすると、コピーが中止されます。

14 ［商品ユーザー登録］が表示されます。



インターネット経由で、今すぐ商品ユーザー登録を行うことができます。

①今すぐ登録する

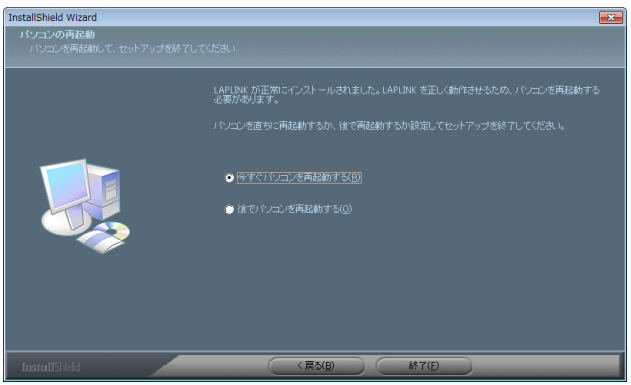
今、ここで登録を行います。［次へ］ボタンをクリックすると、普段使用している Web ブラウザーが起動し、弊社の商品ユーザー登録のページを表示します。

②後で登録する

今、商品ユーザー登録は行いません。［次へ］ボタンをクリックしても Web ブラウザーは起動しません。インターネットの設定がされていない、または「商品ユーザー登録証」のはがきで商品ユーザー登録を行う場合は、こちらを選択します。
なお、インストール終了後でも、インターネットによる商品ユーザー登録を行うことができます。詳しくは、ユーザーズ ガイド巻頭の「◆ 商品ユーザー登録」を参照してください。

［次へ］ボタンをクリックします。

15 商品ユーザー登録の設定が終了すると、インストールは終了です。
ゲストをインストールした場合は、パソコンの再起動が必要になります。



- ゲストをインストールした場合 -

⚠注 意

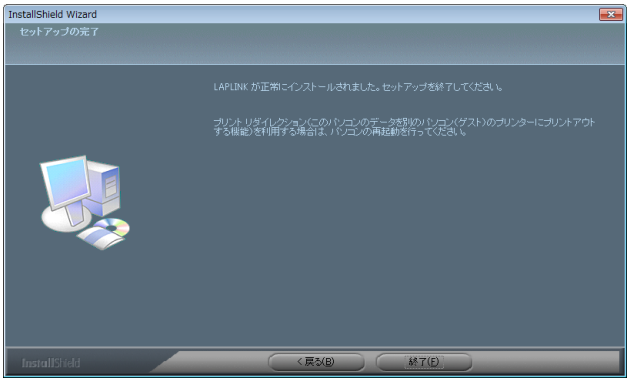
- ●「ライセンスパック（10 ライセンス以上）」を購入した場合は、パッケージに同梱されている「商品ユーザー登録証」のはがきをご利用ください。
- ●インターネットが利用できない環境では、オンラインによる商品ユーザー登録はできません。その場合は、パッケージに同梱されている「商品ユーザー登録証」のはがきをご利用ください。

⚠注 意

商品ユーザー登録を行わないと、LAPLINK に関する一切のサポートを受けることができません。

［今すぐパソコンを再起動する］を選択して、パソコンを再起動してください。

なお、ホストをインストールした場合は、再起動する必要はありません。



- ホストをインストールした場合 -

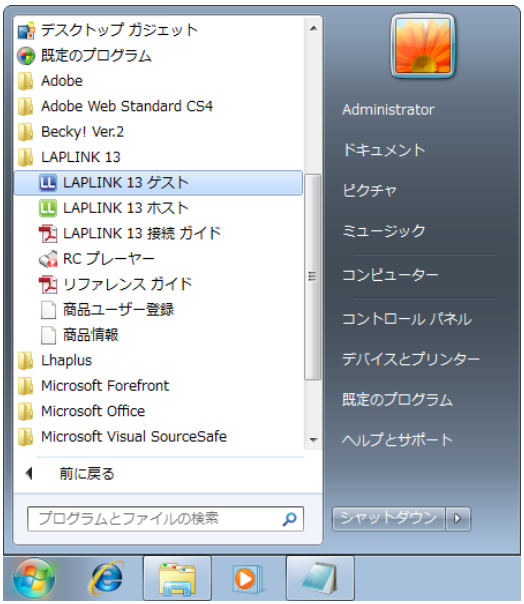
それぞれ［終了］ボタンをクリックして LAPLINK のインストールを終了します。

3 LAPLINK の起動と終了

3.1 起動

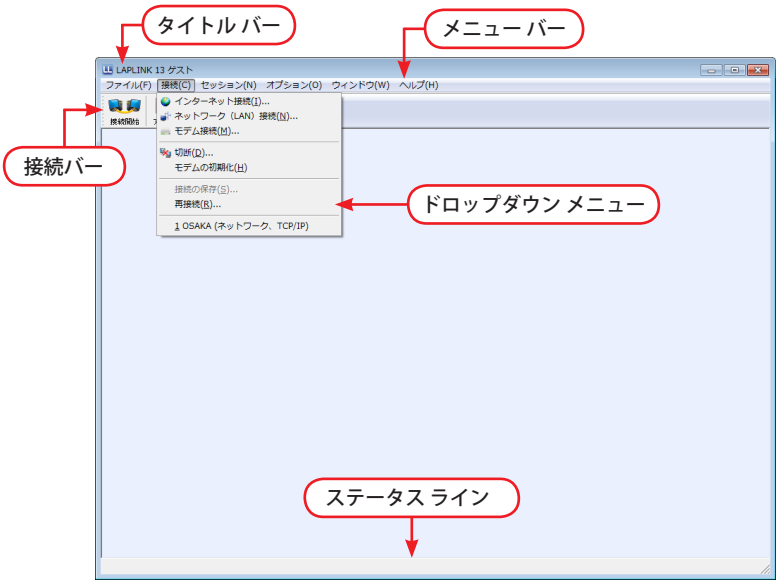
ゲスト
ホスト

LAPLINK のインストール後、タスク バーの［スタート］ボタンをクリックします。
［すべてのプログラム］から、［LAPLINK 13］フォルダーを開きます。
ゲストを起動する場合は、［LAPLINK 13 ゲスト］を、ホストを起動する場合は、［LAPLINK 13 ホスト］をクリックします。

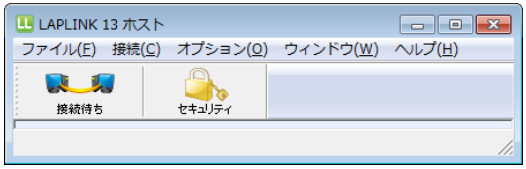


インストール時に、［オプション設定］の画面で［デスクトップ上に LAPLINK のショートカットを作成する］にチェックをつけた場合は、デスクトップ上の LAPLINK ショートカット アイコンをダブルクリックして起動することができます。

起動すると、LAPLINK のメイン ウィンドウが表示されます。



- ゲスト -



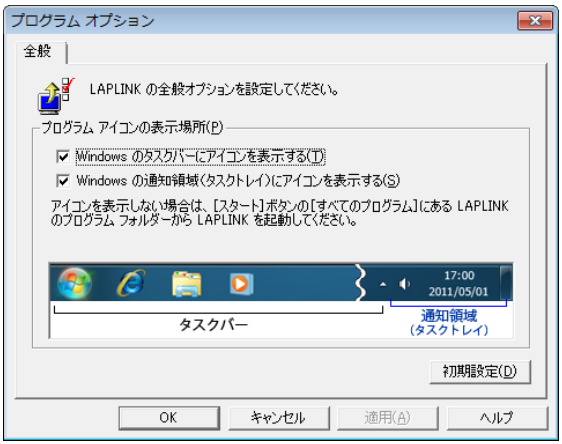
- ホスト -

これは、まだ接続していない状態の画面です。
［オプション］メニューの設定によっては、表示される画面が異なります。

接続を開始すると、リモート コントロールするためのウィンドウや、その他の機能を利用するためのウィンドウなどが LAPLINK メインウィンドウ内に表示されます。

また、起動すると、タスクバーと通知領域（タスクトレイ）に LAPLINK のボタンやアイコンが表示されます。

この表示は、［オプション］メニューの［プログラム オプション］にある［全般］タブの設定によって、表示しないこともできます。



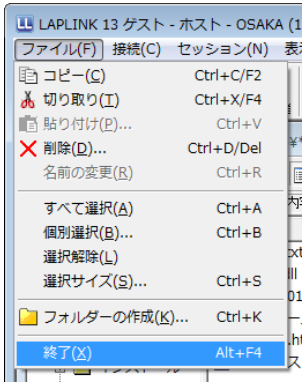
3.2 終了

ゲスト
ホスト

LAPLINK の終了には、いくつか方法があります。

● ［ファイル］メニュー

［ファイル］メニューから［終了］をクリックします。



● ボタン

ボタン（閉じるボタン）をクリックします。

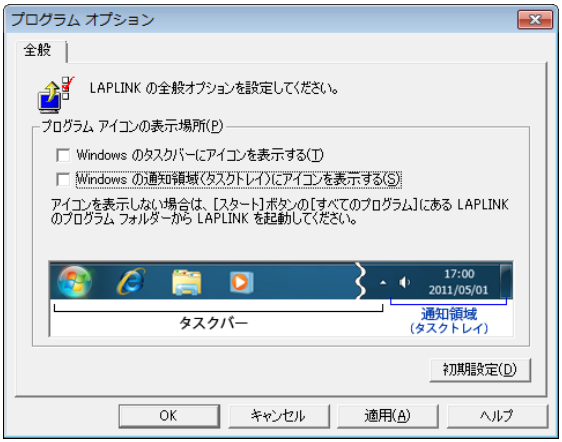
● 通知領域（タスク トレイ）

Windows の通知領域（タスク トレイ）にある LAPLINK のアイコンを右クリックし、表示されたメニューから［終了］をクリックします。

● タスクバー

Windows のタスクバーにある LAPLINK のボタンを右クリックし、表示されたメニューから［閉じる］をクリックします。

[オプション] メニューの [プログラム オプション] にある [Windows のタスクバーに表示する] [Windows の通知領域 (タスク トレイ) に表示する] の両方のオプションのチェックをはずしている場合、LAPLINK を最小化 (ボタン) にしてしまうと、前ページのいずれの方法でも LAPLINK を終了させることはできません。



上記のように設定した場合は、LAPLINK を起動させる操作 ([スタート] ボタンの [すべてのプログラム] から [LAPLINK 13 ゲスト] または [LAPLINK 13 ホスト] を選択) をして、LAPLINK を画面上に表示させてから、終了してください。

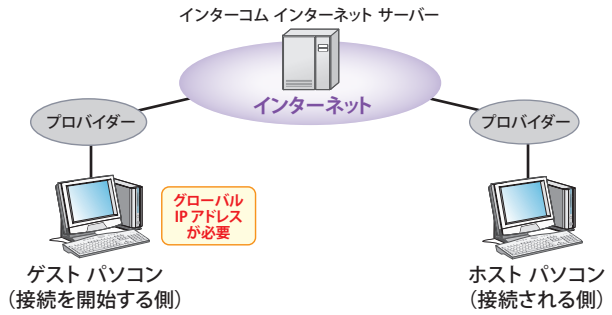
第 2 章

他のパソコンと接続する

1 インターネット接続
2 ネットワーク（LAN）接続
3 モデム接続
4 使用するポートを変更する
5 最近接続した相手に接続する
6 ショートカットから接続する
7 LAPLINK 起動時に接続を開始する
8 接続を終了する

1 インターネット接続

インターネット上にあるインターコム インターネット サーバーを利用して、インターネット経由で接続します。
ホスト パソコン（接続される側）で、インターネット接続名（例えばメールアドレス）を、インターコム インターネット サーバーに登録し、それをゲスト パソコン（接続を開始する側）が指定して接続します。



1.1 環境の確認

ゲスト
ホスト

LAPLINK の［インターネット接続］を使って接続できる環境になっているか、以下のことを確認してください。

1. インターネットが利用できる環境ですか？

ゲスト パソコン（接続を開始する側）とホスト パソコン（接続される側）の両方で、Web ブラウザーを起動して Web サイトを開き、正常にインターネットに接続できていることを確認してください。

2. LAPLINK で使用するポートは開放されていますか？

ルーターでフィルター機能が設定されている場合など、LAPLINK が使用するポートまたはプロトコルがふさがれていることがあります。このような場合は、以下のポートとプロトコルを解放する必要があります。

	ポート番号	プロトコル	方向
ゲスト（接続を開始する側）	1547	TCP	外部から内部
ホスト（接続される側）	1547	TCP	内部から外部

注意

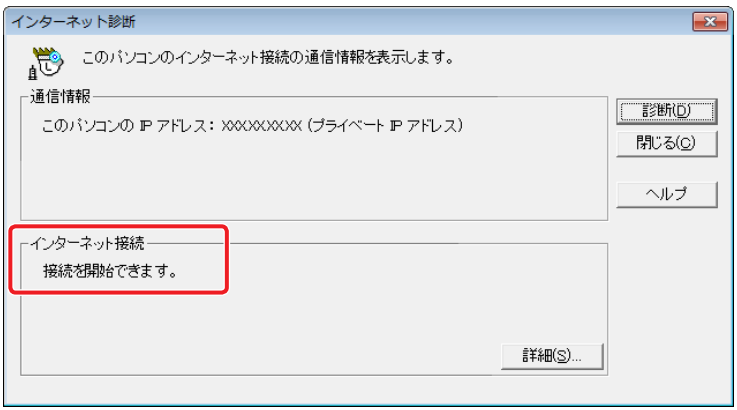
弊社インターコムが設置したインターコム インターネット サーバーは、メンテナンスなどで一時的に休止する場合があります。またやむを得ない事情により、インターコムのサーバーの稼動を終了する場合は、終了する 6 か月前に下記ホームページにて告知いたしますのでご確認ください。
http://www.intercom.co.jp/support/laplink/

Memo

LAPLINK の初期値では、「1547」番ポートを使用するように設定されています。このポートを使用できない環境の場合などに、LAPLINK で使用するポートを変更することもできます。詳しくは、「4 使用するポートを変更する」を参照してください。

3. ゲスト パソコンでの［インターネット診断］の結果に問題はありませんか？

ゲスト パソコンで、［ヘルプ］メニューの［インターネット診断］をクリックし、［インターネット接続］のところに表示されているメッセージを確認してください。



［接続を開始できます。］と表示されていれば、インターネット接続が可能です。［接続を開始できません。］と表示されている場合、以下の問題が考えられます。

● LAPLINK で使用するポートが開放されていない

「1.1 環境の確認」の「2. LAPLINK で使用するポートは開放されていますか？」に記載されているポートとプロトコルが開放されているか、確認してください。

● グローバル IP アドレスが使用できない

ゲスト パソコンでは、プライベート IP アドレスではなく、グローバル IP アドレスが必要です。あらかじめ契約されているインターネット サービス プロバイダーに確認しておくことをおすすめします。

ルーターを使用している場合、インターネット プロバイダーからはグローバル IP アドレスを割り当てられていても、ルーターがそのグローバル IP アドレスをプライベート IP アドレスに変換してルーター内のパソコンに割り当ててしまうため、［インターネット接続］の機能が利用できないことがあります。

その場合は、「1.1.1 自動ポートフォワーディングを設定する」を参照し、グローバル IP アドレスを使用できるように設定してください。

なお、使用しているルーターの設定を変更できないために、グローバル IP アドレスを使用できない環境から接続を開始したい場合は、「2.4 グローバル IP アドレスを使用できない環境からの接続」を参照してください。

⚠ 注 意

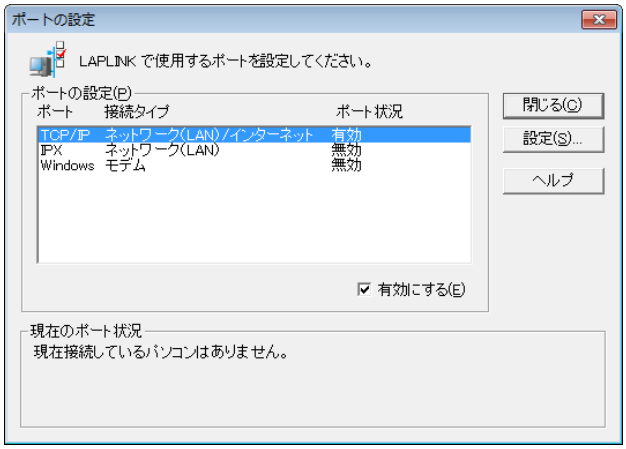
グローバル IP アドレスが使用できる環境でも、［インターネット診断］のダイアログの［通信情報］に、［(プライベート IP アドレス)］が表示される場合があります。
インターネット接続ができる環境かどうかは、［インターネット接続］のメッセージ内容で確認してください。

Memo

グローバル IP アドレスは、IP アドレスが変動するタイプでも固定のタイプでも、どちらでも接続することができます。

4. ゲスト パソコンの LAPLINK で、ポートの設定が有効になっていますか？

ゲスト パソコンの、［オプション］メニューにある［ポートの設定］で、TCP/IP が［有効］になっていることを確認してください。



1.1.1 自動ポートフォワーディングを設定する

ポートフォワーディングを設定することにより、ルーター内部の 1 台のパソコンのみ割り当てられているグローバル IP アドレスを、LAPLINK のインターネット接続に使用できるようになります。
ここでは、ポートフォワーディングを LAPLINK で自動設定する方法を説明します。

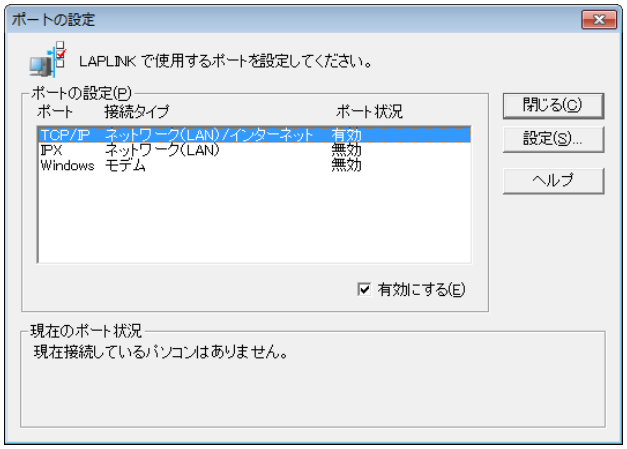
操作

1 ［オプション］メニューから［ポートの設定］をクリックします。

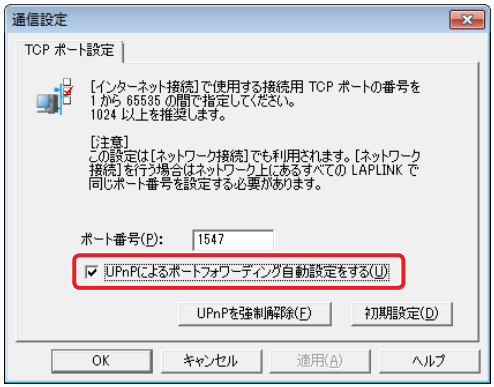
Memo

- 「ポートフォワーディング」とは、インターネット側から特定のポート番号にデータが送られたときに、ルーターがそのデータを LAN 内の特定のパソコンに転送する機能です。
- 「ポートフォワーディング」は、メーカーによって、以下のような呼び方をする場合があります。
  - 静的 IP マスカレード
  - ローカルサーバー
  - 仮想サーバー
  - バーチャルサーバー
  - ポートマッピング
  - 静的 NAPT
  - アドレス変換

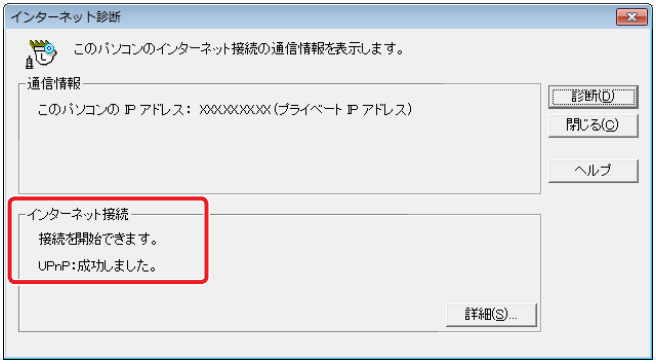
2 ［ポートの設定］ダイアログが表示されます。［TCP/IP］を選択し、［設定］ボタンをクリックします。



3 ［通信設定］ダイアログが表示されます。［UPnP によるポートフォワーディング自動設定をする］にチェックをして、［OK］をクリックします。



4 ［ヘルプ］メニューから［インターネット診断］をクリックします。
インターネット診断が実行され、結果が表示されます。



［インターネット接続］に、［接続を開始できます。］と表示されていれば、接続可能な状態です。
［接続を開始できません。］になっている場合は、使用しているルーターのポートフォワーディングの設定を手動で変更することで、接続可能な状態にできる場合があります。
設定方法は、「1.1.2 手動でポートフォワーディングを設定する」を参照してください。

1.1.2 手動でポートフォワーディングを設定する

以下の内容は、例として、日本電気株式会社「Aterm WR8700N」の設定画面を使用して説明しています。
設定した後、再度［インターネット診断］を実行して、状況を確認してください。

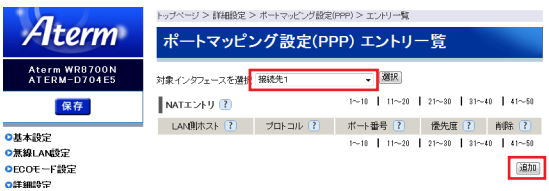
【ポートマッピング設定】

1 Web ブラウザーを起動して、URL 入力欄に「http://web.setup/」またはルーターの IP アドレス（工場出荷時は 192.168.0.1）を入力します。

2 ユーザー名とパスワードの入力画面が表示されます。
ユーザー名（初期値は「admin」）とパスワードを入力して、［OK］ボタンをクリックします。

3 ［クイック設定 Web］が表示されます。左のフレームから［詳細設定］をクリックし、［ポートマッピング設定］をクリックします。

4 ［ポートマッピング設定（PPP）エントリー覧］が表示されます。［対象インタフェースを選択］で、接続先を確認して、［追加］ボタンをクリックします。



Memo

ポート フォワーディングは、メーカーによって以下のような呼び方をする場合があります。

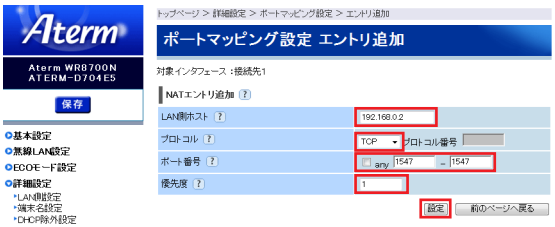
- 静的 IP マスカレード
- ローカルサーバー
- 仮想サーバー
- バーチャルサーバー
- ポートマッピング
- 静的 NAPT
- アドレス変換

⚠ 注 意

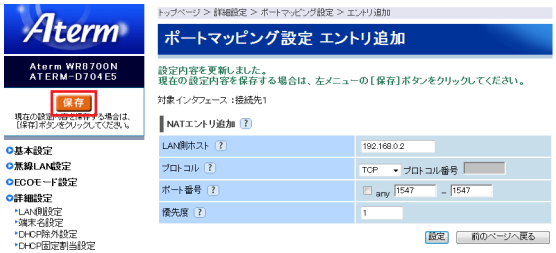
これらの設定は、お客様自身の責任において行ってください。設定を変更したことによるいかなる被害や損害に対して、弊社は一切責任を負いません。

5 [ポートマッピング設定 エントリ追加] が表示されます。[NAT エントリ追加] の各項目に、次の画面のように入力します。入力後、「設定」ボタンをクリックします。

・LAN 側ホスト：パソコンの IP アドレスを入力します。
・プロトコル　：[TCP] を選択します。
・ポート番号　：[any] のチェックをはずし、[1547] ～ [1547] と入力します。
・優先度　　：設定の優先度を 1～ 50 の数字で入力します。



6 設定が更新されたら、左のフレームの［保存］ボタンをクリックします。



7 左のフレームの［詳細設定］から［ポートマッピング設定］を再度クリックし、［NAT エントリ］に設定が反映されていることを確認し、終了します。

1.2 インターネット接続名を登録して接続を待機する

ホスト

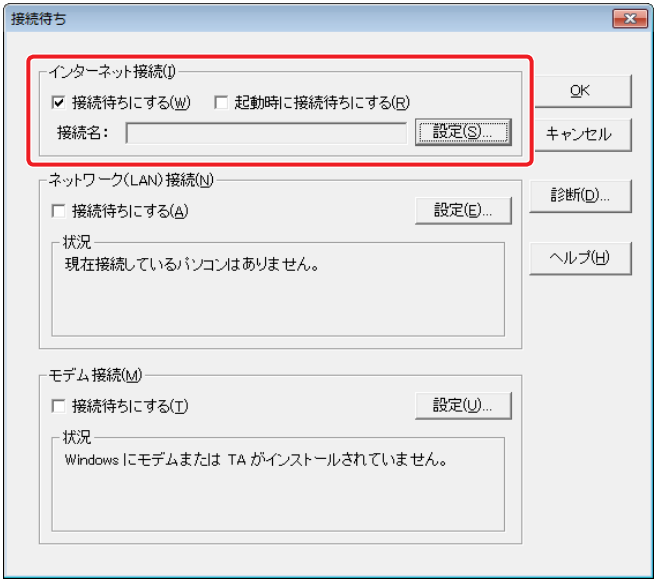
接続される側のホスト パソコンで、接続待ちの状態に設定します。

操作

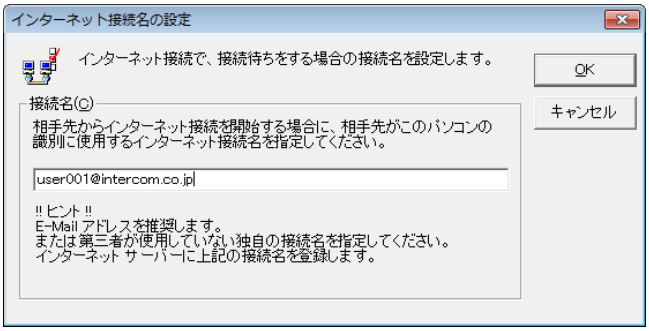
1 ホスト パソコンの LAPLINK で、

アイコンをクリックします。
または、［接続］メニューから［接続待ち］をクリックします。

2 ［接続待ち］ダイアログが表示されます。
［インターネット接続］の［接続待ちにする］にチェックを入れ、［設定］ボタンをクリックします。
［起動時に接続待ちを行う］をチェックすると、次回は LAPLINK を起動した時点でインターネット接続待ちを開始します。

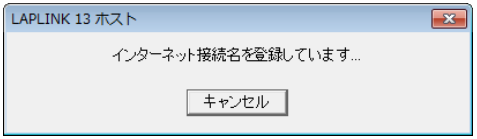


3 ［インターネット接続名の設定］ダイアログが表示されます。
［接続名］に、電子メールアドレスのような独自の接続名を入力します。インターコム インターネット サーバーに接続している他のユーザーと決して重ならない文字列を入力してください。



入力したら、［OK］ボタンをクリックして、ダイアログを閉じます。

4 ［接続待ち］ダイアログの［OK］ボタンをクリックします。
設定した接続名が登録され、インターネットで接続待ちの状態になります。



インターネットで接続待ちの状態になると、メイン ウィンドウのステータス ラインに アイコンが表示されます。

接続待ちを解除する場合は、［接続待ち］ダイアログの［インターネット接続］の［接続待ちにする］のチェックをはずして［OK］をクリックします。
または、ステータス ラインの アイコンを右クリックして、［接続待ちの解除］をクリックし、表示される確認ダイアログで［はい］をクリックします。

⚠ 注 意

インターネット接続名には、全角文字、半角のセミコロン（;）、カンマ（,）、ダブルコーテーション（"）、円マーク（¥）、プラス（+）などの記号は使用できません。

1.3 インターネットで接続する ゲスト

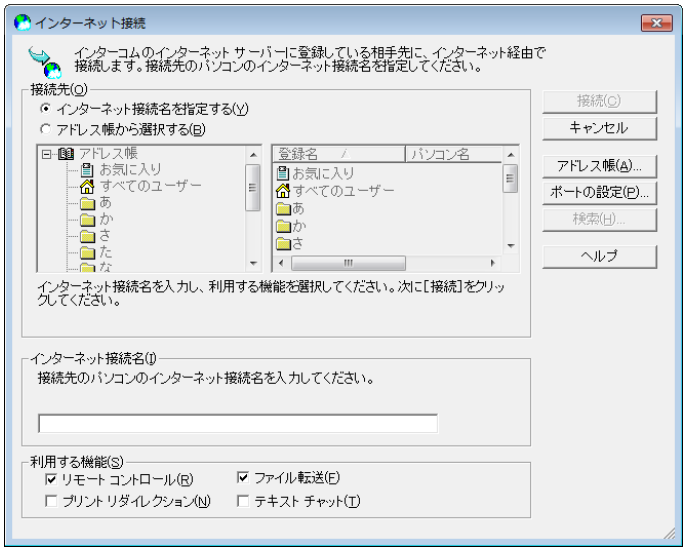
ゲスト パソコンから、インターネット接続を開始します。

操作

1 ゲスト パソコンの LAPLINK で、

アイコンをクリックし、表示されたメニューから［インターネット］をクリックします。
または、［接続］メニューから［インターネット接続］をクリックします。

2 ［インターネット接続］ダイアログが表示されます。



［接続先］の［インターネット接続名を指定する］を選択して、［インターネット接続名］に相手のインターネット接続名を入力します。

アドレス帳に登録されている相手に接続したい場合は、［アドレス帳から選択する］を選択し、アドレス帳からユーザーを選択します。

3 ［利用する機能］で、接続後に利用したい機能にチェックをして、［接続］ボタンをクリックします。

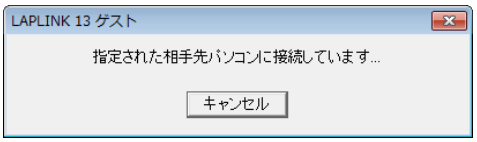
Memo

アドレス帳への登録方法については、「第 9 章 6.10 アドレス帳」を参照してください。

Memo

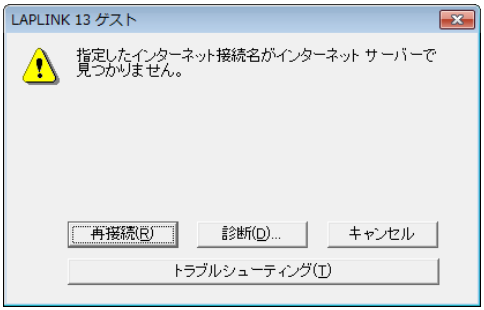
［利用する機能］で、初期設定値としてチェックされる機能を、［オプション］メニューの［接続オプション］で設定することができます。詳しくは、「第 9 章 6.4.3［利用する機能］タブ」を参照してください。

4 接続されるまで、次のメッセージが表示されます。



接続されると、［利用する機能］で選択した機能のウィンドウが表示されます。

なお、ホスト パソコンが指定したインターネット接続名で接続待ちをしていない場合、次のメッセージが表示されます。



相手のインターネット接続名を指定しなおす場合は、［キャンセル］ボタンをクリックして、［インターネット接続］ダイアログの［インターネット接続名］を入力し直します。

注意

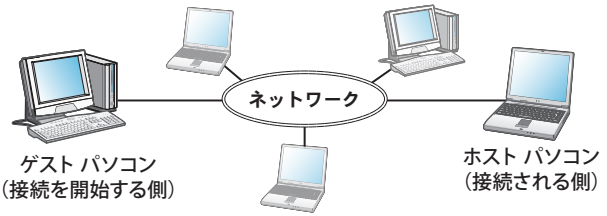
ゲスト パソコンから機能の開始を要求しても、ホスト パソコンのセキュリティで許可しないように設定されている場合は、その機能は開始されません。詳しくは、「第 4 章 2 使用できる機能を限定する」を参照してください。

Memo

接続しようとしたときに、ログイン名とパスワードを入力するダイアログが表示される場合があります。これは、ホスト パソコンでセキュリティをかけているためです。詳しくは、「第 4 章 1 特定の相手からの接続のみ許可する」を参照してください。

2 ネットワーク（LAN）接続

同一ネットワーク上に存在するパソコン同士で接続する時や、グローバル IP アドレスを使用できないパソコンからインターネットを通じて接続する場合などは、この形態で接続します。ホスト パソコンのパソコン名や IP アドレスを指定して接続します。



2.1 環境の確認

ゲスト
ホスト

ネットワーク（LAN）接続ができる環境になっているか、以下のことを確認してください。

1. ネットワーク アダプターは正しく設定されていますか？

Windows のコントロール パネルから、［デバイス マネージャー］を表示して、ネットワーク アダプターが正常に動作しているか確認してください。

2. Windows のネットワークが設定されていますか？

Window のコントロール パネルから［ネットワーク接続］を選択すると設定することができます。詳しくは、Windows のオンライン ヘルプを参照してください。

3. IP アドレスが正しく設定されていますか？

TCP/IP で通信をする場合は、IP アドレスが正しく設定されている必要があります。なお、［ヘルプ］メニューの［インターネット診断］で、IP アドレスを確認できます。詳しくは、「第 9 章 8.2 インターネット診断」を参照してください。

⚠ 注 意

バーチャル プライベート ネットワーク（VPN）環境でのネットワーク（LAN）接続は、サポートしていません。

⚠ 注 意

グローバル IP アドレスを使用できないゲスト パソコンからインターネットを通じて接続する場合は、ホスト パソコンにグローバル IP アドレスが必要です。

4. TCP/IP が正常に使用できますか？

Windows のスタートメニューから［すべてのプログラム］の中の［アクセサリ］をクリックして、表示されたメニューから［コマンド プロンプト］をクリックします。DOS のプロンプトに、以下のコマンドを入力、実行してください。

>ping xxx.xxx.xxx.xxx

（「xxx.xxx.xxx.xxx」には、相手の IP アドレスを入力します。IPv6 の場合は n:n:n:n:n:n:n:n で入力します。）

「Request Timed Out」のメッセージが表示されず、また正常に終了するか確認してください。
詳しくは、使用しているネットワークのネットワーク管理者にご確認ください。

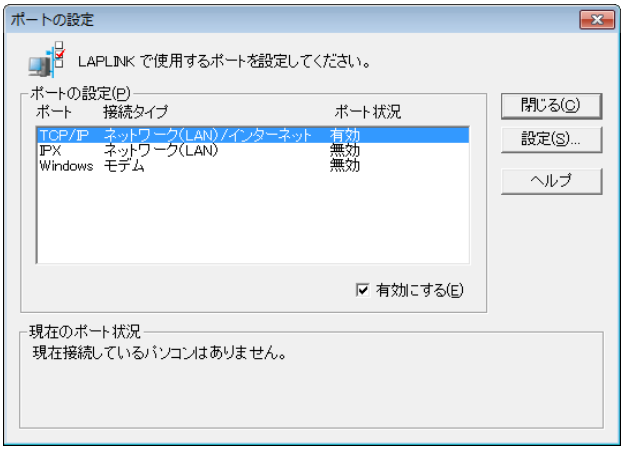
5. LAPINK で使用するポートは開放されていますか？

ルーターでフィルター機能が設定されている場合など、LAPLINK が使用するポートまたはプロトコルがふさがれていることがあります。このような場合は、以下のポートとプロトコルを解放する必要があります。

	ポート番号	プロトコル	方向
ゲスト（接続を開始する側）	1547	TCP	内部から外部
ホスト（接続される側）	1547	TCP	外部から内部

6. ゲスト パソコン（接続する側）の LAPLINK で、ポートの設定が有効になっていますか？

ゲスト パソコンの、［オプション］メニューにある［ポートの設定］で、TCP/IP または IPX が［有効］になっていることを確認してください。



⚠ 注 意

IPv6 での接続は、Windows Server 2008 R2、Windows 7、Windows Server 2008 で対応しています。
また、ゲストとホスト両方とも IPv6 で接続できる環境である必要があります。

Memo

LAPLINK の初期値では、「1547」番ポートを使用するように設定されています。このポートを使用できない環境の場合などに、LAPLINK で使用するポートを変更することもできます。詳しくは、「4 使用するポートを変更する」を参照してください。

2.2 ネットワーク（LAN）接続を待機する ホスト

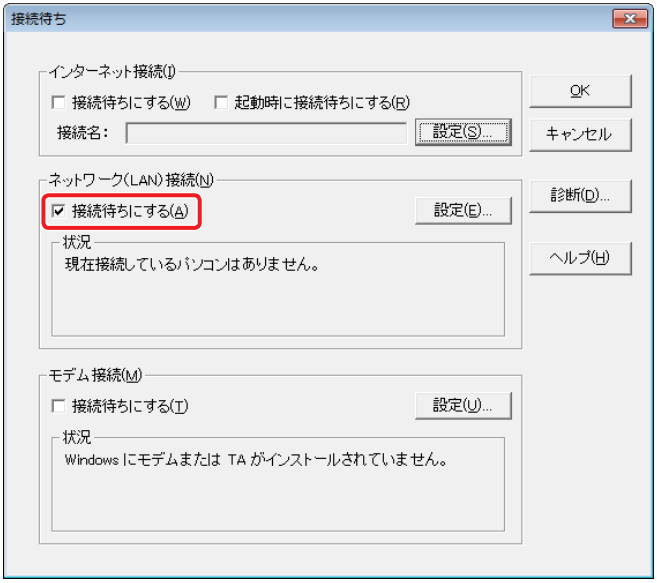
接続される側のホスト パソコンで、接続待ちの状態に設定します。

操作

1 ホスト パソコンの LAPLINK で、

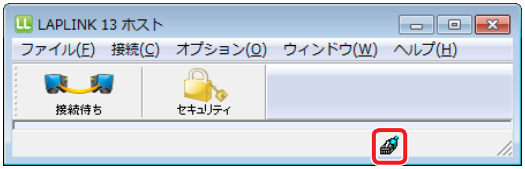
アイコンをクリックします。
または、［接続］メニューから［接続待ち］をクリックします。

2 ［接続待ち］ダイアログが表示されます。
［ネットワーク（LAN）接続］の［接続待ちにする］にチェックを入れ、［OK］をクリックします。



この設定は、LAPLINK を終了しても保持されるため、次回は LAPLINK を起動した時点でネットワーク（LAN）接続待ち状態となります。

ネットワーク（LAN）で接続待ちの状態になると、メイン ウィンドウのステータス ラインに アイコンが表示されます。



接続待ちを解除する場合は、［接続待ち］ダイアログの［ネットワーク（LAN）接続］の［接続待ちにする］のチェックをはずして［OK］をクリックします。または、ステータス ラインの アイコンを右クリックして、［接続待ちの解除］をクリックし、表示される確認ダイアログで［はい］をクリックします。

2.3 ネットワーク（LAN）で接続する ゲスト

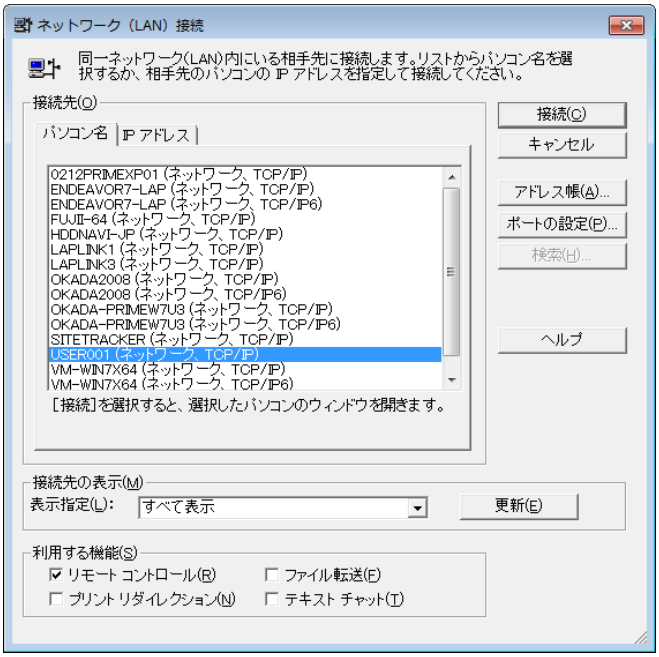
ゲスト パソコンから、ネットワーク（LAN）接続を開始します。

操作

1 ゲスト パソコンの LAPLINK で、

アイコンをクリックし、表示されたメニューから［ネットワーク（LAN)］をクリックします。
または、［接続］メニューから［ネットワーク（LAN）接続］をクリックします。

2 ［ネットワーク（LAN）接続］ダイアログが表示されます。



［接続先］の［パソコン名］タブの、ネットワーク接続が可能なホスト パソコンの一覧から、接続するパソコンを選択します。
アドレス帳から接続する場合は、［アドレス帳］ボタンをクリックして、表示されたアドレス帳からユーザーを選択します。

⚠ 注意

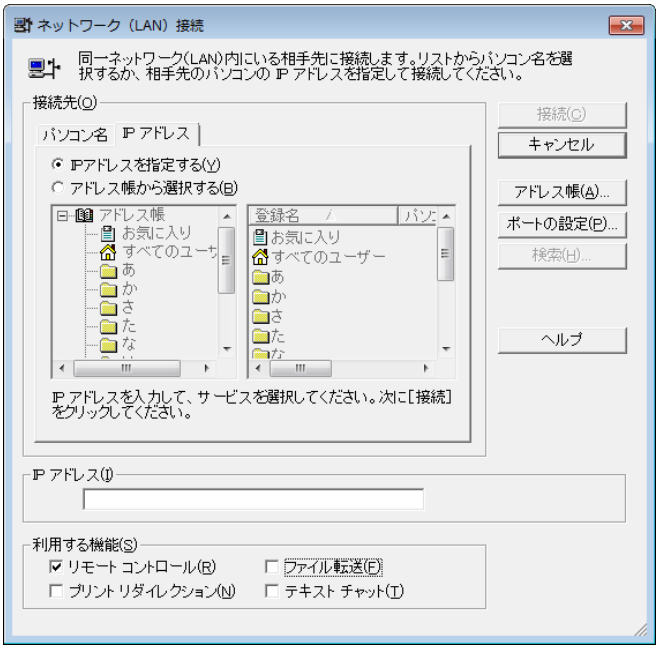
ゲスト パソコンとホスト パソコンで別々のルーターを使用している環境の場合は、［パソコン名］タブにホスト パソコンのパソコン名が表示されません。
接続先の IP アドレスを直接指定して接続してください。
IP アドレスは、［ヘルプ］メニューの［インターネット診断］で確認できます。
詳しくは、「第 10 章 6.2 インターネット診断」を参照してください。

［IP アドレス］アドレスを直接指定して接続したい場合は、［IP アドレス］タブをクリックし、［IP アドレスを指定する］を選択して、［IP アドレス］欄に入力します。

例：

IPv4 . . . 123.456.789.123

IPv6 . . . abcd:0123:4567:abcd:0123:4567:abcd:0123



［アドレス帳から選択する］を選択すると、アドレス帳に登録されている接続タイプが［ネットワーク（LAN）：IP アドレス］のユーザーが表示されますので、その中から選択することもできます。

3 ［利用する機能］で、接続後に利用する機能にチェックをして、［接続］ボタンをクリックします。

4 接続されるまで、以下のメッセージが表示されます。

接続されると、［利用する機能］で選択した機能のウィンドウが表示されます。

注 意

- IPv6 アドレスを指定した接続は、Windows Server 2008 R2、Windows 7、Windows Server 2008 で対応しています。
- ゲストとホスト両方とも IPv6 で接続できる環境である必要があります。
- 「fe80::」で始まるアドレスを指定する場合は、アドレスの最後にゲスト パソコンのインターフェイス識別子（%n）を付ける必要があります。

Memo

［利用する機能］で、初期設定値としてチェックされる機能を、［オプション］メニューの［接続オプション］で設定することができます。詳しくは、「第 9 章 6.4.3［利用する機能］タブ」を参照してください。

注 意

ゲスト パソコンから機能の開始を要求しても、ホスト パソコンのセキュリティで許可しないように設定されている場合は、その機能は開始されません。詳しくは、「第 4 章 2 使用できる機能を限定する」を参照してください。

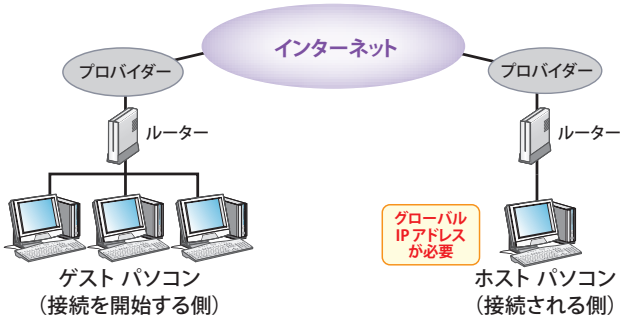
Memo

接続しようとしたときに、ログイン名とパスワードを入力するダイアログが表示される場合があります。これは、ホスト パソコンでセキュリティをかけているためです。詳しくは、「第 4 章 1 特定の相手からの接続のみ許可する」を参照してください。

2.4 グローバル IP アドレスを使用できない環境からの接続

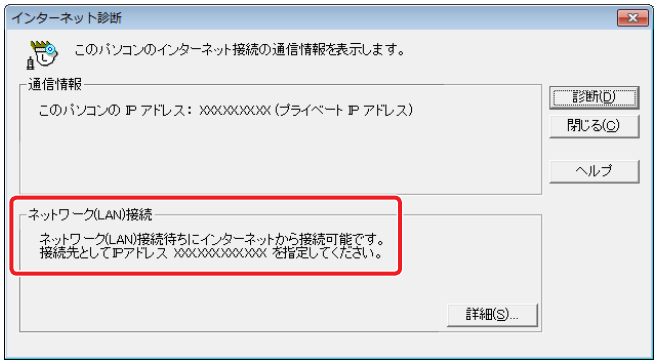
ゲスト
ホスト

外出先から接続する場合など、ゲスト パソコンで使用しているルーターの設定を変更できないために、グローバル IP アドレスを使用できないような環境からインターネットを通じて接続する場合は、以下の操作で接続します。



操作

1 あらかじめ、ホスト パソコン（接続される側）で、[ヘルプ] メニューの [インターネット診断] をクリックし、接続可能な状態になっているか、確認します。



[ネットワーク（LAN）接続待ちにインターネットから接続可能です。] と表示されている場合は、操作 6 に進みます。
[ネットワーク（LAN）接続待ちにインターネットからは接続できません。] と表示されている場合、以下の問題が原因である可能性があります。

●インターネットに接続できていない

ゲスト パソコンとホスト パソコンの両方で、Web ブラウザーを起動して Web サイトを開き、正常にインターネットに接続できていることを確認してください。

⚠ 注 意

グローバル IP アドレスを使用できないゲスト パソコンからインターネットを通じて接続する場合は、ホスト パソコンにグローバル IP アドレスが必要です。

●LAPLINK で使用するポートが開放されていない

「2.1 環境の確認」の「5. LAPLINK で使用するポートは開放されていますか？」に記載されているポートとプロトコルが開放されているか、確認してください。

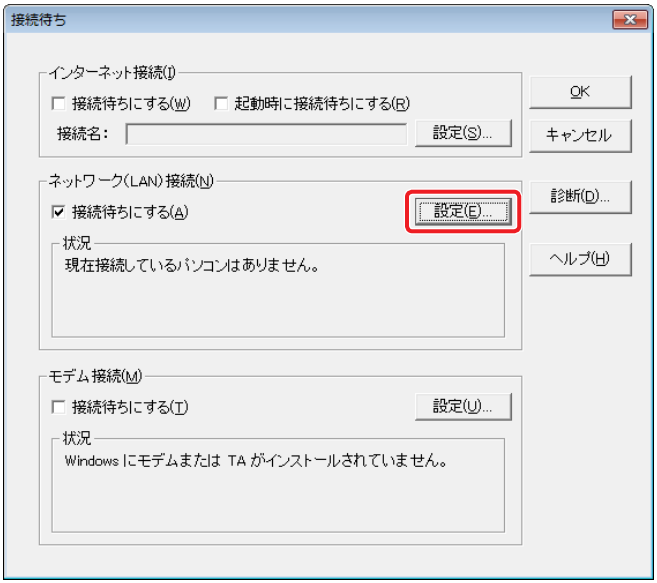
●グローバル IP アドレスが使用できない

ホスト パソコンで、グローバル IP アドレスが使用できない状態の場合があります。この場合は、操作 2 に進みます。

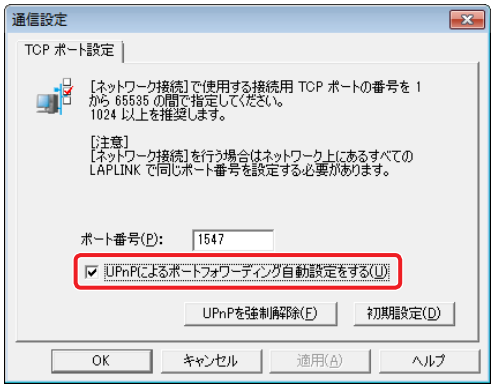
2 ホスト パソコンの LAPLINK で、

アイコンをクリックします。
または、［接続］メニューから［接続待ち］をクリックします。

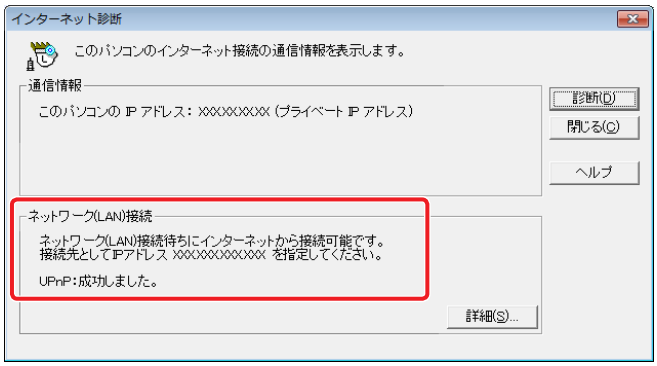
3 ［接続待ち］ダイアログが表示されます。［ネットワーク（LAN）接続］の［設定］ボタンをクリックします。



4 ［通信設定］ダイアログが表示されます。［UPnP によるポートフォワーディング自動設定をする］にチェックし、［OK］をクリックします。



5 再度［インターネット診断］で接続可能な状態になっていることを確認します。
［ヘルプ］メニューの［インターネット診断］をクリックします。



［ネットワーク（LAN）接続待ちにインターネットから接続可能です。］と表示されていれば、操作 6 に進みます。
［ネットワーク（LAN）接続待ちにインターネットからは接続できません。］と表示されている場合は、ルーターのポートフォワーディング機能を手動で設定することで、接続可能になる場合があります。
手動での設定方法は、「1.1.2 手動でポートフォワーディングを設定する」を参照してください。

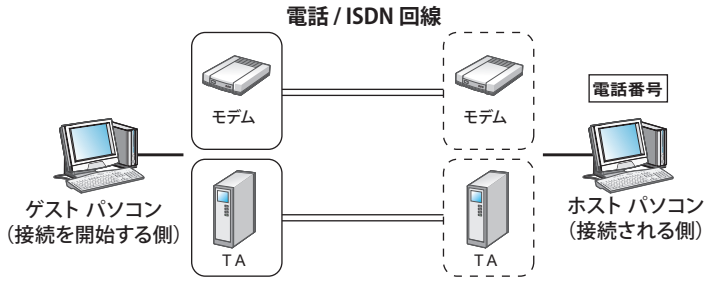
［インターネット診断］で接続可能な状態になったら、操作 6 に進みます。

6 ホスト パソコンで接続を待機します。操作方法は、「2.2 ネットワーク（LAN）接続を待機する」を参照してください。

7 ゲスト パソコンで接続を開始します。操作方法は、「2.3 ネットワーク（LAN）で接続する」を参照してください。

3 モデム接続

ホスト パソコンの電話番号を直接指定して接続します。



3.1 環境の確認

ゲスト
ホスト

モデム接続ができる環境になっているか、以下のことを確認してください。

1. 対応モデムまたはターミナル アダプターを使用していますか？

Windows がサポートしているモデム、またはターミナル アダプターを使用してください。

2. モデム同士、またはターミナル アダプター同士で接続していますか？

モデム（アナログ）とターミナル アダプター（デジタル）間での接続はできません。モデム同士、またはターミナル アダプター同士で接続してください。

3. ケーブルは正しく接続されていますか？

パソコンとモデムを接続するモデム ケーブルや、モデムと電話回線を接続するモジュラー ケーブルを正しく接続します。
各モデムまたはターミナル アダプターの取扱説明書を参照してください。

4. モデムまたはターミナル アダプターは正常に使用できますか？

使用するモデムやターミナル アダプターが、正常に動作するか確認してください。他の通信ソフトがインストールされている場合は、その通信ソフトが正常に動作するか確認してください。Windows のモデム設定なども確認してください。

5. ターミナル アダプターは非同期通信モードで使用していますか？

ターミナル アダプターでの接続は、非同期通信のみ対応しています。「同期 64k」「同期 128k」には対応していません。ターミナル アダプターを使用する場合は、あらかじめ、双方の設定を「非同期」に統一しておいてください。
非同期ターミナル アダプターの場合は、名称に「38.4K」「V.110」「ASYNC」など表記されています。
「P P P64K」「S Y N C」など表記されている場合は同期ターミナル アダプターですので、モデム接続では使用することはできません。

また、Windows XP の場合で、「128K Support Series」など表記されている場合は、以下の設定を行います。

1. ゲスト パソコンの場合は、［オプション］メニューから［ポートの設定］をクリックし、［ポートの設定］ダイアログで［Windows : モデム］を選択し、［設定］ボタンをクリックします。
   ホスト パソコンの場合は、［接続待ち］アイコンをクリックし、［接続待ち］ダイアログで［モデム接続］の［設定］ボタンをクリックします。
2. ［Winodws モデムの設定］ダイアログが表示されます。
   使用するターミナル アダプターを選択して［プロパティ］ボタンをクリックします。
3. ［全般］タブにある［データ プロトコル］から［V .110（57.6K）］または［V .110（38.4K）］を選択します。

詳しくは、各ターミナル アダプターの取扱説明書を参照してください。

- ターミナル アダプターのインストールについては、使用しているターミナル アダプターの取扱説明書を参照してください。
- 動作確認済みのターミナル アダプターについては、以下の弊社ホームページにて最新情報が記載されていますので、参照してください。

  http://www.intercom.co.jp/support/laplink/

6. ゲスト パソコン（接続する側）の LAPLINK で、モデムとポートが正しく設定されていますか？

ゲスト パソコンの LAPLINK で以下の操作をして、モデムとポートが正しく設定されているか確認してください。

1. ［オプション］メニューから［ポートの設定］をクリックします。
2. ［ポートの設定］ダイアログが表示されます。Windows モデムを選択して、［有効にする］にチェックを付けます。
3. コールバック機能を使用する場合は、［設定］ボタンをクリックします。［モデム］のリストから、使用するモデム、またはターミナル アダプターを選択して、［モデムの設定］にある［自動着信を行う］のチェックが入っていることを確認します。
   複数のモデムがインストールされている場合は、LAPLINK で使用しないモデムを選択して、［自動着信を行う］のチェックをはずします。
4. ［閉じる］ボタンをクリックして、［Windows モデムの設定］ダイアログを閉じ、［ポートの設定］ダイアログの［閉じる］ボタンをクリックします。

⚠ 注 意

- ゲスト パソコンでの自動着信機能は、コールバック（かけ直し）の接続を使用する場合に使用します。コールバックについては、「3.4 コールバック（かけ直し）をする」を参照してください。
- 複数のモデムがインストールされている場合に、LAPLINK で使用しないモデムの［自動着信を行う］にチェックが付いていると、コールバックの接続が正常にできない場合があります。

3.2 モデム接続を待機する

ホスト

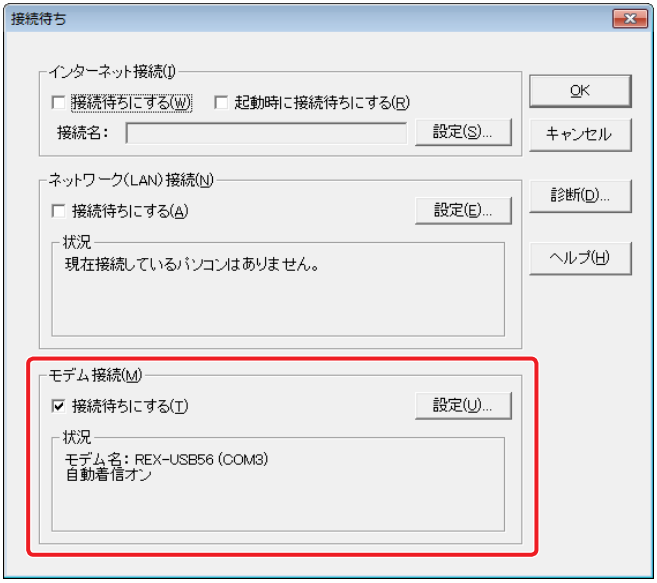
接続される側のホスト パソコンで、接続待ちの状態に設定します。

操作

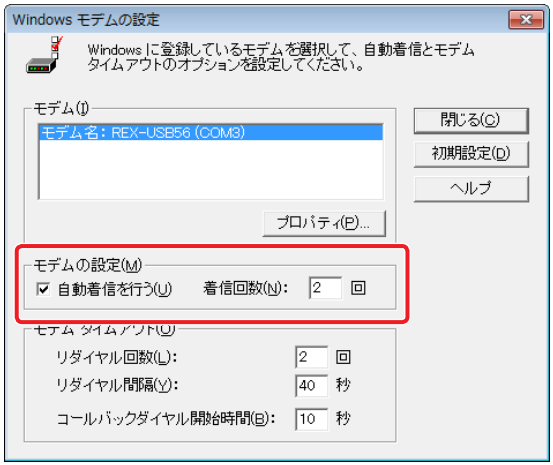
1 ホスト パソコンの LAPLINK で、

アイコンをクリックします。
または、［接続］メニューから［接続待ち］をクリックします。

2 ［接続待ち］ダイアログが表示されます。
［モデム接続］の［接続待ちにする］にチェックを入れ、［設定］ボタンをクリックします。



3 [Windows モデムの設定] ダイアログが表示されます。[モデムの設定] の [自動着信を行う] にチェックが付いていることを確認します。

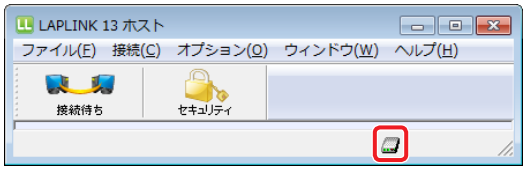


複数のモデムがインストールされている場合は、LAPLINK で使用しないモデムを選択して、[自動着信を行う] のチェックをはずしてください。

4 [閉じる] ボタンをクリックして、[Windows モデムの設定] ダイアログを閉じ、[接続待ち] ダイアログの [OK] ボタンをクリックします。

この設定は、LAPLINK を終了しても保持されるため、次回は LAPLINK を起動した時点でモデム接続待ち状態となります。

モデム接続待ちの状態になると、メイン ウィンドウのステータス ラインに アイコンが表示されます。



接続待ちを解除する場合は、[接続待ち] ダイアログの [モデム接続] の [接続待ちにする] のチェックをはずして [OK] をクリックします。

または、ステータス ラインの アイコンを右クリックして、[接続待ちの解除] をクリックし、表示される確認ダイアログで [はい] をクリックします。

⚠ 注 意

複数のモデムがインストールされている場合に、LAPLINK で使用しないモデムの [自動着信を行う] にチェックが付いていると、正常に接続できない場合があります。

3.3 モデムで接続する

ゲスト

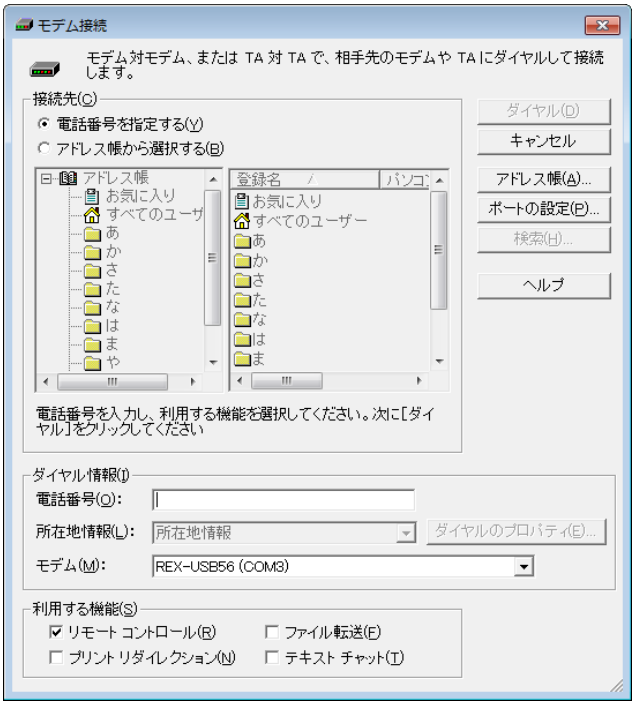
ゲスト パソコンから、モデム接続を開始します。

操作

1 ゲスト パソコンの LAPLINK で、

アイコンをクリックし、表示されたメニューから［モデム］をクリックします。
または、［接続］メニューから［モデム接続］をクリックします。

2 ［モデム接続］ダイアログが表示されます。



電話番号を直接指定して接続する場合は、［電話番号を指定する］を選択し、［ダイヤル情報］の［電話番号］に直接入力します。

アドレス帳に登録されている相手に接続したい場合は、［アドレス帳から選択する］を選択し、アドレス帳からユーザーを選択します。

3 ［ダイヤル情報］の［モデム］から、使用するモデムを選択します。

4 ［利用する機能］で接続後に利用する機能にチェックをして、［ダイヤル］ボタンをクリックします。

Memo

アドレス帳への登録方法については、「第 9 章 6.10 アドレス帳」を参照してください。

Memo

［利用する機能］で、初期設定値としてチェックされる機能を、［オプション］メニューの［接続オプション］で設定することができます。詳しくは、「第 9 章 6.4.3［利用する機能］タブ」を参照してください。

5 接続されるまで、以下のメッセージが表示されます。

接続されると、［利用する機能］でチェックした機能のウィンドウが表示されます。

3.4 コールバック（かけ直し）をする ホスト

モデム接続の場合、ダイヤルしてきたゲスト パソコンに対してホスト パソコンからかけ直す、コールバックの機能を使用することができます。この場合、電話料金はかけ直したホスト パソコン側が負担することになります。
コールバックは、［セキュリティの設定］ダイアログの［全般］タブから、［ログイン リストの設定で許可する］を選択した場合に限り設定することができます。

詳しい操作方法は、「第 10 章 4.5 ログイン リスト」を参照してください。

注意

ゲスト パソコンから機能の開始を要求しても、ホスト パソコンのセキュリティで許可しないように設定されている場合は、その機能は開始されません。
詳しくは、「第 4 章 2 使用できる機能を限定する」を参照してください。

Memo

接続しようとしたときに、ログイン名とパスワードを入力するダイアログが表示される場合があります。これは、ホスト パソコンでセキュリティをかけているためです。詳しくは、「第 4 章 1 特定の相手からの接続のみ許可する」を参照してください。

4 使用するポートを変更する

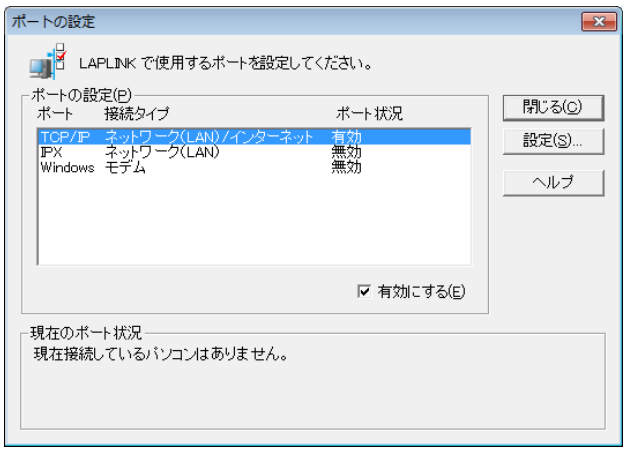
インターネット接続またはネットワーク（LAN）接続での通信で、環境によっては LAPLINK が初期値で指定している「1547」というポートを使用できない場合などに、LAPLINK で使用するポートを変更することができます。

4.1 ゲスト パソコンでのポート変更 ゲスト

操作

1 ［オプション］メニューから、［ポートの設定］をクリックします。

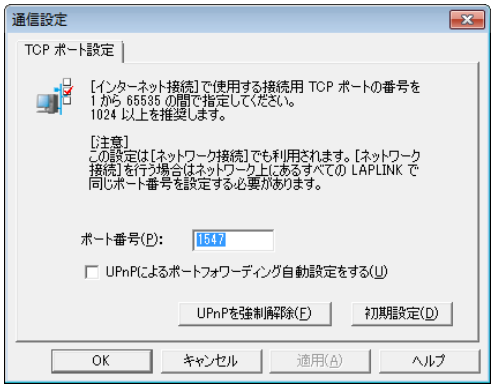
2 ［ポートの設定］ダイアログが表示されます。TCP/IP を選択し、［設定］ボタンをクリックします。



⚠ 注 意

ネットワーク（LAN）接続の場合は、ゲスト パソコンとホスト パソコンで使用するポートを同じに設定する必要があります。

3 ［通信設定］ダイアログが表示されます。［ポート番号］に使用するポート番号を入力します。「1024」未満は使用できない可能性がありますので、「1024 ～ 65535」の範囲で指定することを推奨します。



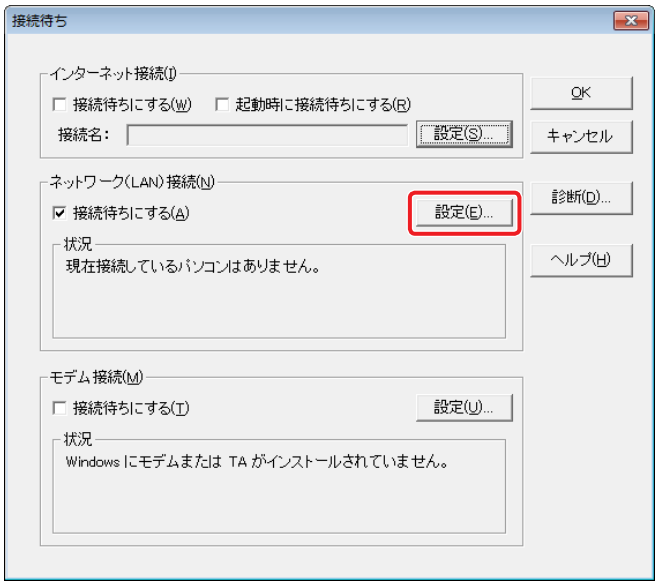
4.2 ホスト パソコンでのポート変更 ホスト

操作

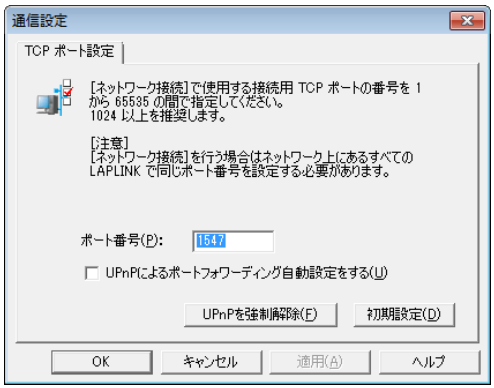
1

アイコンをクリックします。または、［接続］メニューから［接続待ち］をクリックします。

2 ［接続待ち］ダイアログが表示されます。［ネットワーク（LAN）接続］の［設定］ボタンをクリックします。



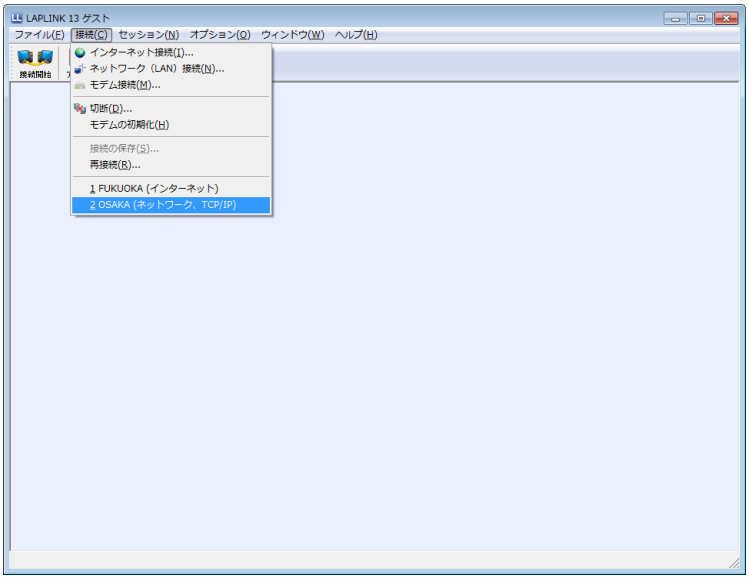
3 ［通信設定］ダイアログが表示されます。［ポート番号］に使用するポート番号を入力します。「1024」未満は使用できない可能性がありますので、「1024 ～ 65535」の範囲で指定することを推奨します。



5 最近接続した相手に接続する

ゲスト

接続した履歴を、最新 5 件まで記録しています。
［接続］メニューの最下段に、接続したホスト パソコンのパソコン名とその接続方法が表示されていますので、ここから接続先を選択して接続します。



なお、前回接続したときに［利用する機能］でチェックした機能のウィンドウが表示されます。

6 ショートカットから接続する

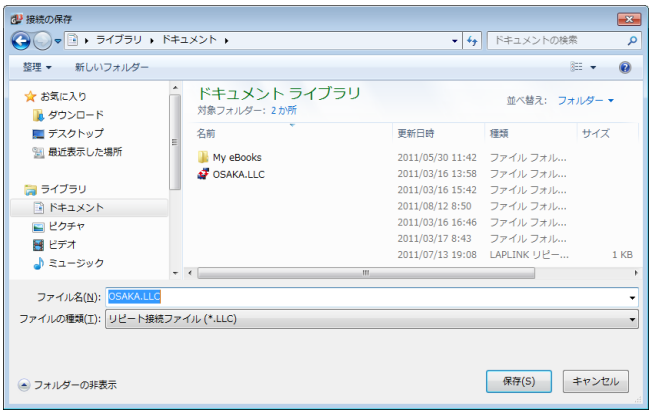
ゲスト

接続するホスト パソコンの情報を保存して、ショートカットを作成しておくことで、次回からショートカットをダブルクリックしてそのホスト パソコンと接続することができます。

操作

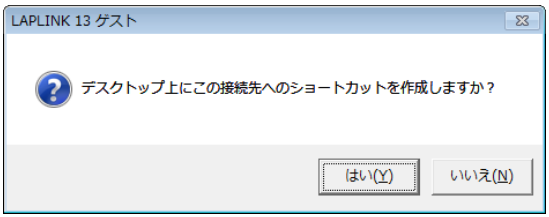
1 ホスト パソコンと接続している状態で、［接続］メニューの［接続の保存］をクリックします。

2 ［接続の保存］ダイアログが表示されます。



接続先の情報をリピート接続ファイル（拡張子：*.LLC）として保存します。ファイル名を入力して［保存］ボタンをクリックします。

3 ショートカットを作成するかどうかを確認するダイアログが表示されます。［はい］をクリックして、デスクトップにショートカットを作成します。



同じホスト パソコンに接続したい場合に、このショートカットをダブルクリックして接続することができます。

Memo

保存したリピート接続ファイルは、［接続］メニューの［再接続］コマンドでも使用できます。

注意

- 保存した接続形態と異なる接続で待機しているホスト パソコンとは接続できません。
- IP アドレスを指定した接続を保存した場合、ホスト パソコンの IP アドレスが変わると接続できません。

7 LAPLINK 起動時に接続を開始する

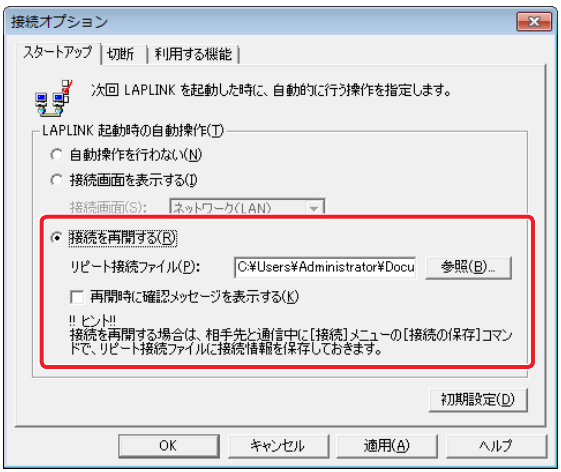
ゲスト

接続するホスト パソコンの情報を保存し、［接続オプション］で自動接続を設定することで、LAPLINK 起動時にホスト パソコンと自動で接続します。

操作

1 ［オプション］メニューの［接続オプション］をクリックします。

2 ［接続オプション］ダイアログが表示されます。
［スタートアップ］タブの［接続を再開する］を選択して、［リピート接続ファイル］の［参照］ボタンをクリックします。



3 ［再接続］ダイアログが表示されます。［接続の保存］で保存したリピート接続ファイルを選択して、［開く］をクリックします。

4 ［接続オプション］ダイアログの［OK］ボタンをクリックします。

次回 LAPLINK を起動すると、保存した接続情報のホスト パソコンに自動で接続されます。

注意

あらかじめ、［接続の保存］で接続するホスト パソコンの情報を保存しておく必要があります。詳しくは、「6 ショートカットから接続する」を参照してください。

Memo

［再開時に確認メッセージを表示する］にチェックすると、LAPLINK 起動時に、保存した接続情報で接続するかどうかを確認するメッセージが表示されます。

注意

LAPLINK の起動時に、ホスト パソコンが保存時と同じ形態で接続待ちになっている必要があります。

8 接続を終了する

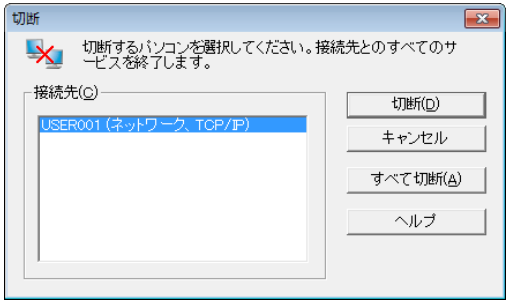
8.1 ゲスト パソコンから切断する ゲスト

操作

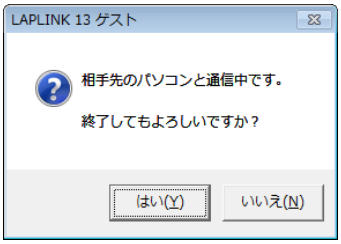
1

アイコンをクリックします。または［接続］メニューの［切断］をクリックします。

2 ［切断］ダイアログが表示されます。
［接続先］のリストから、切断するパソコン名を選択し、［切断］ボタンをクリックします。



3 確認メッセージが表示されます。［はい］をクリックすると、通信が切断されます。



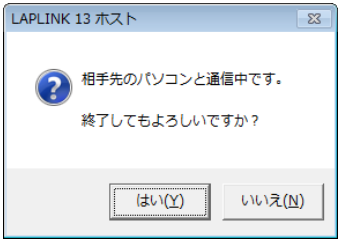
8.2 ホスト パソコンから切断する ホスト

操作

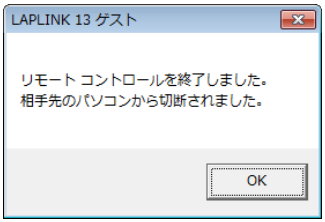
1

アイコンをクリックします。または［接続］メニューの［切断］をクリックします。

2 切断を確認するダイアログが表示されます。［はい］をクリックすると、通信が切断されます。



3 ゲスト パソコンでは、切断されたことを知らせるメッセージが表示されますので［OK］をクリックします。



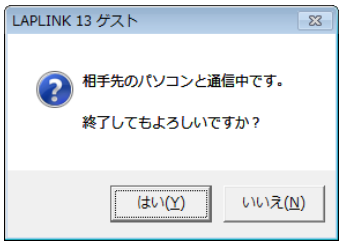
8.3 LAPLINK を終了して切断する

ゲスト
ホスト

操作

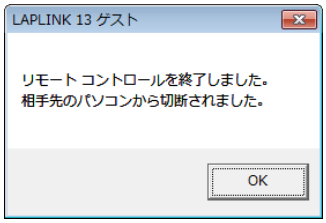
1 ［ファイル］メニューの［終了］をクリックします。または LAPLINK メイン ウィンドウの閉じるボタンをクリックします。

2 切断を確認するダイアログが表示されます。［はい］をクリックします。



3 接続が終了し、LAPLINK も終了します（切断された側の LAPLINK は終了しません）。

4 ホスト パソコンの LAPLINK を終了して切断した場合は、切断されたことを知らせるメッセージがゲスト パソコンに表示されますので［OK］をクリックします。



8.4 自動で切断する

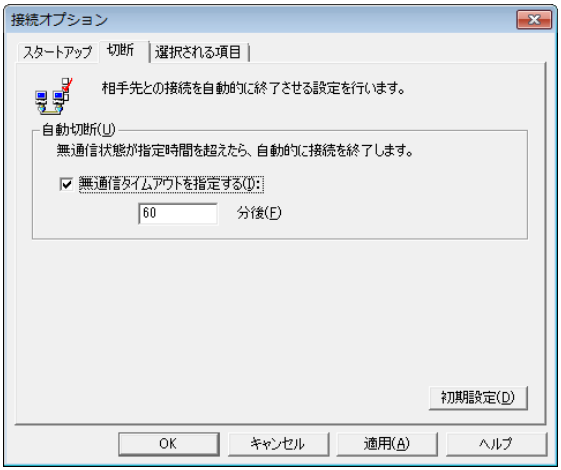
ゲスト

一定時間何も操作しなかった場合に、自動的に回線を切断することができます。

操作

1 ［オプション］メニューから［接続オプション］をクリックします。

2 ［接続オプション］ダイアログが表示されます。
［切断］タブをクリックして、［無通信タイムアウトを指定する］にチェックし、何分間操作しなかった場合に切断するかを指定し、［OK］ボタンをクリックします。



第 3 章

リモート コントロールする

1 はじめる前に
2 ホスト パソコンをリモート コントロールする
3 画面の表示形式を変更する
4 ホスト パソコンの操作を禁止する
5 画面を撮影する
6 デスクトップ ペンで書き込む
7 レーザーポインターで指示する
8 ホスト パソコンのマウスカーソルを表示する
9 操作を録画する
10 ホスト パソコンの環境を確認する
11 [Ctrl] + [Alt] + [Delete] キーを送信する
12 クリップボードを共有する
13 ホスト パソコンの再起動と再接続
14 ログオフとユーザー切り替え

1 はじめる前に

ゲスト
ホスト

リモート コントロール中は、ホスト パソコンのディスプレイに表示されている内容が、そのままゲスト パソコンの［リモート コントロール］ウィンドウ内に表示されます。その画面をゲスト パソコンで操作し、ホスト パソコンをリモート コントロールします。
リモート コントロールするときは、以下の点に注意してください。

◆ ホスト パソコンからはリモート コントロールできません

ホスト パソコンからは、他のパソコンをリモート コントロールできません。

◆ ディスプレイ ドライバーについて

DirectDraw を使用した動画などを表示するアプリケーション（WinDVD など）を、リモート コントロールすることはできません。

◆ Windows Server 2008 R2、Windows 7、Windows Server 2008 を使用している場合

・Windows Aero のリモート コントロールはできません。
［リモート コントロール オプション］の［パフォーマンス］タブにある画面データ取得オプションで［キャプチャ方式］が選択されていなければ、リモート コントロール時に自動で「Windows ベーシック」に切り替わります。
・ホスト パソコンになるためには、管理者権限が必要です。
・リモート コントロール中の「ユーザーアカウント制御（UAC）」の設定変更には、対応していません。

◆ ホスト パソコンでのセキュリティ設定について

ホスト パソコンでセキュリティ設定することにより、ゲスト パソコンからリモート コントロールされることを拒否したり、リモート コントロール中の操作に制限をかけることができます。ただし、ゲスト パソコンと接続中は、セキュリティ設定や通信設定などを変更することはできません。これらの設定は、接続していないときに行います。詳しい設定方法は「第 4 章　ホスト パソコンのセキュリティ設定」を参照してください。

2 ホスト パソコンをリモート コントロールする

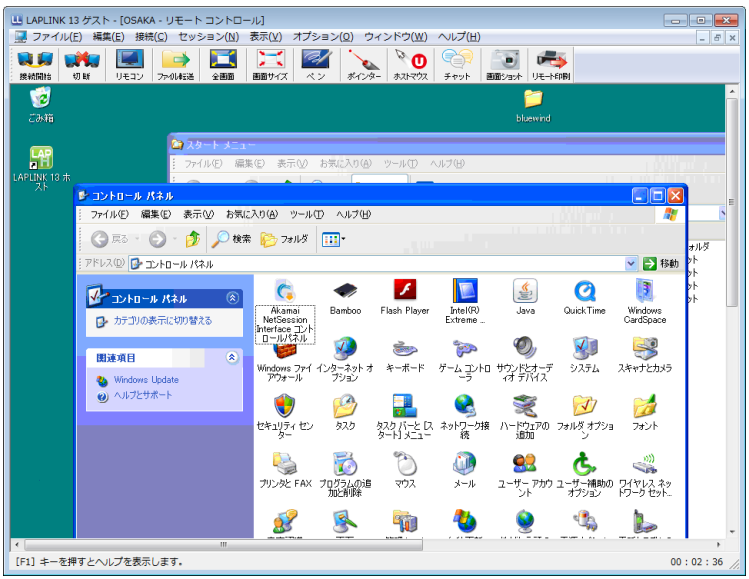
ゲスト

接続を開始するときのダイアログで、［利用する機能］の［リモート コントロール］にチェックをしていれば、接続後に［リモート コントロール］ウィンドウが表示されます。

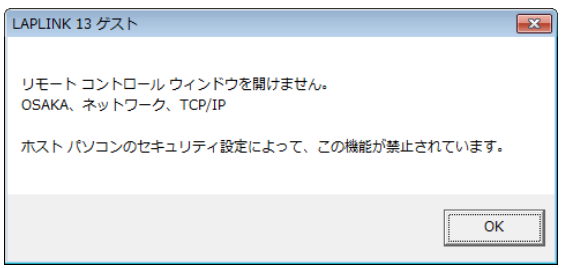
表示されていない場合は、

アイコンをクリックすると表示されます。

そのウィンドウ内で、ホスト パソコンをリモート コントロールします。



また、［リモート コントロール］ウィンドウを開こうとしたときに、次のメッセージが表示された場合は、ホスト パソコンのセキュリティでリモート コントロールを許可しないように設定されています。

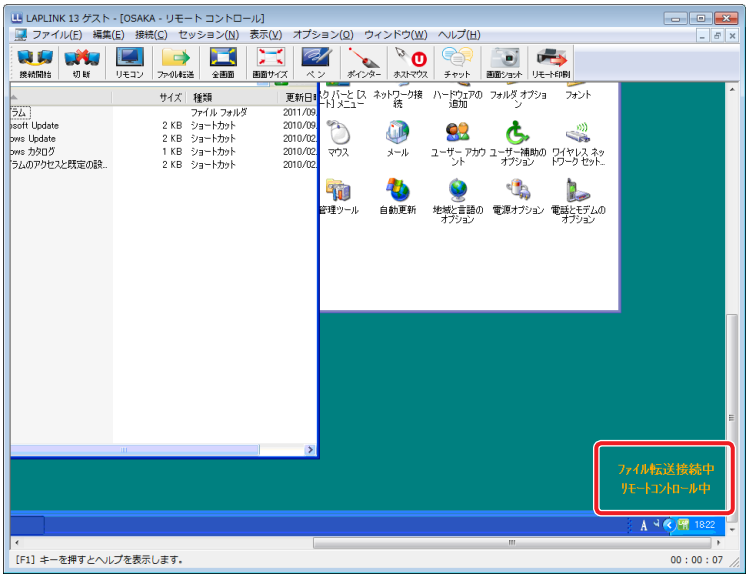


詳しくは、「第 4 章 2 使用できる機能を限定する」を参照してください。

⚠ 注 意

リモート コントロール中、特定のアプリケーションを起動できないことがあります。これは、ホスト パソコンのセキュリティで制限されているためです。
詳しくは、「第 4 章 4 特定のアプリケーションの起動を禁止する」を参照してください。

リモート コントロールされているホスト パソコンでは、ゲスト パソコンがどのような機能を使用しているかわかるように、ディスプレイの右下にステータスが表示されます。



リモート コントロールを終了する場合は、[リモート コントロール] ウィンドウの閉じるボタンをクリックして、ウィンドウを閉じます。

⚠ 注 意

テキスト チャットのステータスは表示されません。プリント リダイレクションは、LAPLINK メイン ウィンドウのステータス ラインにアイコンが表示されます。

⚠ 注 意

実行中の機能がリモート コントロールだけのときにウィンドウを閉じると、ホスト パソコンとの接続も終了します。

3 画面の表示形式を変更する

ホスト パソコンの画面を表示する、［リモート コントロール］ウィンドウの表示形式について設定します。

3.1 ディスプレイ全体を使って表示する ゲスト

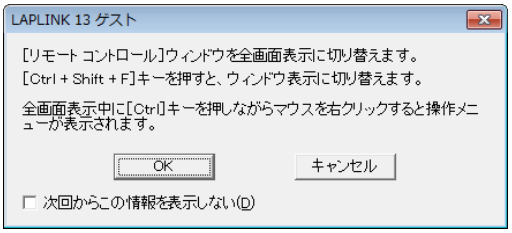
ゲスト パソコンのディスプレイ全体を使って、ホスト パソコンの画面を表示します。

操作

1

アイコンをクリックします。または［表示］メニューの［全画面で表示］をクリックします。

2 確認メッセージが表示されますので、［OK］をクリックします。



3 ゲスト パソコンのディスプレイ全体に、ホスト パソコンの画面が表示されます。

4 元の状態に戻す場合は、画面の上部に表示されたショートカット キーを実行します。
また、全画面表示中に［Ctrl］キーを押しながら右クリックし、表示されたメニューから［全画面で表示を解除］をクリックすると、元の状態に戻ります。

注意

全画面表示状態でテキスト チャットをすることはできません。

Memo

上部に表示されるショートカット キーは、初期値では、［Ctrl］+［Shift］+［F］が設定されています。
このショートカット キーと、上部に表示するかどうかの設定は、変更することができます。
詳しくは「第 9 章 6.1 リモート コントロール オプション」を参照してください。

3.2 ウィンドウに収まるように表示する ゲスト

ゲスト パソコンの［リモート コントロール］ウィンドウ内に収まる形でホスト パソコンの画面を表示します。

操作

1

アイコンをクリックします。または［表示］メニューの［ウィンドウサイズで表示］をクリックします。

2 ［リモート コントロール］ウィンドウ内にホスト パソコンの画面が収まった形で表示されます。

3 元の状態に戻す場合は、

アイコンまたは［表示］メニューの［ウィンドウサイズで表示］を再度クリックします。

3.3 リモート画面を自動スクロールする ゲスト

ゲスト パソコンの［リモート コントロール］ウィンドウ内で、表示しきれていない部分にマウスカーソルを移動すると、自動的に画面をスクロールします。

操作

1 ［表示］メニューの［自動スクロール］をクリックして、チェックマークを ON にします。

［リモート コントロール］ウィンドウの端にマウスカーソルを移動すると、自動的に上下左右に画面がスクロールします。

2 自動スクロールを終了する場合は、［自動スクロール］を再度クリックして、チェックマークをはずします。

Memo

［Ctrl］＋［Shift］＋［S］（初期値）を入力してウィンドウサイズ表示を切り替えることもできます。このショートカット キーは変更することができます。詳しくは、「第 9 章 6.1 リモート コントロール オプション」を参照してください。

4 ホスト パソコンの操作を禁止する

ゲスト

ホスト パソコンの操作と、ゲスト パソコンの操作が衝突する場合に、ホスト パソコンの操作を一時的に禁止することができます。

操作

1 ［セッション］メニューから［ホスト操作の禁止］をクリックします。

2 ［ホスト操作の禁止］にチェックマークがついた状態になると、ホスト パソコンではマウス操作、キーボード操作ができなくなります。

3 ホスト パソコンの操作を可能に戻す場合は、［ホスト操作の禁止］を再度クリックして、チェックマークをはずします。

⚠ 注意

ホスト パソコンで、ゲスト パソコンからの［ホスト操作の禁止］を許可していない場合、この機能を使うことはできません。詳しくは、「第 4 章 2 使用できる機能を限定する」を参照してください。

5 画面を撮影する

5.1 表示している画面を撮影する ゲスト

ホスト パソコンの画面を、ファイル（PNG 形式）に保存します。
画像は、Windows がインストールされているドライブの以下のフォルダーに保存されます。

Windows Server 2008 R2、Windows 7、Windows Server 2008

¥ProgramData¥Intercom¥LAPLINK 13¥Guest

Windows Server 2003 R2、Windows Server 2003、Windows XP

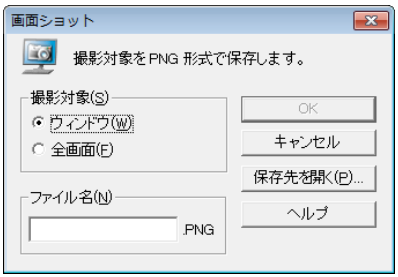
¥Documents and Settings¥All Users¥Application Data¥Intercom¥LAPLINK 13¥Guest

操作

1

アイコンをクリックします。または、［セッション］メニューから［画面ショット］をクリックします。

2 ［画面ショット］ダイアログが表示されます。
ホスト パソコンでアクティブなウィンドウのみを撮影する場合は［ウィンドウ］、全画面を撮影する場合は［全画面］を選択し、ファイル名を指定します。



3 ［OK］ボタンをクリックします。
指定したファイル名で、画像ファイルがゲスト パソコンに保存されます。

［保存先を開く］ボタンをクリックすると、撮影した画像が保存されているフォルダーを表示するので、任意のフォルダーにコピーや移動することができます。

⚠ 注 意

ホスト パソコンでアクティブウインドウを選択していない状態で、［撮影対象］の［ウインドウ］を選択し、画面ショットを実行した場合、全画面を選択した場合と同じ動作になります。

5.2 撮影した画像を見る

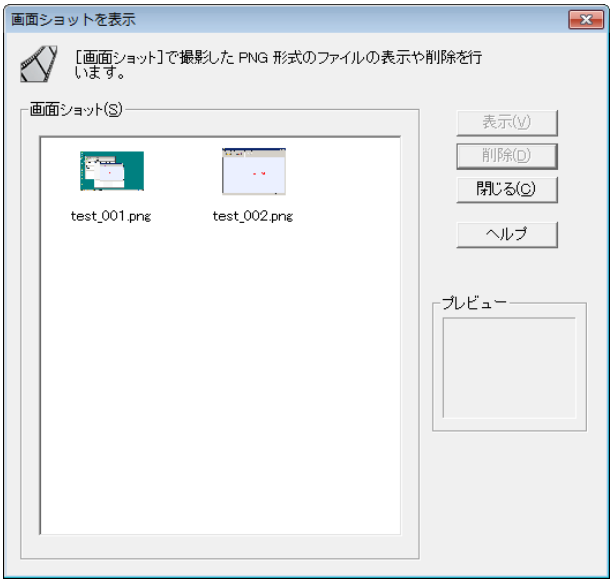
ゲスト

［画面ショット］で撮影した画像ファイルを参照します。

操作

1 ［セッション］メニューから［画面ショットを表示］をクリックします。

2 ［画面ショットを表示］ダイアログが表示されます。
表示したい画像を選択して、［表示］ボタンをクリックすると、画像ファイルが表示されます。



6 デスクトップ ペンで書き込む

ゲスト

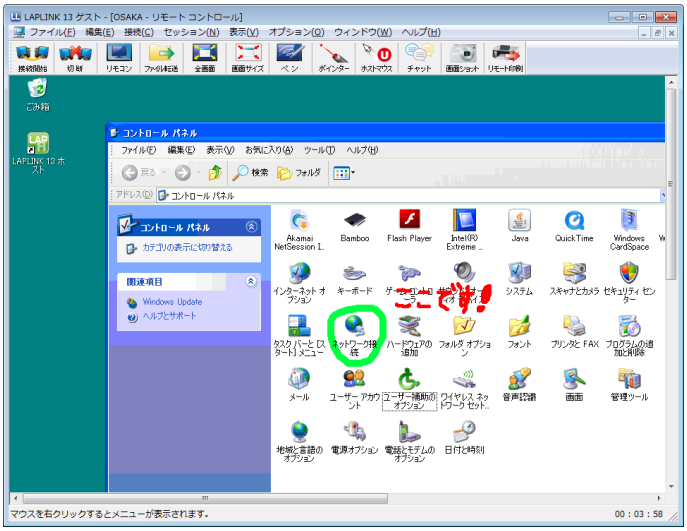
ホスト パソコンの画面上に、フリーハンドでホワイト ボードのように書き込むことができます。

操作

1

アイコンをクリックします。または、［セッション］メニューの［デスクトップ ペンの開始］をクリックします。

2 マウスカーソルが に変わります。［リモート コントロール］ウィンドウ内でマウスをドラッグすると、ホスト パソコンの画面上に書き込むことができます。



3 終了するときは、

アイコンを再度クリックします。または、［セッション］メニューの［デスクトップ ペンの終了］をクリックします。

Memo

デスクトップ ペンを開始している状態で右クリックすると、ペンの太さや色を変更できます。詳しくは「第 9 章 4.3 デスクトップ ペンの開始/終了」を参照してください。

Memo

終了すると、デスクトップ ペンで書き込んだ内容は消去されます。必要であれば、［画面ショット］で画像ファイルとして保存することができます。詳しくは「5 画面を撮影する」を参照してください。

7 レーザーポインターで指示する ゲスト

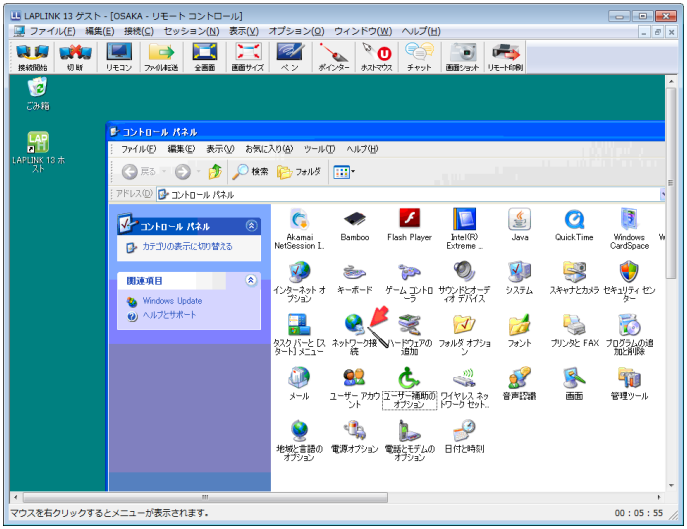
ホスト パソコン上の任意の場所を、赤い矢印や円で指し示します。

操作

1

アイコンをクリックします。または、[セッション] メニューの [レーザーポインターの開始] をクリックします。

2 マウスカーソルが に変わります。[リモート コントロール] ウィンドウ内でマウスをクリックすると、クリックしている間、赤い矢印または円が表示されます。



3 終了するときは、[ポインター] アイコンを再度クリックします。または、[セッション] メニューの [レーザーポインターの終了] をクリックします。

Memo

レーザーポインターを開始している状態で右クリックすると、ポインターの形状を変更することができます。詳しくは「第 9 章 4.2 レーザーポインターの開始/終了」を参照してください。

8 ホスト パソコンのマウスカーソルを表示する

ゲスト

ゲスト パソコンのマウスカーソルとは別に、ホスト パソコンのマウスカーソルを表示します。ホスト パソコンのマウス操作を確認することができます。

操作

1

アイコンをクリックします。または、［セッション］メニューの［ホストマウスの表示］をクリックして、チェックマークを ON にします。

2 ホスト パソコンのマウスが、 で表示されます。
ホスト パソコンがマウスを移動すると、ホスト パソコンのマウスカーソルは重なったまま動きます。

ゲスト パソコンのマウスが停止しているときに、ホスト パソコンがマウスを移動すると、ホスト パソコンのみマウスカーソルが移動します。

ゲスト パソコンがマウスを移動すると、瞬時にホスト パソコンのマウスカーソルはゲスト パソコンのものと重なります。

3 ホスト パソコンのマウスカーソルを非表示にしたい場合は、

アイコンを再度クリックします。または、［セッション］メニューの［ホストマウスの表示］を再度クリックして、チェックマークをはずします。

9 操作を録画する

接続開始から終了までの間、［リモート コントロール］ウィンドウに表示されたすべての内容を、動画データとしてファイルに保存します。保存した動画データは、専用の再生プログラムで内容を確認することができます。

ファイルは、「yyyymmddhhmmss_（ホスト パソコンのパソコン名）.ord」という名前で作成されます（yyyymmddhhmmss は年、月、日付、時刻）。
例えば、2011 年 11 月 4 日 15 時 11 分 30 秒に「OSAKA」というホスト パソコンのリモート コントロールを開始した場合は、「20111104151130_OSAKA.ord」という名前になります。

9.1 録画の設定をする

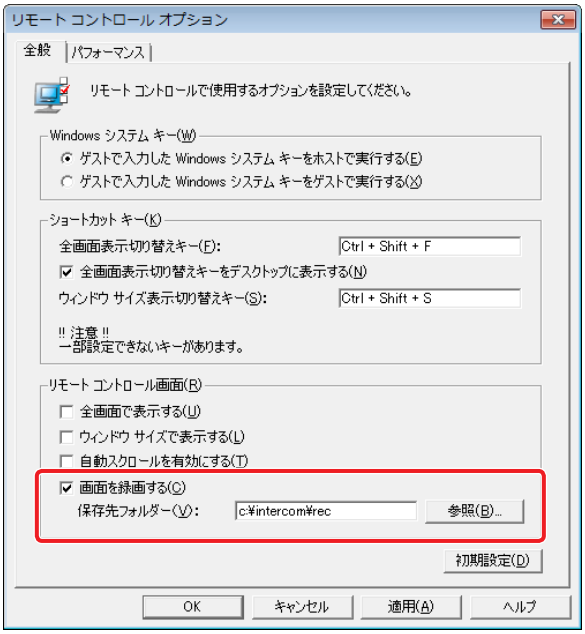
ゲスト

接続を開始する前に、あらかじめ録画するための設定をします。

操作

1 [オプション] メニューの [リモート コントロール オプション] をクリックします。

2 [リモート コントロール オプション] ダイアログが表示されます。[全般] タブにある [画面を録画する] にチェックします。



3 [保存先フォルダー] を指定し、[OK] ボタンをクリックしてダイアログを閉じます。

4 設定後、ホスト パソコンのリモート コントロールを開始すると、終了するまでの [リモート コントロール] ウィンドウの動きを録画します。

⚠ 注意

接続中に [リモート コントロール] ウィンドウを終了すると、録画はそこで終了します。
再度 [リモート コントロール] ウィンドウを開いた場合は、新たに録画を開始します。

9.2 録画データを再生する

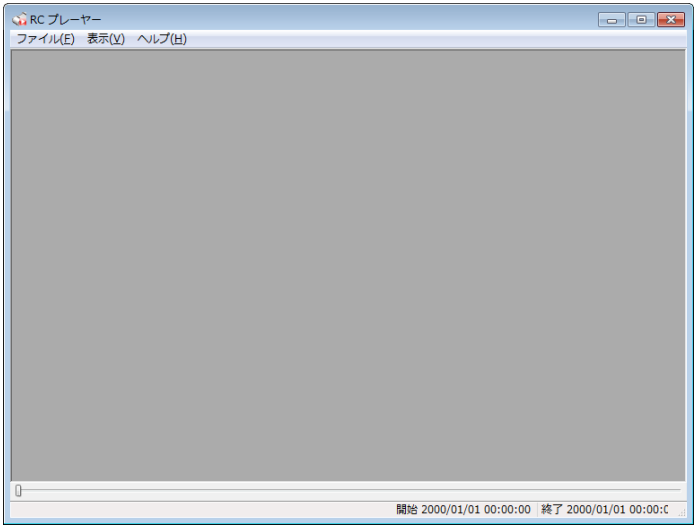
ゲスト

録画されたデータを、専用の再生プログラム「RC プレーヤー」で再生します。

操作

1 Windows の［スタート］メニューから、［すべてのプログラム］－［LAPLINK 13］－［RC プレーヤー］をクリックします。

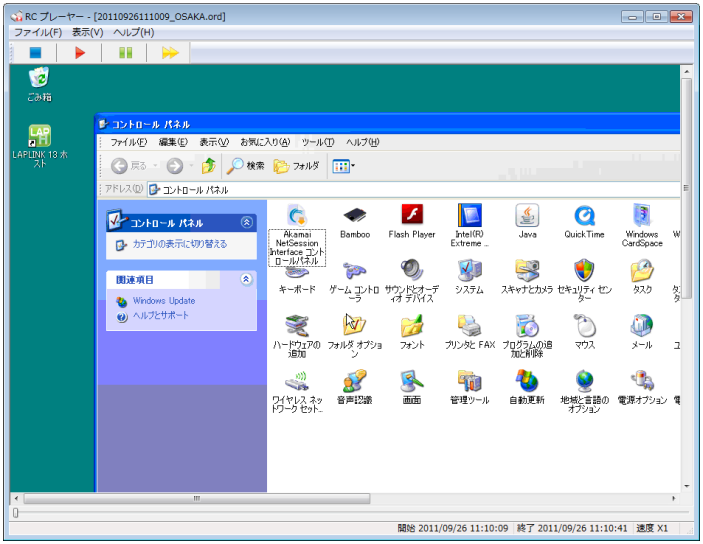
2 ［RC プレーヤー］が起動します。



⚠ 注意

- LAPLINK が録画したデータは、LAPLINK 専用のファイル形式（拡張子：*.ord）です。そのため、他の動画再生プログラムでは再生することはできません。
- LAPLINK と RC プレーヤーは同時に起動できません。

3 ［ファイル］メニューから［開く］をクリックします。
再生したい録画ファイル（拡張子：*.ord）を選択し、［開く］ボタンをクリックすると、選択した動画が再生されます。



● ボタン

再生中の動画を終了します。インジケーターは先頭に戻ります。

● ボタン

動画を再生します。

● ボタン

再生中の動画を一時停止します。 ボタンをクリックすると、停止位置から再生を開始します。

● ボタン

早送りで再生します。1 回クリックするごとに、2 倍速 → 3 倍速 → 5 倍速 → 10 倍速 → 1 倍速 → 2 倍速 →・・・と再生速度を変更することができます。

● （再生インジケーター）

再生中の動画データの進行状態を表します。ドラッグすることで、再生位置を任意に変更することができます。

10 ホスト パソコンの環境を確認する

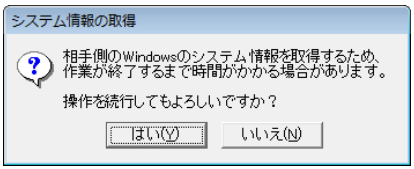
ホスト パソコンのシステム情報を保存することや、デバイス情報、プロセス情報を取得して表示することができます。

10.1 システム情報を保存する ゲスト

操作

1 ［セッション］メニューの［システム情報の取得］をクリックします。

2 確認メッセージが表示されますので、［はい］をクリックします。



3 ファイルの保存先とファイル名を指定し、［保存］ボタンをクリックします。

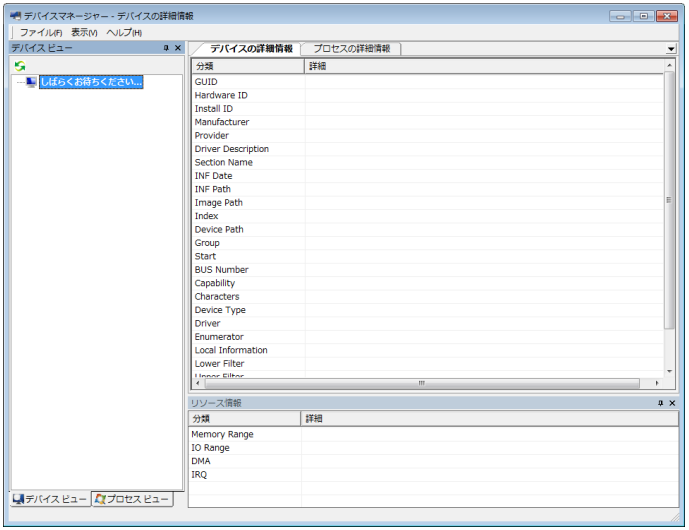
4 指定した場所に、ホスト パソコンのシステム情報がテキスト ファイルで保存されます。

10.2 デバイス情報とプロセス情報を表示する ゲスト

操作

1 ［セッション］メニューの［デバイス情報の表示］または［プロセス情報の表示］をクリックします。

2 ［デバイス マネージャー］が表示されます。［デバイスの詳細情報］タブ、［プロセスの詳細情報］タブをそれぞれクリックして内容を確認します。



Memo

［デバイス マネージャー］について、詳しくは「第 9 章 4.5 デバイス情報の表示」を参照してください。

11 [Ctrl]＋[Alt]＋[Delete] キーを送信する

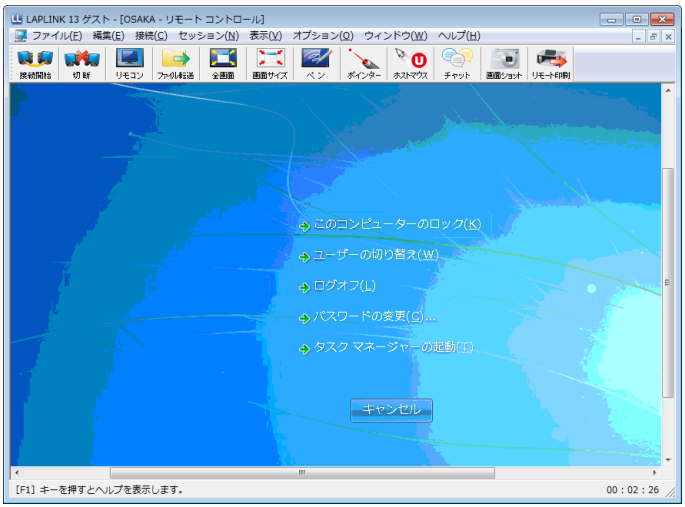
ゲスト

リモート コントロール中、ゲスト パソコンのキーボードで［Ctrl］＋［Alt］＋［Delete］キーを押すと、ホスト パソコンではなく、ゲスト パソコンで［Ctrl］＋［Alt］＋［Delete］キーが実行されてしまいます。
このコマンドを実行することで、ホスト パソコンに対して、［Ctrl］＋［Alt］＋［Delete］キーを送信することができます。

操作

1 ［セッション］メニューの［[Ctrl ＋ Alt ＋ Delete］キーを実行］をクリックします。

2 ホスト パソコンに、［Ctrl］＋［Alt］＋［Delete］キーが送信されます。
ホスト パソコンのタスク マネージャーを開いたり、［再起動後に再接続］や［セーフモードで再接続］で再起動したホスト パソコンのログイン画面で、ゲスト パソコンから［Ctrl］＋［Alt］＋［Delete］キーを送信できます。



Memo

［Ctrl］＋［Shift］＋［D］キーで実行することもできます。

12 クリップボードを共有する

ゲスト

ホスト パソコンのクリップボードを共有することで、ホスト パソコンのテキスト文字をコピーして、ゲスト パソコンのメモ帳などに貼り付けることができます。

操作

1 ［編集］メニューの［クリップボードの共有］をクリックし、チェックマークを ON にします。

2 ホスト パソコンとゲスト パソコンでのクリップボードの情報が共有されます。

3 クリップボードの共有を終了する場合は、［クリップボードの共有］を再度クリックして、チェックマークをはずします。

13 ホスト パソコンの再起動と再接続

リモート コントロール中に、ホスト パソコンを再起動する必要がある場合に、ゲスト パソコンから再起動させ、再び同じゲスト パソコンに接続します。再起動は、通常の起動とセーフモードによる起動のどちらでも可能です。

13.1 通常の再起動と再接続

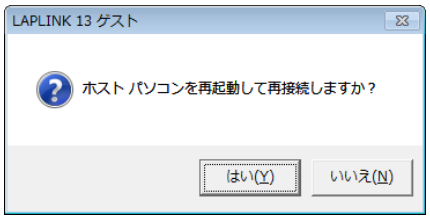
ゲスト

ホスト パソコンを通常モードで再起動後、ゲスト パソコンと再接続します。

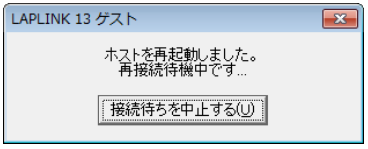
操作

1 ［セッション］メニューの［再起動後に再接続］をクリックします。

2 再起動してもよいかどうかを確認するダイアログが表示されますので、［はい］をクリックします。



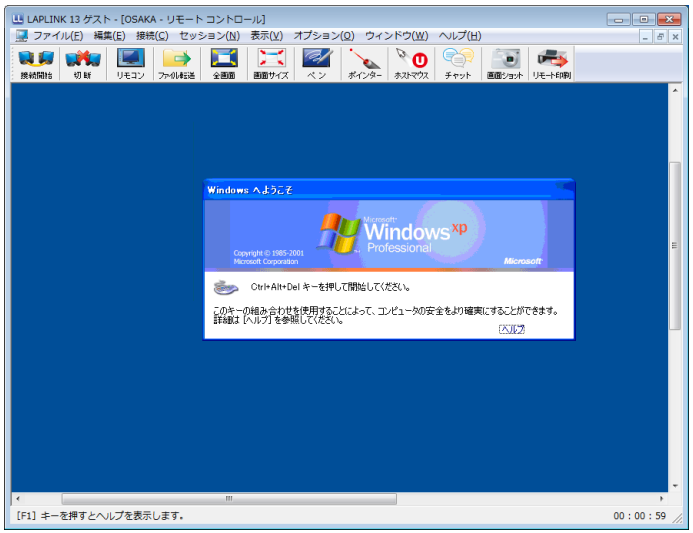
3 ホスト パソコンが再起動します。ゲスト パソコンは、ホスト パソコンの再起動中、以下のようなダイアログが表示されます。



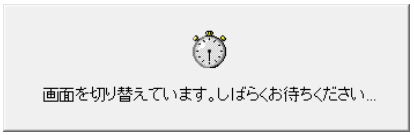
⚠ 注意

- 複数の Windows がホスト パソコンにインストールされている場合、起動する Windows を選択する画面が再起動後に表示されます。この画面が表示された場合は、再起動以前に実行していた Windows を、ホスト パソコン側で選択する必要があります。
- 再起動前に実行していたファイル転送やテキスト チャットなどの機能は、再接続後に自動で再現されません。
  手動で機能を開始してください。

4 ホスト パソコンの再起動が完了すると、ゲスト パソコンと自動的に接続されます。
ホスト パソコンでは Windows ログオン画面が表示されます。
ホスト パソコン側で［Ctrl］＋［Alt］＋［Delete］キーを入力します。



5 ログオン名やパスワードを入力します。入力すると、LAPLINK 画面の切り替え処理をした後、再びホスト パソコンと接続します。



Memo

［Ctrl］＋［Alt］＋［Delete］キーの入力は、ゲスト パソコンから［［Ctrl ＋ Alt ＋ Delete］キーを実行］コマンドを送信、または［Ctrl］＋［Shift］＋［D］キーの入力で実行することもできます。

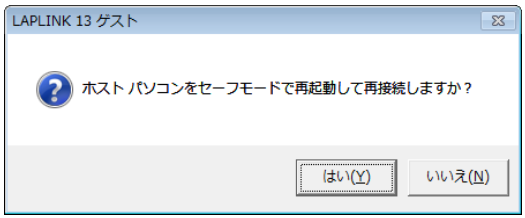
13.2 セーフモードでの再起動と再接続 ゲスト

ホスト パソコンをセーフモードで再起動して、ゲスト パソコンと再接続します。キーボードやマウスなど、必要最低限のドライバーだけで起動するため、エラーの原因を追究しやすい状態でホスト パソコンが起動します。

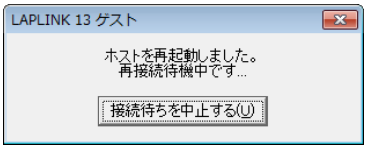
操作

1 ［セッション］メニューの［セーフモードで再接続］をクリックします。

2 セーフモードで再起動してもよいかどうかを確認するダイアログが表示されますので、［はい］をクリックします。



3 ホスト パソコンが再起動します。ゲスト パソコンは、ホスト パソコンが再起動中、以下のようなダイアログが表示されます。



以降の操作は、「13.1 通常の再起動と再接続」の操作 4 以降と同様です。

⚠ 注 意

セーフモードでの再起動時は、ホスト パソコンでプリンターが使用できない状態のため、プリント リダイレクションは使用できません。

14 ログオフとユーザー切り替え

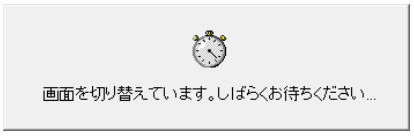
リモート コントロール中に、ホスト パソコンでログオフ、またはユーザー切り替えすることができます。

14.1 ホスト パソコンのログオフ ホスト

操作

1 ホスト パソコンの Windows［スタート］メニューから［ログオフ］をクリックします。

2 ログオン名とパスワードを入力し、別のユーザーでログオンします。ゲスト パソコンでは、次のような画面が表示されます。



Memo

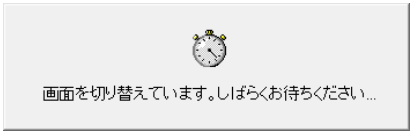
テキスト チャットやプリント リダイレクションなどの機能を実行中にログオフやユーザーの切り替えをしても機能は終了せず、継続して利用できます。
ただし、ファイル転送は、ゲスト パソコン側のウィンドウは表示されますが、切断されています。

14.2 ホスト パソコンのユーザー切り替え ホスト

操作

1 ホスト パソコンの Windows［スタート］メニューから［ユーザーの切り替え］をクリックします。

2 ログオン名とパスワードを入力し、ログオンユーザーを切り替えます。ゲスト パソコンでは、以下のような画面が表示されます。



第 4 章

ホスト パソコンのセキュリティ設定

1 特定の相手からの接続のみ許可する
2 使用できる機能を限定する
3 アクセスできるフォルダーやドライブを限定する
4 特定のアプリケーションの使用を禁止する
5 ローカル セキュリティ

1 特定の相手からの接続のみ許可する

ホスト

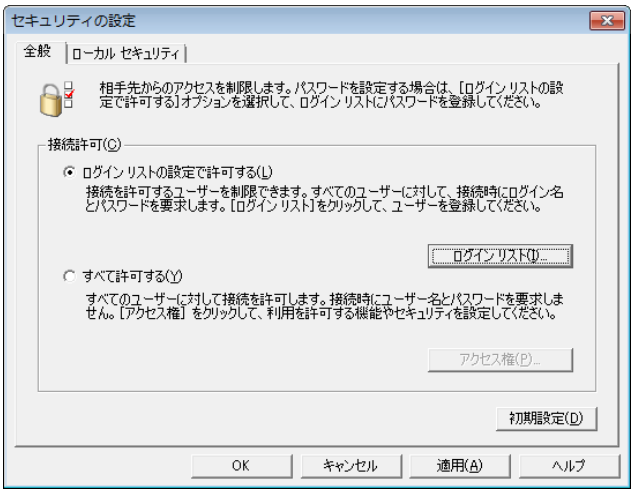
ログイン リストという機能を使用して、リストに登録されたログイン名とパスワードを知っている相手のみ、接続を許可します。

操作

1

アイコンをクリックします。または、[オプション] メニューの [セキュリティの設定] をクリックします。

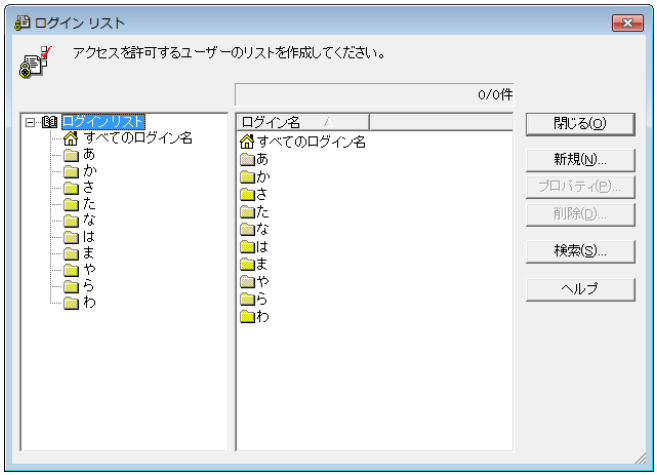
2 [セキュリティの設定] ダイアログが表示されます。[ログイン リストの設定で許可する] を選択し、[ログイン リスト] ボタンをクリックします。



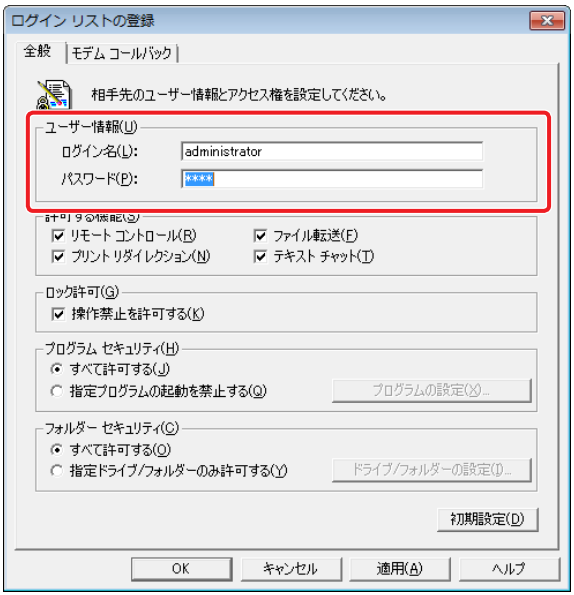
Memo

ログイン リストの詳細な設定方法については、「第 10 章 4.5 ログイン リスト」を参照してください。

3 [ログイン リスト] ダイアログが表示されます。登録したいフォルダーをリストから選択して、[新規] ボタンをクリックします。



4 [ログイン リストの登録] ダイアログが表示されます。
[ログイン名] と [パスワード] を入力します。
[パスワード] は、入力を開始するとダイアログが表示されますので、確認のため 2 回入力します。
ここで設定したログイン名とパスワードを、ゲスト パソコンからの接続の時に要求し、正しく入力された場合のみ、接続されます。



Memo

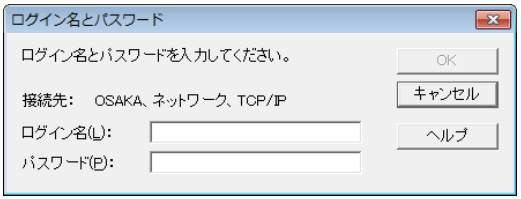
ログイン名は半角 20 文字（全角 10 文字）まで、パスワードは半角 4 ～ 10 文字（全角 2 ～ 5 文字）まで指定でき、それぞれ大文字と小文字が区別されます。

Memo

ログイン名ごとに、使用できる機能やアプリケーションを限定したり、アクセスできるフォルダーやドライブを指定したりすることもできます。詳しくは、「2 使用できる機能を限定する」以降を参照してください。

5 ［OK］をクリックすると、［ログイン リストの登録］ダイアログが閉じ、ログイン リストに情報が登録されます。

この設定後にゲスト パソコンから接続すると、ゲスト パソコン側でログイン名とパスワードを要求するダイアログが表示されます。



ログイン リストに登録されたログイン名とパスワードを入力した場合のみ、ホスト パソコンに接続することができます。

Memo

ゲスト パソコンで、アドレス帳にログイン名とパスワードを登録している場合は、入力を要求しません。アドレス帳については「第 9 章 6.10 アドレス帳」を参照してください。

2 使用できる機能を限定する

ホスト

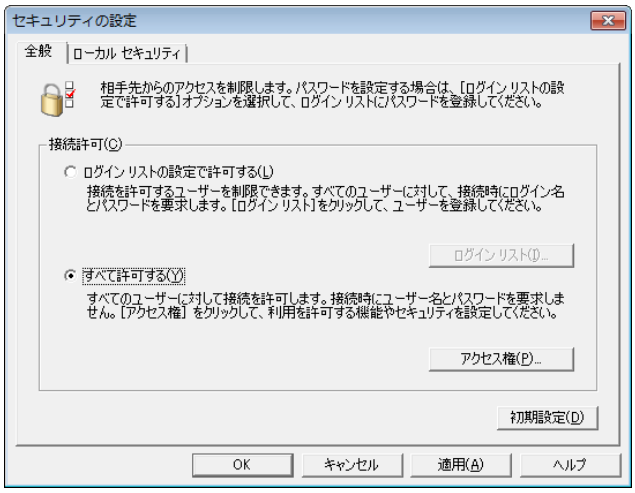
リモート コントロール、ファイル転送などの機能や、［ホスト操作の禁止］の機能をゲスト パソコンに対して許可するかどうかを設定することができます。
ログイン リストで設定すれば、ログイン名ごとに設定することもできます。

操 作

1

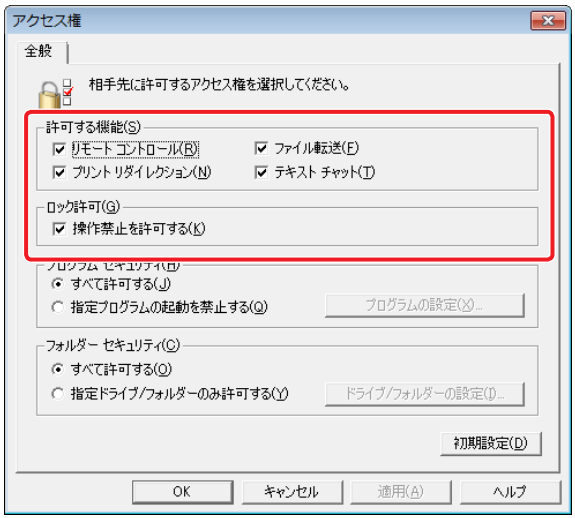
アイコンをクリックします。または、［オプション］メニューの［セキュリティの設定］をクリックします。

2 ［セキュリティの設定］ダイアログが表示されます。［全般］タブの［すべて許可する］を選択し、［アクセス権］ボタンをクリックします。



ログイン リストで設定する場合は、［ログイン リストの設定で許可する］を選択し、［ログイン リスト］ボタンをクリックします。表示された［ログイン リスト］ダイアログで［新規］ボタンをクリック、または登録されているログイン名を選択し、［プロパティ］ボタンをクリックします。

3 表示された［アクセス権］ダイアログの［全般］タブで、［許可する機能］にチェックを付けます。
ゲスト パソコンから実行される［ホスト操作の禁止］を許可する場合は、［操作禁止を許可する］にチェックを付けます。



4 ［OK］ボタンをクリックしてダイアログを閉じます。

Memo

［ホスト操作の禁止］については、「第 3 章 4 ホスト パソコンの操作を禁止する」を参照してください。

3 アクセスできるフォルダーやドライブを限定する

ホスト

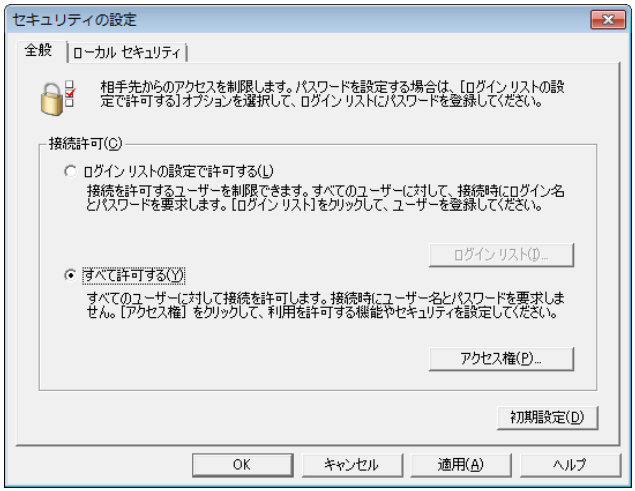
特定のフォルダーをゲスト パソコンに参照されたくない、またはファイルを操作されたくない場合に、ドライブやフォルダー単位でセキュリティをかけることができます。アクセスを禁止にしたドライブとフォルダーは、リモート コントロール中にアクセスできなくなり、ゲスト パソコンのファイル転送ウィンドウにも表示されません。
ログイン リストで設定すれば、ログイン名ごとにフォルダーやドライブのアクセス制限をかけることもできます。

操作

1

アイコンをクリックします。または、[オプション] メニューの [セキュリティの設定] をクリックします。

2 [セキュリティの設定] ダイアログが表示されます。[全般] タブの [すべて許可する] を選択し、[アクセス権] ボタンをクリックします。



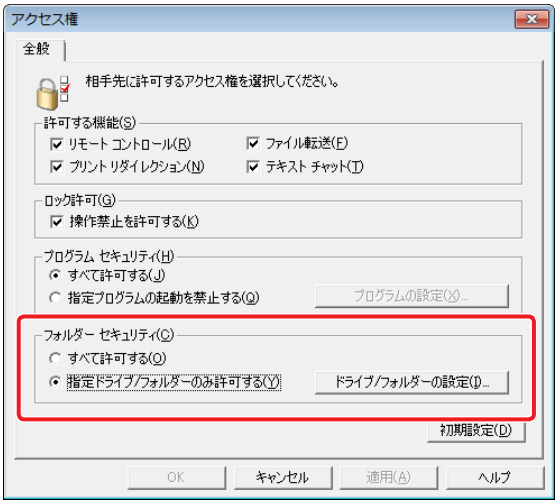
ログイン リストで設定する場合は、[ログイン リストの設定で許可する] を選択し、[ログイン リスト] ボタンをクリックします。
表示された [ログイン リスト] ダイアログで [新規] ボタンをクリック、または登録されているログイン名を選択し、[プロパティ] ボタンをクリックします。

⚠ 注意

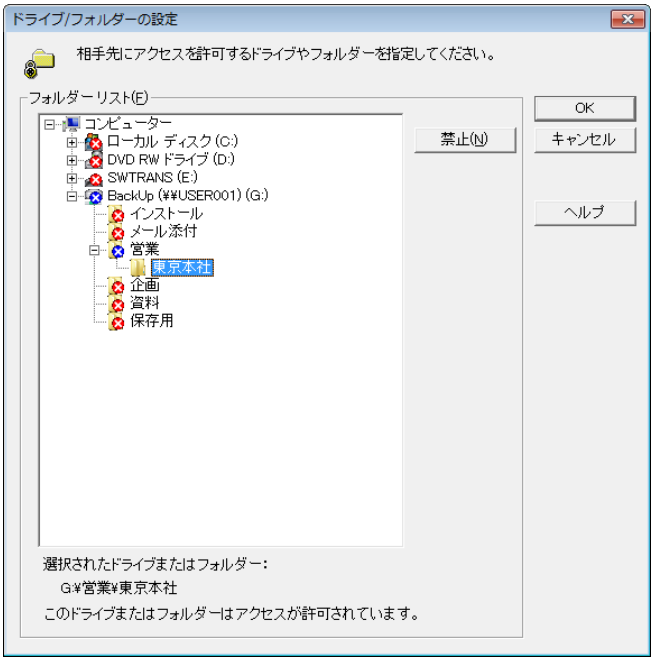
以下のフォルダーはアクセス禁止にできません。

- 「Program Files」フォルダー以下
- 「Program Files x86」フォルダー以下
- 「Windows」フォルダー以下
- ごみ箱（「Recycled」や「Recycler」）
- 「Documents and Settings」フォルダー以下
- 「Users」フォルダー以下
- 「ProgramData」フォルダー以下

3 ［全般］タブの［フォルダー セキュリティ］で［指定ドライブ/フォルダーのみ許可する］を選択し、［ドライブ/フォルダーの設定］ボタンをクリックします。



4 ［ドライブ/フォルダーの設定］ダイアログが表示されます。
［フォルダー リスト］から、アクセスを許可するドライブやフォルダーを選択し、［許可］ボタンをクリックします。
アクセスを禁止したい場合は、［禁止］ボタンをクリックします。



5 ドライブやフォルダーを設定したら［OK］ボタンをクリックしてダイアログを閉じます。

Memo

［ドライブ/フォルダーの設定］ダイアログの詳しい設定方法については、「第 10 章 4.4.4 フォルダーセキュリティ」を参照してください。

⚠ 注 意

アクセスが禁止されたフォルダーにアクセスしようとすると、アクセスができない旨のメッセージが表示されます。
ただし、禁止されたフォルダー内のサブフォルダーへアクセスしようとした場合、実行プログラムの使用によっては、メッセージが表示されない場合があります。

4 特定のアプリケーションの起動を禁止する

ホスト

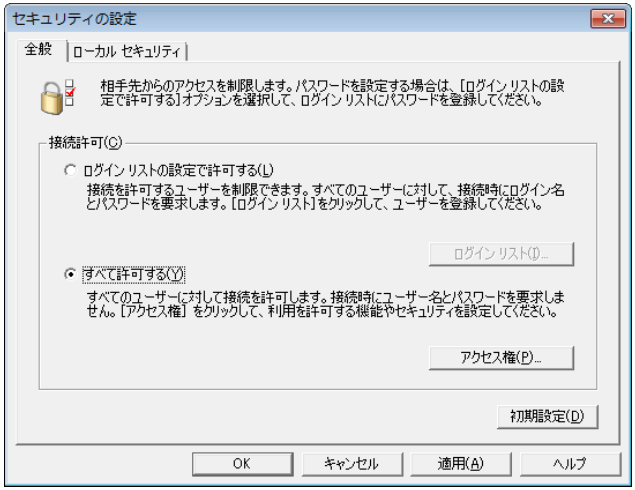
指定したアプリケーションを、リモート コントロール中に起動できないように設定します。
ログイン リストで設定すれば、ログイン名ごとに起動を禁止するアプリケーションを設定することもできます。

操作

1

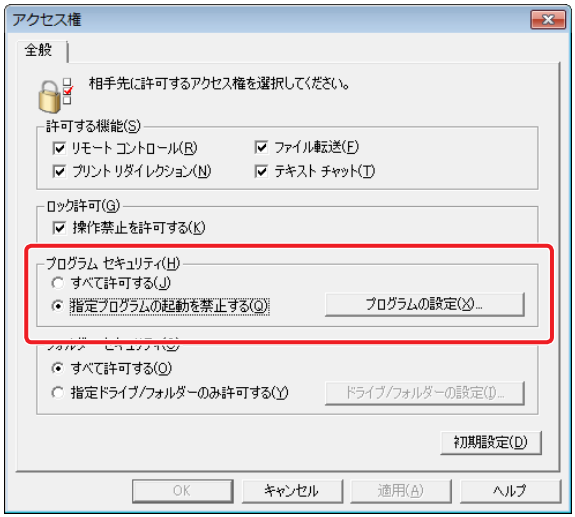
アイコンをクリックします。または、［オプション］メニューの［セキュリティの設定］をクリックします。

2 ［セキュリティの設定］ダイアログが表示されます。［全般］タブの［すべて許可する］を選択し、［アクセス権］ボタンをクリックします。

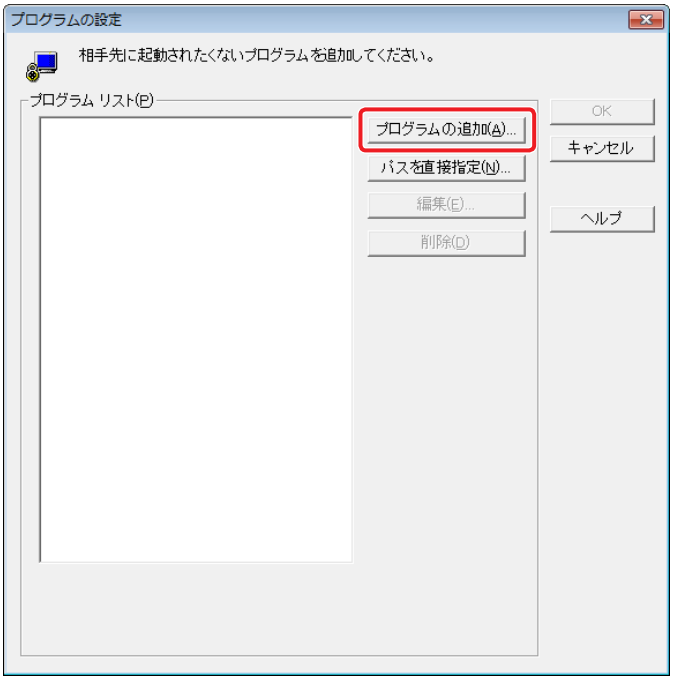


ログイン リストで設定する場合は、［ログイン リストの設定で許可する］を選択し、［ログイン リスト］ボタンをクリックします。
表示された［ログイン リスト］ダイアログで［新規］ボタンをクリック、または登録されているログイン名を選択し、［プロパティ］ボタンをクリックします。

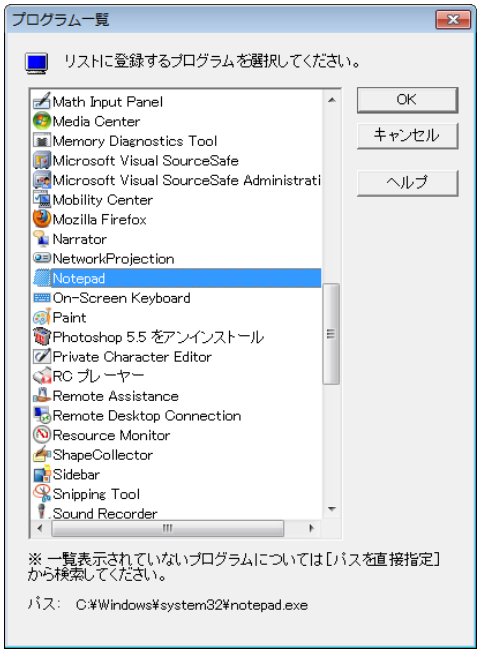
3 ［全般］タブの［プログラム セキュリティ］で［指定プログラムの起動を禁止する］を選択し、［プログラムの設定］ボタンをクリックします。



4 ［プログラムの設定］ダイアログの［プログラムの追加］ボタンをクリックします。

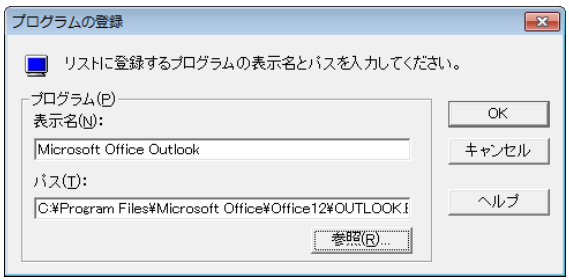


5 表示された［プログラム一覧］からプログラムを選択し、［OK］ボタンをクリックします。

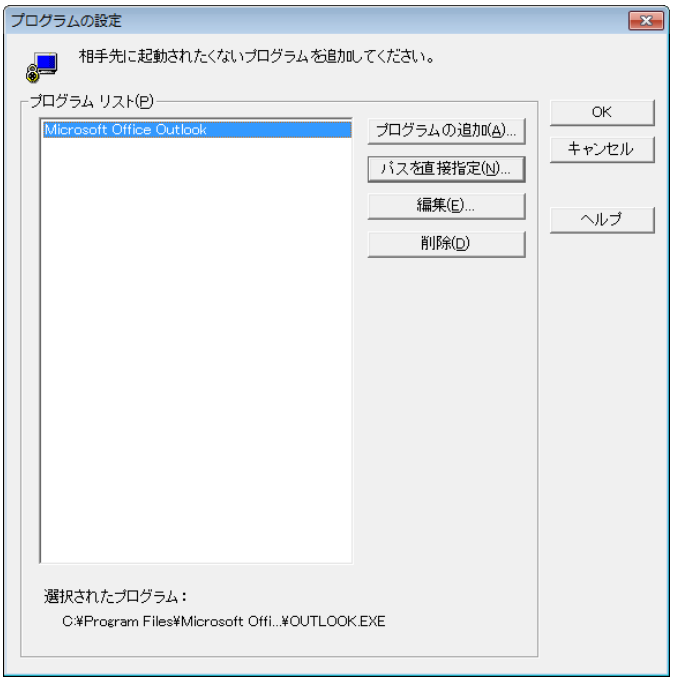


プログラム一覧に設定したいプログラムがない場合は、［キャンセル］ボタンをクリックしてダイアログを閉じ、［プログラムの設定］ダイアログの［パスを直接指定］ボタンをクリックして、設定したいプログラムを選択し、［OK］をクリックします。

必要であれば、［プログラムの登録］ダイアログで、パスと［プログラムの設定］ダイアログでの表示名を入力し、［OK］をクリックします。



6 ［プログラムの設定］のリスト枠にプログラムが追加されます。
［OK］ボタンをクリックしてダイアログを閉じます。



5 ローカル セキュリティ

ホスト

LAPLINK の設定を変更されないよう、パスワードを設定します。次の操作をしようとしたときに、パスワードの入力が必要になります。

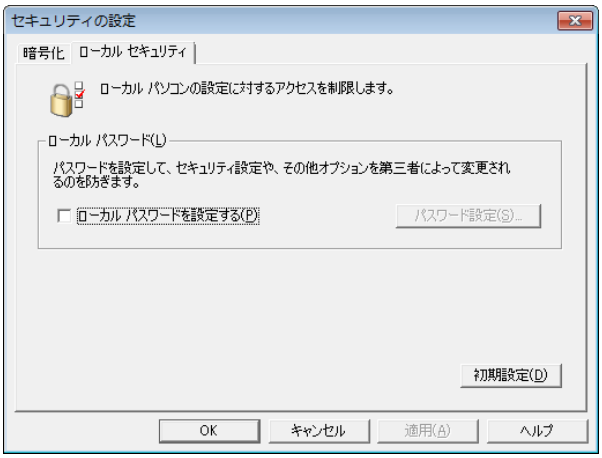
- 接続待ち
- セキュリティの設定
- 接続オプションなどのオプション設定（プリント リダイレクション オプションは除く）

操作

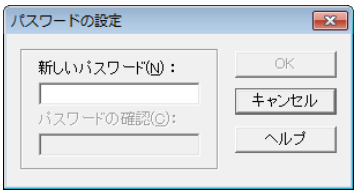
1

アイコンをクリックします。
または、［オプション］メニューの［セキュリティの設定］をクリックします。

2 ［セキュリティの設定］ダイアログが表示されます。［ローカル セキュリティ］タブをクリックします。



3 ［ローカル パスワードを設定する］にチェックすると、［パスワードの設定］ダイアログが表示されます。



［新しいパスワード］と［パスワードの確認］に設定するパスワードを入力し、［OK］をクリックします。

⚠ 注 意

パスワードは大文字と小文字が区別されます。

第 5 章

テキスト チャット機能

1 テキスト チャットを開始する
2 チャットの内容を保存する

1 テキスト チャットを開始する

ゲスト
ホスト

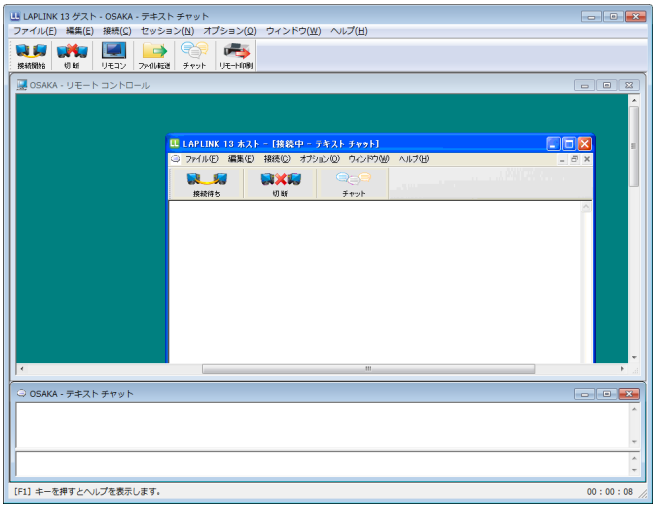
お互いにキーボードから文字を入力して画面上で会話する、テキスト チャットを開始します。
この機能はホスト パソコンからも実行できます。

操作

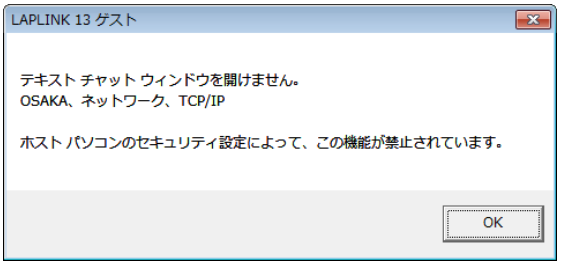
1

アイコンをクリックします。または［ウィンドウ］メニューから［テキスト チャットを開く］をクリックします。

2 ［テキスト チャット］ウィンドウが表示されます。

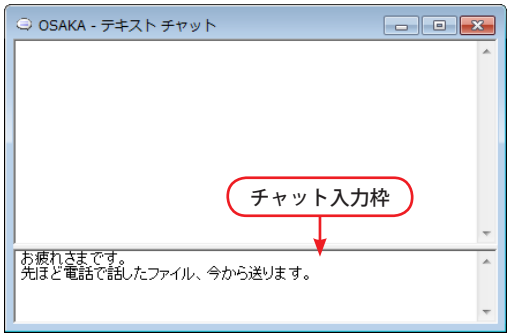


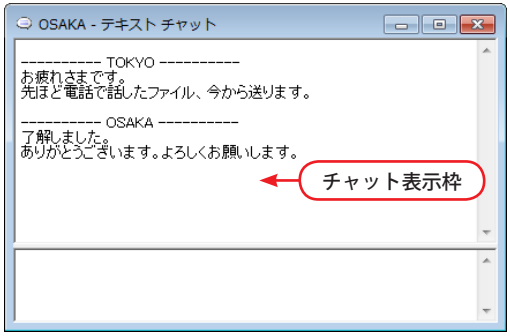
なお、ゲスト パソコンからテキスト チャットを開始しようとしたときに、次のメッセージが表示された場合は、ホスト パソコンのセキュリティでテキスト チャットを許可しないように設定されています。



詳しくは、「第 4 章 2 使用できる機能を限定する」を参照してください。

3 チャット入力枠に、相手に対する文字を入力します。[Enter] キーを押すと、お互いのチャット表示枠に入力した文章が表示されます。





チャット入力枠には、どちらから入力したのかわかるように、文章の直前にパソコン名が表示されています。

4 テキスト チャットを終了するときは、[テキスト チャット] ウィンドウの閉じるボタンをクリックします。

Memo

入力した文章を改行させる場 合 は、[Ctrl] + [Enter] キーを押します。

注 意

実行中の機能がテキストだけのときにウィンドウを閉じると、相手パソコンとの接続も終了します。

2 チャットの内容を保存する

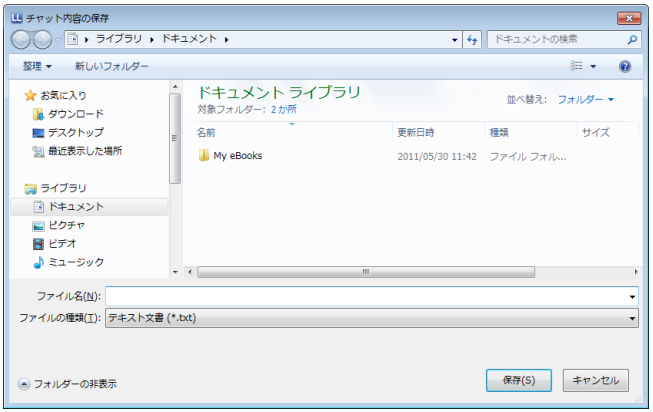
ゲスト
ホスト

チャットの内容をテキスト ファイルに保存することができます。

操作

1 ［編集］メニューの［チャット内容の保存］をクリックします。

2 ファイル名と保存先を指定し、［保存］ボタンをクリックします。



第 6 章

ファイル転送機能

1 ファイル転送の画面を開く
2 ファイルをコピーする
3 コピーの設定を変更する
4 ファイルの削除と設定
5 ファイル転送ウィンドウの表示を変更する

1 ファイル転送の画面を開く

ゲスト

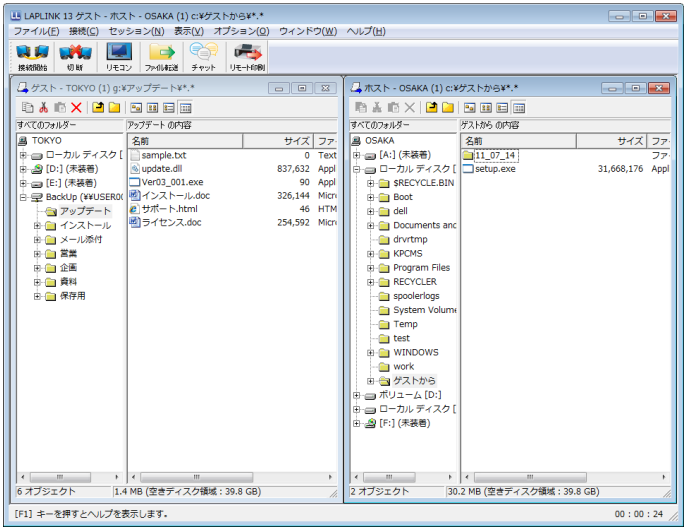
ホストパソコンにファイルを送ったり、ファイルの操作をしたりする機能、「ファイル転送」の画面を開きます。

操作

1

アイコンをクリックします。または、［ウィンドウ］メニューの［ファイル転送を開く］をクリックします。

2 ファイル転送ウィンドウが表示されます。左側にゲスト パソコン、右側にホスト パソコンのウィンドウが表示されます。



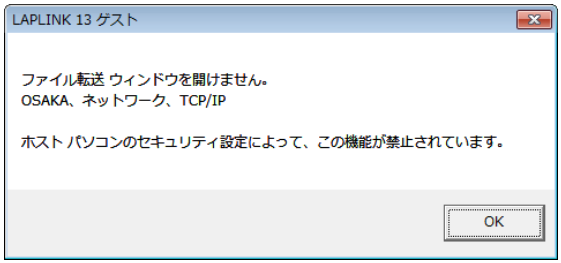
Memo

ホスト パソコンのセキュリティ設定によって、アクセス可能なドライブやフォルダーが制限されていることがあります。アクセスが制限されているドライブやフォルダーは、以下の操作ができません。

・コピー先にする
・コピー元にする
・削除する
・名前を変更する

詳しくは、「第 4 章 3 アクセスできるフォルダーやドライブを限定する」を参照してください。

なお、ファイル転送を開始しようとしたときに、次のメッセージが表示された場合は、ホスト パソコンのセキュリティでファイル転送を許可しないように設定されています。



詳しくは、「第 4 章 2 使用できる機能を限定する」を参照してください。

3 ファイル転送を終了する場合は、ファイル転送ウィンドウの閉じるボタンをクリックします。

⚠ 注 意

実行中の機能がファイル転送だけのときにウィンドウを閉じると、ホスト パソコンとの接続も終了します。

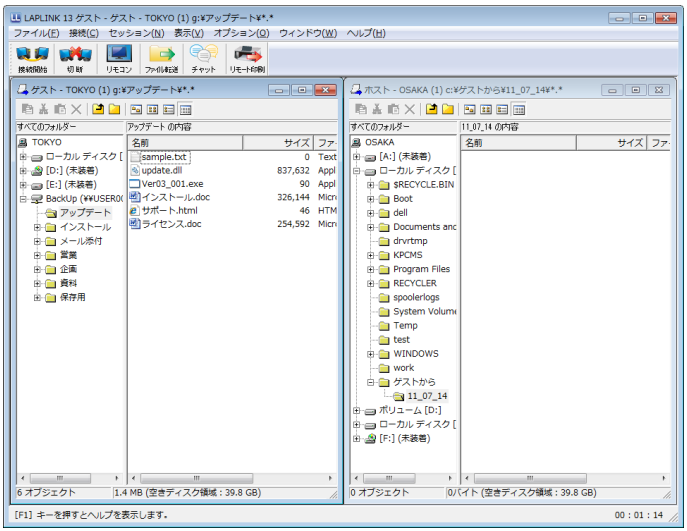
2 ファイルをコピーする

ゲスト

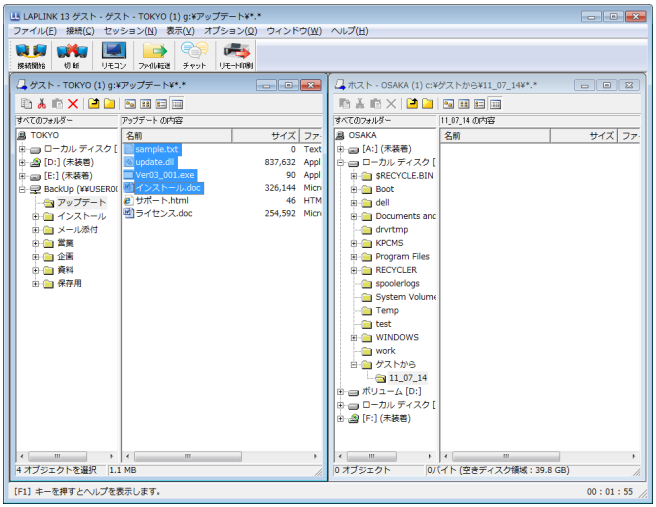
ファイルやフォルダーを、特定のフォルダーにコピーします。

操作

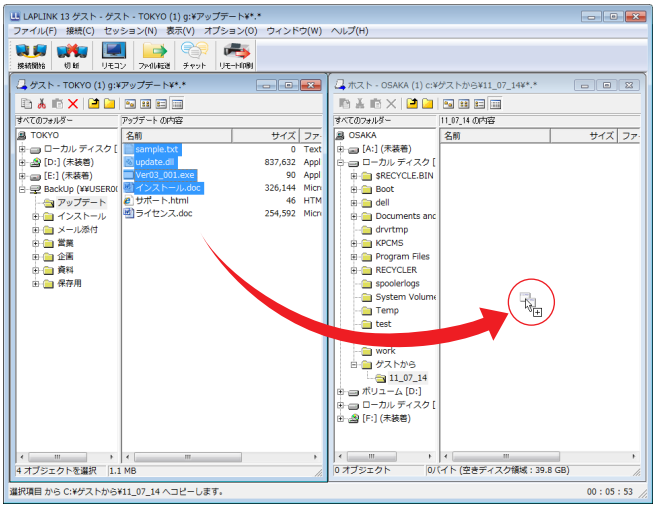
1 コピー元のファイル転送ウィンドウで、コピーするファイルのあるフォルダーを開きます。
また、コピー先のファイル転送ウィンドウで、ファイルを貼り付けるフォルダーを開きます。



2 コピー元のファイル転送ウィンドウで、コピーするファイルを選択します。



3 選択したファイルをコピー先にドラッグ＆ドロップすると、コピーが開始されます。



【コピーの実行方法】

◆マウスでドラッグ

①コピーするファイルを選択。

②選択したファイルをマウスでドラッグして、コピー先へ移動。

③ドラッグしたファイルを離す。

◆メニューから［コピー］と［貼り付け］

①コピーするファイルを選択。

②［ファイル］メニューから［コピー］をクリック。

③コピー先のファイル転送ウィンドウをアクティブにする。
④［ファイル］メニューから［貼り付け］をクリック。

◆ショートカットメニューから［コピー］と［貼り付け］

①コピーするファイルを選択。
②右クリックして表示されたメニューから［コピー］をクリック。
③コピー先のファイル転送ウィンドウをアクティブにする。
④右クリックして表示されたメニューから［貼り付け］をクリック。

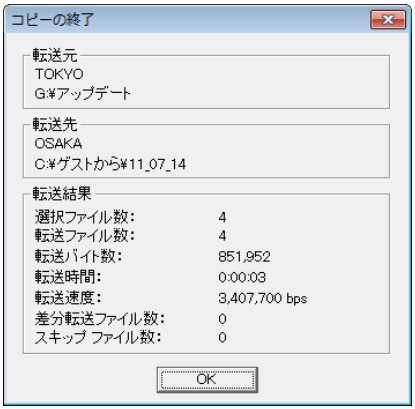
◆ と アイコンをクリック

①コピーするファイルを選択。
②コピー元のファイル転送ウィンドウの をクリック。
③コピー先のファイル転送ウィンドウをアクティブにする。
④コピー先のファイル転送ウィンドウの をクリック。

◆ショートカットキー

①コピーするファイルを選択。
②［F2］キーまたは［Ctrl］＋［C］キーを入力。
③コピー先のファイル転送ウィンドウをアクティブにする。
④［Ctrl］＋［V］キーを入力。

4 コピーが終了すると、転送結果を表す画面が表示されます。



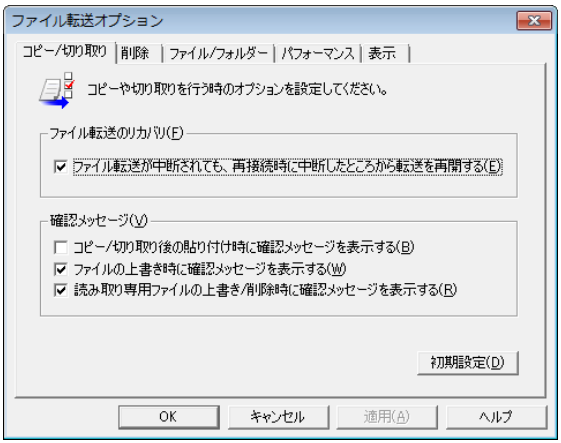
3 コピーの設定を変更する

ゲスト

［ファイル転送オプション］ダイアログで、コピーの設定を変更します。

操作

［オプション］メニューの［ファイル転送オプション］をクリックし、［ファイル転送オプション］ダイアログを表示します。

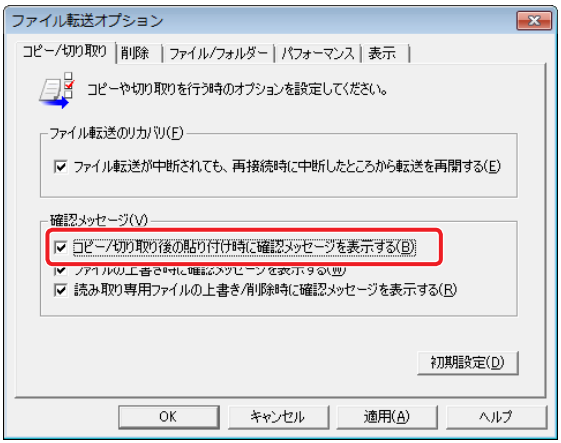


3.1 コピー直前に確認する

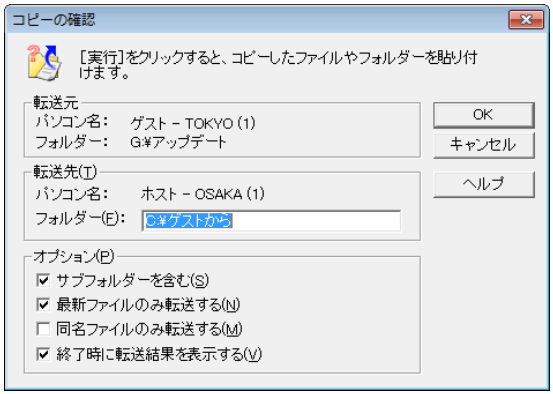
コピーする直前に、コピー元やコピー先のフォルダーを確認できるダイアログを表示します。

操作

［ファイル転送オプション］ダイアログの［コピー/切り取り］タブにある［コピー/切り取り後の貼り付け時に確認メッセージを表示する］にチェックを付けます。



この設定でコピーを実行すると、コピーの直前に［コピーの確認］ダイアログが表示されます。



● 転送元

コピー元のパソコン名とフォルダー名が表示されます。

● 転送先

コピー先のパソコン名とフォルダーが表示されます。

● オプション

コピー時のオプションを変更します。チェックすると有効となります。

・サブフォルダーを含む

コピー元にサブフォルダーがある場合に、そのフォルダーも含めてコピーします。

・最新ファイルのみ転送する

コピー先に同じ名前のファイルがある場合に、日付の新しい方を有効とします。コピー先の方が日付の新しい場合は、上書きコピーしません。

・同名ファイルのみ転送する

コピー先にあるファイルと同じ名前のファイルだけをコピーします。同じ名前以外のファイルは、コピーしません。

・終了時に転送結果を表示する

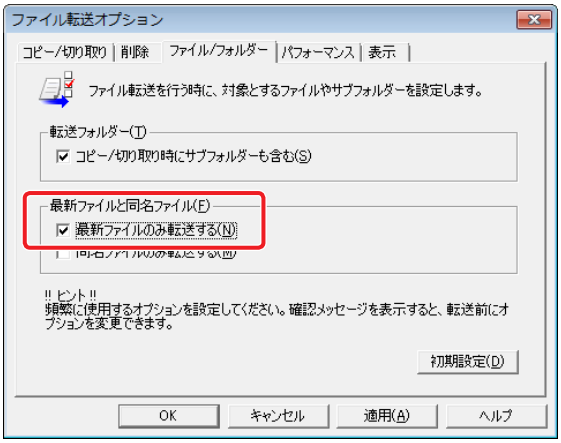
コピー終了時に、転送結果が確認できるダイアログが表示されます。

3.2　日付の新しいファイルのみコピー

コピー先の同じ名前のファイルの方が、日付が新しいまたは同じ日付の場合はコピーしません。コピー元の方が新しい場合は、上書きでコピーします。
初期設定ではこの機能は有効となっており、日付の古いファイルで新しいファイルを上書きしない設定となっています。

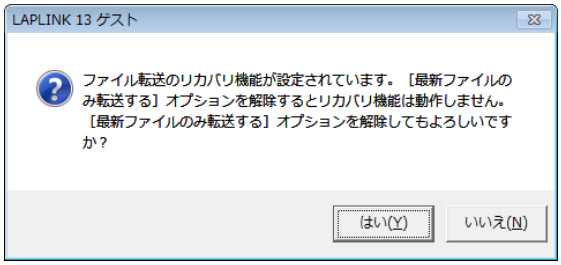
操作

［ファイル転送オプション］ダイアログの［ファイル/フォルダー］タブにある［最新ファイルのみ転送する］にチェックを付けます。



なお、［最新ファイルのみ転送する］のチェックをはずそうとすると、確認のメッセージが表示されます。

日付の新しいファイルを保護する場合は、［いいえ］ボタンをクリックします。



Memo

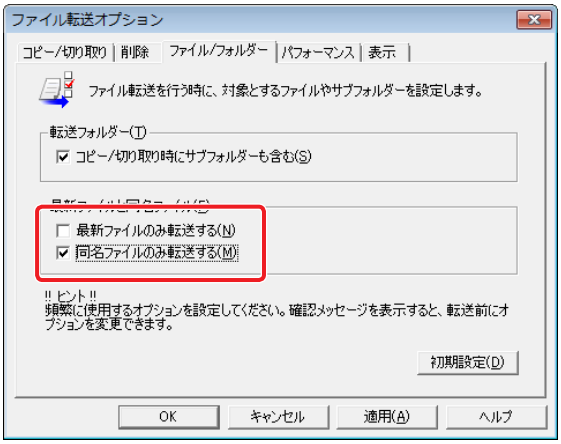
［コピー/切り取り］タブの［ファイル転送が中断されても、再接続時に中断したところから転送を再開する］にチェックが付いている場合に、確認メッセージが表示されます。

3.3 同じ名前のファイルだけをコピー

日付に関係なく、同じ名前のファイルだけを上書きでコピーします。

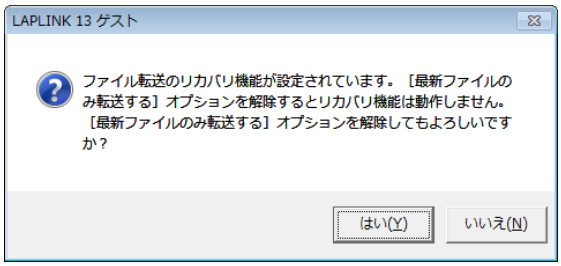
操作

［ファイル転送オプション］ダイアログの［ファイル/フォルダー］タブにある［同名ファイルのみ転送する］にチェックを付け、［最新ファイルのみ転送する］からチェックをはずします。



なお、［最新ファイルのみ転送する］のチェックをはずそうとすると、確認のメッセージが表示されます。

上書きコピーする場合は、［はい］ボタンをクリックします。



Memo

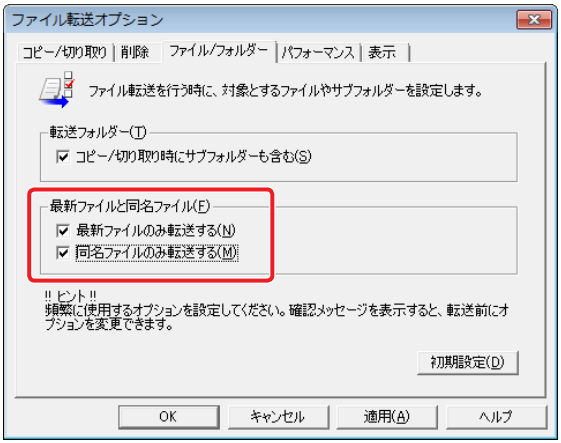
［コピー/切り取り］タブの［ファイル転送が中断されても、再接続時に中断したところから転送を再開する］にチェックが付いている場合に、確認メッセージが表示されます。

3.4 同じ名前で日付の新しいファイルをコピー

コピー先に同じ名前のファイルがある場合に、その日付を確認し、コピー元の方が新しければ上書きし、コピー元の方が古ければ、コピーをしません。

操作

［ファイル転送オプション］ダイアログの［ファイル/フォルダー］タブにある［最新ファイルのみ転送する］と［同名ファイルのみ転送する］にチェックを付けます。



4 ファイルの削除と設定

4.1　ファイルを削除する

ゲスト

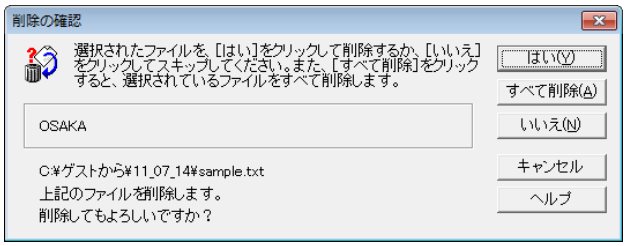
必要のないファイルを削除します。

操 作

1 ファイル転送ウィンドウで削除するファイルやフォルダーを選択します。

2 ［ファイル］メニューから［削除］をクリックします。

3 ［削除の確認］ダイアログが表示されます。
削除する場合は［はい］ボタンを、削除しない場合は［いいえ］ボタンをクリックします。
複数のファイルを選択した場合は、［すべて削除］ボタンをクリックすると、一度で削除することができます。



【削除の実行方法】

◆メニューから［削除］

①ファイルを選択。

②［ファイル］メニューから［削除］をクリック。

◆ショートカットメニューから［削除］

①ファイルを選択。

②右クリックして表示したメニューから［削除］をクリック。

◆ ✕ アイコンをクリック

①ファイルを選択。

②ファイル転送ウィンドウの ✕ アイコンをクリック。

◆ショートカットキー

①ファイルを選択。

②[Delete] キーまたは [Ctrl] + [D] キーを入力。

4.2　削除直前の確認ダイアログ ゲスト

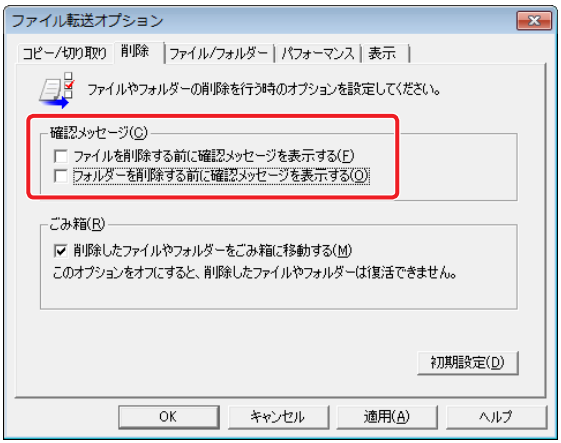
初期設定では、誤って削除しないよう実行直前に確認のダイアログを表示します。設定を変更することで、表示させないこともできます。

操作

1 [オプション] メニューの [ファイル転送オプション] をクリックします。

2 [ファイル転送オプション] ダイアログが表示されます。[削除] タブを選択します。

[確認メッセージ] の [ファイルを削除する前に確認メッセージを表示する] や [フォルダーを削除する前に確認メッセージを表示する] からチェックをはずすと、次回からは確認のダイアログが表示されなくなります。



5 ファイル転送ウィンドウの表示を変更する

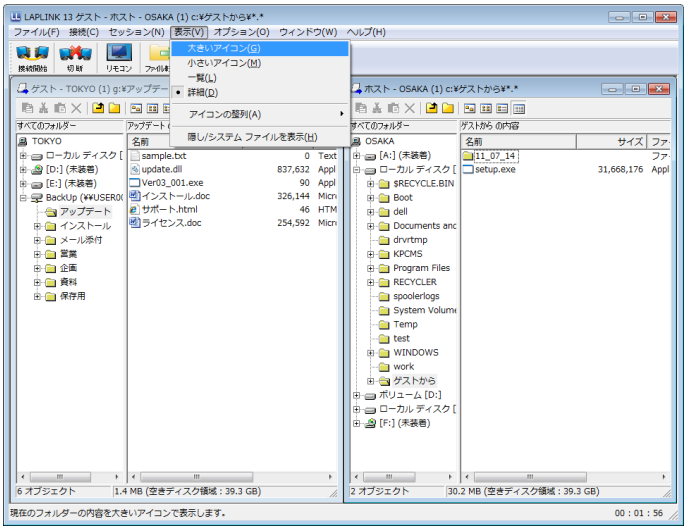
ファイル転送ウィンドウのリスト内の表示形式を変更します。

5.1 表示

ゲスト

操作

［表示］メニューから表示形式を選択します。



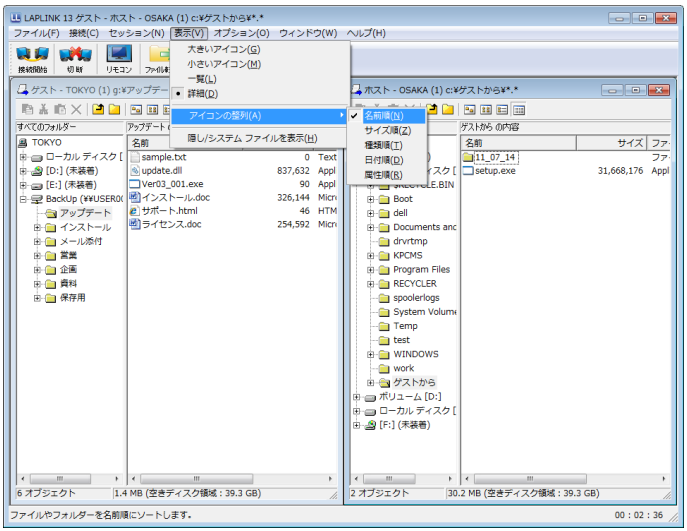
- 大きいアイコン
- 小さいアイコン
- 一覧
- 詳細

5.2 並び替え

ゲスト

操作

［表示］メニューの［アイコンの整列］から並び順を選択します。



- 名前順
- サイズ順
- 種類順
- 日付順
- 属性順

5.3 隠しファイルとシステム ファイル

ゲスト

隠しファイルやシステム ファイルを表示するかしないかを指定します。

操作

［表示］メニューの［隠し/システム ファイルを表示］をクリックし、チェックマークを付けます。チェックマークが付くと、リストに表示されます。

⚠ 注意

隠しファイルやシステム ファイルをファイル転送ウィンドウに表示する場合は、注意してファイルを操作してください。誤って削除してしまうと、パソコンが正常に動作しなくなる場合があります。

第 7 章

プリント リダイレクション機能

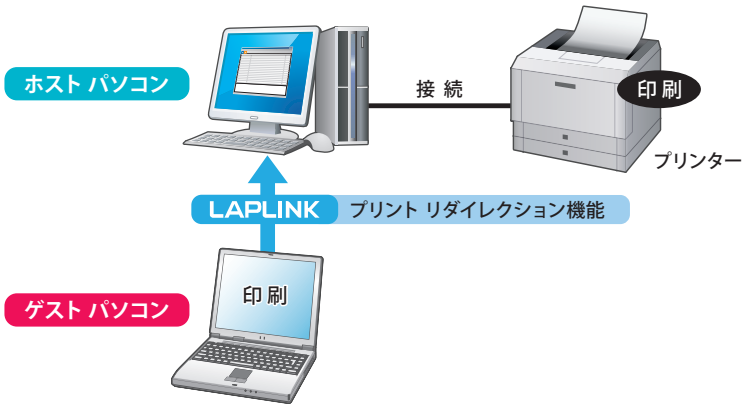
1 プリント リダイレクションについて
2 LAPLINK 用のプリンター ドライバーを登録する
3 プリント リダイレクション機能の開始と終了
4 ホスト パソコンのプリンターに印刷する
5 ゲスト パソコンのプリンターに印刷する
6 印刷できないときは

1 プリント リダイレクションについて

プリント リダイレクションは、ゲスト パソコンまたはホスト パソコンに接続されているプリンターを、有効に利用するプリントアウト機能です。

1.1 ゲスト パソコンのデータをホスト パソコンのプリンターに出力

ゲスト パソコンにあるファイルを、ホスト パソコンに接続されているプリンターで印刷することができます。
ファイル転送機能でファイルをホスト パソコンに転送し、その後リモート コントロール機能でアプリケーションを起動して、転送したファイルを読み込み印刷する、といった一連の操作を、ゲスト パソコンから印刷を実行するだけで実現することができます。



⚠ 注 意

プリント リダイレクション機能を使用するには、LAPLINK 13 ホストをインストール後、ホスト パソコンを再起動する必要があります。

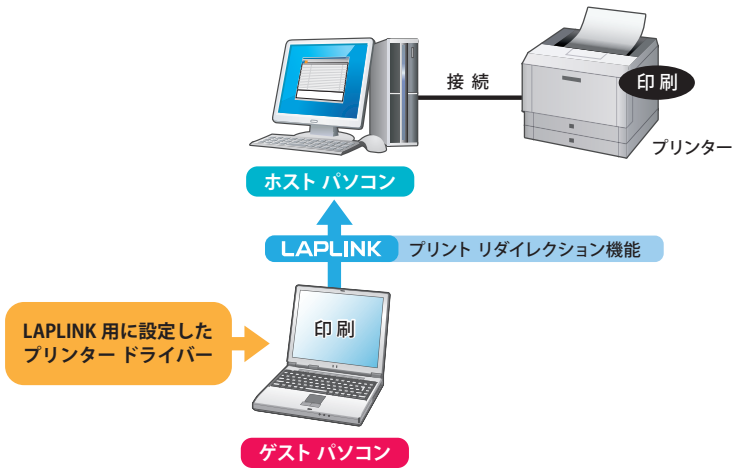
1.2 ホスト パソコンのデータをゲスト パソコンのプリンターに出力

ホスト パソコンにあるデータを、ゲスト パソコンのプリンターで印刷することができます。
ファイル転送機能でファイルをゲスト パソコンに転送し、その後アプリケーションを起動して転送したファイルを読み込んで、ゲスト パソコンのプリンターに印刷する、といった一連の動作を、ホスト パソコンから印刷を実行するだけで実現することができます。
また、ホスト パソコンのデータが独自の形式で、ファイルをゲスト パソコンに転送してもゲスト パソコンから印刷できない、といった場合でも、プリント リダイレクション機能を利用すればゲスト パソコンで印刷することができます。

2 LAPLINK 用のプリンター ドライバーを登録する

プリント リダイレクション機能では、プリンターが接続されていないパソコン（印刷を実行するパソコン）で、LAPLINK 専用のプリンター ドライバーが必要となります。なお、このドライバーは、通常の印刷時には使用できません。

【プリントアウト例 1】



【プリントアウト例 2】

LAPLINK 専用のプリンター ドライバーは、LAPLINK、または Windows のコントロール パネルからインストールできます。

Memo

ゲスト パソコン、ホスト パソコンに関わらず、プリンターが接続されていないパソコンには、LAPLINK 用のプリンター ドライバーをインストールする必要があります。

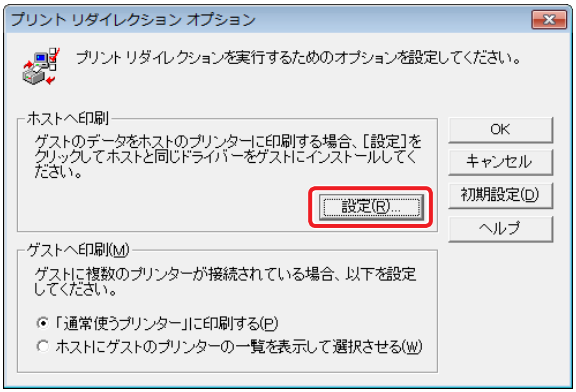
2.1 LAPLINK から登録する

ゲスト
ホスト

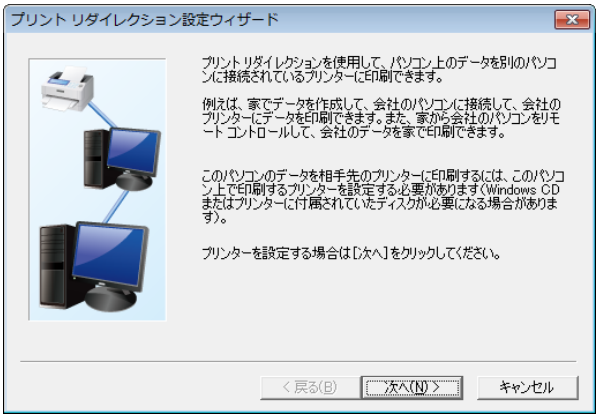
操作

1 プリンターが接続されていない LAPLINK で、［オプション］メニューの［プリント リダイレクション オプション］をクリックします。

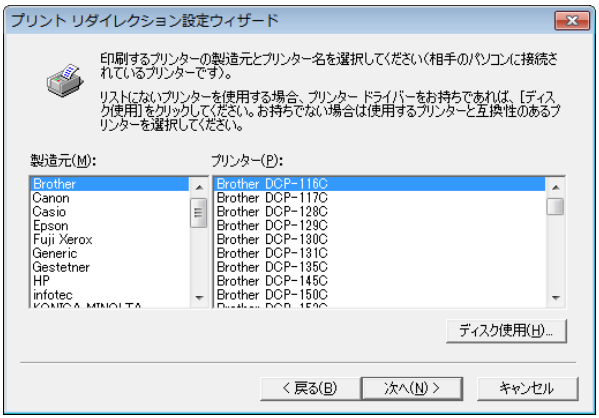
2 ［プリント リダイレクション オプション］ダイアログが表示されます。［ホストへ印刷］または［ゲストへ印刷］の［設定］ボタンをクリックします。



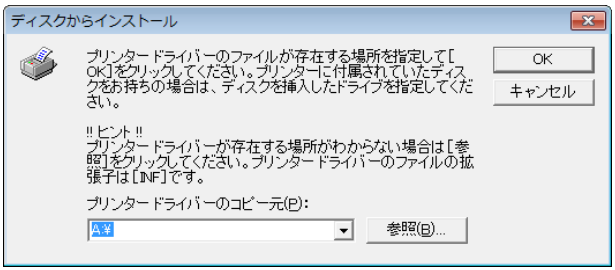
3 ［プリント リダイレクション設定ウィザード］ダイアログが表示されます。内容を確認して［次へ］ボタンをクリックします。



4 インストールするプリンターの機種名を選択するリストが表示されます。印刷するプリンター機種を選択します。



インストールするプリンターがリストに表示されない場合は、[ディスク使用] ボタンをクリックしてプリンター ドライバーが存在する場所を指定します。

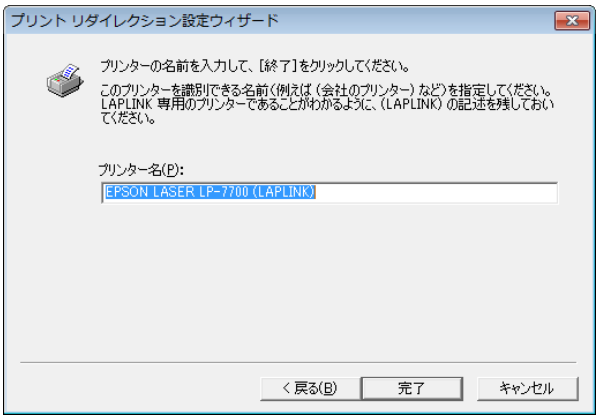


[次へ] ボタンをクリックします。

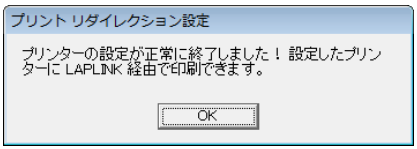
⚠ 注 意

インストールするプリンター ドライバーによって、若干表示される画面が異なります。詳しくは、各プリンター ドライバーやプリンターの取扱説明書を参照してください。

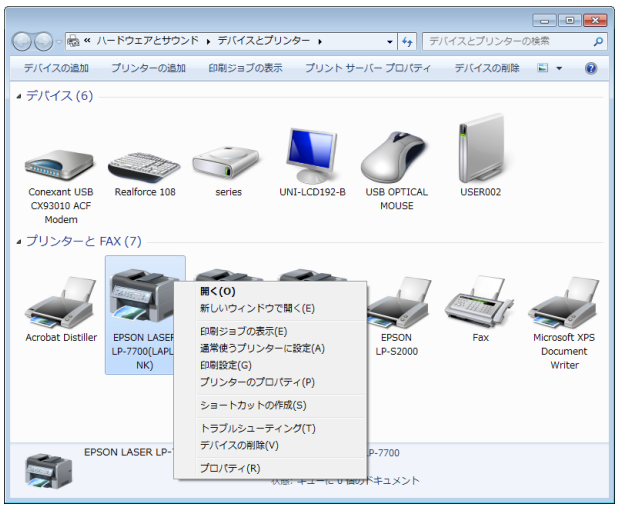
5 LAPLINK 専用のプリンターとわかるように、プリンター ドライバーに名前を付けます。
［完了］ボタンをクリックすると、インストールが開始されます。



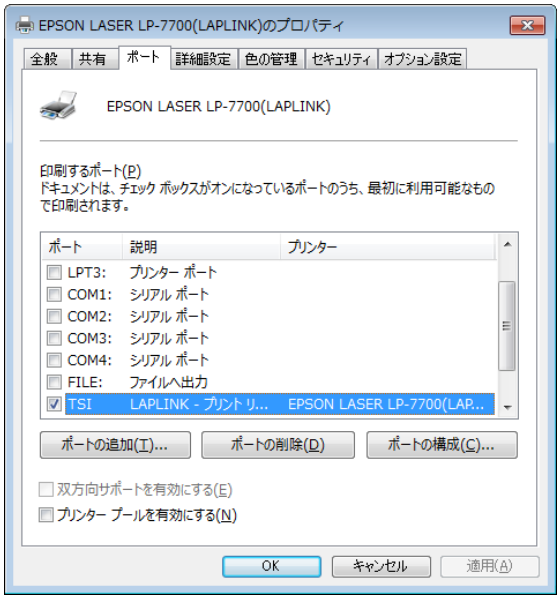
6 インストールが終了すると、確認のメッセージが表示されますので、［OK］ボタンをクリックします。



7 インストールしたプリンター ドライバーの詳細を確認したい場合は、Windows の［スタート］メニューから［デバイスとプリンター］をクリックします。表示されたウィンドウで、インストールしたプリンター ドライバーを右クリックすると、ショートカット メニューが表示されます。



ショートカット メニューから［プリンターのプロパティ］をクリックすると、プリンター ドライバーのプロパティが表示されます。［ポート］タブの［TSI プリント リダイレクション］にチェックがついているか確認します。



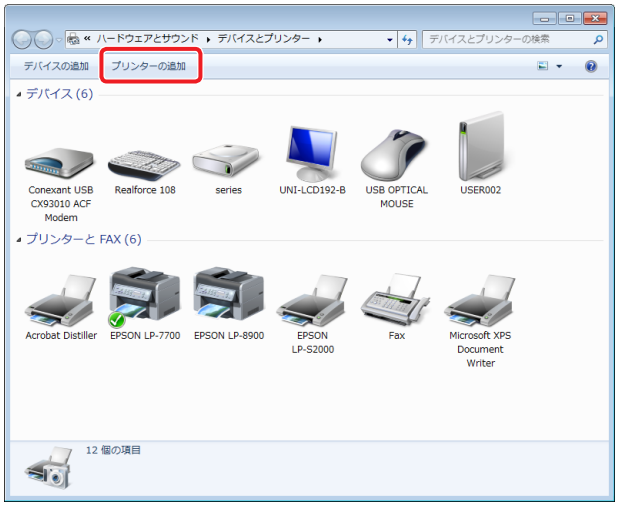
表示されるプロパティは、インストールしたプリンター ドライバーによって異なりますので、詳しくは各プリンター ドライバーやプリンターの取扱説明書を参照してください。

2.2 コントロール パネルから登録する

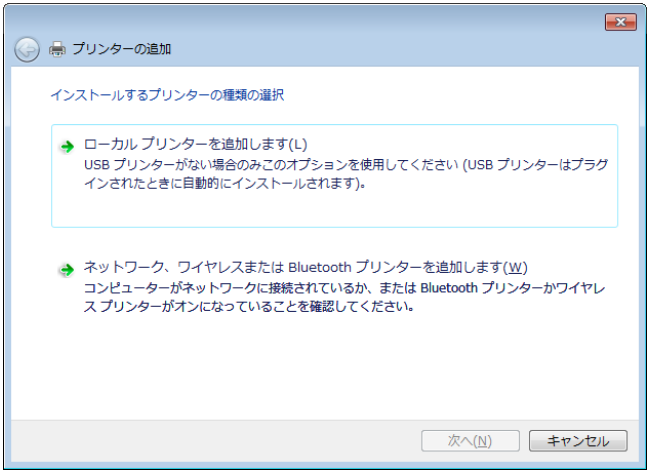
ゲスト
ホスト

操作

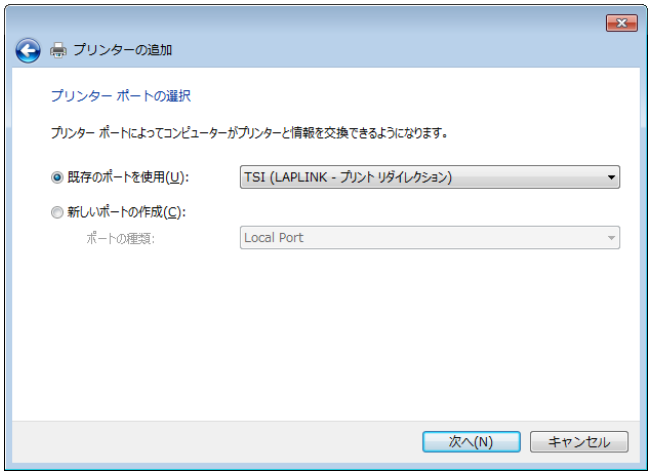
1 Windows の［スタート］メニューから［デバイスとプリンター］をクリックします。
［プリンターの追加］ボタンをクリックします。



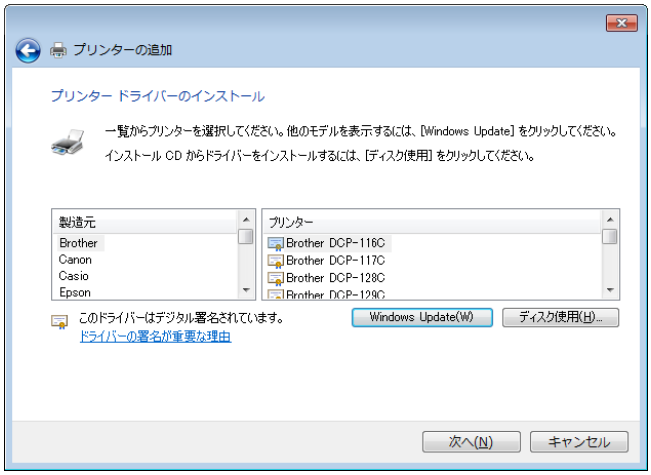
2 ［インストールするプリンターの種類の選択］画面で、［ローカルプリンターを追加します］をクリックします。



3 [プリンター ポートの選択] 画面で、[既存のポートを使用] から TSI (LAPLINK – プリント リダイレクション) を選択し、[次へ] ボタンをクリックします。

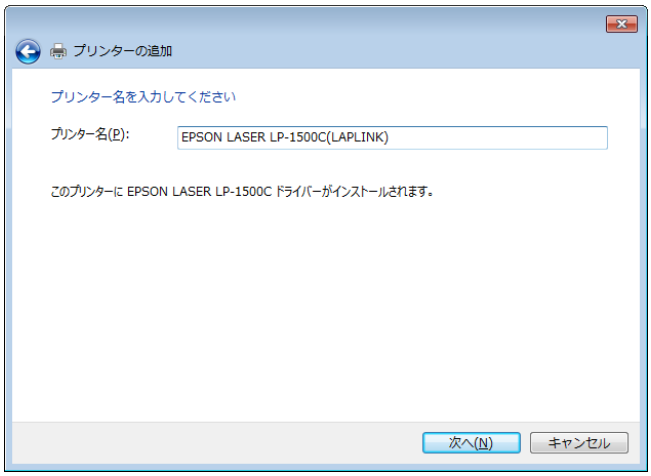


4 [プリンター ドライバーのインストール] 画面で、印刷するプリンターの機種を選択します。
リストに使用しているプリンターが表示されない場合は、[ディスク使用] ボタンをクリックして、プリンター ドライバーのあるドライブやフォルダーを指定します。



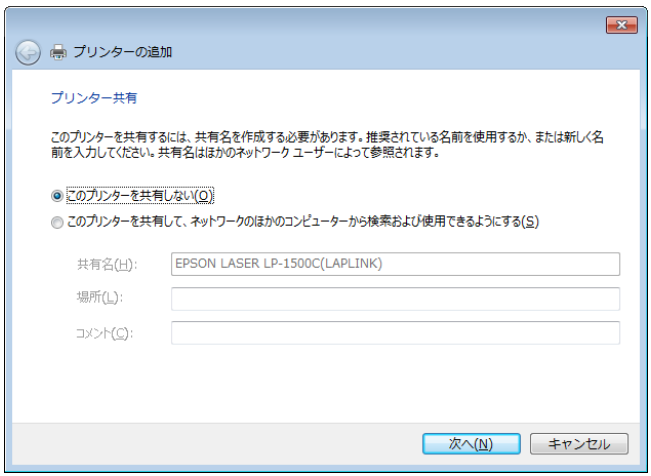
[次へ] ボタンをクリックします。

5 [プリンター名を入力してください] 画面で、LAPLINK 専用のプリンター ドライバーということがわかるように、プリンターに名前を付けます。
例えば、末尾に「(LAPLINK)」のように入力します。



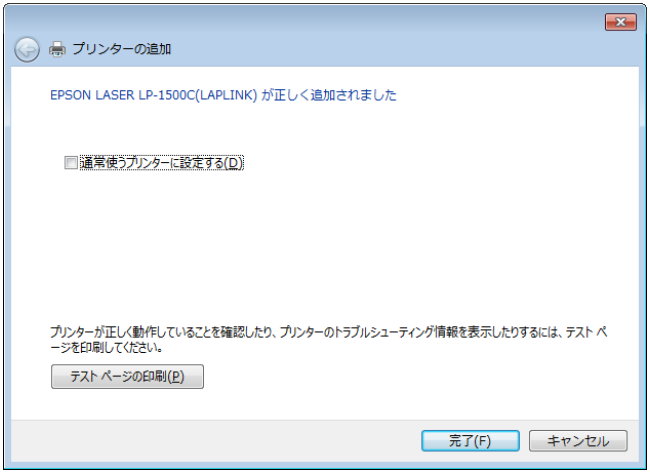
[次へ] ボタンをクリックすると、プリンター ドライバーのインストールが開始されます。なお、インストール中に Windows のマスター CD-ROM や、プリンター ドライバーのファイルを要求する場合があります。

6 インストールが完了すると、プリンターの共有について設定します。
プリンターを他のユーザーと共有するか、指定します。通常は、[このプリンターを共有しない] を選択しておきます。



[次へ] ボタンをクリックします。

7 テストページの印刷をするかどうかを設定します。
［完了］ボタンをクリックすると、プリンター ドライバーの登録は終了です。



各プリンター ドライバーの詳細については、それぞれのプリンターの取扱説明書を参照してください。

3 プリント リダイレクション機能の開始と終了

3.1 プリント リダイレクションを開始する ゲスト

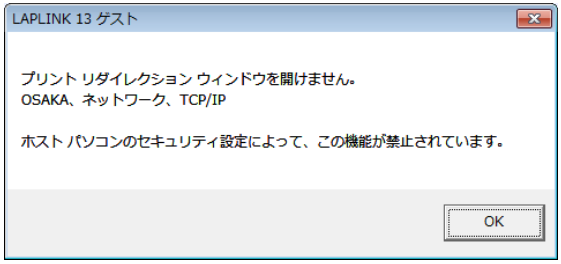
印刷を開始する前に、あらかじめゲスト パソコンでプリント リダイレクションの機能を開始しておく必要があります。

操作

ゲスト パソコンの LAPLINK で

アイコンをクリックします。または、［ウィンドウ］メニューの［プリント リダイレクションを開く］をクリックします。
プリント リダイレクションが開始されると、ゲスト パソコンとホスト パソコン両方のステータス ラインに アイコンが表示されます。

なお、次のメッセージが表示された場合は、ホスト パソコンのセキュリティでプリント リダイレクションを許可しないように設定されています。



詳しくは、「第 4 章 2 使用できる機能を限定する」を参照してください。

3.2 プリント リダイレクションを終了する

ゲスト
ホスト

プリント リダイレクション機能を終了する場合は、ゲスト パソコンまたはホスト パソコンで以下の操作をします。

操作

1 ステータス ラインの アイコンを右クリックし、表示されたメニューの［閉じる］から、接続先のパソコン名をクリックします。

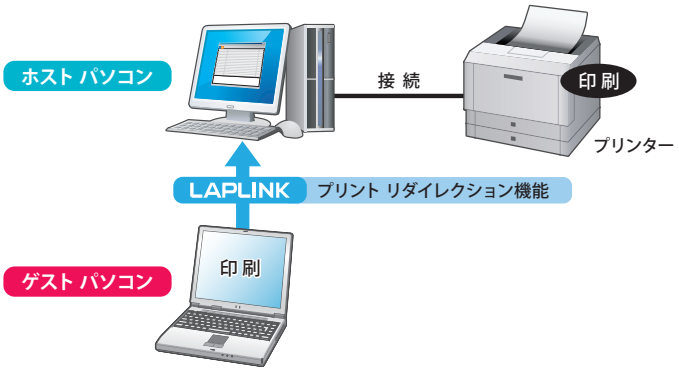
2 確認ダイアログで［はい］をクリックすると、ステータス ラインからアイコンの表示が消え、機能が終了します。

⚠ 注 意

実行中の機能がプリント リダイレクションだけのときに機能を終了すると、相手パソコンとの接続も終了します。

4 ホスト パソコンのプリンターに印刷する

ホスト パソコンに接続されているプリンターに対して、ゲスト パソコンから印刷を実行してプリント アウトします。



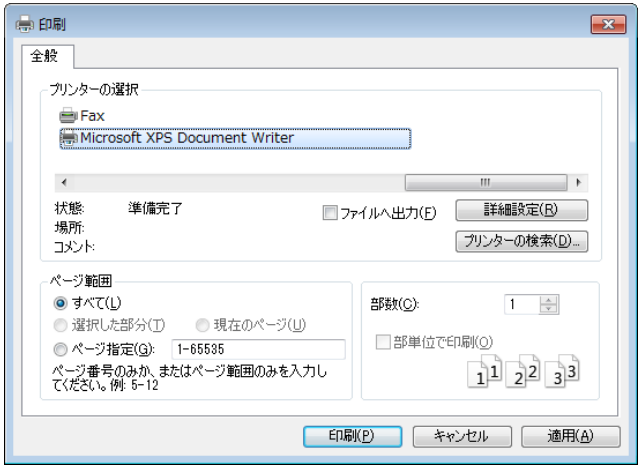
4.1 ホスト パソコンの「通常使うプリンター」に印刷する ゲスト

ゲスト パソコンに登録した LAPLINK 用のプリンター ドライバーと、プリンターが接続されている側であるホスト パソコンの「通常使うプリンター」の機種が同じ場合は、以下の手順で印刷します。

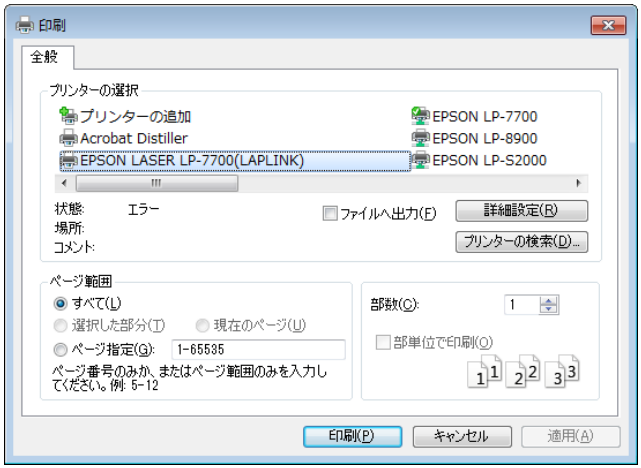
操 作

1 ゲスト パソコンで、プリント リダイレクション機能を開始します。

2 ゲスト パソコンで印刷を実行します。
例えば、Windows のワードパッドで印刷を実行すると、［印刷］ダイアログが表示されます。



3 プリンターの選択リストから、LAPLINK 用に登録したプリンター ドライバーを選択し、［印刷］ボタンをクリックします。
登録していない場合は、「2 LAPLINK 用のプリンター ドライバーを登録する」を参照して、登録する必要があります。



4 ゲスト パソコンの印刷データが、ホスト パソコンに接続されているプリンターに出力されます。

⚠ 注 意

印刷時にゲスト パソコンで選択する LAPLINK 用プリンタードライバーと、ホスト パソコンの「通常使うプリンター」の機種が同じである必要があります。選択したプリンタードライバーとホスト パソコンの「通常使うプリンター」の機種が異なる場合は、「4.2 ホスト パソコンのプリンターを指定して印刷する」を参照してください。

4.2 ホスト パソコンのプリンターを指定して印刷する

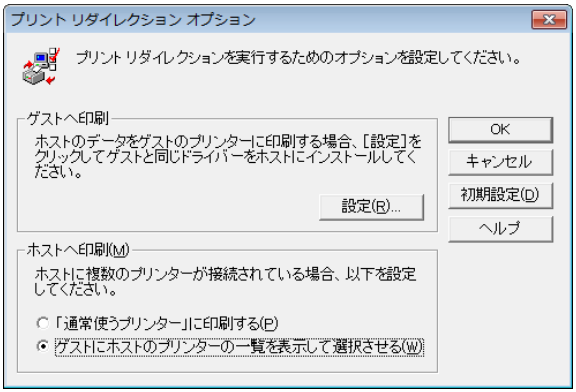
ゲスト
ホスト

ゲスト パソコンに登録した LAPLINK 用のプリンタードライバーと、ホスト パソコンの「通常使うプリンター」の機種が異なる場合、印刷するプリンターをゲスト パソコンが指定して印刷します。
それには、あらかじめホスト パソコンでプリンターの一覧を表示するための設定をする必要があります。

操作

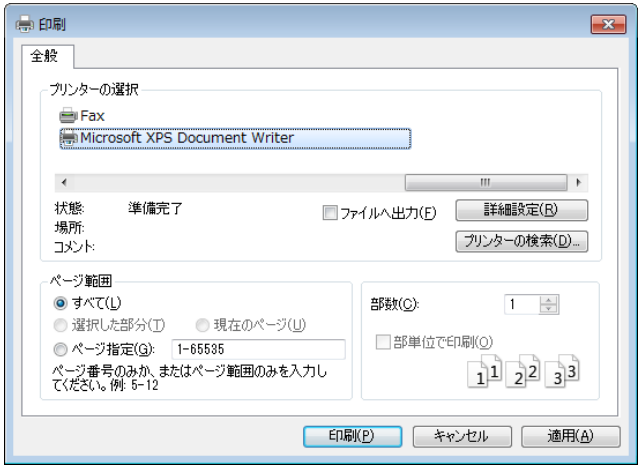
1 ホスト パソコンの LAPLINK で［オプション］メニューから［プリント リダイレクション オプション］をクリックします。

2 ［プリント リダイレクション オプション］ダイアログが表示されます。
［ホストへ印刷］で［ゲストにホストのプリンターの一覧を表示して選択させる］を選択し、［OK］ボタンをクリックします。

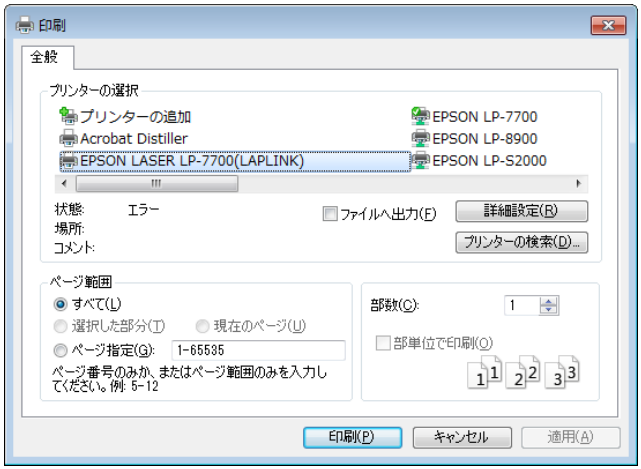


3 ゲスト パソコンの LAPLINK でプリント リダイレクション機能を開始します。

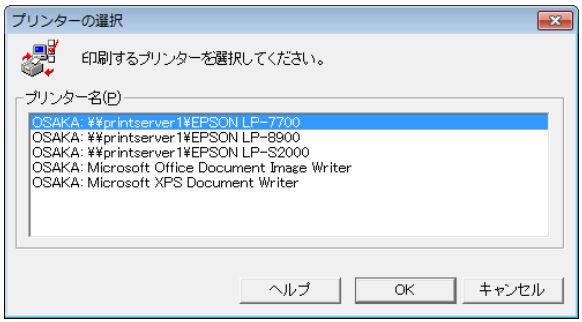
4 ゲスト パソコンで印刷を実行します。
例えば、Windows のワードパッドで印刷を実行すると、［印刷］ダイアログが表示されます。



5 プリンターの選択リストから、LAPLINK 用に登録したプリンター ドライバーを選択し、［印刷］ボタンをクリックします。



6 ホスト パソコンにインストールされているプリンターの一覧が、ゲスト パソコンに表示されます。
操作 5 で選択したプリンター ドライバーと同じ機種のプリンターを選択し、［OK］をクリックします。



7 ゲスト パソコンの印刷データが、ホスト パソコンに接続されているプリンターに出力されます。

⚠ 注 意

［プリンターの選択］ダイアログで、［キャンセル］をクリックすると、ゲスト パソコンの LAPLINK 用プリンター ドライバーに印刷ジョブがエラーとして残ってしまうため、ゲスト パソコンでエラーの印刷ジョブをキャンセルする必要があります。

5 ゲスト パソコンのプリンターに印刷する

ゲスト パソコンに接続されているプリンターに対して、ホスト パソコンから印刷を実行してプリント アウトします。

5.1 ゲスト パソコンの「通常使うプリンター」に印刷する

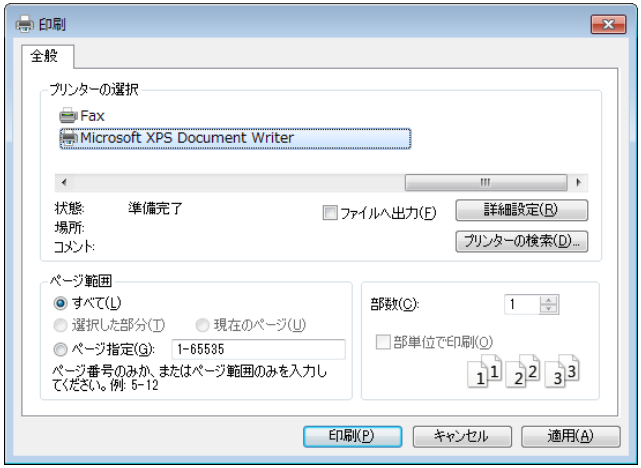
ゲスト
ホスト

ホスト パソコンに登録した LAPLINK 用のプリンター ドライバーと、プリンターが接続されている側であるゲスト パソコンの「通常使うプリンター」の機種が同じ場合は、以下の手順で印刷します。

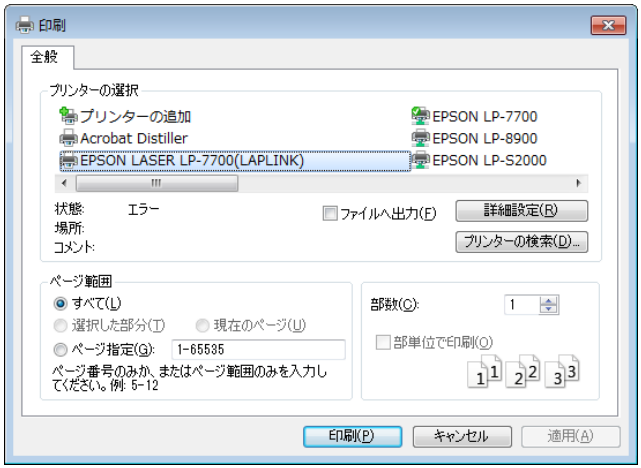
操作

1 ゲスト パソコンで、プリント リダイレクション機能を開始します。

2 ホスト パソコンで、印刷を実行します。
例えば、Windows のワードパッドで印刷を実行すると、［印刷］ダイアログが表示されます。



3 プリンターの選択リストから、LAPLINK 用に登録したプリンター ドライバーを選択し、［印刷］ボタンをクリックします。
登録していない場合は、「2 LAPLINK 用のプリンター ドライバーを登録する」を参照して、登録する必要があります。



4 ホスト パソコンの印刷データが、ゲスト パソコンに接続されているプリンターに出力されます。

⚠ 注 意

印刷時にホスト パソコンで選択する LAPLINK 用プリンタードライバーと、ゲスト パソコンの「通常使うプリンター」の機種が同じである必要があります。選択したプリンタードライバーとゲスト パソコンの「通常使うプリンター」が異なる場合は、「5.2 ゲスト パソコンのプリンターを指定して印刷する」を参照してください。

5.2 ゲスト パソコンのプリンターを指定して印刷する

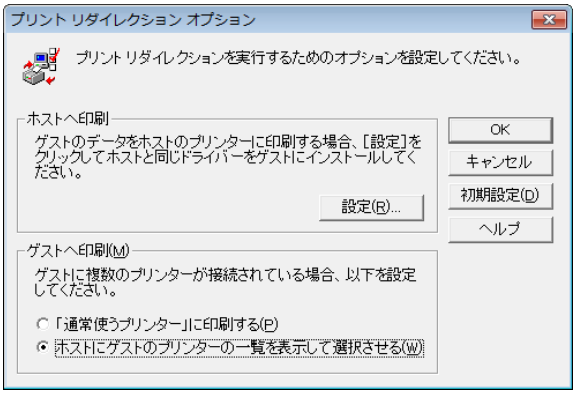
ゲスト
ホスト

ホスト パソコンに登録した LAPLINK 用のプリンタードライバーと、ゲスト パソコンの「通常使うプリンター」の機種が異なる場合、印刷するプリンターをホスト パソコンが指定して印刷します。
それには、あらかじめゲスト パソコンで設定を変更する必要があります。

操作

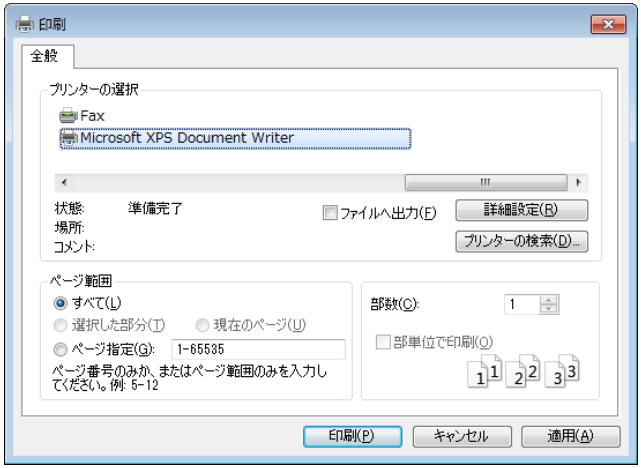
1 ゲスト パソコンの LAPLINK で［オプション］メニューから［プリント リダイレクション オプション］をクリックします。

2 ［プリント リダイレクション オプション］ダイアログが表示されます。
［ゲストへ印刷］で［ホストにゲストのプリンターの一覧を表示して選択させる］を選択し、［OK］ボタンをクリックします。

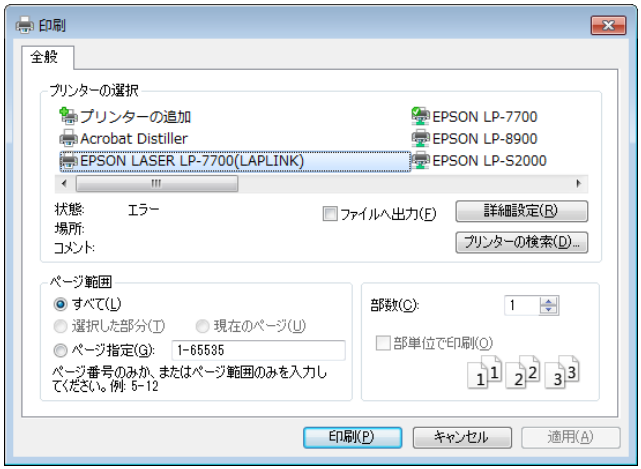


3 ゲスト パソコンでプリント リダイレクション機能を開始します。

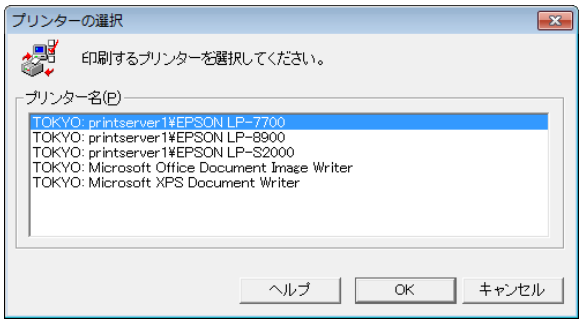
4 ホスト パソコンで印刷を実行します。
例えば、Windows のワードパッドで印刷を実行すると、［印刷］ダイアログが表示されます。



5 プリンターの選択リストから、LAPLINK 用に登録したプリンター ドライバーを選択し、［印刷］ボタンをクリックします。



6 ゲスト パソコンにインストールされているプリンターの一覧が、ホスト パソコンに表示されます。
操作 5 で選択したプリンター ドライバーと同じ機種のプリンターを選択し、［OK］をクリックします。



7 ホスト パソコンの印刷データが、ゲスト パソコンに接続されているプリンターに出力されます。

⚠ 注 意

［プリンターの選択］ダイアログで、［キャンセル］をクリックすると、ホスト パソコンの LAPLINK 用プリンター ドライバーで印刷ジョブがエラーとして残ってしまうため、ホスト パソコンでエラーの印刷ジョブをキャンセルする必要があります。

6 印刷できないときは

プリント リダイレクションで、正常にプリントアウトできない場合の対処方法について、いくつか説明します。

◆ ホスト パソコンの再起動

「LAPLINK 13 ホスト」をインストール後、プリント リダイレクション機能を使用する前に、ホスト パソコンの再起動が必要です。

◆ 環境の確認

次のような現象は、プリンターそのものやプリンタードライバーの問題です。

■ プリンターが動作しない

■ 文字が化けて印刷される

■ 紙が真っ黒になる

このような場合は、以下について、確認してください。

- プリンターの電源やケーブルなどを確認してください。
- 使用しているプリンターのプリンター ドライバーが、各 Windows に対応していて、正常にインストールされているか確認してください。
- 通常通り印刷ができるか確認してください。
- 独自のスプール プログラムを使用する一部のプリンターには対応していません。
- 指定したポートが存在するかを確認しようとする一部のプリンターには対応していません。

詳しくは、パソコンやプリンターの取扱説明書を参照してください。

◆ LAPLINK の設定の確認

LAPLINK が正しく設定できているか、確認してください。

- プリント リダイレクションは、ホスト パソコンと接続しないと開始できません。
  接続の方法は、「第 2 章 他のパソコンと接続する」を参照してください。
- プリント リダイレクションの機能を開始している必要があります。機能の開始方法は、「3 プリント リダイレクション機能の開始と終了」を参照してください。

- プリンターが接続されていないパソコンに、LAPLINK 用のプリンター ドライバーを登録する必要があります。登録方法は、「2 LAPLINK 用のプリンター ドライバーを登録する」を参照してください。
- 印刷を実行するときに選択する LAPLINK 用のプリンター ドライバーと、プリンターが接続されている側の「通常使うプリンター」の機種が異なる場合は、あらかじめ設定を変更する必要があります。
  詳しくは、「4.2 ホスト パソコンのプリンターを指定して印刷する」「5.2 ゲスト パソコンのプリンターを指定して印刷する」を参照してください。

第 8 章

その他の機能

1 ゲスト パソコンのセキュリティ設定
2 通信ログを記録する

1 ゲスト パソコンのセキュリティ設定

ホスト パソコンとの通信中の情報を暗号化したり、ゲスト パソコン自身の設定を他人に変更されないようにパスワードを設定したりすることができます。

操作

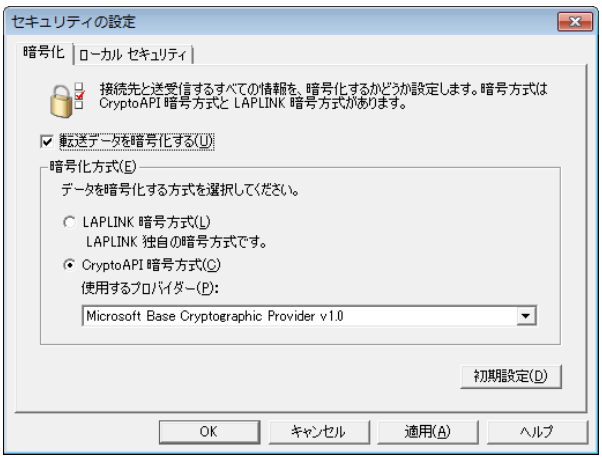
［オプション］メニューから［セキュリティの設定］を選択します。
［セキュリティの設定］ダイアログが表示されます。

1.1 情報の暗号化

ゲスト

操作

［セキュリティの設定］ダイアログの［暗号化］タブをクリックします。
［転送データを暗号化する］にチェックをして、暗号方式を選択します。



● LAPLINK 暗号方式

LAPLINK 独自の暗号方式で暗号化します。

● CryptoAPI 暗号方式

Microsoft 社が推奨する CryptoAPI 方式による暗号化を行います。リストには、現在使用可能なプロバイダーが、暗号化レベルの低い順番に表示されます。

1.2 ローカル セキュリティ

ゲスト

LAPLINK の設定を変更されないよう、パスワードを設定します。次の操作をしようとしたときに、パスワードの入力が必要になります。

- インターネット接続などの接続開始
- セキュリティの設定
- リモート コントロール オプションなどのオプション設定（プリント リダイレクション オプションを除く）

設定方法は、「第 4 章 5 ローカル セキュリティ」を参照してください。

2 通信ログを記録する

ゲスト
ホスト

いつ、誰と、どのような操作をしたのか、通信記録をファイル（*.Log）に残します。ファイルは、「LAPyyyymmdd.LOG（yyyymmdd は年と月と日付）」という名前で作成されます。例えば、2011 年 11 月 4 日に作成された場合は、「LAP20111104.LOG」という名前になります。
以下のフォルダに保存されます。

Windows Server 2008 R2、Windows 7、Windows Server 2008

ゲスト パソコン ：¥ProgramData¥InterCom¥LAPLINK 13¥Guest
ホスト パソコン ：¥ProgramData¥InterCom¥LAPLINK 13¥Host

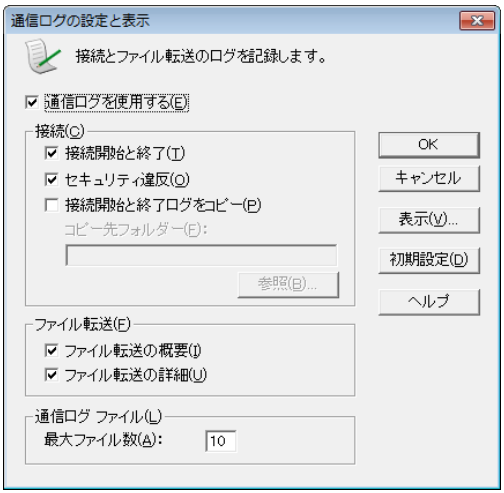
Windows Server 2003 R2、Windows Server 2003、Windows XP

ゲスト パソコン ：¥Documents and Settings¥All Users¥Application Data¥Intercom¥LAPLINK 13¥Guest
ホスト パソコン ：¥Documents and Settings¥All Users¥Application Data¥Intercom¥LAPLINK 13¥Host

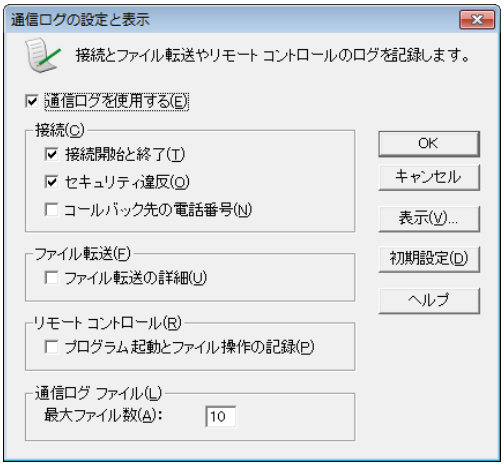
操作

1 ［オプション］メニューから［通信ログの設定と表示］をクリックします。

2 ［通信ログの設定と表示］ダイアログが表示されます。［通信ログを使用する］にチェックを付けると、通信ログが記録されます。



- ゲスト -



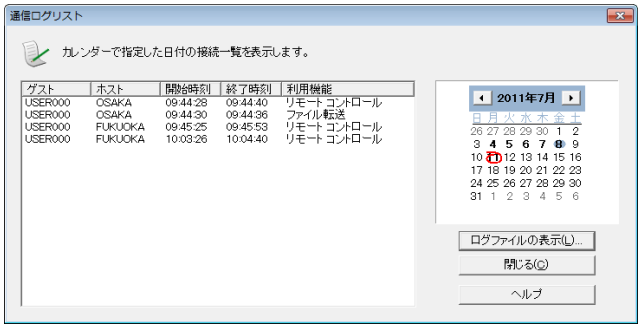
- ホスト -

3 記録された通信ログを表示する場合は、［表示］ボタンをクリックします。

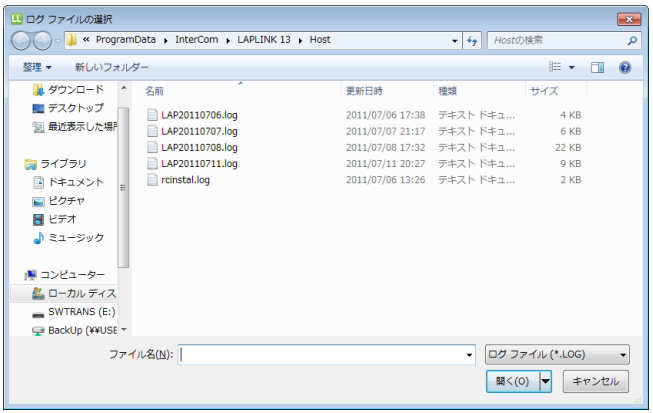
Memo

通信ログの詳しい設定については、「第 9 章 6.9 通信ログの設定と表示」、「第 10 章 4.7 通信ログの設定と表示」を参照してください。

4 表示したいログファイルを選択し、[ログファイルの表示] または [開く] をクリックします。

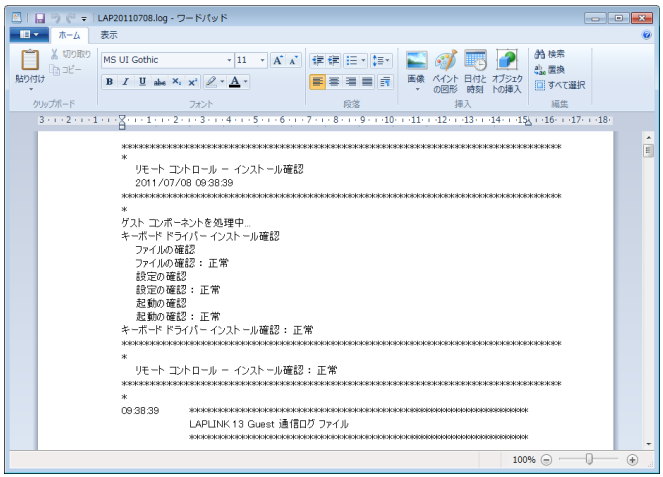


- ゲスト -



- ホスト -

5 Windows のワードパッドにログ ファイルが表示されます。



第 9 章

ゲストのメニュー コマンド

1 ファイル メニュー
2 編集メニュー
3 接続メニュー
4 セッション メニュー
5 表示メニュー
6 オプション メニュー
7 ウィンドウ メニュー
8 ヘルプ メニュー

1 ファイル メニュー

［ファイル］メニューは、ファイル転送ウィンドウを表示している場合のみ、すべてのコマンドが表示され、それ以外のウィンドウを表示している場合や、ウィンドウを何も表示していない場合［終了］のみ表示されます。

ファイル転送ウィンドウ

1.1 コピー

/ Ctrl + C / F2

選択されているファイルやフォルダーをコピーします。コピーしたファイルやフォルダーは、任意のフォルダーを選択後、［ファイル］メニューの［貼り付け］で貼り付けます。

Memo

［コピー］の操作方法については、「第 6 章 2 ファイルをコピーする」を参照してください。

ファイル転送ウィンドウ

1.2 切り取り

/ Ctrl + X / F4

選択されているファイルやフォルダーを切り取ります。切り取ったファイルやフォルダーは、任意のフォルダーを選択後、［ファイル］メニューの［貼り付け］で貼り付けます。

Memo

［切り取り］は、転送元から削除されます。

ファイル転送ウィンドウ

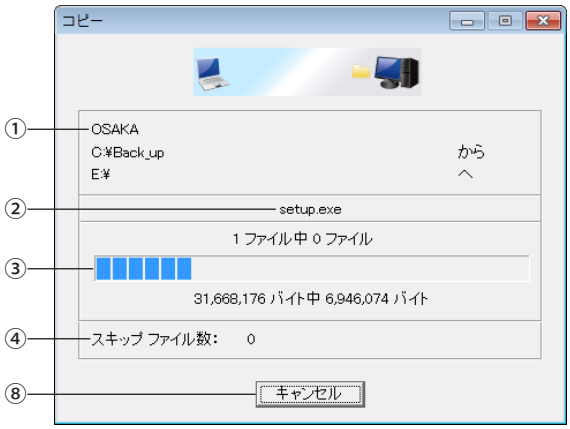
1.3 貼り付け

/ Ctrl + V

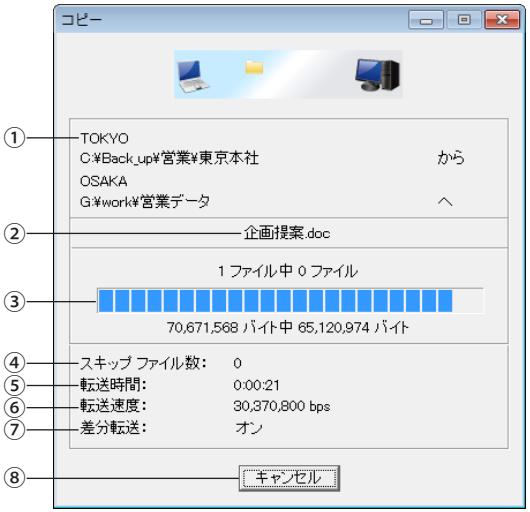
［コピー］や［切り取り］されたファイルやフォルダーを、選択されているフォルダーに貼り付けます。
［貼り付け］が実行されると、転送状態を表す［コピー］または［移動］ダイアログが表示されます。
［切り取り］したファイルを［貼り付け］した場合に［移動］ダイアログが表示されますが、操作方法はコピーの場合と同じです。

1.3.1 コピー中のダイアログ

転送先が同じパソコンの場合の［コピー］ダイアログ



転送先が別のパソコンの場合の［コピー］ダイアログ



① 転送元と転送先の、パソコン名とフォルダー名が表示されます。

② 現在転送中のファイル名が表示されます。

③ すべての選択ファイルに対してどれくらい転送が終了しているか、ファイル数やファイルサイズをインジケーターで表示します。

④ スキップ ファイル数

設定によって転送されなかったファイルの数が表示されます。

⑤ 転送時間

どれくらいの転送時間が経過しているか表示されます。

⑥ **転送速度**

転送速度が表示されます。

⑦ **差分転送**

差分転送が設定されているか表示されます。

差分転送については、「6.2.4 [パフォーマンス] タブ」を参照してください。

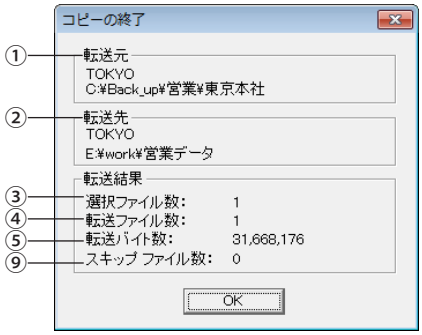
⑧ **[キャンセル] ボタン**

ファイルの転送を中止します。

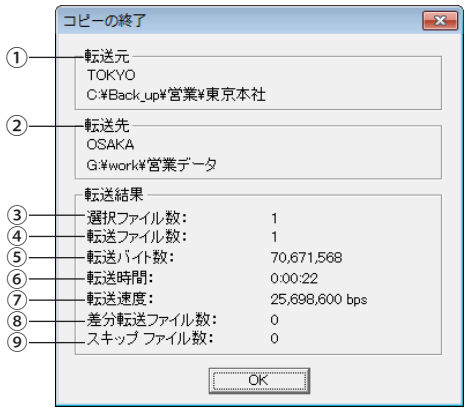
1.3.2　コピー終了のダイアログ

貼り付けが終了すると、[コピーの終了] または [移動の終了] ダイアログが表示されます。[切り取り] したファイルを [貼り付け] した場合に [移動の終了] ダイアログが表示されますが、操作方法はコピーの場合と同じです。

転送先が同じパソコンの場合の [コピーの終了] ダイアログ



転送先が別のパソコンの場合の [コピーの終了] ダイアログ



① 転送元

転送元のパソコン名とフォルダー名が表示されます。

② 転送先

転送先のパソコン名とフォルダー名が表示されます。

③ 選択ファイル数

選択したファイルの数が表示されます。

④ 転送ファイル数

正常に転送できたファイルの数が表示されます。

⑤ 転送バイト数

正常に転送できたファイルの合計バイト数が表示されます。

⑥ 転送時間

転送にかかった時間が表示されます。

⑦ 転送速度

転送時の平均通信速度が表示されます。

⑧ 差分転送ファイル数

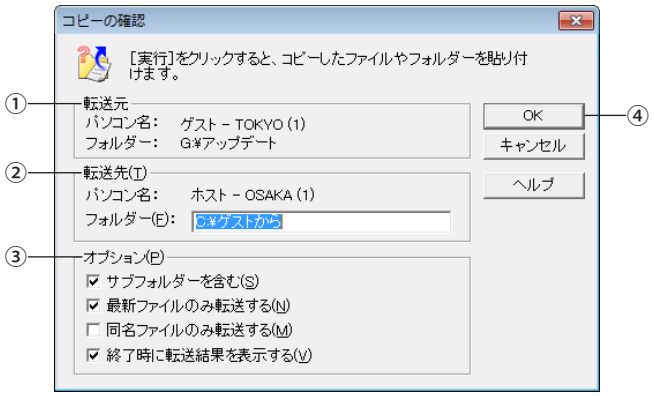
差分転送したファイルの数が表示されます。
差分転送については、「6.2.4［パフォーマンス］タブ」を参照してください。

⑨ スキップ ファイル数

設定によって転送されなかったファイルの数が表示されます。

1.3.3 貼り付け直前の確認ダイアログ

［ファイル転送オプション］の［コピー/切り取り］タブにある［コピー/切り取り後の貼り付け時に確認メッセージを表示する］にチェックを付けている場合、貼り付け時に［コピーの確認］または［移動の確認］ダイアログが表示されます。



① 転送元

選択したファイルやフォルダーが存在するパソコン名とフォルダー名が表示されます。

② 転送先

ファイルやフォルダーの転送先を指定します。

- ●パソコン名 ..... 転送先のパソコン名が表示されます。
- ●フォルダー ..... 転送先のフォルダー名が表示されます。
  転送先フォルダーを変更する場合は、ドライブとフォルダー名を入力します。

③ オプション

転送時のオプションを指定します。設定内容は、［ファイル転送オプション］の設定が反映されています。

- ●サブフォルダーを含む .....
  チェックすると、選択したフォルダーの中でサブフォルダーが存在する場合は、そのサブフォルダーも含めて転送します。
- ●最新ファイルのみ転送する .....
  チェックすると、転送先に同名ファイルが存在した場合にファイルの日付を比較して、選択したファイルの方が新しい場合は上書きで転送します。
  チェックしていない場合は、古いファイルで新しいファイルを上書きしてしまう可能性があります。

⚠ 注 意

［ファイル転送オプション］について詳しくは、「6.2 ファイル転送オプション」を参照してください。

●同名ファイルのみ転送する .....
チェックすると、選択したファイルやフォルダーの中で、転送先と同名のファイルだけを転送します。

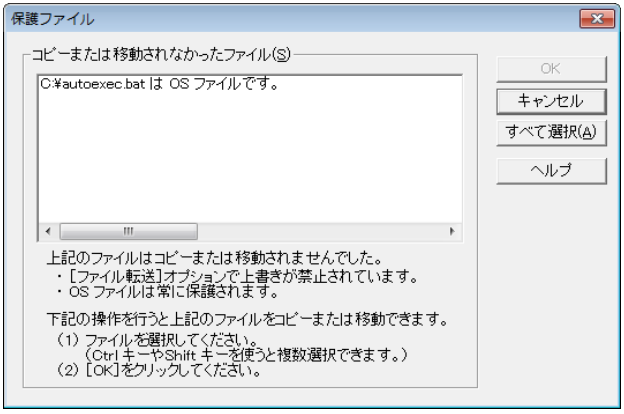
●終了時に転送結果を表示する .....
チェックすると、転送終了時に［コピーの終了］ダイアログを表示します。転送結果を確認することができます。

④［OK］ボタン

ファイルの貼り付けが実行され、転送状態を表す［コピー］や［移動］ダイアログが表示されます。

1.3.4　OS ファイルの保護

OS ファイルをコピーや切り取り、貼り付けをすると、パソコンが思わぬエラーを起こす可能性があります。
コピーや切り取り時に OS ファイルを選択した場合、［貼り付け］をする前に［保護ファイル］ダイアログが表示されます。



［コピーまたは移動されなかったファイル］のリストに表示されているのは、コピーや移動を行わなかった OS ファイルです。
コピーや移動をする場合は、リストからファイルを選択して［OK］ボタンをクリックします。コピーや移動をしない場合は、［キャンセル］ボタンをクリックします。

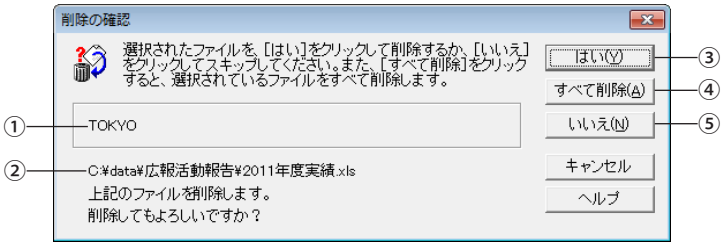
ファイル転送ウィンドウ

1.4 削除

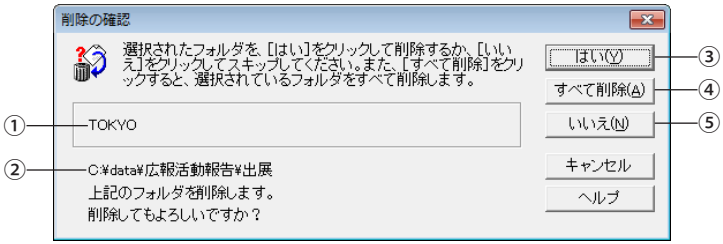
/ Ctrl + D / Del

選択されているファイルやフォルダーを削除します。
ファイルを選択後にコマンドを実行すると、［削除の確認］ダイアログが表示されます。

- 削除する対象がファイルの場合 -



- 削除する対象がフォルダの場合 -



① パソコン名

削除するファイルやフォルダーが存在するパソコン名が表示されます。

② ファイル名

削除するファイル名やフォルダー名が表示されます。

③［はい］ボタン

［ファイル名］に表示されているファイルやフォルダーを削除します。

④［すべて削除］ボタン

選択されたファイルやフォルダーをすべて削除します。

⑤［いいえ］ボタン

［ファイル名］に表示されているファイルやフォルダーを削除しません。複数選択している場合は、次に選択されたファイルやフォルダーが、［ファイル名］に表示されます。

Memo

［削除］の操作方法については、「第 6 章 4.1 ファイルを削除する」を参照してください。

Memo

［オプション］メニューの［ファイル転送オプション］の設定によって、［削除の確認］ダイアログを表示しないことができます。詳しくは、「6.2 ファイル転送オプション」を参照してください。

ファイル転送ウィンドウ

1.5 名前の変更

Ctrl + R

選択されているファイルやフォルダーの名前を変更します。

ファイル転送ウィンドウ

1.6 すべて選択

Ctrl + A

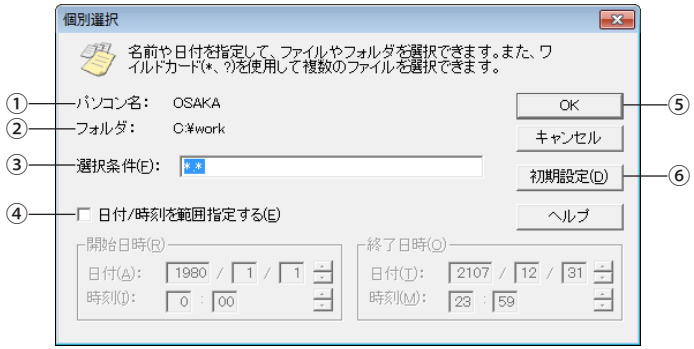
リスト枠に表示されているファイルやフォルダーをすべて選択します。

ファイル転送ウィンドウ

1.7 個別選択

Ctrl + B

リスト枠に表示されているファイルやフォルダーを、条件をつけて選択します。
クリックすると、［個別選択］ダイアログが表示されます。



① パソコン名

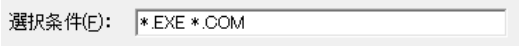
個別選択の対象とするパソコン名が表示されます。

② フォルダー

個別選択の対象とするフォルダー名が表示されます。

③ 選択条件

選択の条件となるファイル名やフォルダー名を入力します。
ワイルドカード（＊や？）や複数の条件を指定することができます。
例えば、拡張子に［.EXE］と［.COM］がつくファイルだけを選択したい場合は、次のように入力します。



［*.EXE］と［*.COM］の間は、スペースまたはカンマ（ , ）で区切ります。

④ 日付/時刻を範囲指定する

チェックすると、選択するファイルを日付や時刻で指定することができます。

●開始日時 ..... 範囲指定の開始日時を、[▲] [▼] ボタンで指定します。

●終了日時 ..... 範囲指定の終了日時を、[▲] [▼] ボタンで指定します。

⑤ [OK] ボタン

設定にしたがってファイルやフォルダーを選択します。

⑥ [初期設定] ボタン

設定内容を初期値に戻します。

ファイル転送ウィンドウ

1.8 選択解除

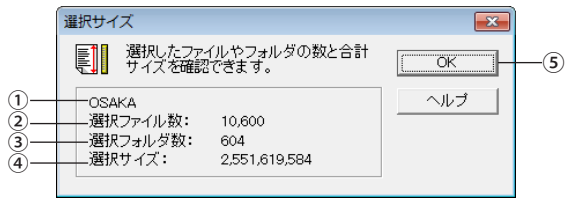
フォルダー枠で選択されているフォルダーと、リスト枠で選択されているファイルやフォルダーから、選択を取り消します。

ファイル転送ウィンドウ

1.9 選択サイズ

Ctrl + S

選択されているファイルやフォルダーの数、合計サイズ（バイト）を確認することができます。
クリックすると、[選択サイズ] ダイアログが表示されます。



① パソコン名

選択したファイルが存在するパソコン名が表示されます。

② 選択ファイル数

選択したファイルの数が表示されます。

③ 選択フォルダー数

選択したフォルダーの数が表示されます。

④ 選択サイズ

選択したファイルの合計サイズ（バイト）が表示されます。

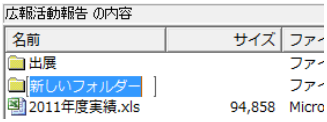
⑤ [OK] ボタン

ダイアログを閉じます。

ファイル転送ウィンドウ

1.10 フォルダーの作成 / Ctrl + K

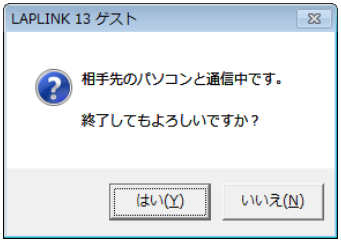
現在表示しているフォルダーのサブフォルダーとして新しくフォルダーを作成します。
クリックすると、表示しているファイル転送ウィンドウ上に、「新しいフォルダー」を作成します。



任意に名前を変更します。

1.11 終了 Alt + F4

LAPLINK を終了します。
接続中にこのコマンドをクリックした場合は、次のメッセージが表示されます。



- [はい] ボタン . . . . . 通信を切断し LAPLINK を終了します。
- [いいえ] ボタン . . . . . LAPLINK を終了しません。

2 編集メニュー

［編集］メニューは、［リモート コントロール］ウィンドウや［テキスト チャット］ウィンドウを表示したときのみ表示されます。ファイル転送ウィンドウを表示している場合や、どのウィンドウも表示していない場合は表示されません。

注意

［リモート コントロール］ウィンドウや［テキスト チャット］ウィンドウは、ホスト パソコンと接続しなければ開くことはできません。

リモート コントロール ウィンドウ

2.1 クリップボードの共有

クリップボードを共有するかどうかを設定します。コマンドをクリックすると、チェック マークの有無で ON/OFF を切り替えることができます。コマンド名の左側にチェックマークがついていると、クリップボードを共有します。クリップボードを共有すると、相手パソコンのクリップボードの内容を、自分のパソコンのクリップボードにコピーすることができます。

テキスト チャット ウィンドウ

2.2 元に戻す

Ctrl + Z

最後に行った編集作業を取り消し、1 つ前の状態に戻します。
［切り取り］や［貼り付け］といった編集作業、または最後に入力した文字列を取り消すことができます。

テキスト チャット ウィンドウ

2.3 切り取り

Ctrl + X

チャット入力枠で範囲指定されている文章を削除して、クリップボードに転送します。

テキスト チャット ウィンドウ

2.4 コピー

Ctrl + C

チャット表示枠やチャット入力枠で範囲指定されている文章を、クリップボードにコピーします。

テキスト チャット ウィンドウ

2.5 貼り付け

Ctrl + V

クリップボードにコピーされている文章を、チャット入力枠のカーソル位置に貼り付けます。

テキスト チャット ウィンドウ

2.6 すべて選択

Ctrl + A

チャット表示枠、またはチャット入力枠の文章をすべて選択します。[コピー] や [切り取り] の対象とします。

テキスト チャット ウィンドウ

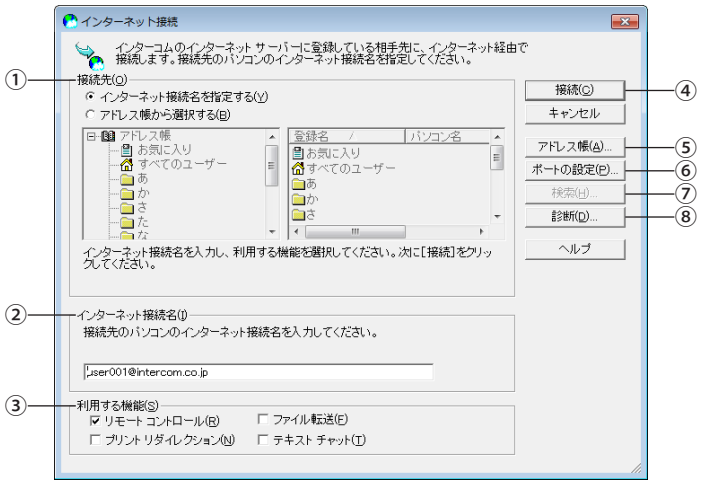
2.7 チャット内容の保存

[テキスト チャット] ウィンドウの内容を、テキスト形式のファイルに保存します。

3 接続メニュー

3.1 インターネット接続

インターネット上にあるインターコム インターネット サーバーを利用して、インターネット経由で接続します。
クリックすると［インターネット接続］ダイアログが表示されます。



① 接続先

●インターネット接続名を指定する .....
［インターネット接続名］に直接インターネット接続名を入力して接続します。

●アドレス帳から選択する .....
アドレス帳に登録されているユーザー情報から、接続タイプが［インターネット］のユーザーだけをリストに表示します。

② インターネット接続名

［インターネット接続名を指定する］を選択した場合は、接続先のインターネット接続名を直接入力します。
［アドレス帳から選択する］を選択した場合は、［接続先］から選択したユーザーのインターネット接続名が表示されます。なお、アドレス帳から選択したユーザーのデータをここで変更することはできますが、アドレス帳には反映されません。

⚠ 注 意

弊社インターコムが設置したインターコムのインターネット サーバーは、メンテナンスなどで一時的に休止する場合があります。またやむを得ない事情により、インターコムのサーバーの稼動を終了する場合は、終了する 6 か月前に下記ホームページにて告知いたしますのでご確認ください。
http://www.intercom.co.jp/support/laplink/

⚠ 注 意

接続を開始するゲスト パソコンには、グローバル IP アドレスが必要です。

③ 利用する機能

接続後に利用する機能を指定します。

④［接続］ボタン

接続を開始します。

⑤［アドレス帳］ボタン

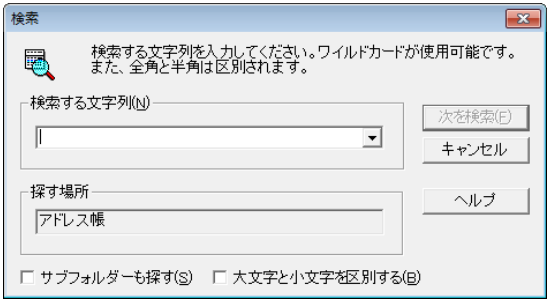
アドレス帳を表示します。詳しくは、「6.10 アドレス帳」を参照してください。

⑥［ポートの設定］ボタン

ポートの設定を行います。詳しくは、「6.8 ポートの設定」を参照してください。

⑦［検索］ボタン

アドレス帳に登録されているユーザー情報から指定した登録名を検索します。クリックすると、［検索］ダイアログが表示されます。



検索する登録名を入力します。

⑧［診断］ボタン

インターネット診断を実行します。
詳しくは「8.2 インターネット診断」を参照してください。

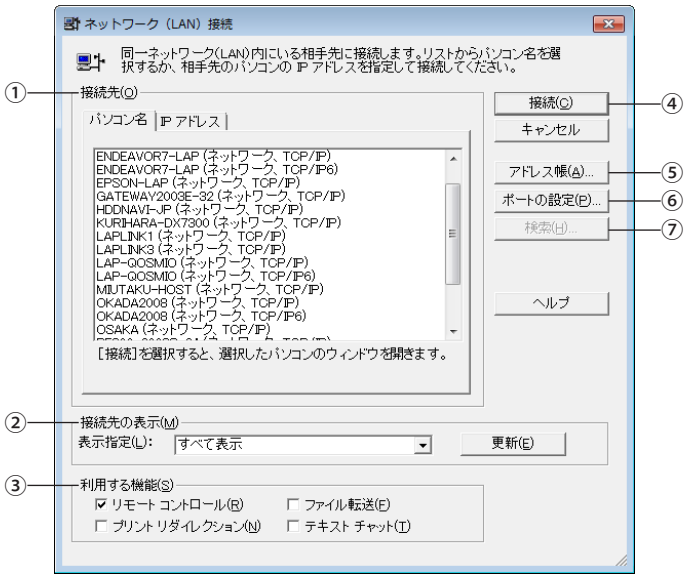
インターネット接続の方法や操作については、「第 2 章 1 インターネット接続」を参照してください。

⚠ 注 意

ゲスト パソコンから機能の開始を要求しても、ホスト パソコンのセキュリティで許可しないように設定されている場合は、その機能は開始されません。
詳しくは、「第 4 章 2 使用できる機能を限定する」を参照してください。

3.2 ネットワーク（LAN）接続

TCP/IP や IPX のプロトコルによるネットワーク経由で、パソコン名や IP アドレスを指定して接続します。
クリックすると、［ネットワーク（LAN）接続］ダイアログが表示されます。



① 接続先

●［パソコン名］タブ . . . 現在ネットワーク接続可能なパソコンの名前がリストに表示されます。使用している環境により、接続可能なパソコン名が表示されない場合があります。その場合は、［IP アドレス］タブを使用してください。
なお［表示指定］で、特定の接続先だけを表示することができます。

●［IP アドレス］タブ . . . ［IP アドレスを指定する］を選択すると、［IP アドレス］に接続先の IP アドレスを直接入力して接続を行います。
［アドレス帳から選択する］を選択すると、アドレス帳に登録されているユーザー情報から、接続タイプが［ネットワーク（LAN）：IP アドレス］のユーザーだけをリストに表示します。

② 接続先の表示/IP アドレス

［接続先の表示］では、［パソコン名］タブに表示したい接続先を絞り込んで表示することができます。

⚠ 注 意

ゲスト パソコンとホスト パソコンで別々のルーターを使用している環境の場合は、［パソコン名］タブにホスト パソコンのパソコン名が表示されません。
接続先の IP アドレスを直接指定して接続してください。

文字列を入力して［更新］ボタンをクリックすると、入力した文字列が含まれている相手の名前だけを、［接続先］に表示します。なお元に戻す場合は、ドロップダウン リストボックスから［すべて表示］を選択して［更新］ボタンをクリックします。

●［更新］ボタン.....［接続先］リストの表示指定を行ったり、［接続先］リスト内を最新情報に更新します。

［IP アドレス］は、［IP アドレス］タブの［IP アドレスを指定する］を選択した場合や、［アドレス帳から選択する］を選択してリストからユーザーを指定した場合に表示されます。
［IP アドレスを指定する］を選択した場合は、接続先の IP アドレスを指定します。

例：
IPv4 . . . 123.456.789.123
IPv6 . . . abcd:0123:4567:abcd:0123:4567:abcd:0123

③ 利用する機能

接続後に利用する機能を指定します。

④［接続］ボタン

接続を開始します。

⑤［アドレス帳］ボタン

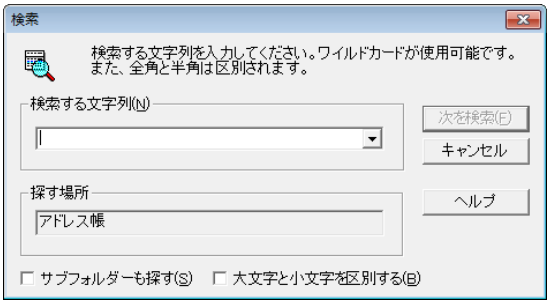
アドレス帳を表示します。詳しくは、「6.10 アドレス帳」を参照してください。

⑥［ポートの設定］ボタン

ポートの設定を行います。詳しくは、「6.8 ポートの設定」を参照してください。

⑦［検索］ボタン

［IP アドレス］タブで、アドレス帳に登録されているユーザー情報から、指定した登録名を検索します。クリックすると、［検索］ダイアログが表示されます。



検索する登録名を入力します。

ネットワーク接続の方法や操作については「第 2 章 2 ネットワーク（LAN）接続」を参照してください。

⚠ 注 意

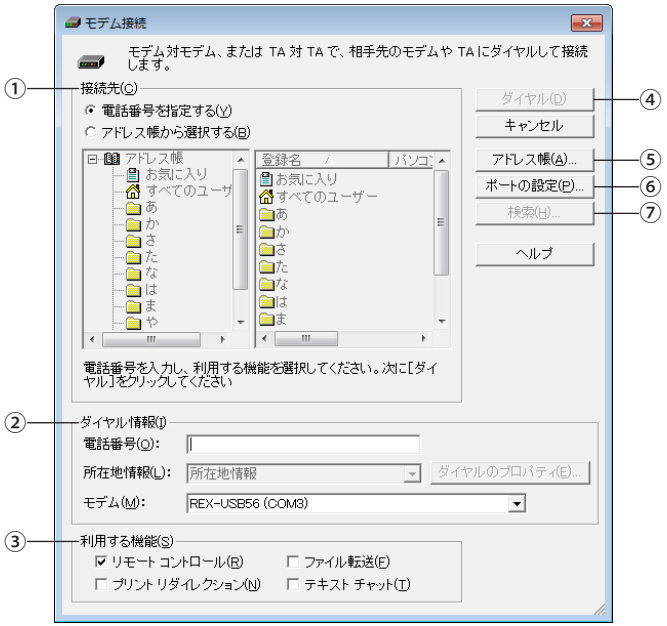
●IPv6 アドレスを指定した接続は、Windows Server 2008 R2、Windows 7、Windows Server 2008 で対応しています。
●ゲストとホスト両方とも IPv6 で接続できる環境である必要があります。
●「fe80::」で始まるアドレスを指定する場合は、アドレスの最後にゲスト パソコンのインターフェイス識別子（%n）を付ける必要があります。

⚠ 注 意

ゲスト パソコンから機能の開始を要求しても、ホスト パソコンのセキュリティで許可しないように設定されている場合は、その機能は開始されません。
詳しくは、「第 4 章 2 使用できる機能を限定する」を参照してください。

3.3 モデム接続

モデムやターミナル アダプターを使って、ホスト パソコンと電話回線を経由して接続します。クリックすると、［モデム接続］ダイアログが表示されます。



① 接続先

●電話番号を指定する .....
［ダイヤル情報］に電話番号を直接入力して接続します。

●アドレス帳から選択する .....
アドレス帳に登録されているユーザー情報から、接続タイプが［モデム］のユーザーだけをリストに表示します。

② ダイヤル情報

●電話番号 ..... ［接続先］から選択した相手の電話番号が表示されます。
アドレス帳から選択した相手先のデータをここで変更しても、アドレス帳には反映されません。
［接続先］で［電話番号を指定する］を選択した場合は、ここで相手先の電話番号を指定します。

●所在地情報 ..... 使用可能な所在地リストを表示します。接続する際に、使用する所在地情報を指定してください。

⚠ 注 意

ターミナル アダプターを使用する場合は、非同期モードで使用してください。

●［ダイヤルのプロパティ］ボタン .....
自分の電話回線の設定を行います。
Windows の［電話とモデム］ダイアログが表示されます。詳しくは、Windows のオンライン ヘルプを参照してください。

●モデム ..... 使用するモデムを指定します。
ドロップダウン リストボックスに表示されるモデムは、ユーザーが Windows に登録したモデムです。モデムは、Windows の［コントロール パネル］の［電話とモデム］から登録します。詳しくは、Windows のオンライン ヘルプを参照してください。

③ 利用する機能

接続後に利用する機能を指定します。

④［ダイヤル］ボタン

指定したホスト パソコンに対してダイヤルを開始します。

⑤［アドレス帳］ボタン

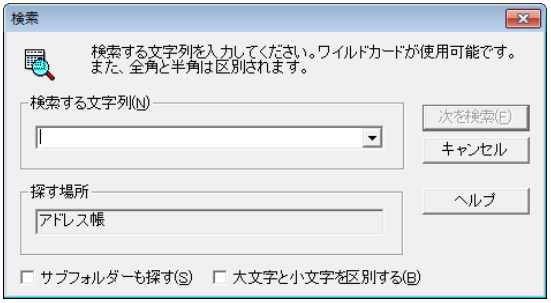
アドレス帳を表示します。詳しくは、「6.10 アドレス帳」を参照してください。

⑥［ポートの設定］ボタン

ポートの設定を行います。詳しくは、「6.8 ポートの設定」を参照してください。

⑦［検索］ボタン

アドレス帳に登録されているユーザー情報から指定した登録名を検索します。クリックすると、［検索］ダイアログが表示されます。



検索する登録名を入力します。

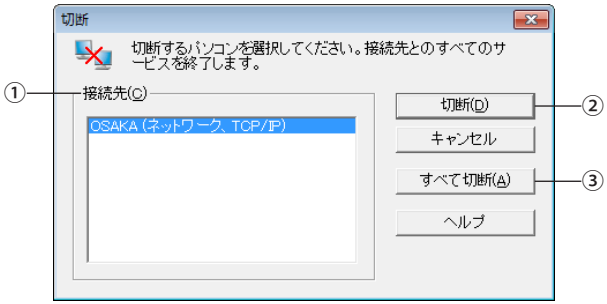
モデム接続の方法や操作については、「第 2 章 3 モデム接続」を参照してください。

⚠ 注 意

ゲスト パソコンから機能の開始を要求しても、ホスト パソコンのセキュリティで許可しないように設定されている場合は、その機能は開始されません。
詳しくは、「第 4 章 2 使用できる機能を限定する」を参照してください。

3.4 切断

接続しているホスト パソコンとの通信を切断します。
クリックすると、［切断］ダイアログが表示されます。



① 接続先

現在接続しているパソコン名と接続形態が表示されます。
複数のパソコンと接続している場合は、切断したいパソコンを選択することができます。

②［切断］ボタン

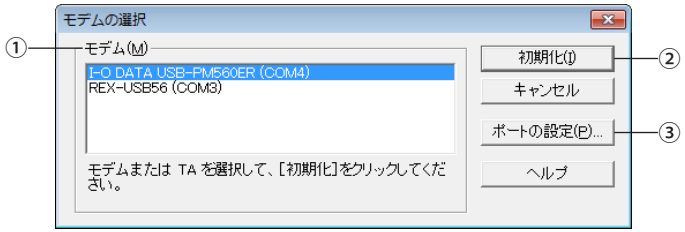
［接続先］で選択されているパソコンとの通信を切断します。

③［すべて切断］ボタン

［接続先］に表示されているすべてのパソコンとの通信を切断します。

3.5　モデムの初期化

モデムが正常に動作しない場合などに、接続されているモデムを初期化します。複数のモデムが設定されている場合は、［モデムの選択］ダイアログが表示されます。



① モデム

設定されているモデムがリストに表示されます。初期化するモデムをクリックして選択します。

②［初期化］ボタン

［モデム］で選択されているモデムを初期化します。
クリックすると、初期化中を表すメッセージが表示されます。
メッセージが消えると、モデムの初期化が終了します。

③［ポートの設定］ボタン

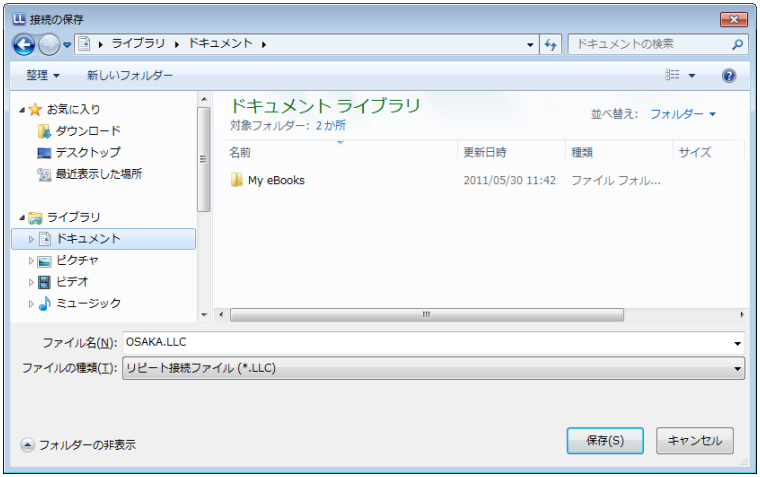
ポートの設定を行います。詳しくは、「6.8 ポートの設定」を参照してください。

⚠ 注 意

モデム接続中にモデムを初期化することはできません。

3.6 接続の保存

現在の接続形態やホスト パソコンの情報を保存します。
次回接続時に、保存した情報でホスト パソコンと再接続することができます。
クリックすると、［接続の保存］ダイアログが表示されます。

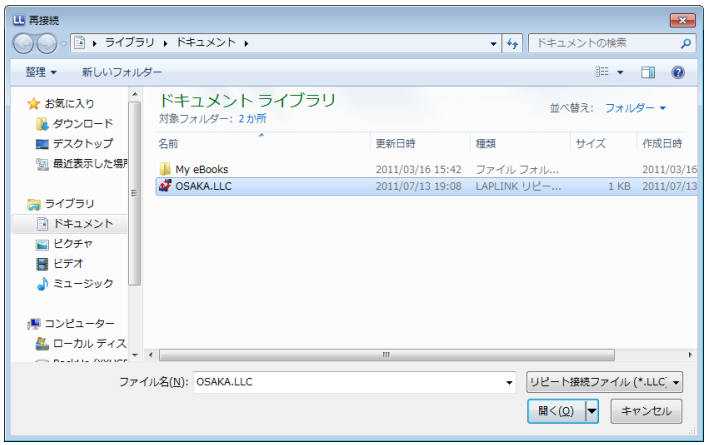


保存する場所やファイル名を指定して、［保存］ボタンをクリックすると、リピート接続ファイル（拡張子：*.LLC）として保存されます。
なお、保存するときにショートカットを作成すると、デスクトップ上からダブルクリックするだけで、保存されている接続先に接続することができます。
詳しくは、「第 2 章 6 ショートカットから接続する」を参照してください。

保存したリピート接続ファイルは、［再接続］コマンドや、LAPLINK 起動時に自動的に再接続する場合に使用します。
詳しくは、「3.7 再接続」、「第 2 章 7 LAPLINK 起動時に接続を開始する」を参照してください。

3.7 再接続

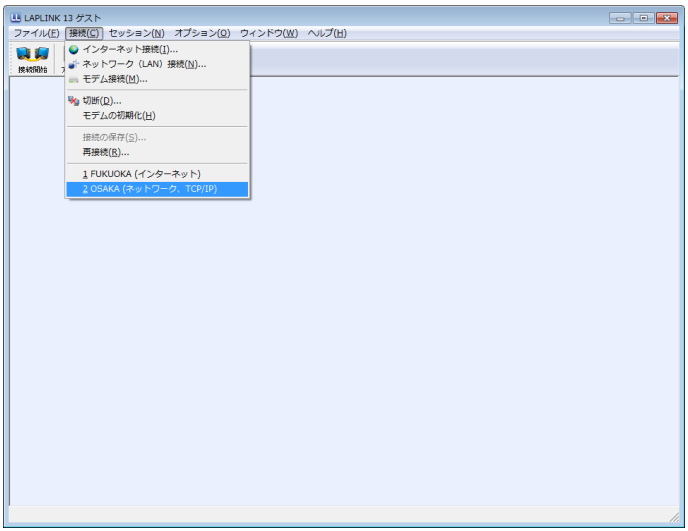
保存した接続ファイルで接続を行います。
クリックすると、［再接続］ダイアログが表示されます。



［接続の保存］コマンドで保存したリピート接続ファイル（拡張子：*.LLC）を選択して［開く］ボタンをクリックすると、保存されている情報で接続します。

3.8 最近行った接続

接続をしたホスト パソコンの接続情報を、最新 5 件までメニューに登録します。パソコン名をクリックすると、ホスト パソコンに再接続します。



⚠ 注 意

- 選択した接続方法が利用できる環境を準備しておく必要があります。
- 同じパソコン名に対し、複数の接続先は登録されません。
- ログイン名とパスワードは登録されません。
- ネットワーク（LAN）接続で IP アドレスを指定した場合、前回接続した IP アドレスに対して接続しようとするため、IP アドレスが変わった場合は接続できません。

4 セッション メニュー

［セッション］メニューは、リモート コントロール ウィンドウを表示している場合のみ、すべてのコマンドが表示され、それ以外のウィンドウを表示している場合やウィンドウを何も表示していない場合は、［画面ショットを表示］のみ表示されます。

リモート コントロール ウィンドウ

4.1 ホスト操作の禁止

ホスト パソコンでのマウスとキーボードの操作を禁止します。クリックすると、チェックマークの有無で ON/OFF を切り替えることができます。

リモート コントロール ウィンドウ

4.2 レーザーポインターの開始/終了

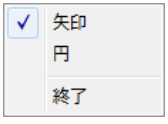
リモート コントロール中に、ホスト パソコンの画面の特定の場所を、赤い矢印や円でその場所を指し示します。

ゲスト パソコンから直接操作するのではなく、ホスト パソコンのユーザーに操作して欲しいときに、操作箇所を指示する場合などに利用します。

レーザーポインターを開始していないときは、［レーザーポインターの開始］、開始しているときは［レーザーポインターの終了］と表示されます。

4.2.1 レーザーポインターのショートカット メニュー

レーザーポインターの実行中に右クリックすると、ショートカット メニューが表示されます。



レーザーポインターの形状を、［矢印］［円］の 2 種類から選択できます。
［終了］を選択すると、レーザーポインターを終了します。

Memo

レーザーポインターの使い方は、「第 3 章 7 レーザーポインターで指示する」を参照してください。

リモート コントロール ウィンドウ

4.3 デスクトップ ペンの開始/終了

リモート コントロール ウィンドウ内をサインペンのようなツールを使って、フリーハンドで書き込むことができます。書き込んだ文字やイラストは、ホスト パソコンの画面にも表示されます。

デスクトップ ペンを開始していないときは［デスクトップ ペンの開始］、開始しているときは［デスクトップ ペンの終了］と表示されます。

4.3.1 デスクトップ ペンのショートカット メニュー

デスクトップ ペンを実行中に右クリックすると、ショートカット メニューが表示されます。

ペンの色を［黒］［白］［赤］［黄］［青］［黄（蛍光）］［緑（蛍光）］［紫（蛍光）］から、太さを［太］［中］［細］から選択できます。
［消去］を選択すると、書き込んだ文字やイラストを消去します。
［終了］を選択すると、デスクトップ ペンを終了します。

Memo

デスクトップ ペンの使い方は、「第 3 章 6 デスクトップ ペンで書き込む」を参照してください。

リモート コントロール ウィンドウ

4.4 システム情報の取得

ホスト パソコンのシステム情報をテキスト形式で保存します。

注意

システム情報の取得は、ホスト パソコンの Windows のシステム情報をすべて取得するため、作業が終了するまで時間を要する場合があります。

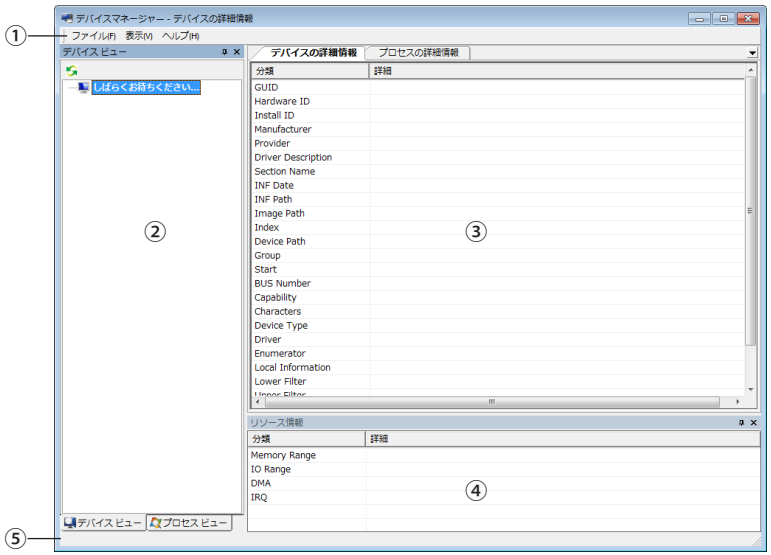
リモート コントロール ウィンドウ

4.5 デバイス情報の表示

ホスト パソコンのデバイス情報を［デバイス マネージャー］ウィンドウに表示します。

4.5.1 デバイス マネージャー

［デバイス情報の表示］を実行すると、［デバイス マネージャー］ウィンドウが表示されます。



① メニュー

●［ファイル］メニュー

［アプリケーションの終了］コマンドを実行すると、［デバイス マネージャー］を終了します。

●［表示］メニュー

［ツールバーとドッキング ウィンドウ］...

［デバイス ビュー］、［プロセス ビュー］、［リソース情報］の表示、非表示を設定します。チェックが付いているときは表示、付いていないときは非表示になります。

［ステータス バー］.....

ステータス バーの表示、非表示を設定します。チェックが付いているときは表示、付いていないときは非表示になります。

［アプリケーションの外観］.....
デバイス マネージャーの外観を変更することができます。
［Windows 2000］［Office XP］［Windows XP］［Office 2003］［Visual Studio .Net 2005］［Office 2007］から選択できます。

●［ヘルプ］メニュー
デバイス マネージャーのバージョンを確認することができます。

② ［デバイス ビュー］または［プロセス ビュー］

ホスト パソコンのデバイス情報、またはプロセス情報を表示します。

③ ［デバイスの詳細表示］または［プロセスの詳細表示］

ホスト パソコンのデバイス情報の詳細、またはプロセス情報の詳細を表示します。

④ ［リソース表示］

ホスト パソコンのリソース情報を表示します。

⑤ ステータス バー

［通信中］などの状況を表示します。

リモート コントロール ウィンドウ

4.6 プロセス情報の表示

ホスト パソコンのプロセス情報を［デバイス マネージャー］ウィンドウに表示します。

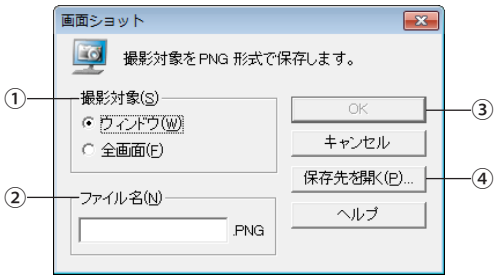
Memo

デバイス マネージャーについては、「4.5.1 デバイス マネージャー」を参照してください。

リモート コントロール ウィンドウ

4.7 画面ショット

ホスト パソコンの画面を、ファイル（PNG 形式）に保存します。



① 撮影対象

撮影する対象を選択します。

- ●ウィンドウ ..... ホスト パソコンの画面上のアクティブ ウィンドウだけを対象とします。
- ●全画面 ..... ホスト パソコンの画面上で表示されている内容すべてを対象とします。

② ファイル名

保存するファイル名を入力します。PNG 形式の画像ファイルで保存されます。

③［OK］ボタン

ファイルに保存します。
ファイルは以下のフォルダーに保存されます。

Windows Server 2008 R2、Windows 7、Windows Server 2008

¥ProgramData¥Intercom¥LAPLINK 13¥Guest

Windows Server 2003 R2、Windows Server 2003、Windows XP

¥Documents and Settings¥All Users¥Application Data¥Intercom¥LAPLINK 13¥Guest

④［保存先を開く］ボタン

撮影した画像が保存されているフォルダーを表示します。任意のフォルダーにコピー、移動することもできます。

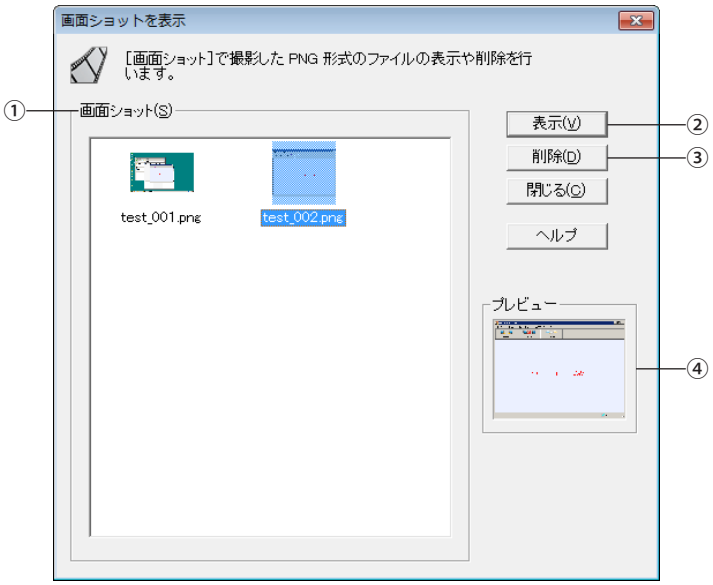
⚠ 注 意

ホスト パソコンでアクティブ ウインドウを選択していない状態で、［撮影対象］の［ウインドウ］を選択し、画面ショットを実行した場合、全画面を選択した場合と同じ動作になります。

リモート コントロール ウィンドウ

4.8 画面ショットを表示

［画面ショット］で保存した画像を表示します。
クリックすると、［画面ショットを表示］ダイアログが表示されます。



① 画面ショット

［画面ショット］で保存した画像データが、リストに表示されます。

② ［表示］ボタン

［画面ショット］で選択されている画像データを、PNG 形式のファイルが関連付けられているアプリケーション上で表示します。たとえば Web ブラウザーに関連付けられている場合は、その Web ブラウザーを起動して表示します。［画面ショット］で保存した画像データが、リストに表示されます。

③ ［削除］ボタン

［画面ショット］で選択されている画像データを削除します。

④ ［プレビュー］

［画面ショット］で選択されている画像データを、プレビュー表示します。PNG 形式のファイルが関連付けられているアプリケーション上で表示する前に、ここで画像を確認することができます。

リモート コントロール ウィンドウ

4.9 ［Ctrl＋Alt＋Delete］キーを実行

Ctrl ＋ Alt ＋ D

ホスト パソコンに対して、［Ctrl］＋［Alt］＋［Delete］キーを送信します。
ホスト パソコンのタスク マネージャーを開いたり、［再起動後に再接続］や［セーフモードで再接続］で再起動したホスト パソコンのログイン画面で、ゲスト パソコンから［Ctrl］＋［Alt］＋［Delete］キーを送信したりすることができます。

リモート コントロール ウィンドウ

4.10 ホスト マウスの表示

ゲスト パソコンのマウスカーソルとは別に、ホスト パソコンのマウスカーソルを表示します。クリックすると、チェックマークの有無で ON/OFF を切り替えることができます。

リモート コントロール ウィンドウ

4.11 再起動後に再接続

リモート コントロール中に、ホスト パソコンをゲスト パソコンから再起動させ、再び同じゲスト パソコンに接続させます。

Memo

詳しい操作方法は、「第 3 章 13 ホスト パソコンの再起動と再接続」を参照してください。

リモート コントロール ウィンドウ

4.12 セーフ モードで再接続

リモート コントロール中に、ホスト パソコンをゲスト パソコンからセーフモードで再起動させ、再び同じゲスト パソコンに接続させます。

5 表示メニュー

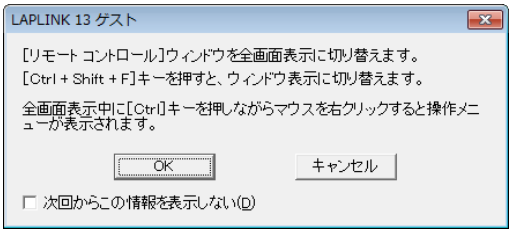
［表示］メニューは、リモート コントロール ウィンドウやファイル転送ウィンドウを表示したときのみ表示されます。テキスト チャット ウィンドウを表示している場合や、どのウィンドウも表示していない場合は表示されません。

リモート コントロール ウィンドウ

5.1 全画面表示

/ Ctrl + Shift + F

ホスト パソコンで表示されている画面を、ゲスト パソコンの画面いっぱいに表示します。
クリックすると、メッセージが表示されます。



- ［OK］ボタン ..... ホスト パソコンの画面が、ゲスト パソコンのディスプレイ全体に表示されます。
- 次回からこの情報を表示しない ..... チェックすると、次回このコマンドを選択したときは確認メッセージが表示されません。

注意

［リモート コントロール］ウィンドウは、相手先のパソコンと接続しなければ開くことはできません。

Memo

全画面表示の ON/OFF を切り替えるショートカット キー（初期値：［Ctrl］+［Shift］+［F］ キー）は、変更することができます。詳しくは、「6.1 リモート コントロール オプション」を参照してください。

Memo

使用しているパソコンのディスプレイ解像度によっては、ゲスト パソコンのディスプレイにホスト パソコンの画面全体を表示できない場合があります。この場合、ゲスト パソコンにはスクロール バーが表示されますので、スクロールして画面を確認してください。

5.1.1 全画面表示中のショートカット メニュー

全画面表示中に［Ctrl］キーを押しながら右クリックすると、ショートカット メニューが表示されます。

① ホスト操作の禁止

ホスト パソコンでのマウスやキーボードの操作を禁止します。チェックマークの有無で ON/OFF を切り替えることができます。

② レーザーポインターの開始/終了

レーザーポインターを開始、または終了します。

③ デスクトップ ペンの開始/終了

デスクトップ ペンを開始、または終了します。

④［Ctrl ＋ Alt ＋ Delete］キーを実行

ホストパソコンに［Ctrl］＋［Alt］＋［Delete］キーを送信します。

⑤ ホスト マウスの表示

ホスト パソコンのマウスカーソルを表示します。チェックマークの有無で ON/OFF を切り替えることができます。

⑥ 再起動後に再接続

ホスト パソコンを再起動させ、再び同じゲスト パソコンに接続させます。

⑦ セーフモードで再接続

ホスト パソコンをセーフモードで再起動させ、再び同じゲスト パソコンに接続させます。

⑧ 全画面で表示を解除

全画面表示を通常の表示状態に戻します。[Ctrl] + [Shift] + [F] キー（初期値）でも戻すことができます。

リモート コントロール ウィンドウ

5.2 ウィンドウ サイズで表示

/ Ctrl + Shift + S

ホスト パソコンで表示されている画面を、ゲスト パソコンの［リモート コントロール］ウィンドウ内に収まった形で表示します。
クリックすると、チェックマークの有無で ON/OFF を切り替えることができます。

リモート コントロール ウィンドウ

5.3 自動スクロール

［リモート コントロール］ウィンドウ内で表示しきれていない部分にマウスカーソルを移動すると、自動的に画面をスクロールします。
クリックすると、チェックマークの有無で ON/OFF を切り替えることができます。

ファイル転送ウィンドウ

5.4 大きいアイコン

リスト枠に表示されているファイルやフォルダーを、大きいアイコンで表示します。
選択すると、コマンド名の左側にマークがつきます。

ファイル転送ウィンドウ

5.5 小さいアイコン

リスト枠に表示されているファイルやフォルダーを、小さいアイコンで表示します。
選択すると、コマンド名の左側にマークがつきます。

Memo

ウィンドウ サイズ表示の ON/OFF を切り替えるショートカット キー（初期値：[Ctrl]＋[Shift]＋[S] キー）は、変更することができます。
詳しくは、「6.1 リモート コントロール オプション」を参照してください。

ファイル転送ウィンドウ

5.6 一覧

リスト枠に表示されているファイルやフォルダーを、一覧で表示します。
選択すると、コマンド名の左側にマークがつきます。

ファイル転送ウィンドウ

5.7 詳細

リスト枠に表示されているファイルやフォルダーを、詳細（ファイルサイズや日付など）に表示します。選択すると、コマンド名の左側にマークがつきます。

ファイル転送ウィンドウ

5.8 アイコンの整列

リスト枠に表示されているファイルやフォルダーの並び方を指定します。
選択するとサブメニューが表示されるので、その中から並び方を選択します。コマンド名の左側にマークがついている並び方が、現在の設定です。

- ●名前順 ..... ファイルやフォルダーを、名前順（五十音順、アルファベット順）に並び替えます。
- ●サイズ順 ..... ファイルをサイズ順に並び替えます。
- ●種類順 ..... ファイルを拡張子順（五十音順、アルファベット順）に並び替えます。
- ●日付順 ..... ファイルやフォルダーを、日付や時刻順に並び替えます。
- ●属性順 ..... ファイルやフォルダーを、属性順に並び替えます。

ファイル転送ウィンドウ

5.9 隠し / システム ファイルを表示

リスト枠に隠しファイルやシステム ファイルを表示するかしないかを指定します。
選択されると、コマンド名の左側にチェックマークがつき、隠しファイルやシステム ファイルが表示されます。

Memo

ファイルの属性は、［詳細］表示のときのみ表示されます。
ファイルの属性の R、A、S、H は、下記のファイルを表します。

R . . 読み取り専用ファイル
A . . アーカイブ ファイル
S . . システム ファイル
H . . 隠しファイル

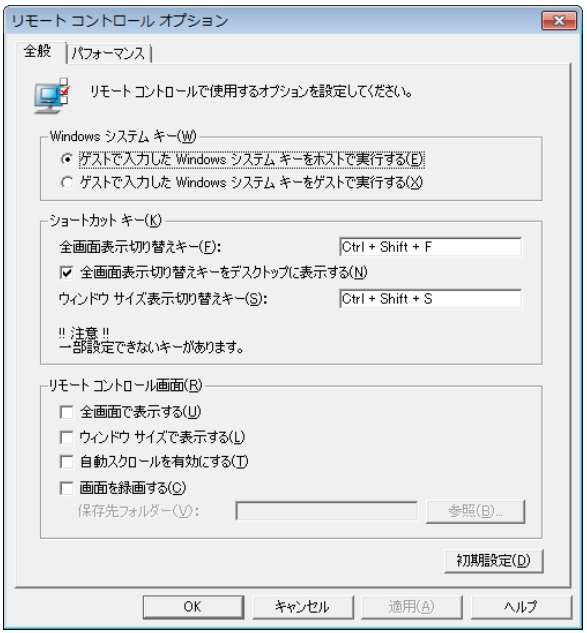
⚠ 注 意

隠しファイルやシステム ファイルをファイル転送ウィンドウに表示する場合は、注意してファイルを操作してください。誤って削除してしまうと、パソコンが正常に動作しなくなる場合があります。

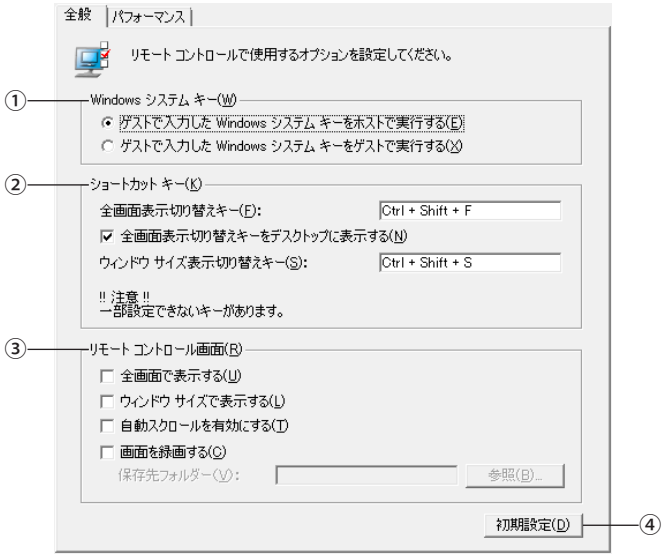
6 オプション メニュー

6.1 リモート コントロール オプション

リモート コントロール時のオプションを設定します。
クリックすると、［リモート コントロール オプション］ダイアログが表示されます。



6.1.1 ［全般］タブ



① Windows システムキー

●ゲストで入力した Windows システム キーをホストで実行する ....
ゲスト パソコンから入力された Windows のシステム キー（例：[Alt] + [Tab] キー）を、ホスト パソコンに対して実行します。

●ゲストで入力した Windows システム キーをゲストで実行する.....
ゲスト パソコンから入力された Windows のシステム キーを、ゲスト パソコンに対して実行します。

② ショートカット キー

画面表示の切り替えを行うためのショートカット キーを、実際にキー入力して指定します。
指定できるキーは、以下の通りです。[n] には 1 文字の数字、または文字を入力します。

- [Alt] + [Ctrl] + [n]
- [Alt] + [Shift] + [n]
- [Ctrl] + [Shift] + [n]
- [Alt] + [Ctrl] + [Shift] + [n]

●全画面表示切り替えキー .....
全画面表示と通常表示を切り替えるキーの組み合わせを入力します。

●全画面表示切り替えキーをデスクトップに表示する .....
チェックすると、全画面表示時に、通常表示に切り換えるキーの組み合わせを画面上に表示します。

●ウィンドウ サイズ表示切り替えキー.....
ウィンドウ サイズ表示と通常表示を切り替えるキーの組み合わせを入力します。

③ リモート コントロール画面

●全画面で表示する .... チェックすると、[リモート コントロール] ウィンドウの開始時に全画面で表示します。

●ウィンドウ サイズで表示する.....
チェックすると、[リモート コントロール] ウィンドウ開始時にウィンドウ サイズで表示します。

●自動スクロールを有効にする .....
チェックすると、[リモート コントロール] ウィンドウ開始時に自動スクロールが有効となります。

●画面を録画する ..... チェックすると、リモート コントロール中のすべての動作を、LAPLINK 独自形式の動画ファイル（拡張子：*.ord）に保存します。[保存先フォルダー] には、動画ファイルの保存先を指定します。
保存するファイルは、録画開始の年月日時刻を元に名前が付けられます。

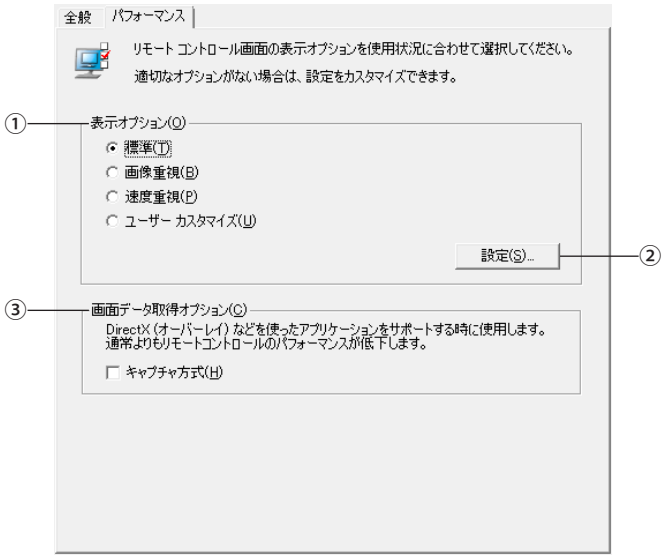
④ [初期設定] ボタン

[全般] タブの設定を初期値に戻します。

Memo

画面を録画する詳しい操作方法は、「第 3 章 9 操作を録画する」を参照してください。

6.1.2 ［パフォーマンス］タブ



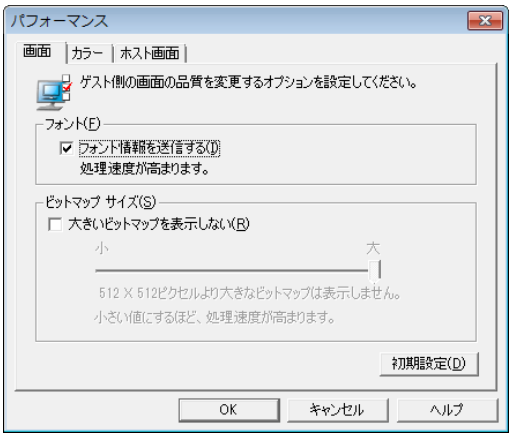
① 表示オプション

- ●標準 ..... 画質と処理速度を、バランスよく設定します。
- ●画像重視 ..... 処理速度よりも画質を優先します。
- ●速度重視 ..... 画質よりも処理速度を優先します。
- ●ユーザー カスタマイズ.....

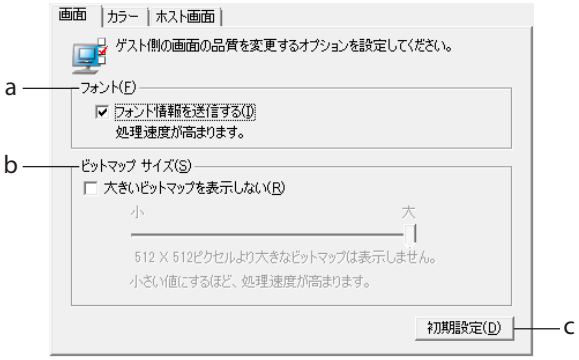
［設定］ボタンをクリックすると、［パフォーマンス］ダイアログが表示され、カスタマイズすることができます。

②［設定］ボタン

画面の品質を設定する［パフォーマンス］ダイアログを表示します。



【[画面] タブ】

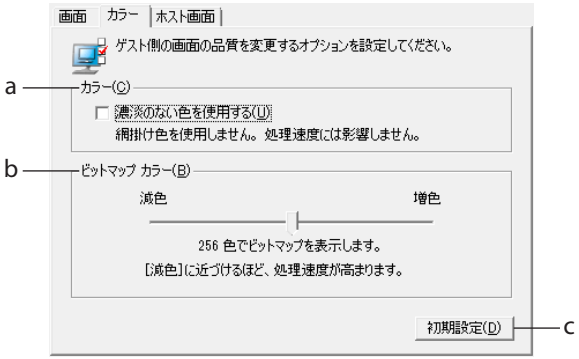


a. フォント
[フォント情報を送信する] にチェックすると、ホスト パソコンからフォント情報のみを取得し、表示するときの処理速度が向上します。チェックしていないときは、文字をビットマップ情報で取得します。

b. ビットマップ サイズ
[大きいビットマップを表示しない] にチェックすると、スライダーバーで指定されたサイズよりも小さなビットマップのみ表示します。小さい値ほど、処理速度が向上します。

c. [初期設定] ボタン
[画面] タブの設定を初期値に戻します。

【[カラー] タブ】

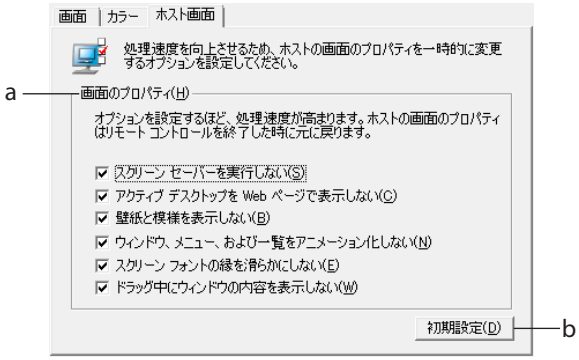


a. カラー
[濃淡のない色を使用する] をチェックすると、色数を減らして表示する際に、中間色を網掛けで表示しなくなります。処理速度には影響しません。

b. ビットマップ カラー
ホスト パソコンの画面の表示色を、スライダーバーで指定します。ゲスト パソコンのディスプレイ色数によって、選択可能な色数は異なります。色数を減らすと、処理速度が向上します。

c. [初期設定] ボタン
[カラー] タブの設定を初期値に戻します。

【[ホスト画面] タブ】



a. 画面のプロパティ

各項目をチェックすると、処理速度が向上します。

・スクリーン セーバーを実行しない

チェックすると、接続している間だけ、ホスト パソコンで設定されているスクリーン セーバーを解除します。接続を終了すると、スクリーン セーバーの設定は元に戻ります。

・アクティブ デスクトップを Web ページで表示しない

チェックすると、Internet Explorer 4.0 以上に含まれているアクティブ デスクトップを Web ページで表示する機能を解除します。

・壁紙と模様を表示しない

チェックすると、接続している間だけ、ホスト パソコンで表示されている壁紙と模様を表示しません。接続を終了すると、壁紙と模様の設定は元に戻り、通常通り表示されます。

・ウィンドウ、メニュー、および一覧をアニメーション化しない

チェックすると、ウィンドウ、メニュー、一覧をアニメーション化しません。アニメーション化したウィンドウは最小化や最大化する時に、徐々に大きく表示または徐々に小さく表示します。アニメーション化されたメニューは開く時にスクロールします。

・スクリーン フォントの縁を滑らかにしない

チェックすると、大きいフォントの縁を滑らかにする（ギザギザに表示されないようにする）ための処理を行いません。フォントを滑らかにするのは、256 色以上の場合です。

・ドラッグ中にウィンドウの内容を表示しない

チェックすると、ホスト パソコンで表示されているウィンドウのドラッグやサイズ変更する時に、ウィンドウの内容を表示しません。ウィンドウの外枠のみ表示します。

b. [初期設定] ボタン

[ホスト画面] タブの設定を初期値に戻します。

⚠ 注 意

リモート コントロール中にホスト パソコンでスクリーン セーバーが実行されると、通信に問題が生じる場合があります。[スクリーン セーバーを実行しない] のオプションは、チェックを付けておくことをおすすめします。

⚠ 注 意

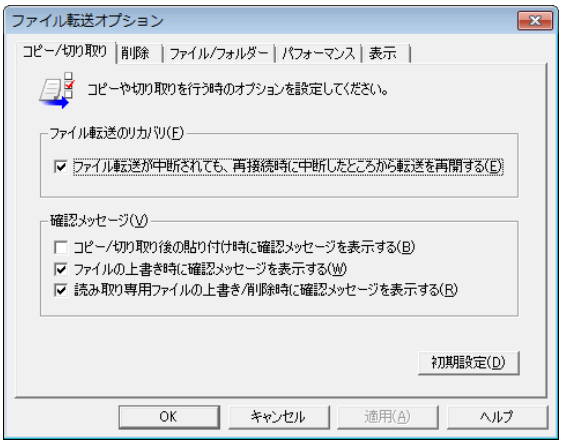
アクティブ デスクトップは、頻繁に画面を更新してリモート コントロールの処理速度を落とします。[アクティブ デスクトップを Web ページで表示しない] のオプションは、チェックを付けておくことをおすすめします。

③ 画面データ取得オプション

Windows Aero のリモート コントロールをしたい場合などに、［キャプチャ方式］のチェックを付けます。

6.2 ファイル転送オプション

ファイル転送時のオプションを設定します。
クリックすると、［ファイル転送オプション］ダイアログが表示されます。



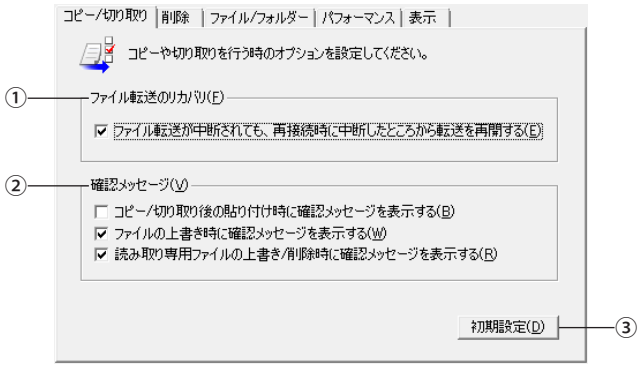
⚠ 注 意

［キャプチャ方式］を ON にすると、リモート コントロール中に次のような現象が発生する場合があります。

- 通信するデータが増えるため、操作反応が鈍くなる
- マウス カーソルの形状を取得できない
- マウス カーソルがちらつく

6.2.1 ［コピー/切り取り］タブ

コピーや切り取りを行うときのオプションを設定します。



① ファイル転送のリカバリ

●ファイル転送が中断されても、再接続時に中断したところから転送を再開する ..... チェックすると、ファイル転送が中断された場合、接続した側のパソコンのフォルダーにリカバリ ファイルを作成します。再接続した時に、中断した場所からファイル転送を再開します。

② 確認メッセージ

チェック項目の操作時に、確認メッセージを表示するかどうかを設定します。

●コピー/切り取り後の貼り付け時に確認メッセージを表示する

●ファイルの上書き時に確認メッセージを表示する

●読み取り専用ファイルの上書き/削除時に確認メッセージを表示する

③［初期設定］ボタン

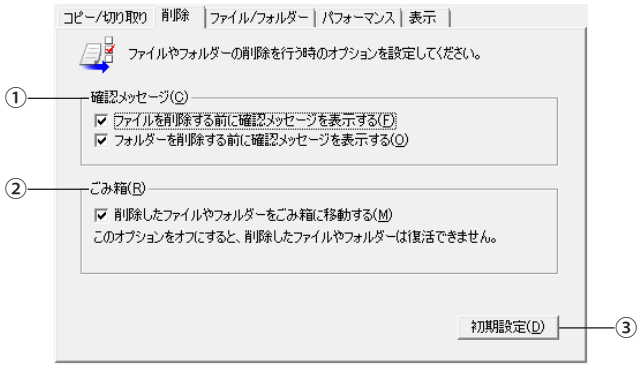
［コピー/切り取り］タブの設定を初期値に戻します。

⚠ 注 意

［ファイル/フォルダー］タブの［最新ファイルのみ転送する］にチェックしている場合、［ファイルの上書き時に確認メッセージを表示する］の設定にかかわらず、確認画面は表示されません。

6.2.2 ［削除］タブ

削除をするときのオプションを設定します。



① 確認メッセージ

削除時のメッセージの有無を指定します。

- ファイルを削除する前に確認メッセージを表示する
- フォルダーを削除する前に確認メッセージを表示する

② ごみ箱

- 削除したファイルやフォルダーをごみ箱に移動する.....

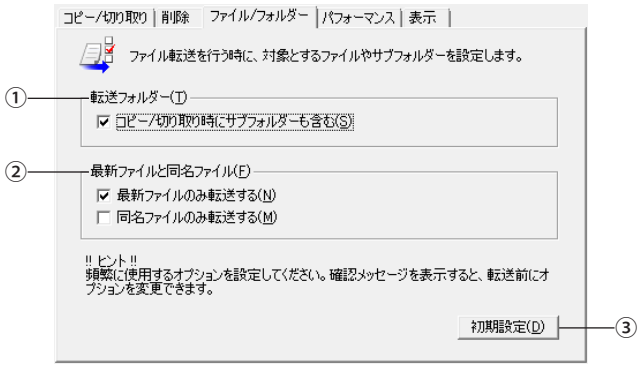
  チェックすると、削除したファイルやフォルダーをごみ箱に移動します。このチェックをはずすと、削除したファイルを復活させることはできません。

③［初期設定］ボタン

［削除］タブの設定を初期値に戻します。

6.2.3 ［ファイル/フォルダー］タブ

ファイル転送を行うファイルやサブフォルダーのオプションを設定します。



① 転送フォルダー

●コピー/切り取り時にサブフォルダーも含む .....

チェックすると、選択されているフォルダーに存在するサブフォルダーも含めてコピーまたは切り取りをします。

② 最新ファイルと同名ファイル

●最新ファイルのみ転送する .....

チェックすると、転送先に同名ファイルが存在した場合、転送元の方が日付が新しければ、上書きコピーします。

●同名ファイルのみ転送する .....

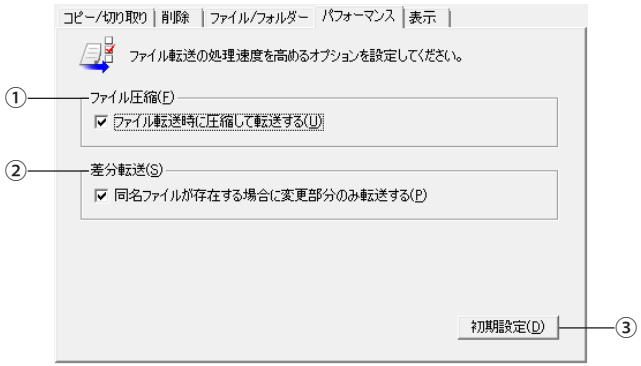
チェックすると、転送先に同名ファイルが存在した場合のみ、そのファイルに対してだけコピーします。

③［初期設定］ボタン

［ファイル/フォルダー］タブの設定を初期値に戻します。

6.2.4 ［パフォーマンス］タブ

ファイル転送の処理速度を向上させるための設定をします。



① ファイル圧縮

●ファイル転送時に圧縮して転送する .....

チェックすると、ファイル転送時に圧縮されていないファイルを圧縮します。

② 差分転送

●同名ファイルが存在する場合に変更部分のみ転送する .....

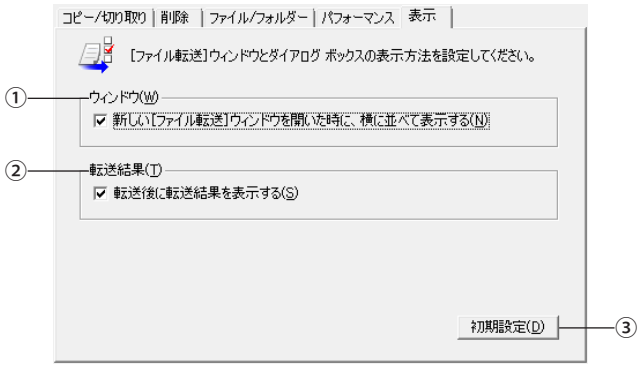
チェックすると、転送元と転送先に同名ファイルが存在する場合に、それぞれのファイルの内容を比較し、変更内容のみを転送します。

③［初期設定］ボタン

［パフォーマンス］タブの設定を初期値に戻します。

6.2.5 ［表示］タブ

ファイル転送ウィンドウとダイアログの表示方法について設定します。



① ウィンドウ

●新しい［ファイル転送］ウィンドウを開いた時に、横に並べて表示する .....

チェックすると、ファイル転送ウィンドウを新規に表示する場合に、ウィンドウを横に並べて表示します。チェックをはずすと縦に並べて表示します。［ウィンドウ］メニューの［縦に並べて表示］や［横に並べて表示］と同じ機能です。

② 転送結果

●転送後に転送結果を表示する .....

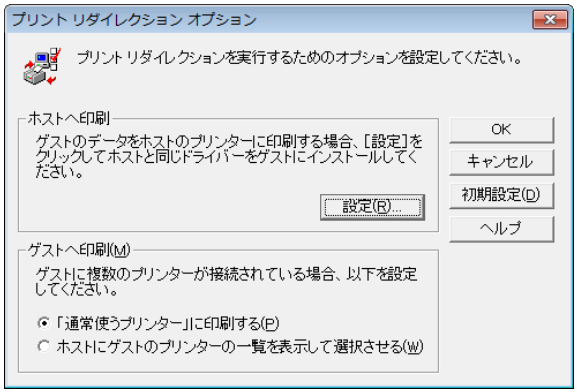
チェックすると、ファイルやフォルダーの転送後に転送結果をダイアログで表示します。

③［初期設定］ボタン

［表示］タブの設定を初期値に戻します。

6.3 プリント リダイレクション オプション

プリント リダイレクションのオプションを設定します。
クリックすると、［プリント リダイレクション オプション］ダイアログが表示されます。



① ホストへ印刷

●［設定］ボタン..... プリント リダイレクション用のプリンター ドライバーを導入する、［プリント リダイレクション設定ウィザード］ダイアログが表示されます。

② ゲストへ印刷

ゲスト パソコンに接続されたプリンターに印刷する場合に設定します。

●「通常使うプリンター」に印刷する .....
プリンター ドライバーが 1 つしか導入されていない場合、または「通常使うプリンター」として設定されているプリンターに印刷する場合に選択します。

●ホストにゲストのプリンターの一覧を表示して選択させる .....
印刷時にホスト パソコンが指定する LAPLINK 用プリンター ドライバーと、ゲスト パソコンの「通常使うプリンター」の機種が異なる場合に選択します。
選択すると、ゲスト パソコンに接続されているプリンターのリストをホスト パソコンに表示します。

③［OK］ボタン

プリント リダイレクションのオプション設定を適用し、ダイアログを閉じます。

④［初期設定］ボタン

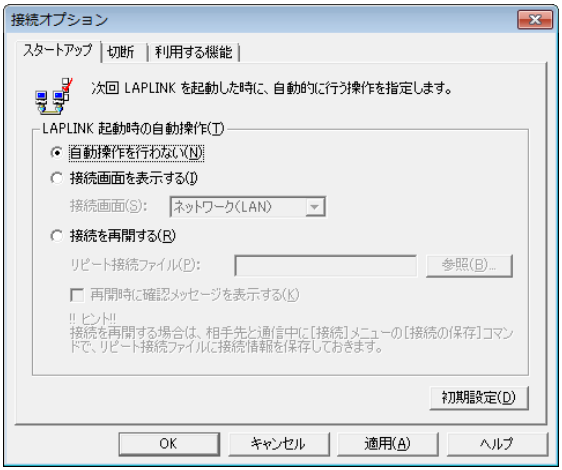
設定内容を初期値に戻します。

Memo

詳しくは、「第 7 章 2 LAPLINK 用のプリンター ドライバーを登録する」を参照してください。

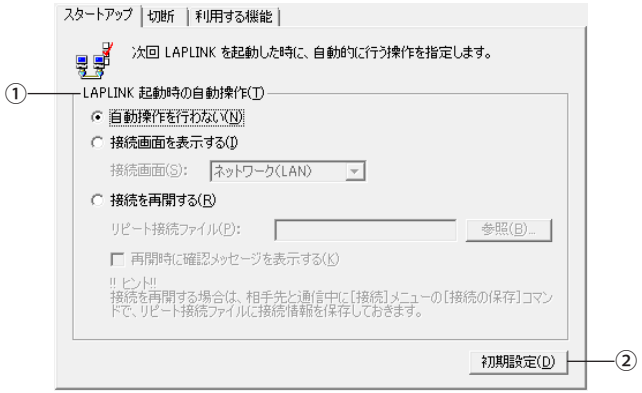
6.4 接続オプション

LAPLINK 起動時や、ホスト パソコンとの接続時の動作について設定します。
クリックすると、［接続オプション］ダイアログが表示されます。



6.4.1 ［スタートアップ］タブ

LAPLINK 起動時のオプションを設定します。



① LAPLINK 起動時の自動操作

●自動操作を行わない .....
LAPLINK 起動時に、何も自動操作を行いません。

●接続画面を表示する .....
LAPLINK 起動時に、選択された接続画面を表示します。

●接続を再開する ..... 指定したリピート接続ファイル（拡張子：*.LLC）で、ホスト パソコンと接続します。リピート接続ファイルをフルパスで指定するか、または［参照］ボタンをクリックして表示されるダイアログからファイルを選択します。
［再開時に確認メッセージを表示する］にチェックすると、接続前に確認メッセージを表示します。

②［初期設定］ボタン

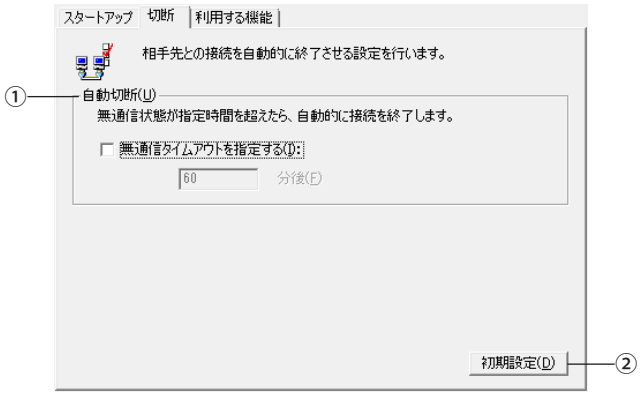
［スタートアップ］タブの設定を初期値に戻します。

Memo

リピート接続ファイルは、［接続］メニューの［接続の保存］で作成します。

6.4.2 ［切断］タブ

ホスト パソコンとの接続を自動的に切断するときのオプションを設定します。



① 自動切断

●無通信タイムアウトを指定する .....
チェックすると、ホスト パソコンへ接続しているときに一定時間何も作業を行わなかった場合に、回線を自動的に切断します。

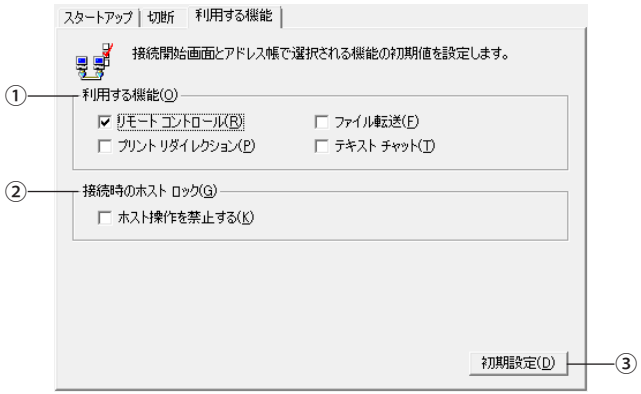
●分後 ..... ここで指定した時間、何も作業を行わなかった場合に回線を切断します。

②［初期設定］ボタン

［切断］タブの設定を初期値に戻します。

6.4.3 ［利用する機能］タブ

各接続画面やアドレス帳で設定する、［利用する機能］の初期選択値を設定します。



① 利用する機能

チェックした機能が、初期選択値として各接続ダイアログやアドレス帳の新規登録の画面でチェックされます。

例えば、ここで［リモート コントロール］と［テキスト チャット］を選択した場合、［インターネット接続］ダイアログなどを表示すると、利用する機能として最初から［リモート コントロール］と［テキスト チャット］にチェックが付くようになります。

② 接続時のホスト ロック

●ホスト操作を禁止する .....

チェックすると、接続時にホスト パソコンのマウス操作やキーボード操作を禁止します。

③［初期設定］ボタン

［利用する機能］タブの設定を初期値に戻します。

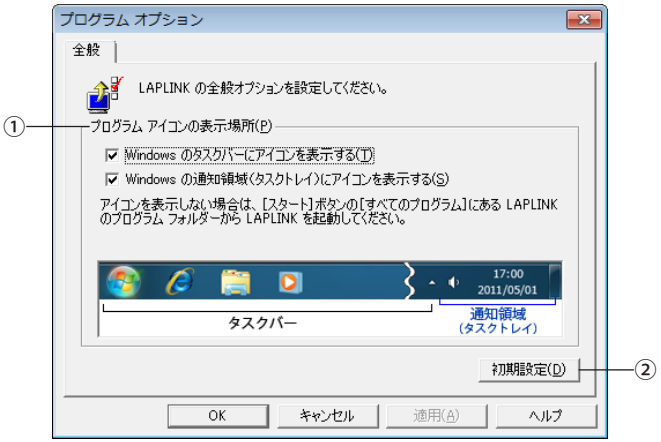
⚠ 注 意

ゲスト パソコンから機能の開始を要求、またはホスト操作の禁止を要求しても、ホスト パソコンのセキュリティで許可しないように設定されている場合は、その機能は開始されません。

詳しくは、「第 4 章 2 使用できる機能を限定する」を参照してください。

6.5 プログラム オプション

LAPLINK のプログラム アイコンを表示するかどうかを設定します。
クリックすると、［プログラム オプション］ダイアログが表示されます。



① プログラム アイコンの表示場所

●Windows のタスクバーにアイコンを表示する .....
チェックすると、LAPLINK のアイコンをタスクバーに表示します。

●Windows の通知領域（タスク トレイ）にアイコンを表示する.....
チェックすると、LAPLINK のアイコンを通知領域（タスク トレイ）に表示します。

②［初期設定］ボタン

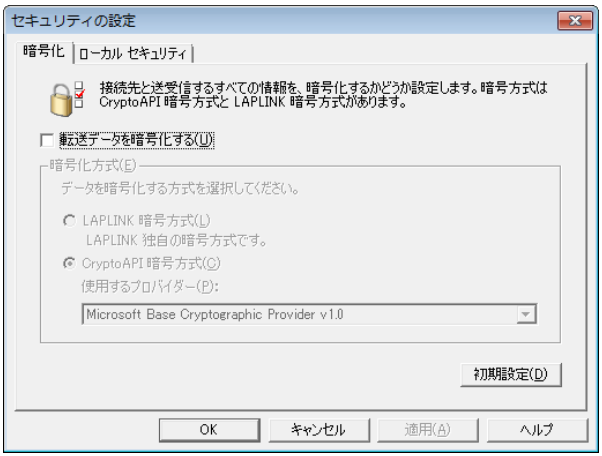
［全般］タブの設定を初期値に戻します。

Memo

タスクバーと通知領域（タスク トレイ）を表示しない設定（両方のチェックを解除した状態）にした場合、LAPLINK を最小化すると画面上には存在しないため、そのままでは元のサイズに戻すことができません。
その場合は、LAPLINK を起動した時と同じように、Windows のプログラム グループから LAPLINK を選択すると表示することができます。二重起動にはなりません。

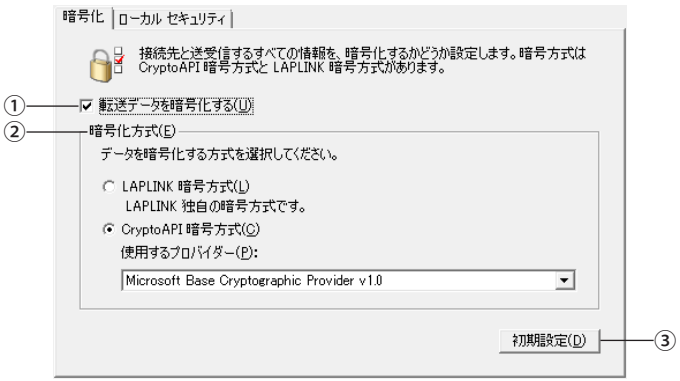
6.6 セキュリティの設定

ホスト パソコンとの通信中の情報を暗号化したり、ゲスト パソコン自身の設定を他人に変更されないようにパスワード設定したりすることができます。
クリックすると、［セキュリティの設定］ダイアログが表示されます。



6.6.1 ［暗号化］タブ

ホスト パソコンと送受信するすべての情報を暗号化することによって、セキュリティを強化することができます。



① 転送データを暗号化する

チェックすると、ホスト パソコンと送受信するすべての情報を暗号化します。

⚠ 注 意

ホスト パソコンと接続中は、設定することはできません。

② 暗号化方式

●LAPLINK 暗号方式 . . . LAPLINK 独自の暗号方式で暗号化します。

●CryptoAPI 暗号方式 . . . . . .

Microsoft 社が推奨する CryptoAPI 方式で暗号化します。

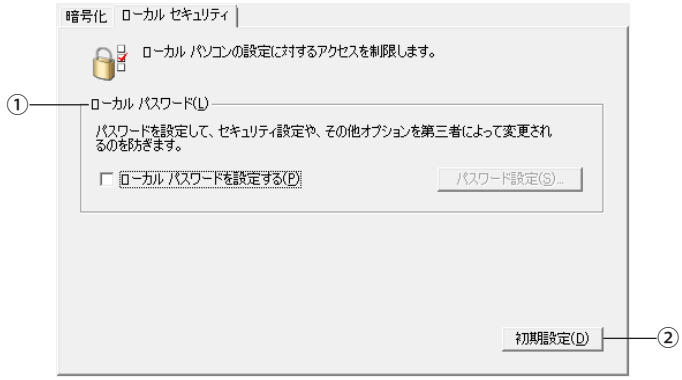
［使用するプロバイダー］のリストには、現在使用可能なプロバイダーが暗号化レベルの低い順番に表示されます。

③［初期設定］ボタン

［暗号化］タブの設定を初期値に戻します。

6.6.2 ［ローカル セキュリティ］タブ

LAPLINK の設定を他人に変更されないように、パスワードを設定することができます。



① ローカル パスワード

●ローカル パスワードを設定する . . . . . .

チェックすると、セキュリティやアドレス帳、接続のコマンド、その他のオプション選択時にパスワードの入力を要求します。パスワードは、［パスワード設定］ボタンをクリックして設定します。

●［パスワード設定］ボタン . . . . . .

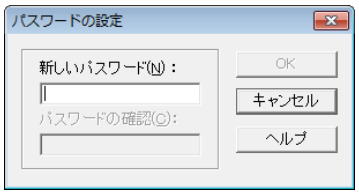
クリックすると、パスワードを指定する［パスワードの設定］ダイアログが表示されます。

注 意

ユーザーの環境によって、［使用するプロバイダー］のリストに表示される数は異なります。

Memo

パスワードは、大文字と小文字が区別されます。



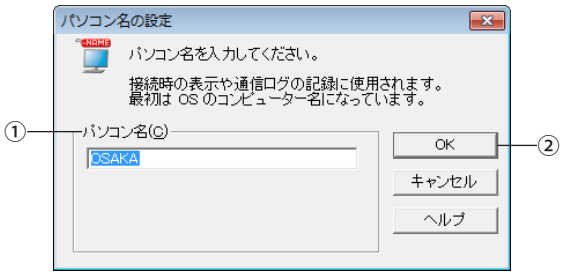
［新しいパスワード］と［パスワードの確認］の両方に、同じパスワードを入力します。画面には、入力した文字の代わりにアスタリスク（*）を表示します。パスワードは、半角 4 ～ 10 文字（全角 2 ～ 5）文字以内で指定します。

②［初期設定］ボタン

［ローカル セキュリティ］タブの設定を初期値に戻します。

6.7 パソコン名の設定

使用しているパソコンの名前を変更します。
クリックすると、［パソコン名の設定］ダイアログが表示されます。



① パソコン名

LAPLINK の通信や表示で使用するパソコン名を入力します。初期値は OS のコンピューター名になっています。

②［OK］ボタン

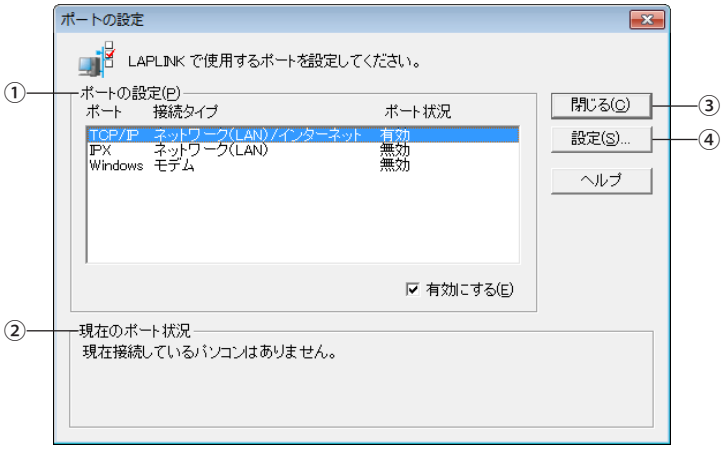
設定を適用し、ダイアログを閉じます。

⚠ 注 意

通信中やウィンドウが表示されている場合は、パソコン名を変更することはできません。変更する場合は接続を終了し、ウィンドウをすべて閉じてから行ってください。

6.8 ポートの設定

パソコン間で通信するときに使用する、通信ポートについて設定します。
クリックすると、［ポートの設定］ダイアログが表示されます。



① ポートの設定

各ポートの接続形態やポートが使用可能であるか、リストで表示されます。

●有効にする ..... チェックすると、［ポートの設定］のリストで選択されているポートを使用可能な状態にします。［ポート状況］には、［有効］と表示されます。［無効］や［設定不可］の場合は、［現在のポート状況］で確認してください。

② 現在のポート状況

［ポートの設定］のリストで選択されてるポートが、現在どのような状況か表示します。

③［閉じる］ボタン

［ポートの設定］ダイアログを閉じます。

④［設定］ボタン

各ポートで指定されている接続形態について、詳細に設定を行います。
クリックすると、ポートによって異なるダイアログが表示されます。

●［ポート］が［TCP/IP］の場合 .....
「6.8.1 TCP/IP ポートの設定」を参照してください。

●［ポート］が［IPX］の場合 .....
「6.8.2 IPX ポートの設定」を参照してください。

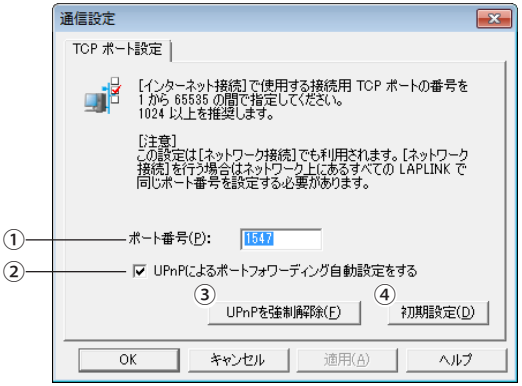
⚠ 注 意

複数のポートを［有効］に設定して問題が発生した場合は、使用しないポートを［無効］に設定してください。

●［ポート］が［Windows］（接続タイプ：モデム）の場合 . . . . . 「6.8.3 Windows モデムの設定」を参照してください。

6.8.1 TCP/IP ポートの設定

［ポートの設定］のリストで、［TCP/IP］を選択して［設定］ボタンをクリックすると、［通信設定］ダイアログが表示されます。



① ポート番号

使用するポートを変更できます。「1024」未満は使用できない可能性がありますので、「1024 ～ 65535」の範囲で指定することを推奨します。
ネットワーク（LAN）接続をする場合は、ホスト パソコンと同じ値にする必要があります。

② UPnP によるポートフォワーディング自動設定をする

チェックすると、ルーターのポートフォワーディング設定を LAPLINK が自動で行います。

③［UPnP を強制解除］ボタン

LAPLINK の異常終了などによって、ルーターに残ってしまったポートフォワーディング設定を解除したい場合にクリックします。

④［初期設定］ボタン

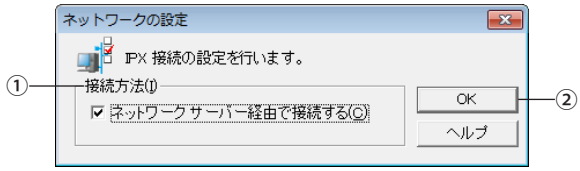
設定内容を初期値に戻します。

Memo

ポートフォワーディングについては、「第 2 章 1.1.1 自動ポートフォワーディングを設定する」を参照してください。

6.8.2 IPX ポートの設定

［ポートの設定］のリストで、［IPX］を選択して［設定］ボタンをクリックすると、［ネットワークの設定］ダイアログが表示されます。



① 接続方法

●ネットワーク サーバー経由で接続する...

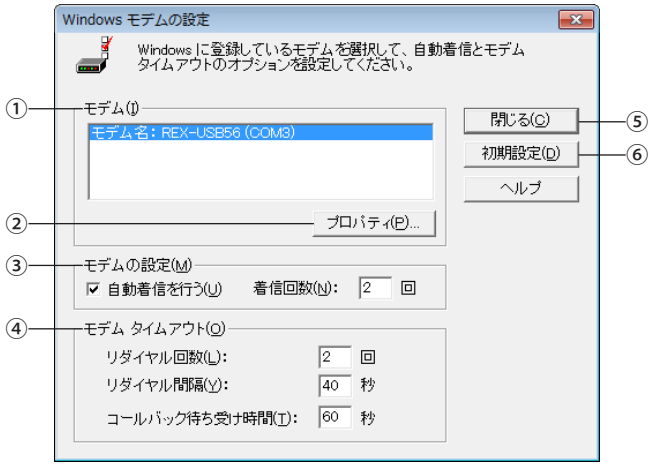
チェックすると、IPX ネットワーク上のすべてのサーバーから認識されます。同じネットワークに接続しているホスト パソコンに、［ネットワーク（LAN）接続］から接続できます。

② ［OK］ボタン

設定を適用し、ダイアログを閉じます。

6.8.3 Windows モデムの設定

［ポートの設定］のリストで、［モデム］（ポート：Windows）を選択して［設定］ボタンをクリックすると、［Windows モデムの設定］ダイアログが表示されます。



⚠ 注意

IPX での通信は、Windows Server 2003 R2（32bit）、Windows Server 2003（32bit）、Windows XP のみ対応しています。

① モデム

Windows にインストールされているモデムがリスト表示されます。設定するモデムを選択します。

②［プロパティ］ボタン

クリックすると、選択したモデムのプロパティが表示されます。モデムのプロパティについては、Windows のオンライン ヘルプを参照してください。

③ モデムの設定

- 自動着信を行う ..... チェックすると、コールバックされた場合に自動的に応答します。チェックされていないと、モデムはダイヤルに応答しません。
- 着信回数 ..... コールバックされたときに、モデムが応答するまでの呼び出し回数を入力します。

④ モデム タイムアウト

- リダイヤル回数 ..... リダイヤルの回数を入力します。
- リダイヤル間隔 ..... リダイヤルする間隔を秒単位で入力します。
- コールバック待ち受け時間 ..... 相手のパソコンにダイヤル後、コールバック接続が完了するまでの待機時間を秒単位で入力します。

⑤［閉じる］ボタン

［Windows モデムの設定］ダイアログを閉じます。

⑥［初期設定］ボタン

設定内容を初期値に戻します。

⚠ 注 意

- モデム接続で正常に通信できない場合は、通信速度を下げて試してください。
- 使用しているモデムによっては、リダイヤル間隔が制限されている場合があります。詳しくはモデムの取扱説明書を参照してください。
- コールバック機能を使用する場合、ゲスト パソコン側の［コールバック接続待ち受け時間］をホスト パソコン側の［コールバックダイヤル開始時間］よりも長く設定してください。
- ターミナル アダプターの同期通信には、対応していません。
  非同期通信を行ってください。
- 複数のモデムがインストールされている場合は、使用するモデムを選択したときのみ、［自動着信を行う］にチェックがつくように設定してください。

6.9 通信ログの設定と表示

接続先、接続時間、転送ファイル名、セキュリティ情報など、過去の通信記録をファイルに残します。
通信ログファイルは、LAPyyyymmdd.LOG という形式で保存されます。
例えば、「2011 年 3 月 19 日」に作成された通信ログファイルは、
「LAP20110319.LOG」というファイル名で保存されます。

ファイルは以下の場所に保存されます。

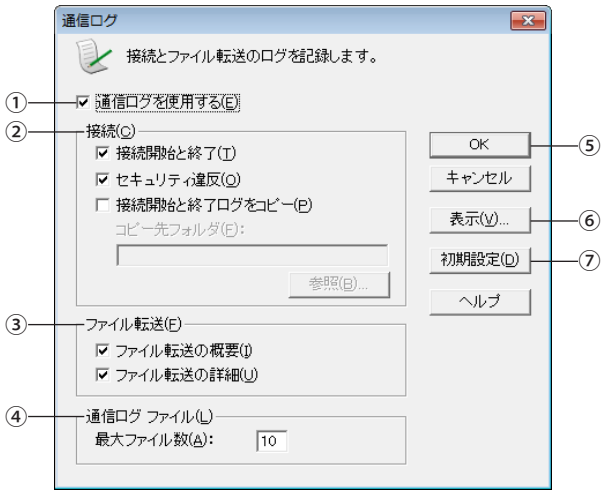
Windows Server 2008 R2、Windows 7、Windows Server 2008

¥ProgramData¥InterCom¥LAPLINK 13¥Guest

Windows Server 2003 R2、Windows Server 2003、Windows XP

¥Documents and Settings¥All Users¥Application Data¥Intercom¥LAPLINK 13¥Guest

クリックすると、［通信ログの設定と表示］ダイアログが表示されます。



① 通信ログを使用する

チェックすると、通信ログファイルを作成します。

② 接続

- ●接続開始と終了 ..... チェックすると、行われた接続と切断をすべて記録します。
- ●セキュリティ違反 .... チェックすると、誤ったログイン名とパスワードで接続しようとして拒否された内容を記録します。

●接続開始と終了ログをコピー .....

チェックすると、［コピー先フォルダー］で指定したフォルダーに、ログ ファイルを自動的にコピーします。すべてのゲスト パソコンが、決められたネットワーク上のパソコンにログ ファイルをコピーすることで、管理者がゲスト パソコンのログを一括管理することができます。

③ ファイル転送

●ファイル転送の概要 .....

チェックすると、コピーや移動をしたファイル数を記録します。

●ファイル転送の詳細 .....

チェックすると、コピーや移動をしたファイル名を記録します。コピーや移動に失敗したファイル名も記録します。

④ 通信ログ ファイル

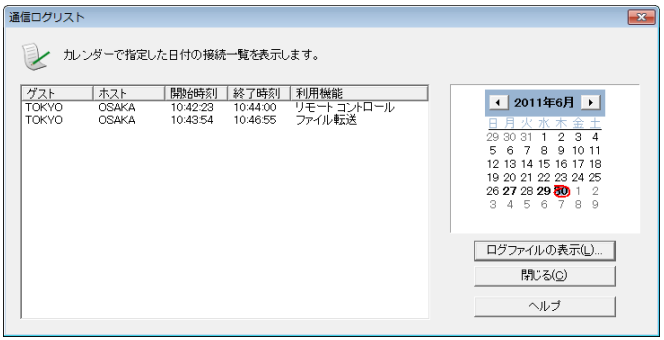
●最大ファイル数 ..... 最大いくつまで通信ログ ファイルを作成するか、数を入力します（最大 99 まで）。指定した最大数に達すると、一番古い通信ログ ファイルから削除されます。

⑤［OK］ボタン

設定を適用し、ダイアログを閉じます。

⑥［表示］ボタン

クリックすると、［通信ログリスト］ダイアログが表示されます。



表示したいファイルを選択して［ログファイルの表示］ボタンをクリックすると、Windows のワードパッドに通信ログファイルを表示します。なお、ワードパッドの操作方法については、Windows のオンライン ヘルプを参照してください。

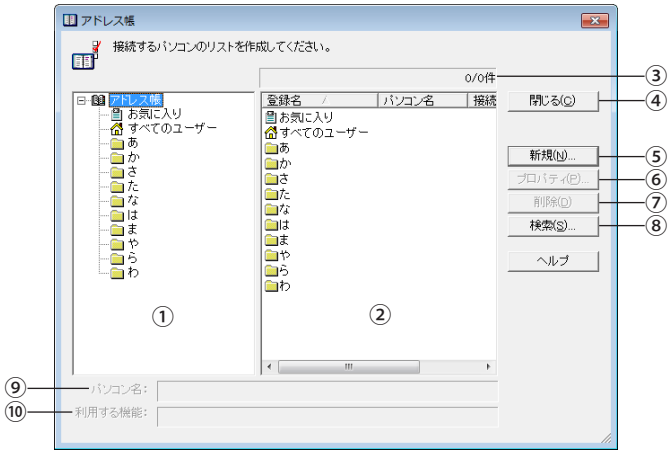
⑦［初期設定］ボタン

設定内容を初期値に戻します。

6.10 アドレス帳

ホスト パソコンとの接続方法やセキュリティ情報、接続時に利用する機能などをアドレス帳に登録することによって、接続時の作業を簡単にすることができます。

クリックすると、［アドレス帳］ダイアログが表示されます。



① フォルダー枠

アドレス帳内をフォルダー単位でツリー表示します。任意にフォルダーを作成したり削除することができます。

② リスト枠

フォルダー枠で選択されているフォルダーに登録されているユーザーが、一覧で表示されます。

③ 件数

現在リスト枠で表示されている件数/アドレス帳に登録されている総件数が表示されます。

④［閉じる］ボタン

［アドレス帳］ダイアログを閉じます。

⑤［新規］ボタン

アドレス帳に新規に登録します。クリックすると、［アドレス帳の登録］ダイアログが表示されます。詳しくは、「6.10.1 アドレス帳への登録」を参照してください。

Memo

［すべてのユーザー］を選択すると、登録されているすべてのリストを表示することができます。

⑥ **［プロパティ］ボタン**

アドレス帳に登録されている情報を表示、編集します。クリックすると、［アドレス帳のプロパティ］ダイアログが表示されます。詳しくは、「6.10.2 登録内容の編集」を参照してください。

⑦ **［削除］ボタン**

ユーザーやフォルダーを削除します。詳しくは、「6.10.4 登録内容の削除」を参照してください。

⑧ **［検索］ボタン**

アドレス帳に登録されているユーザーを登録名で検索します。クリックすると、［検索］ダイアログが表示されます。詳しくは、「6.10.5 ユーザーの検索」を参照してください。

⑨ **パソコン名**

リスト枠で選択されているユーザーのパソコン名や IP アドレス、電話番号、インターネット接続名が表示されます。

⑩ **利用する機能**

リスト枠で選択されているユーザーが、接続時に開始する機能を表示します。

なお、アドレス帳のデータは「LLGOLD.PBK」というファイル名で以下の場所に保存されています。

Windows Server 2008 R2、Windows 7、Windows Server 2008

¥ProgramData¥Intercom¥LAPLINK 13¥Guest

Windows Server 2003 R2、Windows Server 2003、Windows XP

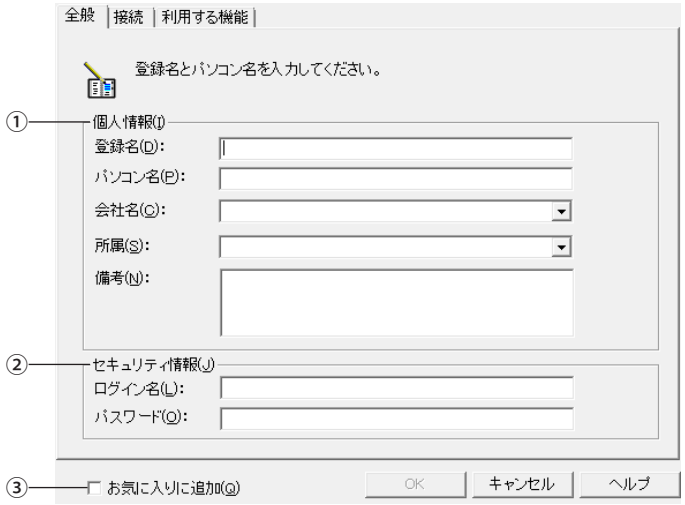
¥Documents and Settings¥All Users¥Application Data¥Intercom¥LAPLINK 13¥Guest

他のパソコンにコピーしたい場合は、同じ場所にコピーしてください。

6.10.1 アドレス帳への登録

アドレス帳に新規に登録します。
登録したいフォルダーを選択して［新規］ボタンをクリックすると、［アドレス帳の登録］ダイアログが表示されます。

【［全般］タブ】



① 個人情報

ユーザーの個人情報を登録します。

- ●登録名 ..... アドレス帳での登録名を入力します。この項目は必ず入力してください。
- ●パソコン名 ..... LAPLINK が通信上で使用する名前を入力します。この項目は必ず入力してください。
  接続するホスト パソコンの［パソコン名の設定］で設定されている名前を入力してください。
- ●会社名 ..... ユーザーの会社名などを入力します。
- ●所属 ..... ユーザーの所属や部署などを入力します。
- ●備考 ..... メモ欄として利用することができます。

② セキュリティ情報

ホスト パソコンが、ログイン リストを使用して接続するパソコンを限定している場合は入力します。
相手がセキュリティを設定していると、接続時にログイン名とパスワードを要求してきます。あらかじめ、ここで情報を登録しておけば、入力せずに接続できます。

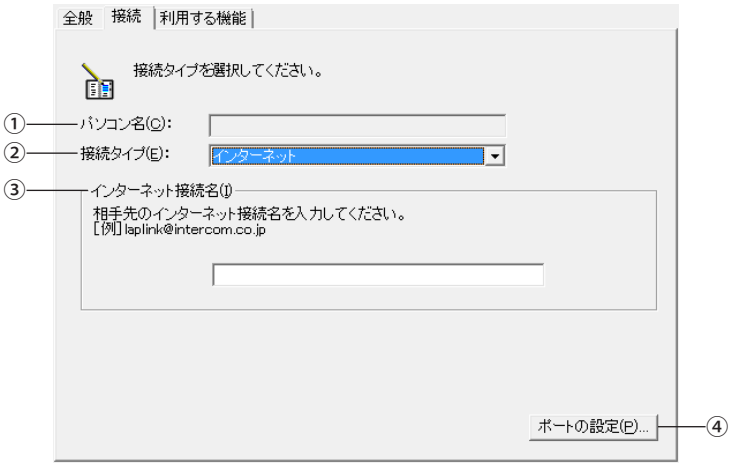
③ お気に入りに追加

チェックすると選択したフォルダーだけでなく、アドレス帳の［お気に入り］フォルダーにも登録します。

Memo

パスワードは、大文字と小文字が区別されます。

【[接続] タブ】



① パソコン名

[全般] タブの [パソコン名] で入力したパソコン名が表示されます。ここでは入力することはできません。入力し直す場合は、[全般] タブの [パソコン名] を変更します。

② 接続タイプ

接続形式を [インターネット] [ネットワーク (LAN) : パソコン名] [ネットワーク (LAN) : IP アドレス] [モデム] から選択します。

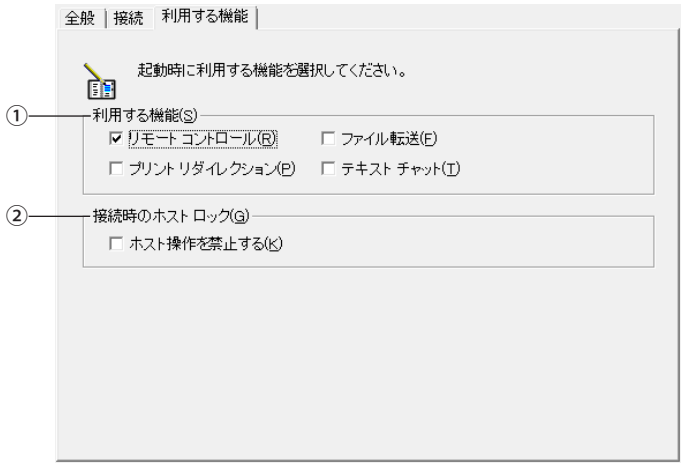
③ IP アドレス/インターネット接続名/電話番号の入力、使用モデム

[接続タイプ] で、[ネットワーク (LAN) : IP アドレス]、[インターネット]、[モデム] のいずれかを選択した場合に指定することができます。[ネットワーク (LAN) : IP アドレス] を選択した場合は IP アドレスを、[インターネット] を選択した場合はインターネット接続名を、[モデム] を選択した場合は電話番号とモデムを、それぞれ指定します。

④ [ポートの設定] ボタン

通信ポートについての設定を行います。クリックすると、[ポートの設定] ダイアログが表示されます。詳しくは、「6.8 ポートの設定」を参照してください。

【[利用する機能] タブ】



① 利用する機能

接続時に開始する機能にチェックします。

② 接続時のホスト ロック

●ホスト操作を禁止する .....

チェックすると、接続時にホスト パソコンのマウス操作とキーボード操作を禁止します。

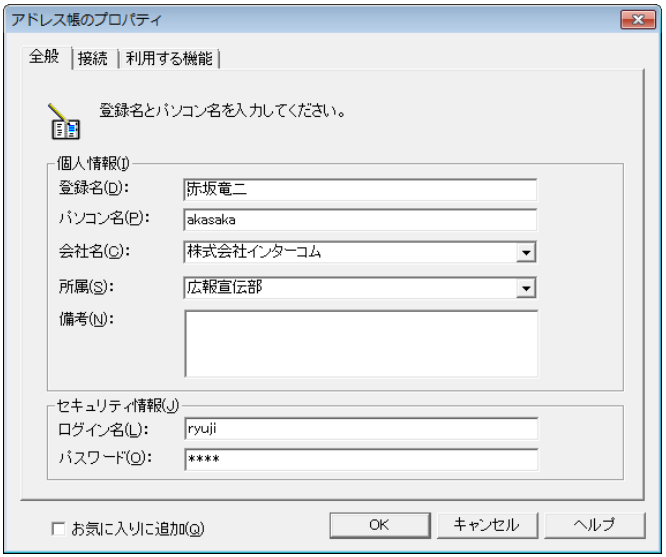
Memo

ゲスト パソコンから機能の開始を要求、またはホスト操作の禁止を要求しても、ホスト パソコンのセキュリティで許可しないように設定されている場合は、その機能は開始されません。

詳しくは、「第 4 章 2 使用できる機能を限定する」を参照してください。

6.10.2 登録内容の編集

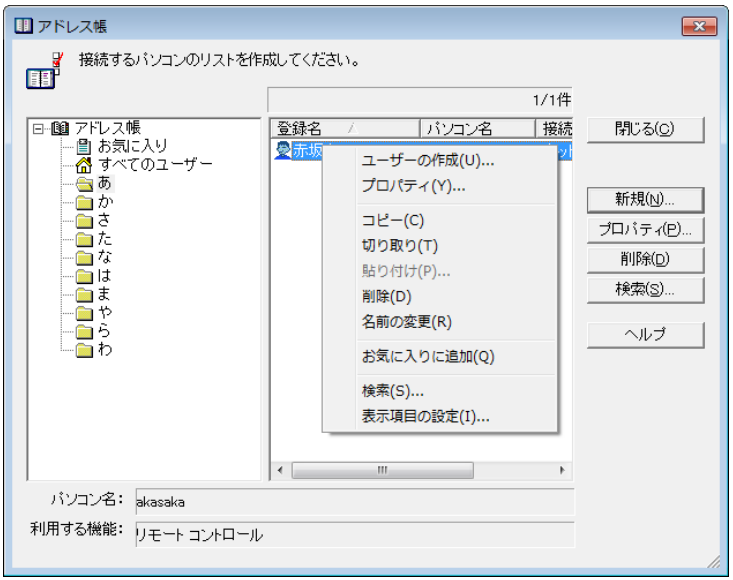
アドレス帳に登録されているユーザー情報を変更します。
［アドレス帳］ダイアログから変更したいユーザーを選択して、［プロパティ］ボタンをクリックすると、［アドレス帳のプロパティ］ダイアログが表示されます。



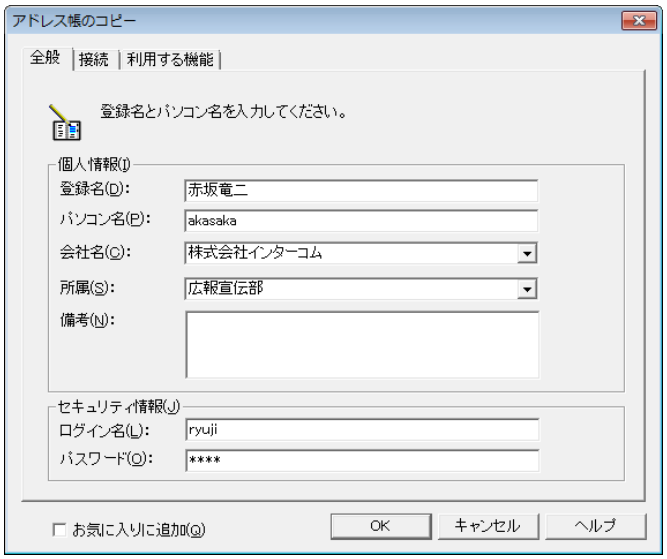
［アドレス帳のプロパティ］ダイアログには、選択したユーザーの情報が読み込まれて表示されます。
編集したい個所を入力して［OK］ボタンをクリックすると、ユーザーの情報が変更されます。

6.10.3 登録内容のコピー

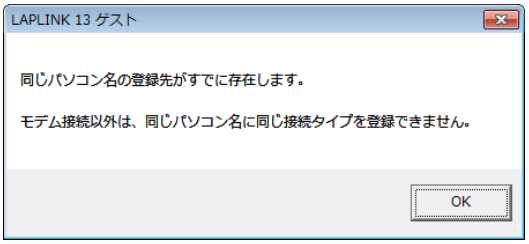
アドレス帳に登録されているユーザー情報を利用して、新規にユーザーを登録します。
［アドレス帳］ダイアログからコピーしたいユーザーを選択して、マウスで右クリックします。
ショートカット メニューが表示されますので、メニューから［コピー］を選択します。



フォルダー枠からコピーしたユーザーを貼り付けるフォルダーを選択して、ショートカット メニューを表示します。
メニューから［貼り付け］をクリックすると、［アドレス帳のコピー］ダイアログが表示されます。



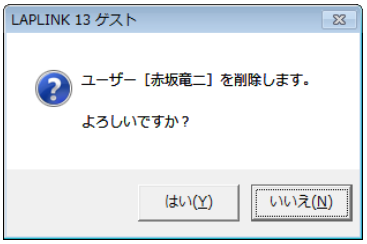
［アドレス帳のコピー］ダイアログには、コピーしたユーザーの情報が読み込まれています。
各項目を入力し直して［OK］ボタンをクリックすると、コピーしたユーザー情報を利用して新規にユーザーを登録することができます。
なお、すでに同じパソコン名で、同じ接続タイプのユーザーが登録されている場合、次のメッセージが表示されます。



この場合は［全般］タブの［パソコン名］、または［接続］タブの［接続タイプ］を変更して、登録し直してください。

6.10.4 登録内容の削除

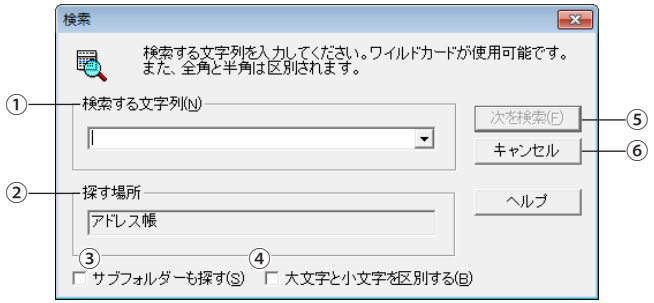
アドレス帳に登録されているユーザーやフォルダーを削除します。
［アドレス帳］ダイアログのリスト枠から、削除したいユーザーやフォルダーを選択して［削除］ボタンをクリックすると、確認のメッセージが表示されますので、ボタンを選択します。



［はい］ボタンをクリックすると、アドレス帳から削除されます。

6.10.5 ユーザーの検索

アドレス帳に登録されているユーザーの登録名を対象に、指定した文字列を検索します。
［アドレス帳］ダイアログのフォルダー枠から、検索の対象となるフォルダーを選択して［検索］ボタンをクリックすると、［検索］ダイアログが表示されます。



① 検索する文字列

登録名を対象に、検索したい文字列を入力します。
ワイルドカード（＊や？）を使用することができます。

② 探す場所

検索するフォルダーが表示されます。

Memo

- ［お気に入り］フォルダーに登録されているユーザーを削除しても、アドレス帳からは削除されません。
- フォルダーから削除したユーザーは、［お気に入り］フォルダーからも削除されます。

③ サブフォルダーも探す

チェックすると、［探す場所］で指定したフォルダーにあるサブフォルダーも、検索の対象となります。

④ 大文字と小文字を区別する

チェックすると、英数字の大文字と小文字が［検索する文字列］に入力した文字列と合致しなければ、検索の対象になりません。

⑤［次を検索］ボタン

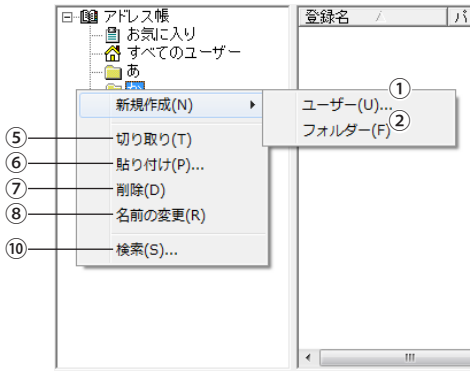
検索を行います。クリックすると、リスト枠内の該当するユーザーにカーソルが移動します。クリックするたびに、次の候補にカーソルが移動します。

⑥［キャンセル］ボタン

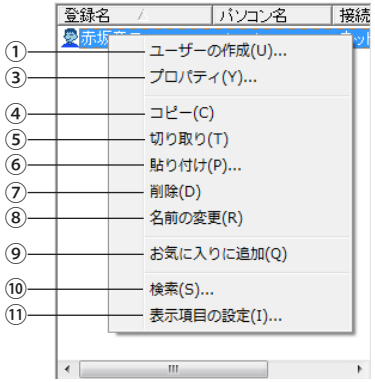
［検索］ダイアログを閉じます。

6.10.6 アドレス帳のショートカット メニュー

フォルダー枠やリスト枠をマウスで右クリックすると、ショートカット メニューが表示されます。



- フォルダー枠 -



- リスト枠 -

① 新規作成 ― ユーザー/ユーザーの作成

ユーザーを新規に登録します。詳しくは、「6.10.1 アドレス帳への登録」を参照してください。

② 新規作成 ― フォルダー

フォルダー枠のカーソル位置に、フォルダーを新規に作成します。

③ プロパティ

登録されているユーザー情報の表示、変更をします。詳しくは、「6.10.2 登録内容の編集」を参照してください。

④ **コピー**

ユーザーをコピーします。［貼り付け］で再利用することができます。詳しくは、「6.10.3 登録内容のコピー」を参照してください。

⑤ **切り取り**

ユーザーやフォルダーを切り取ります。［切り取り］は［コピー］と違い、リストから削除されます。［貼り付け］で再利用することができます。

⑥ **貼り付け**

［コピー］や［切り取り］されたユーザーやフォルダーを、リストのカーソルの位置に貼り付けます。

⑦ **削除**

ユーザーやフォルダーを削除します。詳しくは、「6.10.4 登録内容の削除」を参照してください。

⑧ **名前の変更**

登録名を変更します。変更したいユーザーやフォルダー上でこのコマンドを選択すると、入力が可能な状態になります。

⑨ **お気に入りに追加**

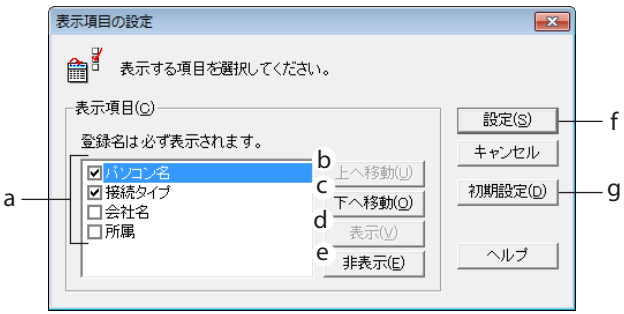
ユーザーを［お気に入り］フォルダーにも登録します。

⑩ **検索**

ユーザーの登録名から、指定した文字列を検索します。詳しくは、「6.10.5 ユーザーの検索」を参照してください。

⑪ **表示項目の設定**

リスト枠に表示する項目について設定します。クリックすると、［表示項目の設定］ダイアログが表示されます。



a. リスト

チェックマークのついている項目がリスト枠に表示されます。上からの順番で、リスト枠の左から表示されます。

b. [上へ移動] ボタン
選択している項目を 1 つ上に移動して、リスト枠での表示位置を変更します。

c. [下へ移動] ボタン
選択している項目を 1 つ下に移動して、リスト枠での表示位置を変更します。

d. [表示] ボタン
選択している項目にチェックマークをつけます。

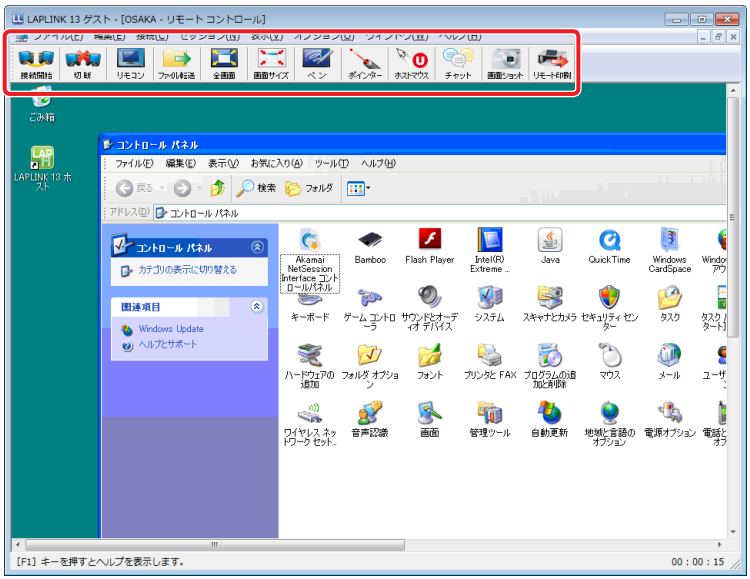
e. [非表示] ボタン
選択している項目のチェックマークをはずします。

f. [設定] ボタン
設定を適用し、ダイアログを閉じます。

g. [初期設定] ボタン
設定内容を初期値に戻します。

6.11 接続バー

接続バーの表示/非表示を切り替えます。
クリックすると、チェックマークの有無で表示/非表示を切り替えることができます。
接続バーに表示されるアイコンは、表示されているウィンドウによって異なります。



●

ホスト パソコンと接続します。クリックすると、メニューが表示されます。

a.

インターネット上に設置されたインターコム インターネット サーバーを経由して、ホスト パソコンと接続します。詳しくは、「第 2 章 1 インターネット接続」を参照してください。

b.

ネットワークを経由して、ホスト パソコンと接続します。詳しくは、「第 2 章 2 ネットワーク（LAN）接続」を参照してください。

Memo

接続バーをドラッグすると、任意の場所に配置することができます。

c.

モデム、またはターミナル アダプターを使用して、ホスト パソコンと電話回線で接続します。
詳しくは、「第 2 章 3 モデム接続」を参照してください。

-

接続しているホスト パソコンとの通信を切断します。
詳しくは、「第 2 章 8 接続を終了する」を参照してください。

-

ホスト パソコンの画面を表示する、[リモート コントロール] ウィンドウを表示します。
詳しくは、「第 3 章 リモート コントロールする」を参照してください。

-

ファイル転送ウィンドウを表示します。
詳しくは、「第 6 章 ファイル転送」を参照してください。

-

[リモート コントロール] ウィンドウを、ゲスト パソコンのディスプレイ全体を使って表示します。
詳しくは、「第 3 章 3.1 ディスプレイ全体を使って表示する」を参照してください。

-

ホスト パソコンの画面を、ゲスト パソコンの [リモート コントロール] ウィンドウに収まるように表示します。
詳しくは、「第 3 章 3.2 ウィンドウに収まるように表示する」を参照してください。

-

デスクトップ ペンを開始、または終了します。
詳しくは、「第 3 章 6 デスクトップ ペンで書き込む」を参照してください。

-

  レーザーポインターを開始、または終了します。
  詳しくは、「第 3 章 7 レーザーポインターで指示する」を参照してください。

-

  ホスト パソコンのマウス カーソルを表示します。
  詳しくは、「第 3 章 8 ホスト パソコンのマウスカーソルを表示する」を参照してください。

-

  [テキスト チャット] ウィンドウを表示します。
  詳しくは、「第 5 章 テキスト チャット機能」を参照してください。

-

  ホスト パソコンの画面を撮影するための［画面ショット］ダイアログを表示します。
  詳しくは、「第 3 章 5 画面を撮影する」を参照してください。

-

  プリント リダイレクションを開始します。
  詳しくは、「第 7 章 プリント リダイレクション機能」を参照してください。

-

  [アドレス帳] を表示します。
  詳しくは、「6.10 アドレス帳」を参照してください。

6.12 ステータス ライン

ステータス ラインの表示/非表示を切り替えます。
クリックすると、チェックマークの有無で表示/非表示を切り替えることができます。

7 ウィンドウ メニュー

［ウィンドウ］メニューは、ウィンドウが表示されている場合と表示されていない場合とでは、表示されるドロップダウン メニューの内容が異なります。

7.1 ローカル ファイル転送を開く

ゲスト パソコン内でファイルを操作するためのウィンドウを表示します。
ホスト パソコンと接続していても、ゲスト パソコンのファイル転送ウィンドウを 2 つ表示します。

7.2 リモート コントロールを開く

［リモート コントロール］ウィンドウを表示します。［リモート コントロール］ウィンドウには、ホスト パソコンの画面が表示されます。

⚠ 注 意

［リモート コントロール］ウィンドウは、ホスト パソコンと接続していなければ表示できません。

7.3 ファイル転送を開く

ファイル転送ウィンドウを表示します。接続していない場合は、［ローカルファイル転送を開く］と同様に、ゲスト パソコン自身のファイル転送ウィンドウを表示します。

7.4 テキスト チャットを開く

ホスト パソコンと文字で会話ができる、［テキスト チャット］ウィンドウを表示します。

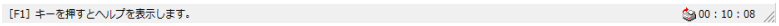
⚠ 注 意

テキスト チャット ウィンドウは、ホスト パソコンと接続していなければ表示できません。

7.5 プリント リダイレクションを開く

ホスト パソコンとプリント リダイレクションを開始します。

プリント リダイレクションが開始されると、LAPLINK のステータス ラインに アイコンが表示されます。



アイコンを右クリックすると、メニューが表示されます。

●オプション ..... [プリント リダイレクション オプション] ダイアログが表示されます。[オプション] メニューから [プリント リダイレクション オプション] をクリックした場合と同じダイアログです。詳しくは、「6.3 プリント リダイレクション オプション」を参照してください。

●閉じる ..... プリント リダイレクションを終了します。
なお、プリント リダイレクションの操作方法については、「第 7 章 プリント リダイレクション機能」を参照してください。

7.6 重ねて表示

Shift + F5

開いているウィンドウを、タイトル バーが見えるように重ねて表示します。

7.7 横に並べて表示

Shift + F3

開いているウィンドウを横に並べて表示します。

7.8 縦に並べて表示

Shift + F4

開いているウィンドウを縦に並べて表示します。

⚠ 注 意

プリント リダイレクションは、ホスト パソコンと接続していなければ実行できません。

7.9 ウィンドウ アイコンの整列

ウィンドウがアイコン化（最小化）されている場合、そのアイコンを等間隔で並べます。

7.10 最新の情報に更新

F5

ファイル転送ウィンドウで表示されている内容が変更された場合、例えば CD-ROM ドライブのディスクを差し替えたり、ディスクの内容を変更した場合に、ファイル転送ウィンドウの内容を最新の状態に表示します。
また、［リモート コントロール］ウィンドウで表示されている内容を更新する場合にも使用します。

7.11 すべてのウィンドウを閉じる

表示しているウィンドウをすべて閉じます。

7.12 ウィンドウ リスト

現在表示しているウィンドウやアイコン化（最小化）しているウィンドウのタイトルがすべて表示されています。
リストからウィンドウ名をクリックすると、そのウィンドウがアクティブになります。

8 ヘルプ メニュー

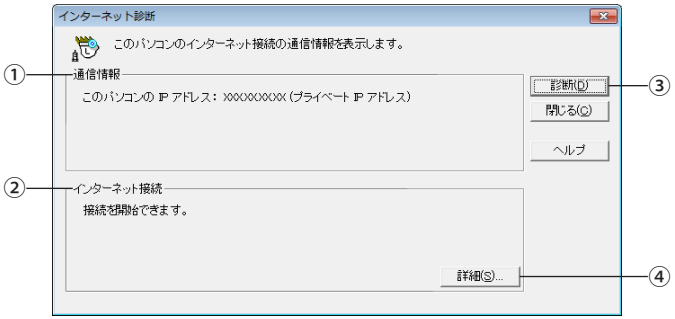
8.1 ヘルプ

F1

LAPLINK 13 ゲストのヘルプを表示します。

8.2 インターネット診断

このパソコンがインターネット接続できる環境かどうかを確認します。クリックすると、診断を開始し、結果が［インターネット診断］ダイアログに表示されます。



① 通信情報

このパソコンの IP アドレスが表示されます。

② インターネット接続

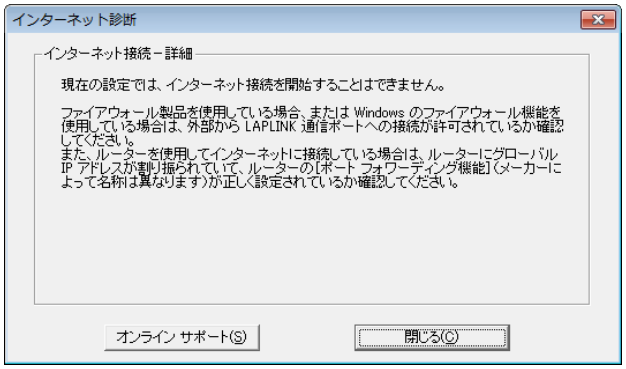
このパソコンからインターネット接続を開始できるかどうかの診断結果が表示されます。

③［診断］ボタン

インターネット診断を開始します。

④［詳細］ボタン

インターネット診断の詳細なコメントを参照することができます。
選択すると、次のダイアログが表示されます。



表示されているコメントを参考にして、インターネット接続の問題を解決します。
なお、［オンライン サポート］ボタンをクリックすると、弊社インターコムの LAPLINK 13 サポートページを、Web ブラウザーから閲覧することができます。

8.3 オンライン サポート

Web ブラウザーを起動して、弊社インターコムが公開している LAPLINK の最新情報を参照できます。

8.4 バージョン情報

LAPLINK のバージョン、使用者の名前、会社名、シリアル番号などが表示されます。

第 10 章

ホストのメニュー コマンド

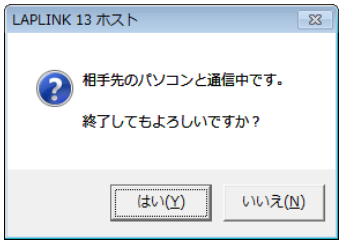
1 ファイル メニュー
2 編集メニュー
3 接続メニュー
4 オプション メニュー
5 ウィンドウ メニュー
6 ヘルプ メニュー

1 ファイル メニュー

1.1 終了

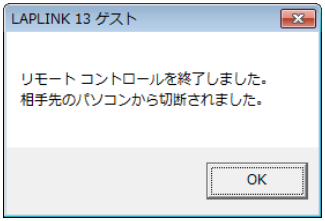
Alt + F4

LAPLINK を終了します。
リモート コントロールなどの機能を実行中にこのコマンドを選択した場合は、次のメッセージが表示されます。



- ［はい］ボタン . . . . . 通信を切断し LAPLINK を終了します。
- ［いいえ］ボタン . . . . . LAPLINK を終了しません。

終了すると、ゲスト パソコンでは次のメッセージが表示されます。



［OK］ボタンをクリックしてください。

2 編集メニュー

［編集］メニューは、［テキスト チャット］ウィンドウを表示したときのみ表示されます。

テキスト チャット ウィンドウ

2.1 元に戻す

Ctrl + Z

最後に行った編集作業を取り消し、1 つ前の状態に戻します。
［切り取り］や［貼り付け］といった編集作業、または最後に入力した文字列を取り消すことができます。

テキスト チャット ウィンドウ

2.2 切り取り

Ctrl + X

チャット入力枠で範囲指定されている文章を削除して、クリップボードに転送します。

テキスト チャット ウィンドウ

2.3 コピー

Ctrl + C

チャット表示枠やチャット入力枠で範囲指定されている文章を、クリップボードにコピーします。

テキスト チャット ウィンドウ

2.4 貼り付け

Ctrl + V

クリップボードにコピーされている文章を、チャット入力枠のカーソル位置に貼り付けます。

⚠ 注意

［テキスト チャット］ウィンドウは、ゲスト パソコンと接続しなければ開くことはできません。

テキスト チャット ウィンドウ

2.5 すべて選択

Ctrl + A

チャット表示枠、またはチャット入力枠の文章をすべて選択します。[コピー] や [切り取り] の対象とします。

テキスト チャット ウィンドウ

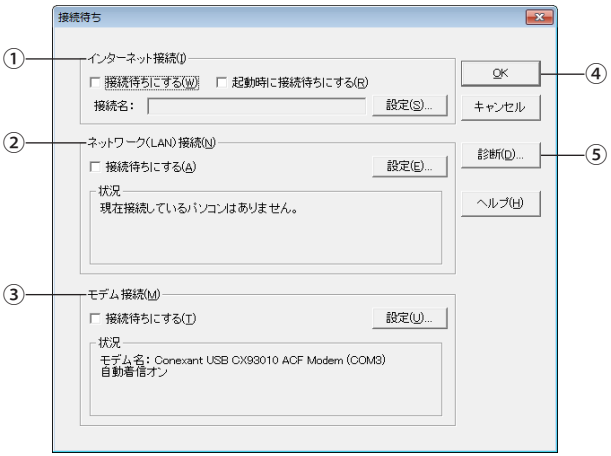
2.6 チャット内容の保存

[テキスト チャット] ウィンドウの内容を、テキスト形式のファイルに保存します。

3 接続 メニュー

3.1 接続待ち

接続待ちを設定する［接続待ち］ダイアログを表示します。



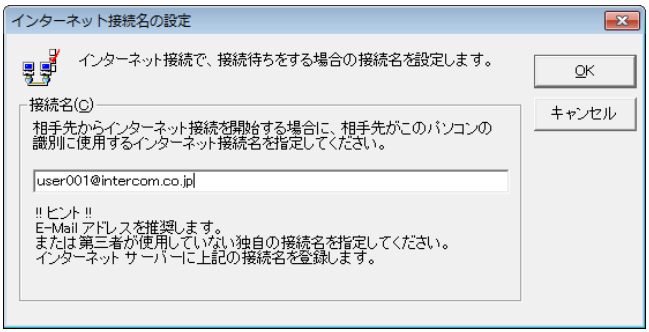
① インターネット接続

●接続待ちにする ..... チェックすると、インターネット接続を待機します。［接続名］を指定する必要があります。

●起動時に接続待ちにする .....
チェックすると、LAPLINK 起動時にインターネット接続待ちを開始します。

●接続名 ..... インターコム インターネット サーバーに登録する、または登録している自分のインターネット接続名が表示されます。

●［設定］ボタン.....インターネット接続名を設定します。クリックすると、［インターネット接続名の設定］ダイアログが表示されますので、接続名を入力します。

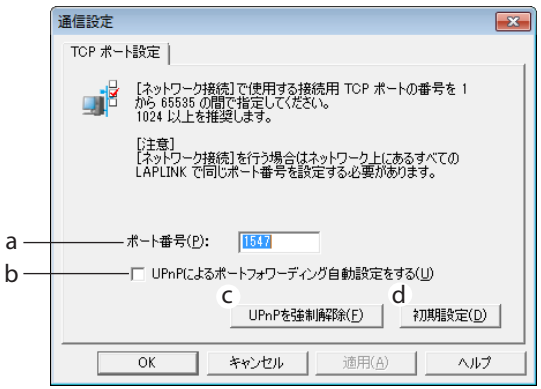


② ネットワーク（LAN）接続

●接続待ちにする .....チェックすると、ネットワーク（LAN）接続を待機します。

●状況 .....現在のネットワーク（LAN）接続の状況を表示します。

●［設定］ボタン.....クリックすると、［通信設定］ダイアログが表示されます。



a. ポート番号
使用するポートを入力します。「1024」未満は使用できない可能性がありますので、「1024 ～ 65535」の範囲で指定することを推奨します。
ゲスト パソコンと同じ値にする必要があります。

b. UPnP によるポートフォワーディング自動設定をする
チェックすると、ルーターのポートフォワーディング設定を LAPLINK が自動で行います。

c.［UPnP を強制解除］ボタン
LAPLINK の異常終了などによって、ルーターに残ってしまったポートフォワーディング設定を解除したい場合にクリックします。

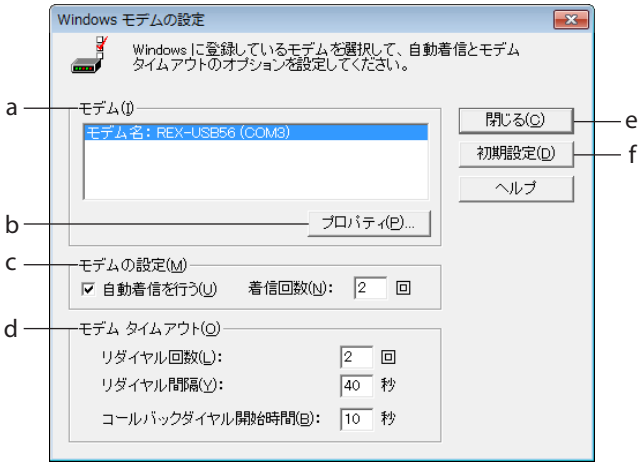
d.［初期設定］ボタン
設定内容を初期値に戻します。

Memo

ポートフォワーディングについては、「第 2 章 1.1.1 自動ポートフォワーディングを設定する」を参照してください。

③ モデム接続

●接続待ちにする ..... チェックすると、モデム接続を待機します。
●状況 ..... 現在のモデム接続の状況を表示します。
●［設定］ボタン ..... クリックすると、［Windows モデムの設定］ダイアログが表示されます。



a. モデム
Windows にインストールされているモデムがリスト表示されます。設定するモデムを選択します。

b. ［プロパティ］ボタン
クリックすると、選択したモデムのプロパティが表示されます。モデムのプロパティについては、Windows のオンライン ヘルプを参照してください。

c. モデムの設定
- 自動着信を行う
  チェックすると、ダイヤルされた場合に自動的に応答します。チェックされていないと、モデムはダイヤルに応答しません。
- 着信回数
  ゲスト パソコンからダイヤルされたときに、モデムが応答するまでの呼び出し回数を入力します。

d. モデム タイムアウト
- リダイヤル回数
  リダイヤルの回数を入力します。
- リダイヤル間隔
  リダイヤルする間隔を秒単位で入力します。
- コールバックダイヤル開始時間
  セキュリティでコールバックが指定されている場合、回線を切断してからコールバックをするまでの時間を、秒単位で入力します。

⚠ 注 意

●モデム接続で正常に通信できない場合は、通信速度を下げて試してください。
●使用しているモデムによっては、リダイヤル間隔が制限されている場合があります。詳しくはモデムの取扱説明書を参照してください。
●コールバック機能を使用する場合、ゲスト パソコン側の［コールバック待ち受け時間］をホスト パソコン側の［コールバックダイヤル開始時間］よりも長く設定してください。
●ターミナル アダプターの同期通信には、対応していません。
非同期通信を行ってください。
●複数のモデムがインストールされている場合は、使用するモデムを選択したときのみ、［自動着信を行う］にチェックがつくように設定してください。

e. [閉じる] ボタン
[Windows モデムの設定] ダイアログを閉じます。
f. [初期設定] ボタン
設定内容を初期値に戻します。

④ [OK] ボタン

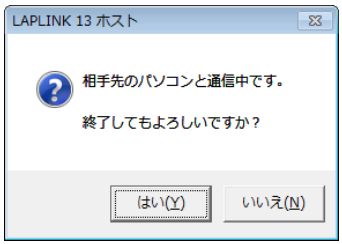
設定を適用し、ダイアログを閉じます。

⑤ [診断] ボタン

インターネット診断を開始します。詳しくは、「6.2 インターネット診断」を参照してください。

3.2 切断

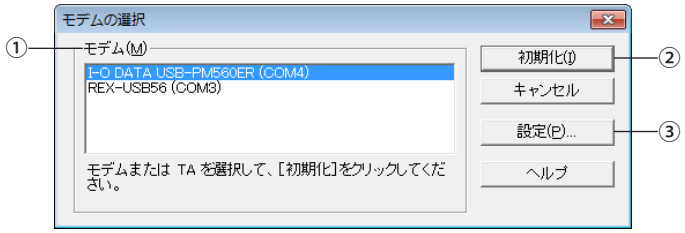
接続しているゲスト パソコンとの通信を切断します。
クリックすると確認ダイアログが表示されます。



[はい] ボタンをクリックすると、通信が切断されます。

3.3 モデムの初期化

モデムが正常に動作しない場合などに接続されているモデムを初期化します。
複数のモデムが設定されている場合は、[モデムの選択] ダイアログが表示されます。



① モデム

設定されているモデムがリストに表示されます。初期化するモデムを、マウスでクリックして選択します。

②［初期化］ボタン

［モデム］で選択されているモデムを初期化します。
クリックしてモデムを初期化すると、初期化中を表すメッセージが表示されます。
メッセージが消えると、モデムの初期化が終了します。

③［設定］ボタン

モデムの設定を行います。詳しくは、「3.1 接続待ち」の「③ モデム接続」を参照してください。

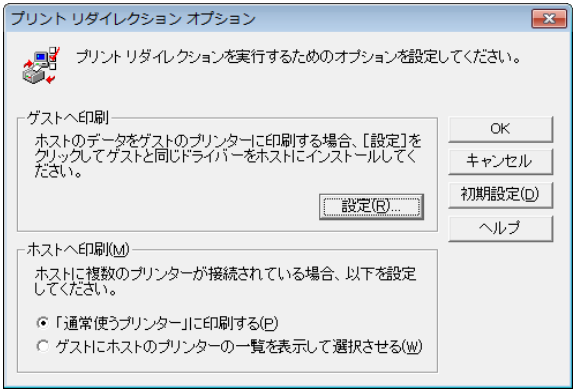
Memo

モデム接続中にモデムを初期化することはできません。

4 オプション メニュー

4.1 プリント リダイレクション オプション

プリント リダイレクションのオプションを設定します。
クリックすると、[プリント リダイレクション オプション] ダイアログが表示されます。



① ゲストへ印刷

●[設定] ボタン..... プリント リダイレクション用のプリンター ドライバーを導入する、[プリント リダイレクション設定ウィザード] ダイアログが表示されます。

② ホストへ印刷

ホスト パソコンに接続されたプリンターに印刷する場合に設定します。

●「通常使うプリンター」に印刷する .....
プリンター ドライバーが 1 つしか導入されていない場合、または「通常使うプリンター」として設定されているプリンターに印刷する場合に選択します。

●ゲストにホストのプリンターの一覧を表示して選択させる .....
印刷時にゲスト パソコンが指定する LAPLINK 用プリンター ドライバーと、ホスト パソコンの「通常使うプリンター」の機種が異なる場合に選択します。選択すると、ホスト パソコンに接続されているプリンターのリストをゲスト パソコンに表示します。

③［OK］ボタン

プリント リダイレクションのオプション設定を適用し、ダイアログを閉じます。

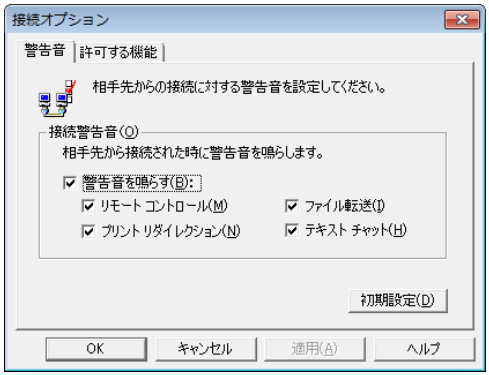
④［初期設定］ボタン

設定内容を初期値に戻します。

4.2 接続オプション

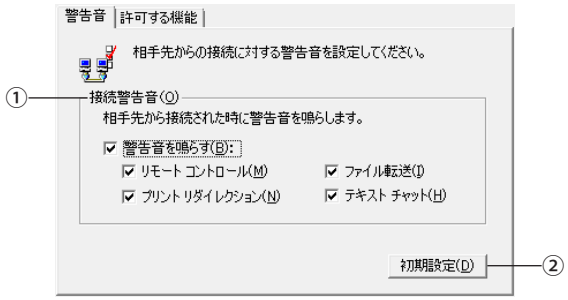
ゲスト パソコンから接続されたときの警告音や、ログイン リストに登録するときの［許可する機能］で選択される機能について設定します。

クリックすると、［接続オプション］ダイアログが表示されます。



4.2.1 ［警告音］タブ

接続時の警告音について設定します。



① 接続警告音

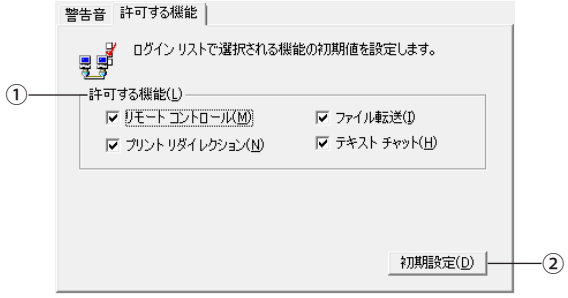
●警告音を鳴らす ..... チェックすると、［リモート コントロール］［ファイル転送］など、チェックした機能が開始されたときに警告音を鳴らします。

②［初期設定］ボタン

［警告音］タブの設定を初期値に戻します。

4.2.2 ［許可する機能］タブ

ログイン リストで設定する、［許可する機能］の初期選択値を設定します。



① 許可する機能

チェックした機能が、初期選択値としてログイン リストの新規登録の画面でチェックされます。

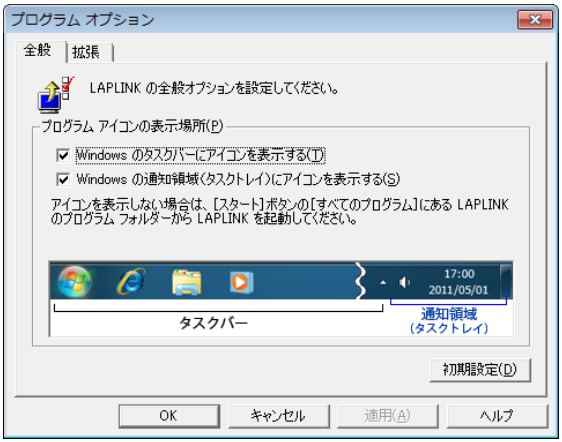
例えば、ここで［リモート コントロール］と［テキスト チャット］にチェックした場合、［ログイン リストの登録］ダイアログでは、許可する機能として最初から［リモート コントロール］と［テキスト チャット］にチェックが付くようになります。

②［初期設定］ボタン

［許可する機能］タブの設定を初期値に戻します。

4.3 プログラム オプション

LAPLINK のプログラム オプションを設定します。
クリックすると、［プログラム オプション］ダイアログが表示されます。

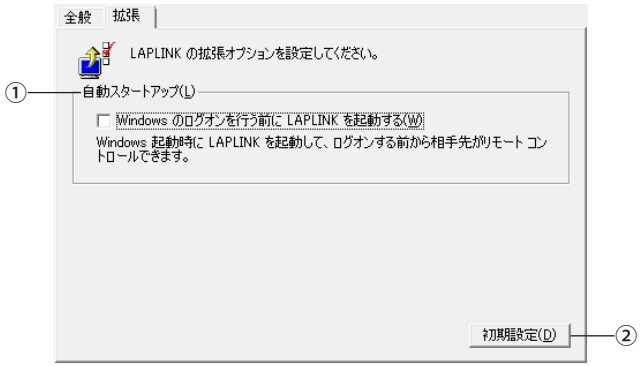


4.3.1 ［全般］タブ

LAPLINK のプログラムアイコンを表示するかどうかを設定します。
設定方法は、「第 9 章 6.5 プログラム オプション」を参照してください。

4.3.2 ［拡張］タブ

LAPLINK の自動起動について設定します。



① 自動スタートアップ

●Windows のログオンを行う前に LAPLINK を起動する.....

チェックすると、Windows 起動時に LAPLINK を起動し、ログオン画面からリモート コントロールすることができます。
この設定は、次回の Windows 起動時から有効となります。

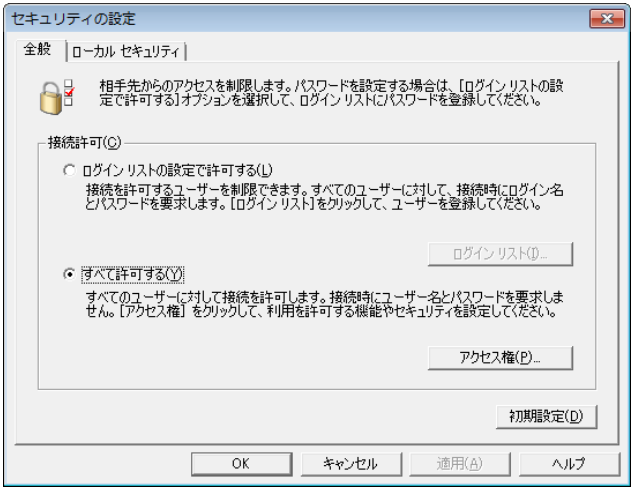
②［初期設定］ボタン

［拡張］タブの設定を初期値に戻します。

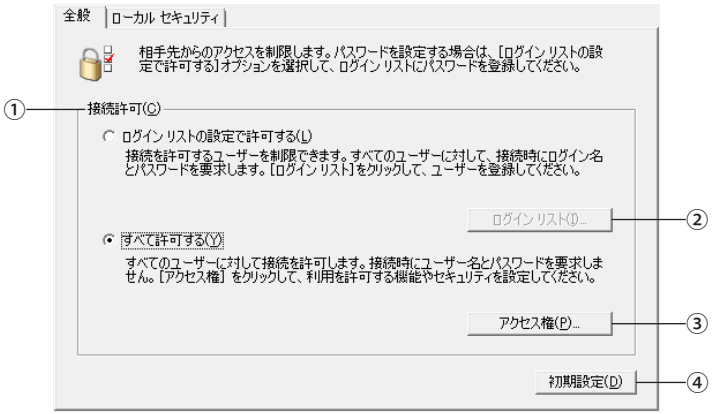
4.4 セキュリティの設定

ゲスト パソコンから接続されたときのセキュリティを設定します。接続させる相手を限定したり、操作できるドライブやフォルダーを限定したりすることができます。

クリックすると、［セキュリティの設定］ダイアログが表示されます。



4.4.1 ［全般］タブ



① 接続許可

●ログイン リストの設定で許可する.....
ログイン リストに登録されたログイン名とパスワードを知っている相手からの接続のみ許可します。
選択して、［ログイン リスト］ボタンをクリックし、ログイン名とパスワードを設定します。

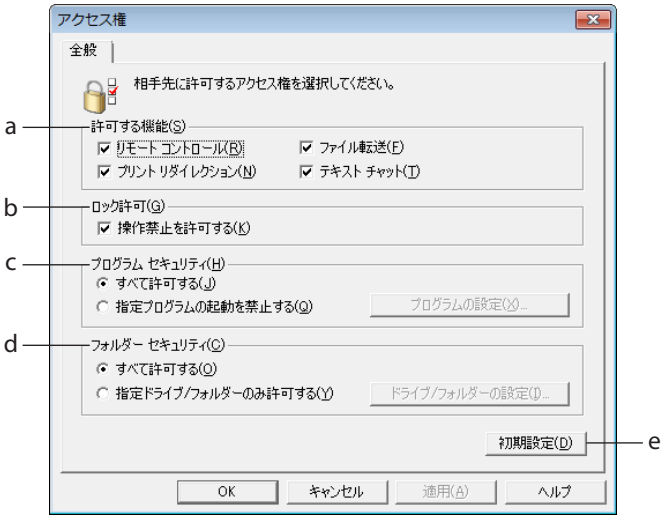
●すべて許可する ..... すべてのユーザーからの接続を許可します。
許可する機能やプログラム、フォルダー、ドライブなどを［アクセス権］ボタンをクリックして設定します。

② ［ログイン リスト］ボタン

［ログイン リストの設定で許可する］を選択すると、クリックすることができます。クリックすると、［ログイン リスト］ダイアログが表示されます。ログイン リストの操作方法は、「4.5 ログイン リスト」を参照してください。

③［アクセス権］ボタン

［すべて許可する］を選択すると、クリックすることができます。クリックすると、［アクセス権］ダイアログが表示されます。



a. 許可する機能

ゲスト パソコンに対して許可する機能を指定します。

b. ロック許可

- 操作禁止を許可する

  チェックすると、ゲスト パソコンからの［ホスト操作の禁止］を許可します。

c. プログラム セキュリティ

- すべて許可する

  すべてのプログラムの起動を許可します。

- 指定プログラムの起動を禁止する

  リモート コントロール中、起動を禁止するプログラムを設定します。

  選択して、［プログラムの設定］ボタンをクリックすると、［プログラムの設定］ダイアログが表示されます。

  詳しくは、「4.4.3 プログラム セキュリティ」を参照してください。

Memo

［ホスト操作の禁止］については、「第 3 章 4 ホスト パソコンの操作を禁止する」を参照してください。

d. フォルダー セキュリティ

● すべて許可する

すべてのドライブやフォルダーへのアクセスを許可します。

● 指定ドライブ/フォルダーのみ許可する

リモート コントロール中のアクセス、またはファイル転送機能でのアクセスを許可または禁止するドライブやフォルダーを設定します。

選択して、［ドライブ/フォルダーの設定］ボタンをクリックすると、ドライブ/フォルダーの設定］ダイアログが表示されます。

詳しくは、「4.4.4 フォルダー セキュリティ」を参照してください。

e.［初期設定］ボタン

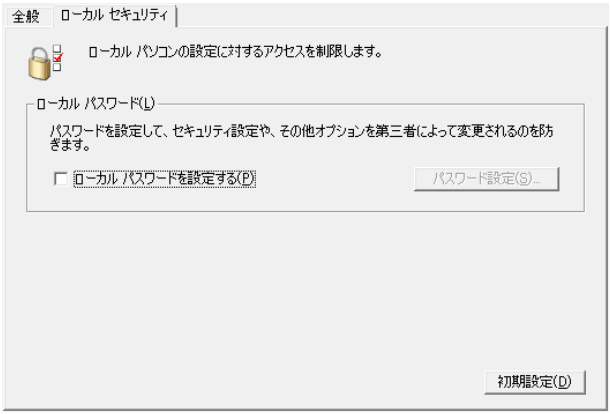
［全般］タブの設定を初期値に戻します。

④［初期設定］ボタン

［セキュリティの設定］ダイアログの［全般］タブの設定を初期値に戻します。

4.4.2 ［ローカル セキュリティ］タブ

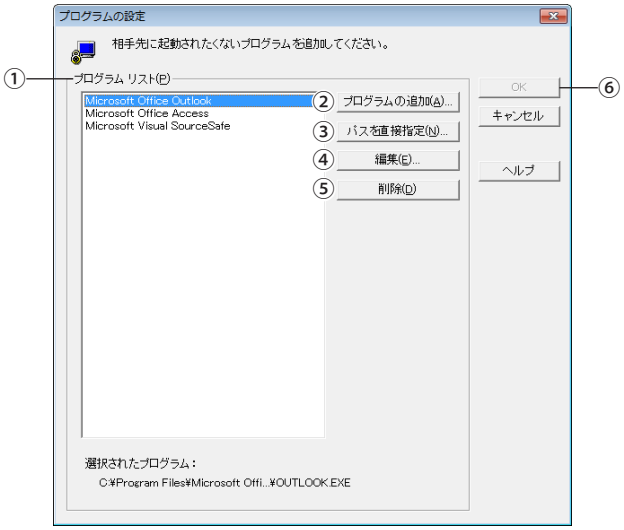
LAPLINK の設定を他人に変更されないように、パスワードを設定することができます。



詳しくは、「第 9 章 6.6.2 [ローカル セキュリティ］タブ」を参照してください。

4.4.3 プログラム セキュリティ

［アクセス権］ダイアログ、または［ログイン リストの登録］［ログイン リストのプロパティ］ダイアログで、［指定プログラムの起動を禁止する］を選択し、［プログラムの設定］ボタンをクリックすると、［プログラムの設定］ダイアログが表示されます。

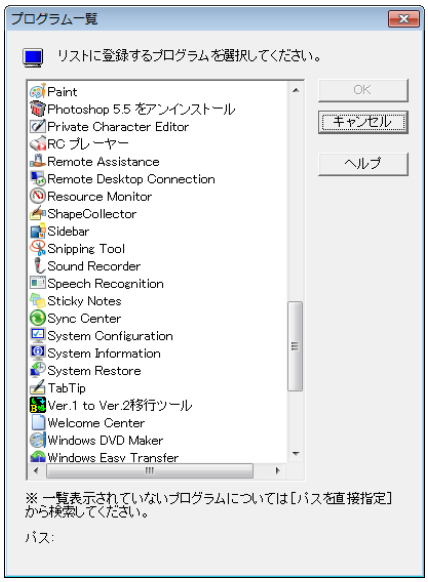


① プログラム リスト

起動を禁止しているプログラムのリストが表示されます。

②［プログラムの追加］ボタン

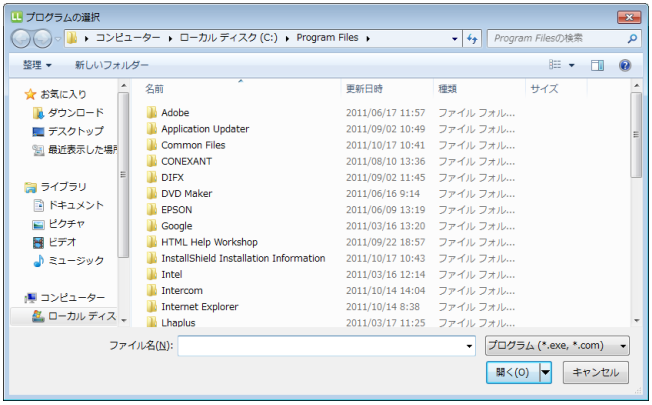
クリックすると、禁止するプログラムを選択する［プログラム一覧］ダイアログが表示されます。



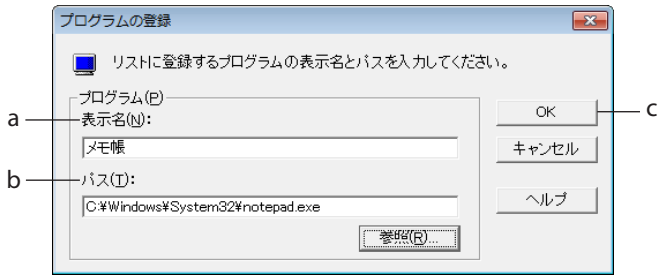
リスト内のプログラムを選択して、［OK］ボタンをクリックすると［プログラムの設定］ダイアログの［プログラム リスト］に追加されます。このリストに表示されていないものを登録したい場合は、［キャンセル］ボタンでダイアログを閉じ、［プログラムの設定］ダイアログの［パスを直接指定］ボタンから登録します。

③［パスを直接指定］ボタン

禁止するプログラムのパスを指定します。クリックすると、［プログラムの選択］ダイアログが表示されます。



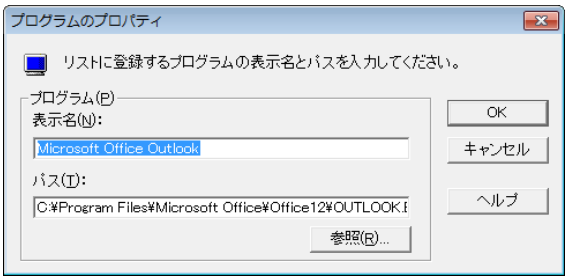
選択して［開く］ボタンをクリックすると、［プログラムの登録］ダイアログが表示されます。



a. 表示名
　［プログラム リスト］に表示される名前を指定します。
b. パス
　選択したプログラムのパスが表示されています。［参照］ボタンをクリックして、変更することもできます。
c.［OK］ボタン
　［プログラム リスト］に登録します。

④［編集］ボタン

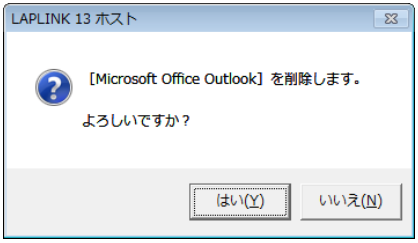
［プログラム リスト］に登録されているプログラムの登録名や登録パスを変更することができます。
クリックすると、［プログラムのプロパティ］ダイアログが表示されます。



それぞれ入力し直すことで、変更することができます。

⑤［削除］ボタン

［プログラム リスト］ダイアログに登録されている起動禁止プログラムを、リストから削除します。
クリックすると、確認のメッセージが表示されます。

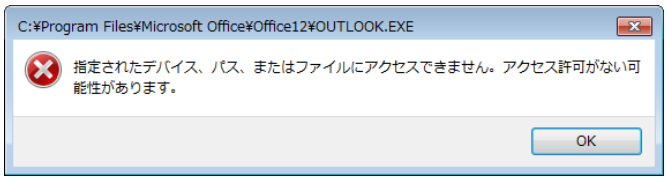


［はい］ボタンをクリックすると、リストから削除します。

⑥［OK］ボタン

プログラム セキュリティ設定を適用し、ウィンドウを閉じます。

設定後、リモート コントロールの起動を禁止しているプログラムを実行しようとすると、次のメッセージがホスト パソコンに表示されます。

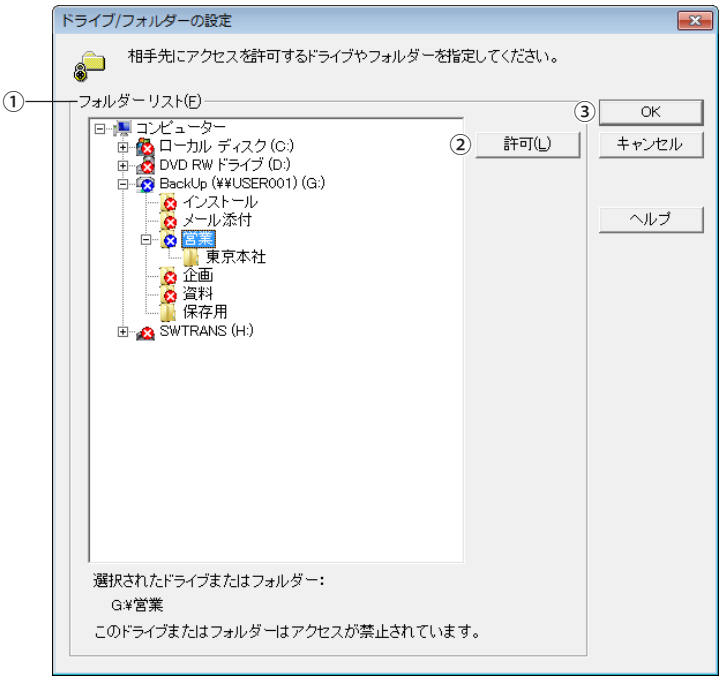


⚠ 注 意

実行するプログラムによっては、メッセージが表示されない場合があります。

4.4.4 フォルダー セキュリティ

［アクセス権］ダイアログ、または［ログイン リストの登録］［ログイン リストのプロパティ］ダイアログで、［指定ドライブ/フォルダーのみ許可する］を選択し、［ドライブ/フォルダーの設定］ボタンをクリックすると、［ドライブ/フォルダーの設定］ダイアログが表示されます。



① フォルダー リスト

このパソコンのフォルダーがツリー表示されます。

- /（赤）..... 参照することがすべて禁止されているドライブやフォルダーです。
- /（青）..... このドライブやフォルダーのサブフォルダーに、参照することが許可されたフォルダーがあることを表します。
- / ..... 参照することが許可されているドライブやフォルダーです。このフォルダー以下のサブフォルダーは、すべて参照することができます。

②［許可］/［禁止］ボタン

クリックすると、［フォルダー リスト］で選択されたフォルダの参照を、許可または禁止します。

③［OK］ボタン

設定を適用し、ダイアログを閉じます。

⚠ 注 意

以下のフォルダーはアクセス禁止にできません。

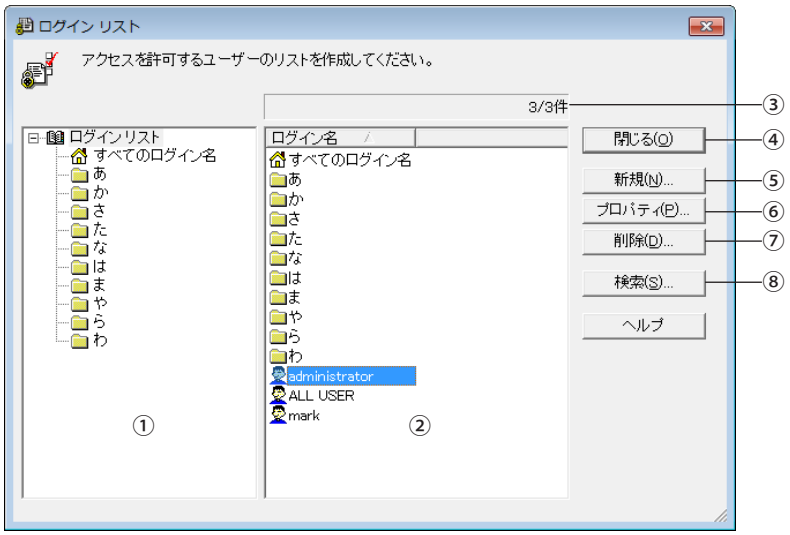
- 「Program Files」フォルダー以下
- 「Program Files x86」フォルダー以下
- 「Windows」フォルダー以下
- ごみ箱（「Recycled」や「Recycler」）
- 「Documents and Settings」フォルダー以下
- 「Users」フォルダー以下
- 「ProgramData」フォルダー以下

⚠ 注 意

コピー、移動、削除、名前変更の操作ができるのは、許可に設定されたフォルダー内にあるフォルダーまたはファイルです。
許可に設定したフォルダー自身は、上記操作の対象にすることはできません。

4.5 ログイン リスト

［セキュリティの設定］ダイアログの［全般］タブから［ログイン リストの設定で許可する］を選択し、［ログイン リスト］ボタンをクリックすると、［ログイン リスト］ダイアログが表示されます。



① フォルダー枠

ログイン リスト内をフォルダー単位でツリー表示します。任意にフォルダーを作成したり削除することができます。

② リスト枠

フォルダー枠で選択されているフォルダーに登録されているユーザーが、一覧で表示されます。

③ 件数

現在リスト枠で表示されている件数/ログイン リストに登録されている総件数が表示されます。

④［閉じる］ボタン

［ログイン リスト］ダイアログを閉じます。

⑤［新規］ボタン

ログイン リストに新規に登録します。クリックすると、［ログイン リストの登録］ダイアログが表示されます。詳しくは、「4.5.1 ログイン リストへの登録」を参照してください。

⑥［プロパティ］ボタン

ログイン リストに登録されている情報を表示し、編集します。クリックすると、［ログイン リストのプロパティ］ダイアログが表示されます。詳しくは、「4.5.2 登録内容の編集」を参照してください。

⑦［削除］ボタン

ユーザーやフォルダーを削除します。詳しくは、「4.5.4 登録内容の削除」を参照してください。

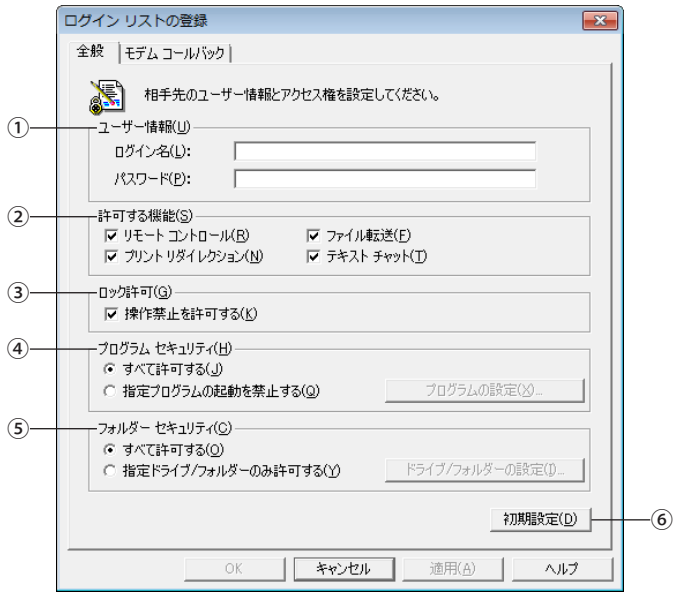
⑧［検索］ボタン

ログイン リストに登録されているユーザーを検索します。クリックすると、［検索］ダイアログが表示されます。詳しくは、「4.5.5 ユーザーの検索」を参照してください。

4.5.1 ログイン リストへの登録

ログイン リストに新規に登録します。
登録したいフォルダーを選択して［新規］ボタンをクリックすると、［ログイン リストの登録］ダイアログが表示されます。

【［全般］タブ】



① ユーザー情報

ゲスト パソコンが接続しようとしたときに要求するログイン名とパスワードを指定します。

●ログイン名 ..... 相手に要求するログイン名を指定します。
●パスワード ..... 相手に要求するパスワードを指定します。

② 許可する機能

［ユーザー情報］で指定したログイン名で接続したゲスト パソコンに対して、使用を許可する機能を指定します。
ゲスト パソコンが接続時に機能の開始を要求してきても、その機能を許可していない場合は、ゲスト パソコンからは、接続を開始できなくなります。

③ ロック許可

●操作禁止を許可する .....
チェックすると、ゲスト パソコンからの［ホスト操作の禁止］を許可します。

④ プログラム セキュリティ

［ユーザー情報］で指定したログイン名で起動を禁止するプログラムを指定します。詳しくは、「4.4.3 プログラム セキュリティ」を参照してください。

⑤ フォルダー セキュリティ

［ユーザー情報］で指定したログイン名で接続したゲスト パソコンに対して、参照を許可するドライブやフォルダーを指定します。詳しくは、「4.4.4 フォルダー セキュリティ」を参照してください。

⑥［初期設定］ボタン

［全般］タブの設定を初期値に戻します。

Memo

ログイン名は半角 20 文字（全角 10 文字）まで、パスワードは半角 4 ～ 10 文字（全角 2 ～ 5 文字）まで指定でき、それぞれ大文字と小文字が区別されます。

Memo

［ホスト操作の禁止］については、「第 3 章 4 ホスト パソコンの操作を禁止する」を参照してください。

【[モデム コールバック] タブ】

モデム接続時に、相手からの接続要求に対して、こちらから指定番号へかけ直すことができます。

① モデム コールバック

●しない . . . . . コールバックを行いません。

●相手先から番号を指定する（オプション）. . . . . コールバックする番号を、接続時にゲスト パソコンが指定します。また、ゲスト パソコンはコールバックを拒否できます。

●番号を固定する（オプション）. . . . . ［電話番号］で指定した番号へコールバックします。ただし、ゲスト パソコンはコールバックを拒否できます。

●相手先から番号を指定する（強制）. . . . . コールバックする番号を、接続時にゲスト パソコンが指定します。ゲスト パソコンはコールバックを拒否できません。

●番号を固定する（強制）. . . . . ［電話番号］で指定した番号へコールバックします。ゲスト パソコンはコールバックを拒否できません。

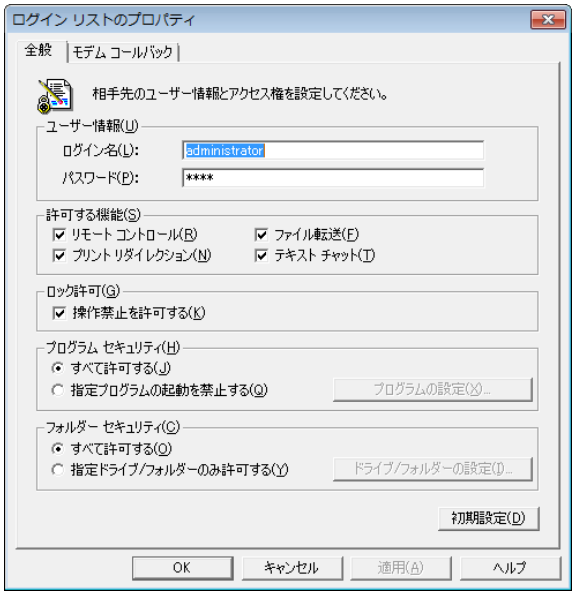
●電話番号 . . . . . ［番号を固定する（オプション）］や［番号を固定する（強制）］を選択した場合の、コールバックする電話番号を指定します。

② [初期設定] ボタン

［モデム コールバック］タブの設定を初期値に戻します。

4.5.2 登録内容の編集

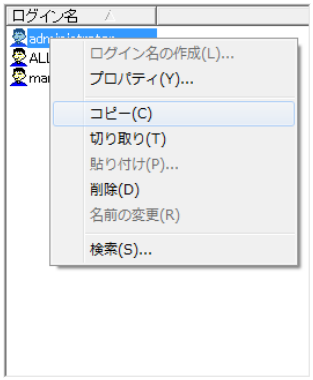
ログイン リストに登録されているユーザー情報を変更します。
［ログイン リスト］ダイアログから変更したいユーザー名を選択して、［プロパティ］ボタンをクリックすると、［ログイン リストのプロパティ］ダイアログが表示されます。



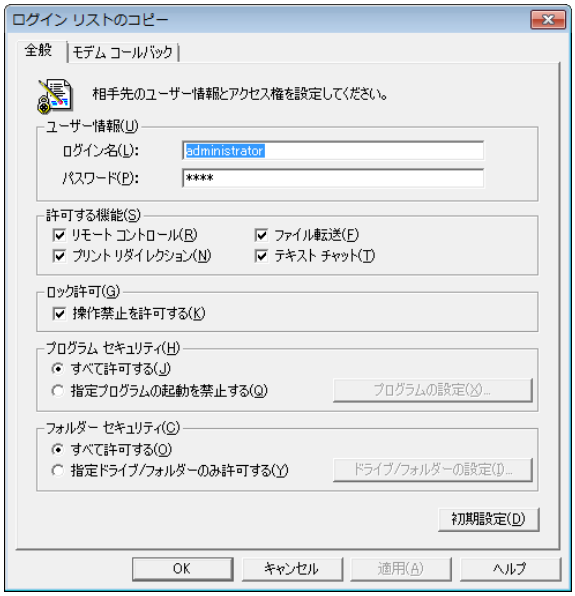
［ログイン リストのプロパティ］ダイアログには、選択したユーザーの情報が読み込まれて表示されます。
編集したい個所を入力して［OK］ボタンをクリックすると、ユーザーの情報が変更されます。

4.5.3 登録内容のコピー

ログイン リストに登録されているユーザー情報を利用して、新規にユーザーを登録します。
[ログイン リスト] ダイアログからコピーしたいユーザーを選択して、右クリックし、ショートカット メニューから［コピー］を選択します。



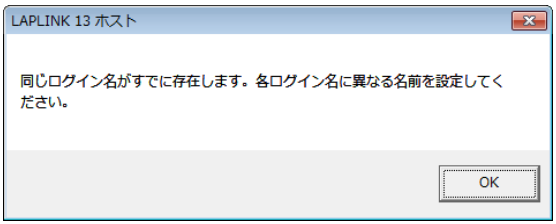
フォルダー枠からコピーしたユーザーを貼り付けるフォルダーを選択して、右クリックします。
ショートカット メニューから［貼り付け］を選択すると、[ログイン リストのコピー] ダイアログが表示されます。



[ログイン リストのコピー] ダイアログには、コピーしたユーザーの情報が読み込まれています。

各項目を入力し直して［OK］ボタンをクリックすると、コピーしたユーザー情報を利用して新規にユーザーを登録することができます。

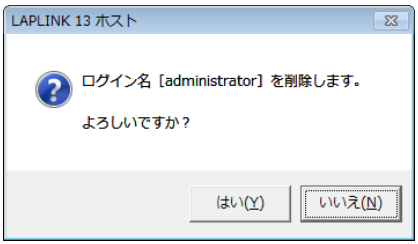
なお、すでに同じログイン名が登録されている場合、次のメッセージが表示されます。



この場合は、［全般］タブの［ログイン名］を変更して登録し直してください。

4.5.4 登録内容の削除

ログイン リストに登録されているユーザーやフォルダーを削除します。
［ログイン リスト］ダイアログのリスト枠から、削除したいユーザーやフォルダーを選択して［削除］ボタンをクリックすると、確認のメッセージが表示されますので、ボタンを選択します。

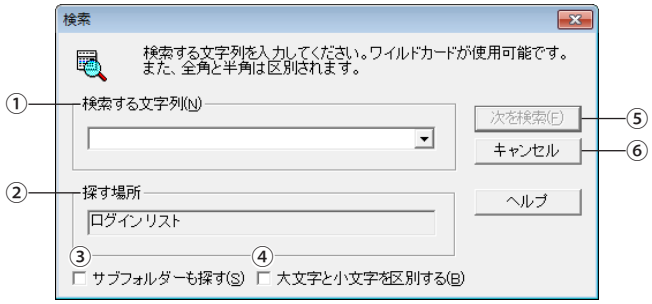


［はい］ボタンをクリックすると、ログイン リストから削除されます。

4.5.5 ユーザーの検索

ログイン リストに登録されているログイン名を対象に、指定した文字列を検索します。

［ログイン リスト］ダイアログのフォルダー枠から、検索の対象となるフォルダーを選択して［検索］ボタンをクリックすると、［検索］ダイアログが表示されます。



① 検索する文字列

ログイン名を対象に、検索したい文字列を入力します。ワイルドカード（＊、？）を使用することができます。

② 探す場所

検索するフォルダーが表示されます。

③ サブフォルダーも探す

チェックすると、［探す場所］で指定したフォルダーにあるサブフォルダーも、検索の対象となります。

④ 大文字と小文字を区別する

チェックすると、英数字の大文字と小文字が［検索する文字列］に入力した文字列と合致しなければ、検索の対象となりません。

⑤［次を検索］ボタン

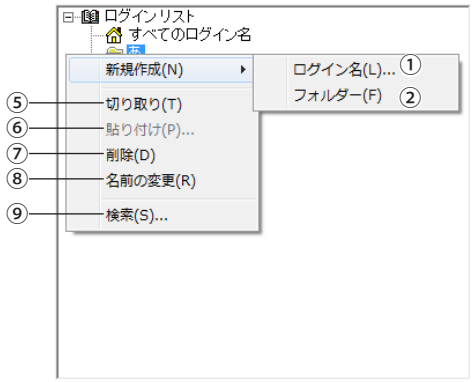
検索を行います。クリックすると、リスト枠内の該当するユーザーにカーソルが移動します。クリックするたびに、次の候補にカーソルが移動します。

⑥［キャンセル］ボタン

［検索］ダイアログを閉じます。

4.5.6 ログイン リストのショートカット メニュー

フォルダー枠やリスト枠を右クリックすると、ショートカット メニューが表示されます。



- フォルダー枠 -

- リスト枠 -

① 新規作成 ― ログイン名/ログイン名の作成

ログイン名を新規に登録します。詳しくは、「4.5.1 ログイン リストへの登録」を参照してください。

② 新規作成 ― フォルダー

フォルダー枠のカーソル位置に、フォルダーを新規に作成します。

③ プロパティ

登録されているログイン名情報を表示、変更します。詳しくは、「4.5.2 登録内容の編集」を参照してください。

④ **コピー**

ログイン名情報をコピーします。［貼り付け］で再利用することができます。詳しくは、「4.5.3 登録内容のコピー」を参照してください。

⑤ **切り取り**

ログイン名情報やフォルダーを切り取ります。［切り取り］は［コピー］と違い、リストから削除されます。［貼り付け］で再利用することができます。

⑥ **貼り付け**

［コピー］や［切り取り］されたログイン名情報やフォルダーを、リストのカーソルの位置に貼り付けます。

⑦ **削除**

ログイン名情報やフォルダーを削除します。詳しくは、「4.5.4 登録内容の削除」を参照してください。

⑧ **名前の変更**

フォルダーの名前を変更します。変更したいフォルダー上でこのコマンドを選択すると、入力が可能な状態になります。

⑨ **検索**

ログイン名情報から、指定した文字列を検索します。詳しくは、「4.5.5 ユーザーの検索」を参照してください。

4.6 パソコン名の設定

使用しているパソコンの名前を変更します。
クリックすると、［パソコン名の設定］ダイアログが表示されます。

詳しくは、「第 9 章 6.7 パソコン名の設定」を参照してください。

4.7 通信ログの設定と表示

接続先、接続時間、転送ファイル名、セキュリティ情報など、過去の通信記録をファイルに残すための設定です。

通信ログファイルは、LAPyyyymmdd.LOG という形式で保存されます。
例えば、「2011 年 3 月 19 日」に作成された通信ログファイルは、
「LAP20110319.LOG」というファイル名で保存されます。

ファイルは以下の場所に保存されます。

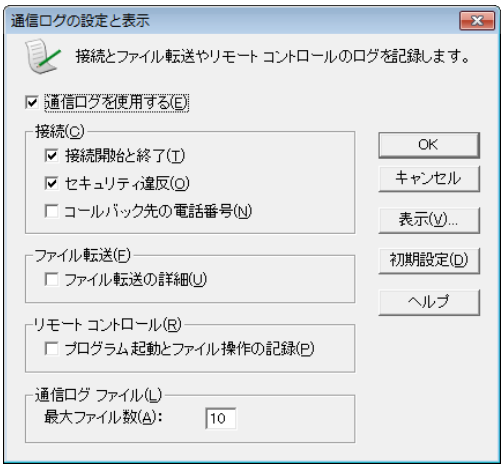
Windows Server 2008 R2、Windows 7、Windows Server 2008

¥ProgramData¥InterCom¥LAPLINK 13¥Host

Windows Server 2003 R2、Windows Server 2003、Windows XP

¥Documents and Settings¥All Users¥Application Data¥Intercom¥LAPLINK 13¥Host

選択すると、［通信ログの設定と表示］ダイアログが表示されます。



① 通信ログを使用する

チェックすると、通信ログファイルを作成します。

② 接続

- ●接続開始と終了 ..... チェックすると、行われた接続と切断をすべて記録します。
- ●セキュリティ違反 .... チェックすると、正しいログイン名やパスワードを使用せずに、接続を試みた相手のパソコン名などを記録します。

●コールバック先の電話番号 .....
チェックすると、コールバックした際の電話番号を記録します。

③ ファイル転送

●ファイル転送の詳細 .....
チェックすると、コピーや移動したファイル名を記録します。コピーや移動に失敗したファイル名も記録します。

④ リモート コントロール

●プログラム起動とファイル操作の記録 ...
チェックすると、リモート コントロール時に起動したプログラムと、そのプログラムによって作成されたファイルを記録します。

⑤ 通信ログファイル

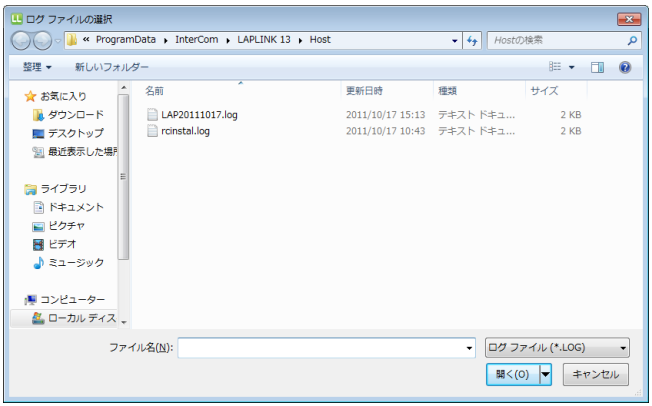
●最大ファイル数 ..... 最大いくつまで通信ログ ファイルを作成するか、数を入力します（最大 99 まで）。指定した最大数に達すると、一番古い通信ログ ファイルから削除されます。

⑥［OK］ボタン

設定を適用し、ダイアログを閉じます。

⑦［表示］ボタン

クリックすると、［ログ ファイルの選択］ダイアログが表示されます。



表示したいファイルを選択して［開く］ボタンをクリックすると、Windows のワードパッドに通信ログファイルを表示します。
なお、ワードパッドの操作方法については、Windows のオンライン ヘルプを参照してください。

⑧［初期設定］ボタン

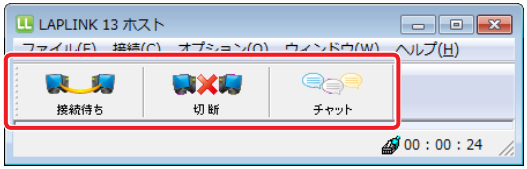
設定内容を初期値に戻します。

⚠ 注 意

フォルダーやファイルを開く、またはコピーの操作は記録されません。

4.8 接続バー

接続バーの表示/非表示を切り替えます。
クリックすると、チェックマークの有無で表示/非表示を切り替えることができます。
接続バーに表示されるアイコンは、接続しているか、していないかによって異なります。



-

  接続待ちを開始します。クリックすると、[接続待ち] ダイアログを表示します。
  詳しくは、「3.1 接続待ち」を参照してください。

-

  接続しているゲスト パソコンとの通信を切断します。
  詳しくは、「第 2 章 8 接続を終了する」を参照してください。

-

  [テキスト チャット] ウィンドウを表示します。
  詳しくは、「第 5 章 テキスト チャット機能」を参照してください。

-

  [セキュリティの設定] ダイアログを表示します。
  詳しくは、「4.4 セキュリティの設定」を参照してください。

4.9 ステータス ライン

ステータス ラインの表示/非表示を切り替えます。
クリックすると、チェックマークの有無で ON/OFF を切り替えることができます。

Memo

接続バーをドラッグすると、任意の場所に配置することができます。

5 ウィンドウ メニュー

5.1 テキスト チャットを開く

ゲスト パソコンと文字で会話ができる［テキスト チャット］ウィンドウを表示します。

⚠ 注 意

［テキスト チャット］ウィンドウは、ゲスト パソコンと接続していなければ表示できません。

6 ヘルプ メニュー

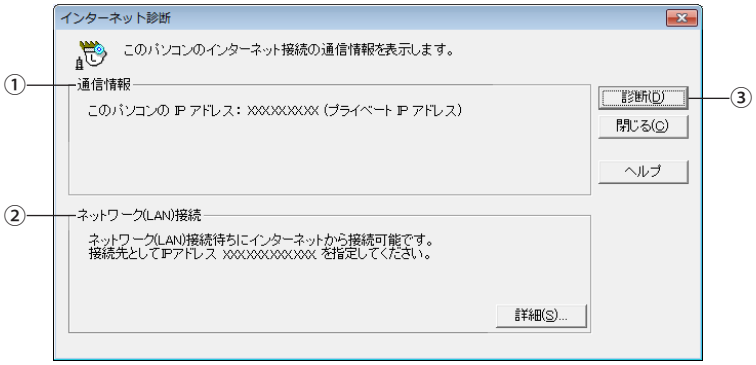
6.1 ヘルプ

F1

LAPLINK 13 ホストのヘルプを表示します。

6.2 インターネット診断

グローバル IP アドレスを使用できないゲスト パソコンからインターネットを通じて接続される場合に、接続可能な環境かどうかを確認します。
クリックすると、診断を開始し、結果が［インターネット診断］ダイアログに表示されます。



① 通信情報

このパソコンの IP アドレスが表示されます。

② ネットワーク（LAN）接続

このパソコンが、グローバル IP アドレスを使用できないゲスト パソコンからのインターネットを通じた接続を受けることができるかどうかの診断結果が表示されます。
［詳細］ボタンをクリックすると、詳しいコメントを参照することができます。

③［診断］ボタン

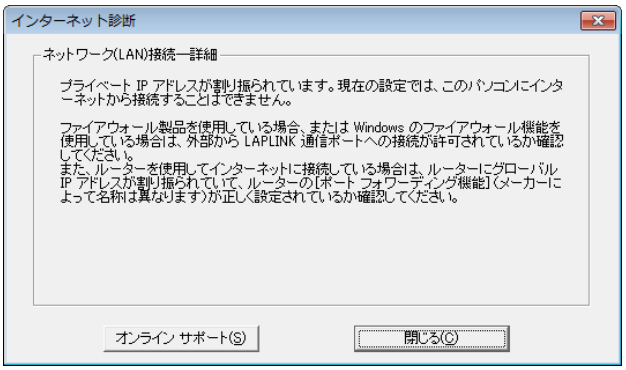
インターネット診断を開始します。

Memo

詳しくは、「第 2 章 2.4 グローバル IP アドレスを使用できない環境からの接続」を参照してください。

④［詳細］ボタン

インターネット診断の詳細なコメントを参照することができます。
選択すると、次のダイアログが表示されます。



表示されているコメントを参考にして、インターネット接続の問題を解決します。
なお、［オンライン サポート］ボタンをクリックすると、弊社インターコムの LAPLINK 13 サポートページを、Web ブラウザーから閲覧することができます。

6.3 オンライン サポート

Web ブラウザーを起動して、弊社インターコムが公開している LAPLINK の最新情報を参照することができます。

6.4 バージョン情報

LAPLINK のバージョン、使用者の名前、会社名、シリアル番号などが表示されます。

第 11 章

アンインストール

1 LAPLINK のアンインストール

1 LAPLINK のアンインストール

ゲスト
ホスト

ゲスト パソコン、またはホスト パソコンから、LAPLINK 13 を削除します。

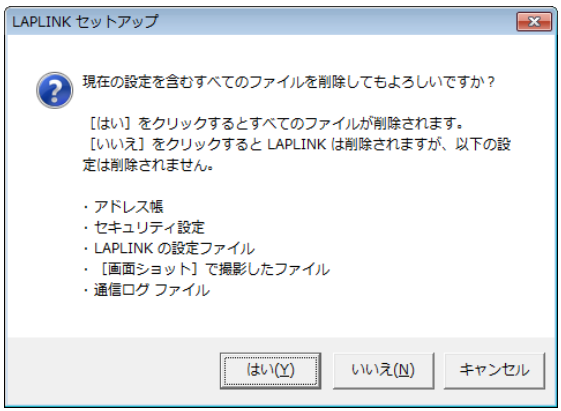
操作

1 Windows の［コントロール パネル］から［プログラムと機能］を実行します。

2 パソコンにインストールされているプログラムの一覧が表示されますので、その中から［LAPLINK 13 ゲスト］または［LAPLINK 13 ホスト］を選択します。

3 LAPLINK の［プログラムの修復と削除］ダイアログが表示されます。［削除］を選択して、［次へ］ボタンをクリックします。

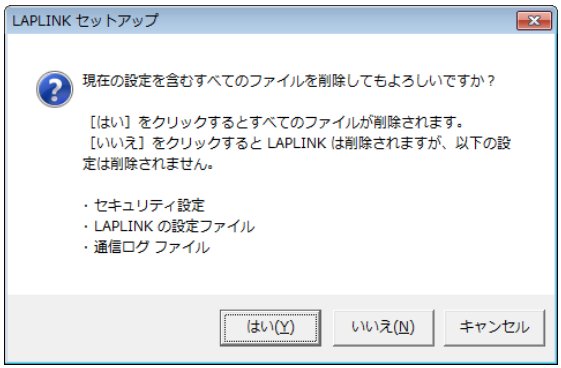
4 確認のメッセージが表示されます。



- ゲスト -

Memo

［修復］を選択すると、前回インストールしたときの情報を呼び出して、上書きインストールを実行します。

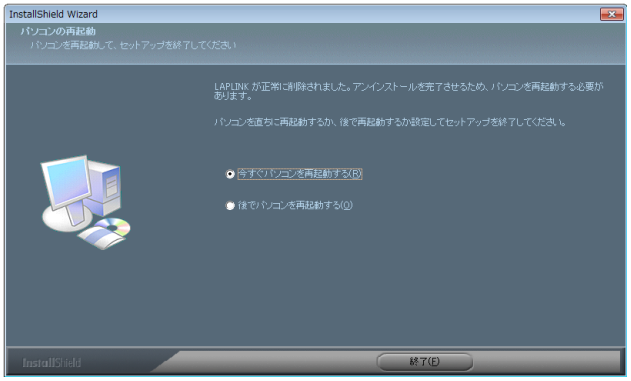


- ホスト -

LAPLINK 上で作成されたファイルを残しておくか削除するかを選択します。［はい］ボタンをクリックするとすべてのファイルが削除され、［いいえ］ボタンをクリックするとメッセージ上に表示されているファイルを削除しないで残しておきます。

ボタンを選択すると、アンインストールが開始されます。

5 アンインストールが終了すると、［パソコンの再起動］ダイアログが表示されます。



アンインストールを正常に終了させるには、一度パソコンを再起動する必要があります。何も保存するデータやファイルがなければ、［今すぐパソコンを再起動する］を選択して、［終了］ボタンをクリックすると、パソコンが再起動されます。

［終了］ボタンをクリックすると、LAPLINK のアンインストールは終了です。